

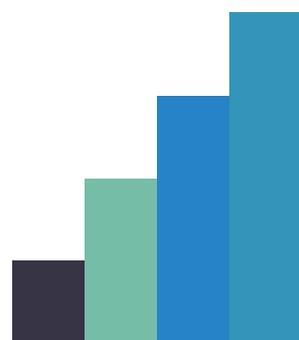


JAAF
Japan Association of
Athletics Federations

2023年度 全国競技運営責任者会議

報告書

2024年2月12日(月休)
オンライン会議
公益財団法人日本陸上競技連盟



2023(令和 5)年度 全国競技運営責任者会議 日程

2024年2月12日(月・休) 12:30 オンラインスタート

- 13:00 あいさつ(5分) 田崎専務理事
- 13:05 事務連絡(5分)
- 13:10 2024年度競技規則修改正提案(50分) 片岡裕委員
- 14:00 質疑応答(10分)
- 14:10 WRk 大会について(5分) 鈴木委員長
- 14:15 質疑応答(5分)
- 14:20 休憩(10分)
- 14:30 分科会 (25分)

分科会 1	分科会 2
<ul style="list-style-type: none"> ①競技カレンダー・記録 PT 競技会公認申請 記録公認申請・日本記録 (資料参照) 記録用紙改訂(資料参照) ②広告展示物規則 PT 	<ul style="list-style-type: none"> ① S級審判昇格審査報告 ② 審判ハンドブック PT (資料参照) ③ 審判育成・研修 PT ④ JRWJs セミナー・認定試験について (資料参照) ⑤ 2023年度 JTO 活動報告

- 14:55 分科会報告(5分) 岩脇委員・関根副委員長
- 15:00 施設用器具委員会報告(10分) 高木委員長
- 15:10 質疑応答(5分)
- 15:15 海外競技会報告・スタート関連(20分) 関根副委員長・本橋副委員長
国内競技会実施報告 (資料参照)
 - ① 第 107 回日本陸上競技選手権大会
第 39 回 U20 日本陸上競技選手権大会 大阪
 - ② 第 107 回日本陸上競技選手権大会・混成競技
第 39 回 U20 日本陸上競技選手権大会・混成競技 秋田
 - ③ 第 76 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 北海道
 - ④ 第 50 回全日本中学校陸上競技選手権大会 愛媛
 - ⑤ 特別国民体育大会 鹿児島
 - ⑥ 第 17 回 U18/第 54 回 U16 陸上競技大会 愛媛
- 15:35 質疑応答(5分)
- 15:40 2025年 世界陸上について(5分) 鈴木委員長
- 15:45 安心・安全 information(5分) 事務局
- 15:50 あいさつ・事務連絡(5分)
- 15:55 閉会

2023年度全国競技運営責任者会議 参加者

2024年2月5日時点

所属	氏名 (分科会1/A)	役職名	氏名 (分科会2/B)	役職名	JTO				JRJ	
					万年 和紀	橋本 秀樹	上村 卓	中田 光哉		
1 北海道	岡崎 利美	総務委員長	玉井 康夫	審判委員長						
2 青森	名後 利英	競技部長	菊池 睦夫	審判部長	見付 正樹					
3 岩手	小野寺文朗	競技部長	箱石 文夫	審判部長						
4 宮城	藤島 秀一	競技委員長	鹿又 政信	審判委員長						
5 秋田	櫻田 文人	競技委員長	高橋 和夫	審判委員長	山村 拓					
6 山形	池田 正敏	競技副委員長	庄司 隆志	競技副委員長	今野 光人					
7 福島	山下 訓史	競技部長	武田 正志	審判部長	田中 信之	武田 正志				
8 茨城	高畠 香	競技委員長	稲田 正人	副理事長兼審判委員長	稲田 正人					
9 栃木	海老名貴之	競技運営委員長	小針 敏明	審判委員長						
10 群馬	田中 恵一	競技運営委員長	荻野 歩	審判部長						
11 埼玉	清水 亙	競技委員長	今井 亮	審判委員長					中田 賢一	
12 千葉	伊藤 信夫	競技運営委員長	鈴木小枝子	審判部長	新村 浩章				宇井 菜那	
13 東京	東出 英樹	競技部 部長	石井 公一	審判部 部長	中島 剛	梶田 茂	井上 博行	野末 雅文	三浦 康二	石井 智也
14 神奈川	岡本 克巳	競技運営委員長	中野 賢一	審判部長	中村 信也	中村 紗奈江	米岡 利昌			
15 山梨	三枝 幸雄	競技委員長	笹本 忠彦	審判委員長	金澤 健敏	宮田 英明			常盤 信欽	
16 新潟	鈴木 圭輔	競技部長	青木 祐一	審判部長	浅野 政和	大森 智仁			田中 利夫	
17 富山	佐々木貴義	競技部長	杉木 一文	審判部長						
18 石川	南 隆行	競技部長	川嶋 聡	審判部長						
19 福井	南部 諭史	競技委員長	平木 寿治	審判委員長					吉井 靖博	
20 長野	細田 和生	競技部長	小林幸太郎	審判部長						
21 静岡	永田 勝久	競技委員長	井出 幸夫	審判委員長						
22 愛知	安田 純久	競技委員長	伊藤 明久	審判委員長	伊藤 明久					
23 三重	藤原 康喬	競技委員長	福井竜一郎	審判委員長					山田 英生	
24 岐阜	山下 和行	記録情報委員長	吉田靖	総務委員長	川瀬 巧	脇田 篤実				
25 滋賀	小島 伸彦	競技副委員長	高田 毅	審判委員長	長谷川真一郎					
26 京都	福田 晴也	競技部長	長屋 敏弘	審判部長	長屋 敏弘				杉本 明洋	
27 大阪	大槻 明美	理事 競技委員会	山口 忠広	理事 審判部長	青木 正宏					
28 兵庫	秋山 秀文	競技委員長	松岡誠一郎	審判委員長						
29 奈良	中井 光	副専務理事	安達 昌広	審判部長						
30 和歌山	山下 育作	競技部長	市川 貴英	審判部長					森本 文雄	
31 鳥取	小林 裕幸	競技部長	青木 茂	審判部長	美多賀鼻孝裕	新田明彦 (OB)				
32 島根	辻本 健彦	競技部長	赤木 正英	審判部長	松本 浩介					
33 岡山	堀川 正徳	競技運営委員長	服部 功	審判委員長	尾川 登太郎				服部 功	
34 広島	堀江一成	競技部長	松本 茂	審判副部長	浜崎 正信	新宅 昭二				
35 山口	鳥田 修二	競技部部長	石原 宏昭	審判部部長	藤田 昌彦					
36 徳島	福見 秀樹	跳躍審判長	近藤 清司	競技運営委員長					切原 宏和	
37 香川	関 正英	競技部長	山本 雅典	審判部長	藤岡 英陽					
38 愛媛	大塚 泰史	競技委員長	中村 浩輔	審判副委員長	白石 謙次					
39 高知	三谷 裕之	競技委員長	池澤 教志	審判委員長					小川 啓祐	
40 福岡	梅田 正人	競技部長	柴田 康弘	審判部長	橋本 忠志				矢野 牧男	
41 佐賀	羽立 博文	事務局長	田中 修司	審判委員長	田中 修司					
42 長崎	丸田 武人	競技部長	近藤 敦	審判部長						
43 熊本	沢田 修	競技部長	池田 祐一	審判部長	平川 貴浩					
44 大分	上杉 貴志	競技運営委員長	森 幹生	審判委員長	廣末 敬					
45 宮崎	溝口 正喜	審判部長	安在 倫孝	審判副部長	相馬 勇一					
46 鹿児島	中江 寿孝	競技部長	東村 光弘	審判部長						
47 沖縄	又吉 秀明	競技部長	大山 朝雄	審判部長						
日本実業団	福嶋 正	強化委員長	鈴木公、山地繁信	会長補佐、総務委員長						
日本学連	三浦 拓也	幹事長	桑原悠真※分科会A	副幹事長						
全国高体連	神 慶次郎	連絡員	吉田 克久	競技副委員長						
日本中体連	中村 信悟	陸上競技専門部長								
日本マスターズ	伊藤 誠一	競技運営委員長	鈴木 久一	競技運営副委員長						
日本パラ陸連	橋本 和秀	競技部部長	柴田達也	競技運営副委員長						
ニシスポーツ	木村 裕次	株式会社ニシ・スポーツ	高井 淳悦	株式会社ニシ・スポーツ						
セイコータイムクリエーション	田中 正人	課長	小林宗正	係長						
マツト	藤崎 勇次	技術部主任	岡田 晃	代表取締役						

◆日本陸連 競技運営委員会

氏名	役職	氏名	役職
鈴木 一弘	委員長	中村 要一	サブリーダー-国際プロトコール
関根 春幸	副委員長	奥 裕之	国際プロトコール
本橋 郁子	副委員長	荒谷 泉美	国際プロトコール
青柳 智之	幹事	岡野 寛	国際プロトコール
赤峰 俊彦	委員 (PT Leader)	黒須 雅弘	国際プロトコール
岩脇 充司	委員 (PT Leader)	高橋 義則	国際プロトコール
岡本 克巳	委員	中村 拓也	国際プロトコール
片岡 典子	幹事	船越 康平	国際プロトコール
片岡 裕介	委員 (PT Leader)	岩井 昭仁	国際プロトコール
羽田 雄一	幹事	渡邊(鎌田) 裕子	国際プロトコール
黒澤 達郎	委員	後藤(竹) 縁	国際プロトコール
佐藤 孝洋	委員	押元 孝紀	国際プロトコール
杉本 太郎	委員	眞野 瑠理子	国際プロトコール
関 隆史	委員 (PT Leader)	加藤(弓削) 恵	国際プロトコール
田中 康之	委員 (PT Leader)	羽計 利昭	国際プロトコール
寺尾 浩	委員	藤林 悠希	国際プロトコール
中村 拓也	幹事		
鍋島 太一	委員		
藤崎 明	委員		
町田 紀子	幹事	高木 良郎	委員長
松井 明大	委員		
村上 道夫	委員		
吉田 啓	委員		
渡邊 奈津実	委員	井上 博友	事業課長
石井 哲郎	委員 (表彰式典)	浅田 大吾	国際課
岡西 秀明	委員 (表彰式典)	櫻田 竜之助	事業課
宮本 克子	委員 (表彰式典)	石田 夢	事業課

2023年公認審判員数

2024年2月5日現在

所属	S級 公認審判員数 (男)	S級 公認審判員数 (女)	A級 公認審判員数 (男)	A級 公認審判員数 (女)	B級 公認審判員数 (男)	B級 公認審判員数 (女)	C級 公認審判員数 (男)	C級 公認審判員数 (女)	合計
1 北海道	133	11	223	35	651	209	77	58	1397
2 青森	55	3	62	7	384	116	0	0	627
3 岩手	74	4	96	18	278	68	0	0	538
4 宮城	111	13	103	22	381	119	0	0	749
5 秋田	74	2	87	7	394	60	0	0	624
6 山形	78	0	134	14	386	100	0	0	712
7 福島	128	7	204	24	173	59	647	355	1597
8 茨城	77	3	107	16	311	72	0	0	586
9 栃木	32	1	64	2	142	33	0	0	274
10 群馬	32	0	60	7	269	45	0	0	413
11 埼玉	78	7	138	13	371	90	0	0	697
12 千葉	81	4	159	13	631	134	0	0	1022
13 東京	336	51	291	91	404	199	10	7	1389
14 神奈川	212	5	166	24	798	197	0	0	1402
15 山梨	76	4	120	16	233	60	3	4	516
16 新潟	46	0	131	12	577	113	0	0	879
17 富山	63	4	89	8	217	60	37	16	494
18 石川	56	3	82	11	383	126	1	4	666
19 福井	26	0	80	8	117	32	0	0	263
20 長野	89	1	125	10	452	138	0	0	815
21 静岡	193	13	233	38	437	140	217	152	1423
22 愛知	114	7	130	14	628	221	0	0	1114
23 三重	49	5	61	6	182	60	0	0	363
24 岐阜	71	3	115	15	246	68	0	3	521
25 滋賀	75	4	173	28	388	197	45	25	935
26 京都	104	4	201	13	838	342	0	0	1502
27 大阪	286	20	437	101	1154	481	0	0	2479
28 兵庫	94	6	176	10	601	120	0	0	1007
29 奈良	13	0	114	16	350	93	0	0	586
30 和歌山	18	2	124	13	213	37	96	45	548
31 鳥取	48	2	137	21	104	41	0	0	353
32 島根	72	11	77	16	313	79	0	3	571
33 岡山	98	8	168	35	189	71	0	0	569
34 広島	138	6	169	19	410	107	13	20	882
35 山口	94	0	110	24	268	51	2	0	549
36 徳島	29	2	64	19	152	75	0	0	341
37 香川	37	0	86	6	125	40	0	0	294
38 愛媛	78	3	130	14	272	94	6	5	602
39 高知	41	2	66	12	142	40	0	0	303
40 福岡	147	11	135	17	469	142	43	42	1006
41 佐賀	49	2	106	17	126	31	0	0	331
42 長崎	26	10	58	16	150	86	109	89	544
43 熊本	93	11	123	20	188	27	0	0	462
44 大分	104	9	97	32	196	71	0	0	509
45 宮崎	52	4	104	17	299	88	0	0	564
46 鹿児島	63	2	146	23	567	169	0	0	970
47 沖縄	44	3	23	11	42	15	300	200	638
合計	4087	273	6084	931	16601	5016	1606	1028	35626

2023(令和5)年度 日本陸上競技連盟
全国競技運営責任者会議 議事録
2024年2月12日(月・休)13:00~16:30 オンライン開催

あいさつ

田崎 博道 専務理事

日頃よりクオリティの高い競技運営にご尽力いただき敬意を表します。本日は、連休最終日といったなか、全国競技運営委員会にご参加いただきありがとうございます。

本会議は、昨年度の競技会における事例の検証、競技規則の修改正の議論をいただき2024年度の競技運営の指針を決める重要な会議であると理解しており、是非、活発な議論をいただきたい。なお、現職に就き半年が経ち、全国各地の競技会に参加させていただき中、トラック&フィールド・マラソン及び競歩において、いかに多くの方々の支援及び社会の理解の上に成り立っているのかを強く認識した。本日の議事に競技会の実施報告もあるが、例えば、鹿児島国体では完璧に整備された競技場で、1日に600名を超える競技役員・補助員及びボランティアが5日間に亘って大会を支えている姿を目の当たりにし、心より感動し感謝するとともに、陸上競技ほど、人・モノ・社会インフラを要するスポーツはないのではと強く実感した次第である。現在、日本陸上競技連盟では、各地の競技会に伺い、地域・ブロック単位で加盟団体連絡協議会を実施しており、その場で深刻な実態が共有されている。それらの解決に向けた具体的な取り組みをいただいている中、物価の高騰、高品質化による価格の上昇、審判員をはじめとした競技運営の担い手の不足や人件費など、喫緊の課題が山積みになっていると認識している。審判員制度、競技場の公認検定制や検定品の制度の見直し、先端技術の活用、柔軟な競技会運営などに加え、競技会の省力化も提起されている。皆さまのこれまでの積み上げがあったからこそ、現在の競技場があり、クオリティの高い競技会運営が実現していることに疑うところはなく、支えてきたこれまでの様々な制度や取り組みに対し、この価値を否定するものではない。その上で、ますます加速する環境の変化に制度疲労を起こさぬよう取り組んでいただきたい。何か一つを変えれば解決する訳ではなく、すべてが繋がっていることを理解しスピード感をもって対応していかなければ、数年後には、クオリティの高い競技会運営が叶わなくなってしまう懸念がある。私たちの責務は、陸上を愛するアスリートの皆さまに輝くステージを用意することだと考える。2025年には、東京で世界陸上が開催される。世界陸上を一つの進化のエネルギーとして、次の世界を作り上げていくことが我々の責務と考える。本日の議論を、具体的な行動に繋げていただきたい。また、時間を要しているが理事や専門員会のメンバーのほか、アスリートや外部の有識者を加えたプロジェクトもスタートさせる。さらに、アスリートセンターといわれるような取り組みとして、岐阜陸協に協力をいただき、現役を引退したアスリートとのコラボで来年度より日選手権の混成競技大会の企画にチャレンジしている。今後、陸連主催の事業にはアスリートの皆さまに企画から積極的に参画いただき、意見をいただきながら挑戦を続け進化していきたいと思う。そして、トルネードのように陸連として陸上界全体の行動を起こさなければと考えている。

事務連絡

町田 紀子 幹事

- ・マイク・カメラはOFF、発言時にONにしてご参加ください。
- ・画面の名前表示は、名前の後に所属を記載してください。
- ・質問される場合は、氏名所属をまずお願いします。
- ・チャットの書き込みは質問のみとします。

2024年度競技規則修改正提案

片岡 裕介 委員

- *最終的には、4月発行のルールブックで確認のこと。
- *「ワールドランキングコンペティション定義」での競技会分類に変更。
- *条文内容の移動・記載場所変更による、条文番号の変更・追加や参照条文番号の変更。
- ・CR3.1 WA 関連競技役員の名称変更
- ・CR8 ITO'sとJTO's →WA レフェリーとJTO's
- ・CR9 IRWJ'sとJRWJ's
- ・CR18.5 審判長の権限
- ・CR25.4 スタートリスト・結果に用いる略語
- ・CR25.5 TIC
- ・CR31 世界記録① → 記録分類の変更(400mと200m<ショートトラック>での記録)
- ・CR31 世界記録② → 直走路でしか認められない競技(屋外・室内共通)

- ・CR31 世界記録③ → フィールド競技は「屋外」「室内」の区別なし
- ・CR31 世界記録④ → 風の測定
- ・CR34 日本記録① → 記録分類の変更 日本記録の対象となる種目、公認記録の対象となる種目を明示
- ・CR34 日本記録③ → 新たな種目(500m、600m等)は施設用器具委員会による検定が必要なものもあり
→ どの競技場でも新たな種目ができるわけではない
国内の200m常設公認トラック2カ所、国内常設室内公認競技場4カ所(2023年度)
→ 曲走路で110mを実施可能だとしても記録として認められない(世界記録②)
→ これまで公認記録と日本記録の関係が曖昧だった点をベン図で表記した。
→ このタイミングでの修正背景として、選手のランキングを大会ごとのパフォーマンスにより点数化する国際的な流れの中で、ある種目(例:400m)に対する派生種目(例:500m、600m)への点数化を含む、強化委員会からの意見を踏まえ、整理した。
→ 新種目については施設用器具委員会による検定が必要なものもある。
→ 今後、新種目の実施を検討する場合は、これらのことを念頭に置いて欲しい。
- ・TR4.3 同時申込 → WRkでは原則を適用。〔国内〕HJとPVは事前に申告すれば無効試技扱いとすることができる、の適用は不可
- ・TR4.4 参加の拒否 → 国内でも適用可能に変更(主催者判断) 適用する場合は要項・注意事項等に記載
(必ず適用しないとイケない規則ではない)
- ・TR5.2 競技用靴底厚変更 → 2024年11月1日～(ルールブック記載済)
- ・TR6.4.5 許可される助力(フィールド種目の競技者によるビデオ映像確認)
→ 要件緩和 録画映像を提供する者のすぐ近くの位置であれば、競技区域内に持ち込むことが認められる。
競技者が手に持って操作確認が可能に。「できなければならない」という規則ではない。
※競技場により手渡しできないケースに対する、コーチボックスのFOP内での設置を義務付けするものでなく、選手間の平等性を確保することが本条項の狙いであることに留意。
- ・TR7 失格 → 警告および失格に関する条文番号の変更
- ・TR8.4 トラック種目のスタートに関する現場での抗議(競技中の抗議)
→ SIS使用時のみ、国内でも適用可能に変更(主催者判断)
抗議中として競技することを認めた場合、競技者に「赤白カード」を提示
→ 適用する場合は要項・注意事項に記載
- ・TR8.5 フィールド種目の現場での抗議(競技中の抗議) → 国内でも適用可能に変更(主催者判断)
- ・TR16.5.3 スタートの中止事由の見直し → ～その結果、その選手が他の競技者の不正スタートを生じさせた時
(運用については、本会議「スタート関連」にて説明)
- ・TR17.1 レースにおける妨害 → 別の競技者が妨害行為の責任があると審判長が判断した場合に変更
- ・TR17.10、17.12 風力計測 → 新種目の計測位置と計測時間
- ・TR20.4 シードレーン → 種目によって変わる。〔国内〕TR20.4.3～20.4.5に加えて、従来通りでもよい
- ・TR24.11 リレーオーダー用紙提出締切り時間 → 〔国際〕は変更になるが、〔国内〕変更なし
- ・TR30.1.1、TR32.14 フィールド競技の跳躍時・投てき時の靴紐等の扱い
→ 靴紐等が足留材に触れても無効試技扱いにはならないことの明確化
- ・TR32.1 WRkで使用する投てき物 → WRk大会で使用する用具はWAが定める認証品のみ(JAAF検定品含む)を使用可。
ただしJAAF検定品であってもWA非認証品は使用不可
競技場によっては「競技場備え付け投てき物」のみでWRk大会を開催できない可能性有
競技場備え付け投てき物のチェックが必要
- ・TR32.2 個人持ち込み投てき物の数 → 〔国際〕主催者が用意したものと同一モデルでも2個まで持ち込み可能に変更
〔国内〕変更なし。但し、国内大会でも国際に適用可(主催者判断)
- ・TR38.7 やりの穂先の角度 → 金属先端部の3mm部分は角度(40度以下)を無視してもよい
- ・TR38.10 やり(男子U18)規格 → 2025年4月1日から変更
- ・主催者判断による〔国際〕を国内適用とできる主な条文
- ・WRk → 必ず適用しなければならないと明記のあるもの、競技者にWA規則よりも多くの権利を与える(有利になるもの)を除き、国内規則の適用で可

<質疑応答>

- 【鹿児島・中江氏】TR4.4について、WRk大会では適用するのか。
- 【片岡裕委員】選手の競技会に対する姿勢の問題である。どちらでも構わないのが結論。
- 【鹿児島・中江氏】そうなると価値観の問題ではないか。主催者判断で適用していいのか。

【片岡裕委員】そのとおりである。主催者で決めていただいでよい

【鹿児島・中江氏】リレーのオーダー用紙の提出について。招集時刻は1組を基準に設定するのか、それとも各組ごとに設定するなど主催者判断でいいのか。

【片岡裕委員】ルールには記載がある。大会の規模に応じて、主催者判断で提出時刻は決めてよいが、有利になることがないように

【千葉・新村氏】投てきのファールについて。サークルの外側に落ちたメガネをサークルの内側から拾った場合の措置。

【片岡裕委員】投てき後に正しくサークル等を出てから、拾わせるよう指導してほしい。

WRk 大会について

鈴木 一弘 委員長

- ・申請はオンラインに移行した。開催60日前までに申請する。申請料も必要である。
- ・WRk大会は、WA規則を準拠。大会終了後24時間以内に記録を報告する。
- ・WRk大会は、国際大会の参加標準記録、ワールドランキングの対象となる。
- ・加入団体、行政や新聞社、実行委員会が主催する大会がWRkの申請をしていない場合がある。注意が必要。
- ・2025年からEカテゴリーのWRk大会は、クラス2以上の競技場が必要となる。
その他資料参照。

<質疑応答>

【滋賀・小島氏】高校生の県大会でもWRkの申請を要すると伺ったが、例えばその場合、フィールド競技では、一投一測及び一眺一測と都度計測しなければならないのか。また、カットラインを設けるのはどうか。

【中村幹事】高体連事務局長として、現時点、都道府県大会においてWRkを適用するかどうかは、陸連の強化からも話が降りてきていないため、適用可否の検討まで至っていない。

【鈴木委員長】フィールド競技の計測については、一試技ごとの計測が原則であり、ペグを使わず計測してほしい。また、カットラインも設けるべきではない。

分科会1

公認競技会申請

鍋島 太一 委員

- ・昨年度と同様の申請である。ただし、今年度からWRK申請の項目欄を追加した。
- ・一次申請(エクセルデータ)での申請期限は2月末日まで。3月1日以降は、システムでの変更のみとなる。
- ・2025年度以降、競技会コードの見直しがある。

日本記録申請

岩脇 充司 委員

- ・公認競技会申請の補足:WRk申請の項目について、WRk大会の申請が終わった訳ではない。各団体から大会申請をする必要があるので注意する。また、「どの競技会がWRk大会なのか、一覧で分からない。」とご意見をいただいたので、審判員、競技者が判別できるように項目を追加した。
- ・日本記録の申請について、ルール修正により風力の要不要があるので注意する。また、日本記録の申請用紙も一部変更があるので確認をお願いします。
- ・日本記録の追加認定について、記録を公認申請しても日本記録の申請を忘れている場合が多々ある。公認申請とともに日本記録の申請をお願いします。

記録用紙改訂

片岡 典子 幹事

- ・ルール修正により、抗議中での競技の記録について、競技終了後に記録用紙原本をコピーし、コピーした方に審判長裁定の内容を赤字で記入し、原本と一緒に保管する。
- ・略語・略称で英語の意味の部分について、WAで変更されているのだが今回の資料には反映されていない。報告書には訂正したものを掲載する。

広告展示物規程PTより

田中 康之 委員

- ・国際競技会におけるアスリートキット

(1)表示サイズとスポンサーの掲出数の変更。①非営利団体名②営利団体で区分。

(2)その他アクセサリー、個人所有物、セレモニービブスでも変更あり。

・国内広告規程について

(1)C7.1について

①1.1.1適用競技会 別のところに表示されていたものを追記し、本来あるべきところに掲載した。

②1.3.1大会主催者独自の規則作成と告知、〈注意〉WA-C7.1 1.3に1.3.1を追記した。

③C7.1巻末 適用競技会における主催者責任、広告規程管理責任者任命の推奨を追記した。

(2)C7.4について

① 5 アスリートキット【衣類／ユニフォーム】

・所属団体名／ロゴについては変更なし。

・スポンサー名／ロゴの数量について変更。従来、製造会社名／ロゴを含めて2つまで → 3つまで。

・誤解を避けるために、日本陸連としての広告規程ではユニフォームにスポンサーの掲出は「可」としているが、高体連、中体連として別途規程があり、掲出できない場合があるので、注意する。

② 6.5 医療用テープ、一般テープについて[国内]を追記した。

(3)C1.2付録およびC1.4付録について

・競技場の展示物の扱いについて、ダイヤモンドリーグ／コンチネンタルツアーはWA規程を必須適用、それ以外の競技会ではWA規程は任意適用とする。

・国内競技会における展示物の扱いは、WA規程＋[国内]規程を基準として運営する。

・競技会での運営・運用事例

1)競技注意事項に表示してきたが、競技会要項(競技会開催案内)にアスリートキット規程を明示する。(図表も利用して。)また、参加競技者が限られる競技会については、WEB等も利用して事前チェックを実施することも効果あり。

2)現場での対応について、WAより「過度にマスキングはしない。注意して次からは正されるのであれば尊重して対応。」ユニフォームに関して、場合によっては厳重注意の上、そのままもあり。かなりひどい場合、次回以降、参加が認められない可能性を指摘する。その他アパレル等について、着用しない、マスキング、裏返し等、臨機応変に対応する。マスキングをする場合、隠すべきはしっかり隠すことが望まれる。

分科会2

S級審判昇格審査報告

青柳 智之 幹事

・2023年度申請者 181名に対して候補者 176名

・2024年度申請より講習会開催実績報告者は当該年度のみ提出

・不合格者の内訳

・昇格審査におけるお願い

審判ハンドブックPTより 配布資料参照

審判育成・研修PTより

赤峰 俊彦 委員

WA ブロンズレフェリー養成について

・2026年より国内で開催されるすべてのWAワールドランキング対象大会で、審判長や審判主任を務めるにはブロンズレフェリー資格が必要

・2024年5月以降に試験を予定

・受験資格…JTOを1期以上務めた人、NTO資格を持った女性、各都道府県陸協が責任をもって推薦する女性(WAから女性のジェンダーバランスを増やすよう要請)

・日本語でのオンライン試験

・各都道府県で受験する人の選考を進めて欲しい

JRWJsセミナー・認定試験について 配布資料参照

2023年度 JTOs 活動報告

羽田 雄一 幹事

・7期JTOsの7名を加えて55名体制で対応

・報告事例① →1レーン競技者が号砲前に飛び出し(不正)→2レーンもつられて飛び出し不正の判定→抗議中で走ることを希

→審判長裁定通り失格の判定→国際扱いとして、選手に説明。2024年度から対応が変更となるので、気をつけていただきたい。

- ・報告事例② →スタート直後の大障害にトップの競技者が踏切に失敗し、大障害が倒れる。再レースを実施。
- ・特に大規模大会では、抗議・上訴の手順をしっかりと確立・把握しておくこと

分科会報告

岩脇委員・関根副委員長

- ・分科会1 競技会公認申請、記録公認申請、記録用紙改訂、広告展示物PTについて
- ・分科会2 S級昇格審査、ハンドブックPT(スタート)、研修、JRWJsセミナー、JTOs派遣報告について

施設用器具委員会報告

高木 良郎 施設用器具委員長

- ・WRk 国際道路コース計測員を任命
- ・やり先端部分
- ・陸上競技場公認の細則の改正
- ・技術総務の派遣
- ・競技会での注意事項
 - 公認種目設定による対応 標識タイル設置の考え方
 - 500m はセパレートで行うためスタートラインのタイル設置、600m はメドレーリレーのタイルを利用
 - 秤の調整 必ず10kgの確認
- ・WRk 大会での投てき物の使用
 - 投てき物のリストにはWA 認証番号と規格(色)を記入する
 - 持ち込みにはWA のシールがあるかどうかで判断。シールがない場合はその証明がされたものを持参する。

海外競技会報告

関根 春幸 副委員長

例えば言語について、当然日本語が通じる訳ではない。さらに、英語についても通じない地域は多い。昨年10月に中国で開催されたアジア大会にスタート審判長として派遣されたが、スタートチームでも英語を話せたメンバーは数名であった。また、ドバイにITOとして派遣されたとき、男女の上下関係や組織のヒエラルキーにより、ボスでない私自身が直接指示をしても何も聞かぬという状況であった。そのほか、地域や国によってローカルルールが存在する。ゴールドレベルでもITOに至ってもローカルルールを持ち出すものも存在する。そのような中、ルールブックを基に説明を行い納得の上、競技運営を進めなければならない。また、少数の審判員で国際競技会運営を行う中、一人ひとりが審判員に選ばれたという誇りを持ち競技運営に対応しているため、こちらからも感謝や誠意を持ったコミュニケーションが非常に重要であり、競技会後半につれよいチームが完成していく。今後、国内でも2025年には東京世界陸上、2026年には愛知県にてアジア大会が開催される。我々日本人もブロンズ資格を持った競技審判員が主任に選ばれると思われるが、自覚と誇りをもって競技会に臨んでいただき、上のレベルの競技役員から技術や知識を習得し成長に繋げていただきたい。そして、引き続き、皆様の経験や知識をもとに、競技会運営に協力いただきたい。

スタート関連

本橋 郁子 副委員長

- ・競技規則の修改正があり、日本の運用と海外の解釈との溝を埋めることが必要。
- ・局所的な動きがあった場合には、修改正されたTR16.5.3によって対処される。しかし、初心者レベルの競技者や競技会では撃ち戻してもよい。その場合には、大会総務、審判長、スタートチームで内容を共有して運営にあたる。
- ・各競技団体へ、競技者、指導者に周知をお願いしたい。

競技会報告(配布資料参照)

- ①日本選手権/U20日本選手権(大阪)
- ②日本選手権混成/U20日本選手権混成(秋田)
- ③インターハイ(北海道)
- ④全中(愛媛)
- ⑤特別国民体育大会(鹿児島)
- ⑥U18/U16陸上競技大会(愛媛)

<質疑応答>

- 【長崎・近藤氏】不正スタートをさせた選手のYCは理解したが、実際不正スタートをした選手はDQ扱いとなるのか。
- 【本橋副委員長】影響を受けて不正スタートを生じさせられた選手はDQ扱いとならない。さらに補足すると、局所的な動きに対してつられた場合を説明したが、不正スタートの選手につられて出てしまった選手の場合、先に不正スタートした選手は当然DQとなる。なお、当該選手がつられたかどうかは、スタートチームの判断となり、明らかにつられたということであればお答めはない。
- 【鹿児島・中江氏】つられてしまった選手への判断について、ルールブックでは、厳格につられてしまったどの競技者も不正スタートになると記載されているが、先ほどの説明ではお答めがないということである。つられた、かつSISにおけるリアクションタイムが0.1秒以内にスタートを切った選手であっても不正スタートとならないのかどうか。
- 【本橋副委員長】TR16.8の注意書きに記載されているように、厳密にいうとつられた競技者も不正スタートとなるが、スターターは不正スタートをした責任があると判断された競技者に警告や失格を与える。ケースに応じて現場でSISのデータやリコーラーの報告なども参考にし、スターターに裁定をしていただく趣旨である。よって、スターターがつられたと裁定した場合にはDQとはならない。
- 【鹿児島・中江氏】例えば、選手がつられたから出たとその場で抗議がなされた場合には、どのような判断となるのか。
- 【本橋副委員長】SISを使用している場合にはリアクションタイム(波形)も参考にし、SISを使用していない場合には、スターターやリコーラーが監察した状況によって判断されるべきと考えている。
- 【関根副委員長】明らかにつられて出てしまったことを、審判長やスターター、リコーラーが確認できればDQとならず、その原因を作った選手に対してはYC若しくは不正スタートであればDQとなる。特にSISを使用している場合、様々な状況を整理しスタートチームにて慎重に判断し対応いただきたい。
- 【島根・松本JTO】特に地方大会ではSISがない場合が大半であり、不正スタートを誘発する動きを判断することは難しいため、ビデオ撮影など何らかの証拠を残す大会運営が必要と考えられる。また、競技者が少しでも早く動作をしたとスターターが判断した場合には不正スタートとなると、TR16.7.1及びTR16.7.2が設けられている。一方、注釈のiiでは、「手が地面からあるいは足がスターティングブロックのフットプレートから離れた場合、不正スタートとする」と表記されており、矛盾していると思われる。よって、飛び出さない、手が地面から及び足がフットプレートから離れなければ不正スタートとならないという統一見解で良いか。
- 【本橋副委員長】SISが使われない競技会が圧倒的に多いと思われるため、現場での判断が重要となる。また、不正スタートはTR16.7.1に記載の通り、地面から手がフットプレートから足が離れようとするあらゆる動作もスタート動作の開始とみなされている。手や足が離れることだけが不正スタートではない。
- 【島根・松本JTO】動画の事例(局所的な動き)も含め、スタート動作として不正スタートとみなされるということにより。
- 【本橋副委員長】局所的な動きとスタートの開始の動きは、全く別のものである。局所的な動きは瞬間的なものでスタート動作にはつながらない。よって局所的な動きは不正スタートではない。
- 【関委員】動画の事例については、スタートに至っていないものの、当該選手の波形を確認しYCと判断している。号砲前のすべての動きが不正スタートになるものではない。ルールブックP.137のグリーンノートに記載の通りである。
- 【関根副委員長】原文の和訳に一部誤解を招く表現があるため、次のルールブックの修正の際、日本語について改めて精査し統一した理解ができるよう記載する。
- 【神奈川・宮田JTO】事例の動画からは右足が完全に離れたように見受けられたが、不正スタートではないのか。
- 【本橋副委員長】当該事例では号砲の後に足が離れているので、不正スタートではない。
- 【中体連・中村氏】昨年の全国会議において、駅伝のユニフォームについて下は統一する必要はなく主催者側の判断ということであったが、全国中学校駅伝ではリレーと同様に同一のユニフォームとした。この点、例えば、リレー自体が緩和される方向にあるのか、もしくは駅伝は非公認であることから主催者判断となるのか、今後の方針について教えていただきたい。
- 【片岡裕委員】ルール上、全国大会レベルではユニフォームは統一と表記されている。そもそも統一する背景として、ジャッジ上、ユニフォームの上を見て判断することが多いことから視認性を求めている。視認性が保たれれば、リレー及び駅伝においても主催者側判断でよい。
- 【滋賀・長谷川JTO】ユニフォームの同一性について、陸連HP上、駅伝では下の色は問わないと記載されているが、先ほどの回答内容では、リレーにおいてもデザインや色は問わないとのことであった。説明内容とルールの齟齬が生じていると思われるため、どちらが正しいのか教えていただきたい。
- 【片岡裕委員】ルールブック及び陸連のHPにて記載の通り、全国大会レベルのリレーにおいてはユニフォームの形状は問わないがデザイン及び配色は同一であると訂正する。
- 【福島・田中 JTO】競技規則修正のなかで、投てき競技におけるメガネを落とした事例があった。原則、サークルの後ろから出た後に拾うべきと理解したが、東京オリンピックの事例では、目の前に落ちた帽子を拾ってサークルの後ろから出た選手に対してファールとはしなかった。よって、サークルの後ろから出ずとも拾って後に出た場合でも問題ないと思うが、どのような解釈がよいのか。
- 【関根副委員長】周りの地面に触れず帽子を拾ったのであれば問題ない。また、サークルの後ろから出て試技を終了させていれ

ば、その後、サークルの前方に出て帽子を拾ったとしても何ら問題ない。

2025 年世界陸上について

鈴木 一弘 委員長

- ・陸連—東京都連携し、東京世界陸上財団設立。大会カラーは「江戸紫」
- ・期間は 2025 年 9 月 13 日(土)～9 月 21 日(日)
- ・休暇・職免の取りにくさが懸念。高校生の補助員不可、大学生はギリギリ夏休みなので可能か？
- ・TOKYO 2020 NTO の活用や WA レフェリーの導入、東京陸協、近県陸協に依頼
- ・競技日程の検討、マラソンコース検討はこれからである
- ・選手村は都内城南、ウォームアップ場は東京体育館、織田フィールド、東大駒場グランド、大井競技場を検討

事務局安心安全 PT

石田 夢 事務局員

- ・迷惑撮影の実体と対策について、全国にアンケートを実施した。70%が不審者の対応を経験(そのうち 40%が警察案件)。高校生が対象になりがちで、表彰式やフィニッシュ後、トイレなどで多い。
- ・リレー／駅伝のユニフォームについて。仕方なく望んでいないユニフォームを着用するケースがあるので、形状は揃っていないでも大丈夫だと伝えていただきたい。
- ・ロードレースでの助力について。レース中の負傷、疾病(低体温、低血糖等)への対応は積極的に行なってほしい
- ・運営車両の安全対策について。ドライバーの単独判断ではなく、競技役員の手配によって動くよう徹底してほしい

あいさつ

鈴木 一弘 委員長

昨年は 5 時間近い会議だったため、今回は 3 時間半に短縮した。加盟団体からのプレゼンはご遠慮いただいたが、参考になる点が多いので、各加盟団体で共有してほしい。また、資料も多く配付したので、各都道府県の会員に周知していただきたい。2024 年パリ五輪の選考会に向けて、皆さんのお力をお借りしたい。スタート関連に関しては、今後も様々なご意見を頂戴したいと思う。2024 年シーズンもどうぞよろしくお願いいたします。

事務連絡

町田 紀子 幹事

- ・S 級昇格対象者の漢字間違いは 2/13(火) 18 時までに連絡してください。
- ・審判員手帳の発送は 2/21(水)以降となります。
- ・全国会議の短冊は全団体に郵送します。
- ・来年度は対面開催を含めて検討中です。

以上

(**太字**：修改正、追加、挿入 修改正前：削除 修改正前&修改正：移動)

競技規則の最終的な文言は、2024年度版のルールブックをご確認ください

【競技会規則 (CR)】

条文番号	修改正前	修改正
CR1.1	WA は、エリア陸連と協力して、全世界の競技システムを指導・管理する責任を有する。WA の競技カレンダーとそれぞれのエリアの加盟団体の競技カレンダーが重複しないように、あるいはその重複が最小になるように調整する。すべての国際競技会は、CR1 に従って WA または一つのエリア陸連により認可されなければならない。国際大会を統括してシリーズ／ツアーまたはリーグ戦を行う場合は、かかる活動に必要な規程または契約条件も含め、WA または当該エリア陸連から許可を受けなければならない。運営は第三者に委託することができる。当該エリア陸連がこれらの規則に準拠して国際競技会を適切に管理できない場合、WA は必要に応じて介入し、必要な対策を講じることができる。	WA は、エリア陸連 および加盟団体 と協力して、 すべてのワールドランキングコンペティション で構成される 世界的な 競技システムを指導・管理する責任を有する。 WA は WA の競技カレンダーと、エリア陸連の競技カレンダー および加盟団体の 一部 の競技カレンダーが重複しないように、あるいはその重複が最小になるように調整する。 すべてのワールドランキングコンペティションは、CR1 に従って WA または一つのエリア陸連もしくは加盟団体 により認可が必要である。 招待競技会 を統括してシリーズ／ツアーまたはリーグ戦を行う場合は、かかる活動に必要な規程または契約条件も含め、WA または当該エリア陸連から許可を受けなければならない。運営は第三者に委託することができる。当該エリア陸連がこれらの規則を適用してワールドランキングコンペティションを適切に 運営・ 管理できない場合、WA は必要に応じて介入し、必要な対策を講じることができる。
CR1.3	WA は奇数年に世界選手権を主催する。	欠番
CR1.5	WA の認可を要する競技会	WA の認可を要する競技会
CR1.5.1	国際競技会定義 1.2、1.3、1.4 及び 1.5 に該当するすべての国際競技会は WA の認可が必要である。	ワールドランキングコンペティション定義 1(c)(d)(e) に該当するすべての 競技会 は、WA の認可が必要である。
CR1.5.2	認可の申請は、当該の国際競技会が開催される国またはテリトリー（領土）の加盟団体が、大会 12 カ月前、または WA 事務総長が他に定める締め切り日前に WA 事務総長に対して行う。	ワールドランキングコンペティションが開催される国またはテリトリー（領土）の加盟団体は、該当する場合はその競技会の関連組織団体とともに、確立された手続きにより可能な限り速やかに WA に開催申請をしなければならない。
CR1.5.3		WA は当該申請を承認し、ワールドランキングコンペティションのリストへの登録と WA のグローバルカレンダーへの掲載を行い、競技会開催を認可する。
CR1.6	エリア陸連の認可を要する競技会	エリア陸連の認可を要する競技会
CR1.6.1	国際競技会定義 1.7,1.8,1.9,及び 1.10 に該当するすべての国際競技会は、エリア陸連の認可が必要である。国際招待大会または…	ワールドランキングコンペティション定義 2. (b)(c)(d)(e) に該当するすべての競技会は、エリア陸連の認可が必要である。国際招待大会または…
CR1.6.2	当該の国際競技会が開催される国またはテリトリー（領土）の加盟団体が、大会 12 カ月前、または当該加盟団体が他に定める締め切り日前に、適切なエリア陸連に対して認可申請を行う必要がある。	ワールドランキングコンペティションが開催される国またはテリトリー（領土）の加盟団体は、該当する場合はその競技会の関連組織団体とともに、確立された手続きにより可能な限り速やかにエリア陸連に開催申請をしなければならない。

CR1.6.3		エリア陸連は当該申請を承認し、競技会開催を認可し、その後、ワールドランキングコンペティションのリストへの登録とWAのグローバルカレンダーへの掲載を行うよう、WAに通知する。
CR1.7	加盟団体が認可する競技会	加盟団体の認可を要する競技会
CR1.7.1	加盟団体は自国の競技会を認可することができる。また外国人競技者は国際競技会規則の要件に従い、かかる競技会に参加することができる。国内競技会に外国人競技者が参加する場合、当該国内競技会に出場する全競技者の出場料、賞金、現金以外の賞品の価値は、総額で5万米ドルを超えてはならず、種目別で8,000米ドルを超える種目があってはならない。WA、開催地の加盟団体、または所属加盟団体の規則に基づく陸上競技会への参加資格がない場合、競技者は一切、かかる競技会に参加することはできない。	ワールドランキングコンペティション定義 3 (b) に該当するすべての競技会は、加盟団体の認可が必要である。
CR1.7.2		外国人競技者は、参加資格規則 (the Eligibility Rules) 第 5 条 (国際競技会の出場要件: Requirements to Compete in International Competitions) に従って、当該競技会に参加することができる。WA、開催地の加盟団体、または所属加盟団体の規則に基づく陸上競技会への参加資格がない場合、競技者は一切、当該競技会に参加することはできない。
CR1.7.3		ワールドランキングコンペティションが開催される国またはテリトリーの加盟団体は、競技会開催日の 60 日前までに、WA に対してグローバルカレンダープラットフォームを通じて申請書を提出し、通知しなければならない。
CR1.7.4		WA は当該申請を承認し、ワールドランキングコンペティションのリストへの登録と、WA のグローバルカレンダーへの掲載を行う。
CR2.1	カウンスルは規則に基づいて開催される国際競技会の運営規程や、競技者、競技者代理人、競技会主催者および加盟団体の関係を律する規程を定めることができる。カウンスルは適宜、これらの規程を変更または修正することができる。	カウンスルは規則に基づいて開催されるワールドランキングコンペティションの運営規程や、競技者、競技者代理人、競技会主催者および加盟団体の関係を律する規程を定めることができる。カウンスルは必要に応じて、これらの規程を変更または修正することができる。
CR2.2	WA およびエリア陸連は、適用される規則や規程が遵守されていることを確認するために、WA またはエリア陸連の認可を必要とする国際競技会に出席する 1 名以上の代表者を指名することができる。WA またはエリア陸連の要請により、指名された代表者は当該国際競技会終了後 30 日以内に、「遵守に関する報告書」を提出する。	WA およびエリア陸連は、適用される規則や規程が遵守されていることを確認するために、WA またはエリア陸連の認可を必要とするワールドランキングコンペティションに出席する 1 名以上の代表者を指名することができる。WA またはエリア陸連の要請により、指名された代表者は当該ワールドランキングコンペティション終了後 30 日以内に、「遵守状況に関する報告書 (compliance report)」を提出する。
第 2 部 見出し	競技会役員	役員
CR3.1	国際競技会定義 1.1、1.2、1.3 及び 1.6 の競技会では以下の国際競技会役員をおく。... 3.1.1 組織代表 3.1.2 技術代表 3.1.3 医事代表 3.1.4 アンチ・ドーピング代表	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)(d) と 2. (a)(b)(c)(d) に該当する競技会では以下の国際競技会役員をおく。... 3.1.1 組織代表 3.1.2 技術代表 3.1.3 医事代表 3.1.4 アンチ・ドーピング代表

	<p>3.1.5 I T O s (国際技術委員)</p> <p>3.1.6 国際競歩審判員</p> <p>3.1.7 国際道路コース計測員</p> <p>3.1.8 国際スターター</p> <p>3.1.9 国際写真判定員</p> <p>3.1.10 ジュリー</p> <p>...</p> <p>国際競技会定義 1.1 及び 1.5 の競技会では、カウンシルは広告コミッショナーを指名してもよい。国際競技会定義1.3、1.6及び1.10の競技会では役員の指名は当該エリア陸連によってなされる。国際競技会定義1.2の競技会では主催者、国際競技会定義1.4、1.8及び1.9の競技会では当該加盟団体によってなされる。</p> <p>...</p>	<p>3.1.5 <u>ワールドアスレティックスレフェリー (WA レフェリー)</u></p> <p>3.1.6 <u>ワールドアスレティックス競歩審判員 (WA 競歩審判員)</u></p> <p>3.1.7 国際道路コース計測員</p> <p>3.1.8 <u>ワールドアスレティックス・スターター (WA スターター)</u></p> <p>3.1.9 <u>ワールドアスレティックス写真判定員 (WA 写真判定員)</u></p> <p>3.1.10 ジュリー</p> <p>...</p> <p>ワールドランキングコンペティション定義 1. (a) (d)(e)に該当する 競技会では、カウンシルは広告コミッショナーを指名してもよい。</p> <p>ワールドランキングコンペティション定義 2. (a)(c)(d)(e)に該当する 競技会では役員の指名は当該エリア陸連によってなされる。ワールドランキングコンペティション定義 1. (c)に該当する 競技会では主催者、ワールドランキングコンペティション定義 3 に該当する 競技会では当該加盟団体によってなされる。</p> <p>...</p>
CR3.1	〔注意〕 ii CR3.1.5 から 3.1.9 に定義される国際競技会役員は、適用される WA 方針により、WA レベルに分類される場合もあれば、エリアレベルに分類される場合もある。	〔注意〕 ii CR3.1.5 から 3.1.9 に定義される国際競技会役員は、適用される WA 方針により 分類される場合がある。
CR5.1	<p>...。</p> <p>1 日開催の競技会を除き、指名された技術代表は以下のことを行わなければならない。</p> <p>5.1.1...</p> <p>...</p> <p>5.1.11...</p> <p>1 日開催の競技会に指名された技術代表は、必要な支援やアドバイスを主催者に行ない、競技会実施報告書を書面で提出する。</p>	<p>...。</p> <p>招待 競技会を除き、指名された技術代表は以下のことを行わなければならない。</p> <p>5.1.1...</p> <p>...</p> <p>5.1.11...</p> <p>招待 競技会に指名された技術代表は、必要な支援やアドバイスを主催者に行ない、競技会実施報告書を書面で提出する。</p>
CR5.1.10	要請があった場合は監督会議の議長を務め、競技役員に必要な指示を与えなければならない。	要請があった場合は監督会議の議長を務め、 審判長 に必要な指示を与えなければならない。
CR6.1	<p>〔注意〕</p> <p>ii CR6.1.4 によって出場を止めさせられたり、競技を中止させられたりした競走競技および競歩競技出場者は、DNS か DNF として記録される。この指示に従わない競技者は失格となる。</p> <p>iii CR6.1.4 によって出場を止めさせられたり、競技を中止させられたりしたフィールド競技出場者が試技をしていなかった場合、リザルトでは DNS と表記される。しかし、試技を行った場合には試技の結果は成立し、競技者はその結果に従って扱われる。この指示に従わない競技者は失格となり、その種目においてそれ以後、競技する権利を失う。</p> <p>iv CR6.1.4 によって出場を止めさせられたり、競技を中止させられたりした混成競技の競技者は、もし最初の種目に出場していなければ DNS と記録される。しかし、スタートしていれば TR39.10 が適用される。この指示に従わない競技者は失格となり、その種目においてそれ以後、競技する権利を失う。</p>	<p>〔注意〕</p> <p>ii CR6.1.4 によって出場を止めさせられたり、競技を中止させられたりした競走競技 出場者 または競歩競技出場者の 結果 は、DNS か DNF として記録される。この指示に従わない競技者は失格となる。</p> <p>iii CR6.1.4 によって出場を止めさせられたり、競技を中止させられたりしたフィールド競技出場者が試技をしていなかった場合の 結果 は、DNS として記録される。但し、試技を行った場合には その 試技の結果は 有効であり、競技者はその結果に従って扱われる。この指示に従わない競技者は失格となり、その種目においてそれ以後、競技する権利を失う。</p> <p>iv CR6.1.4 によって出場を止めさせられたり、競技を中止させられたりした混成競技の競技者の 結果 は、もし最初の種目に出場していなければ DNS と記録される。但し、最初の種目 でスタートしていれば TR39.10 が適用される。この指示に従わない競技者は失格となり、その種目においてそれ以後、競技する権利を失う。</p>

CR8	CR 8. I T O s (国際技術委員)と J T O s (日本陸連技術委員)	CR 8. WA レフェリーと J T O s (日本陸連技術委員)
CR8.1	技術代表は I T O s が任命されている競技会で、事前に主催団体によって I T O 主任が任命されていなければ、I T O の中から主任を任命しなければならない。I T O 主任は技術代表と協力して可能な限り実施される各種目にそれぞれ1人の I T O を任命しなければならない。I T O は担当する各種目の審判長を務める。	技術代表は WA レフェリーが任命されている競技会で、事前に主催団体によって主任が任命されていなければ、WA レフェリーの中から主任を任命しなければならない。主任は技術代表と協力して可能な限り実施される各種目にそれぞれ1人の WA レフェリーを任命しなければならない。WA レフェリーは担当する各種目の審判長を務める。
CR8.2	クロスカンントリー競走・道路競走・マウンテンレース・トレイルランニングにおいて I T O s が指名されたら、I T O は主催者に必要な支援を行う。I T O は自身に割り当てられた競技種目が行われている間は、常に競技場所にいないてはならない。I T O は競技が競技規則と競技注意事項等ならびに技術代表の最終的決定に従って行われていることを確認する。I T O は割り当てられた各種目の審判長となる。 I T O s に関する情報は WA のウェブサイトから入手可能な The I T O Guidelines により提供される。	クロスカンントリー競走・道路競走・マウンテンレース・トレイルランニングにおいて WA レフェリーが指名されたら、WA レフェリーは主催者に必要な支援を行う。WA レフェリーは自身に割り当てられた競技種目が行われている間は、常に競技場所にいないてはならない。WA レフェリーは競技が競技規則と競技注意事項等ならびに技術代表の最終的決定に従って行われていることを確認する。WA レフェリーは割り当てられた各種目の審判長となる。 WA レフェリーに関する情報は WA のウェブサイトから入手可能な the World Athletics Referee Guidelines により提供される。
CR8	〔国内〕 1. 本連盟が主催する競技会には原則として J T O s (Japan Technical Officials)をおく。J T O s は総務の直下に位置づけられて、WA の I T O s に準じた任務を行う。	〔国内〕 1. 本連盟が主催する競技会には原則として J T O s (Japan Technical Officials)をおく。J T O s は総務の直下に位置づけられて、WA レフェリーに準じた任務を行う。
CR9	CR9. I R W J s (国際競歩審判員)と J R W J s (日本陸連競歩審判員)	CR9. WA 競歩審判員と J R W J s (日本陸連競歩審判員)
CR9	国際競技会定義 1.1 の競技会に任命される競歩審判員は WA レベルの国際競歩審判員でなければならない。 〔国際-注意〕 国際競技会定義 1.2、1.3、1.5~1.7 及び 1.10 の競技会における競歩審判員は、WA レベルまたはエリア陸連レベルの国際競歩審判員が務める。	ワールドランニングコンペティション定義 1. (a)(b)に該当する競技会に任命される競歩審判員は WA ゴールドレベルの競歩審判員でなければならない。 〔国際-注意〕 ワールドランニングコンペティション定義 1. (c)(d)と 2. (a)(b)(c)(d)に該当する競技会における競歩審判員は、WA ゴールド、シルバー、ブロンズレベルの競歩審判員が務める。
CR10	全ての国際競技会では、全部あるいは部分的に競技場外で実施する道路競走種目のコースを確認するために、1人の国際道路コース計測員を任命しなければならない。	全てのワールドランニングコンペティションでは、全部あるいは部分的に競技場外で実施する道路競走種目のコースがワールドランニングコンペティションの要件に従って計測と認証がされていることを保証するために、1人の国際道路コース計測員を任命しなければならない。
CR11	CR 11. 国際スターターと国際写真判定員 国際競技会定義 1.1、1.2、1.3 及び 1.6 の競技会に該当し、競技場内で行われる競技会ではカウンシル、エリア陸連または競技会統括団体が国際スターターと国際写真判定員を任命する。 国際スターターは技術代表によって割り当てられたレースをスタートさせるとともに、スタート・インフォメーション・システムの操作やチェックを行うことを監督する。国際写真判定員は写真判定員主任となり写真判定業務を監督する。 国際スターターと国際写真審判員に関する情報は	CR 11. WA スターターと WA 写真判定員 ワールドランニングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当し、競技場内で行われる競技会ではカウンシル、エリア陸連または競技会統括団体が WA スターターと WA 写真判定員を任命する。 国際スターターは技術代表によって割り当てられたレースをスタートさせるとともに、スタート・インフォメーション・システムの操作やチェックを行うことを監督する。WA 写真判定員は写真判定員主任となり写真判定業務を監督する。

	<p>WA のウェブサイトから入手可能な <u>The Starting Guidelines and Photo Finish Guidelines</u> により提供される。</p> <p>国際写真判定員は、ITO が任命され審判長を務める競技会において写真判定員主任を務める一方で、国際スターター (IS) と他のスタートチームメンバーとの間の責任は明確に区分されていることに留意しなくてはならない。IS は、自身が割り当てられたレースをスタートさせる時には…</p>	<p>国際スターターと国際写真審判員に関する情報は WA のウェブサイトから入手可能な <u>The Starting Guidelines and Photo Finish Guidelines</u> により提供される。</p> <p>WA 写真判定員は、WA レフェリーが任命され審判長を務める競技会において写真判定員主任を務める一方で、WA スターターと他のスタートチームメンバーとの間の責任は明確に区分されていることに留意しなくてはならない。WA スターターは、自身が割り当てられたレースをスタートさせる時には…</p>
CR12	<p>国際競技会定義 1.1、1.2、1.3 及び 1.6 の競技会では、通常 3 人か 5 人、または 7 人からなるジュリーを任命する。このうち 1 人を主任とし、もう 1 人を秘書とする。必要であれば秘書はジュリーとは別の人物でもよい。</p> <p>…</p> <p>TR54 の規定により上訴があった場合、ジュリーのうち少なくとも 1 人は WA レベルまたはエリアレベルの国際競歩審判員でなければならない。</p> <p>…</p>	<p><u>ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c) と 2. (a)(b) に該当する</u> 競技会では、通常 3 人か 5 人、または 7 人からなるジュリーを任命する。このうち 1 人を主任とし、もう 1 人を秘書とする。必要であれば秘書はジュリーとは別の人物でもよい。</p> <p>…</p> <p>TR54 の規定により上訴があった場合、ジュリーのうち少なくとも 1 人は、WA ゴールド、シルバー、ブロンズのいずれかのレベルの競歩審判員でなければならない。</p> <p>…</p>
CR13	<p>競技会の主催者および加盟団体は、競技会が開催される加盟団体の規則に従い、すべての競技役員を任命する。国際競技会定義 1.1、1.2、1.3 及び 1.6 の競技会の場合、WA が定める規則および競技会が開催される加盟団体が定める規則および手順に従い、すべての役員を任命する。</p> <p>WA 規則に記載している競技役員リストは、主要国際競技会に必要と考えられる役員構成であり、主催者は地域の状況に応じてこれを変更してもよい。</p>	<p>競技会の主催者および加盟団体は、競技会が開催される加盟団体の規則に従い、すべての競技役員を任命する。<u>ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c) と 2. (a)(b) に該当する</u> 競技会では、WA が定める規則および競技会が開催される加盟団体が定める規則および手順に従い、すべての役員を任命する。</p> <p>WA 規則に記載している競技役員リストは、競技会を適切に実施するのに重要と考えられる役員構成である。但し、主催者は地域の状況に応じてこれを変更してもよい。</p>
CR5.1.10	◇場外競技審判長	【削除】
CR13.2 グリーン	<p><安全に関する注意> 陸上競技の審判長および競技役員には多くの重要な役割があるが、全ての関係者の安全確保が何より重要な任務である。</p>	<p><安全に関する注意> 陸上競技会の競技役員には多くの重要な役割があるが、全ての関係者の安全確保が何より重要な任務である。</p>
CR14	<p>競技会ディレクターは技術代表と協力して競技運営面の組織を立案し、責任範囲の中で技術代表とともにその計画を完遂し、競技運営上の問題を解決しなければならない。</p> <p>競技会ディレクターは競技会参加者の相互の影響状況を監督し、情報伝達システムを通して全主要役員に指示する。</p>	<p><u>競技会ディレクターは、技術代表およびその他の関係する代表とともに、以下の業務を行わなければならない。</u></p>
CR14.1		イベントプレゼンテーションと表彰式も含めた、競技会の技術的な運営を計画する。
CR14.2		立案した計画が競技前および競技中に確実に実行されるようにする。
CR14.3		技術的な問題が解決されるか、代替する解決策が取り入れることを確認する。
CR14.4		競技会参加者の相互の影響状況を監督し、各種指示を行う。
CR14.5		情報伝達システムを通して、競技会映像の配信や放送に関係する全ての主要関係者およびその他の関係者と連絡を取り合う。

CR14.6		<u>CR17を確実に順守するために、イベントプレゼンテーションマネージャーと十分な連携を図る。</u>
CR14.7		<u>CR29.1.1.に従い、招集所のスケジュールを正確に作成し、公開する。</u>
CR14.8		<u>CR22.1.3の効率的な運用を確保するために、スタートコーディネーターと連絡を取る。</u>
CR14.9		<u>競技会に適用される規則と、導入される技術およびITシステムの機能を十分に理解する。</u>
CR14.10		<u>TR7.5に関して生じるあらゆる問題を管轄する。</u>
CR14 グリーン		競技会中、効率的な運営を確保するために、競技会ディレクターはイベントプレゼンテーション・マネージャーの近くで、技術的なサポートが受けられ、モニター画面が十分かつ信頼して見ることができる状態で、競技会全体を視覚的に把握できる場所に位置する。
CR16 グリーン	… 競技会ディレクター、または国際競技会では技術代表が、競技中に使用する投てき物を承認したなら、技術総務はさまざまな物品を準備し、注文し、受け取らなくてはならない。…	… 競技会ディレクターまたは技術代表が、競技中に使用する投てき物を承認したなら、技術総務はさまざまな物品を準備し、注文し、受け取らなくてはならない。…
CR17	… 国際競技会定義 1.1 に該当する競技会では英語、フランス語のアナウンサーがカウンシルによって任命される。	… ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b) に該当する競技会では英語、フランス語のアナウンサーがカウンシルによって任命される。
CR18.1	招集所、トラック競技、フィールド競技、混成競技、場外競技（競走、競歩）およびビデオ監察には必要に応じて1人以上の審判長を任命する。	招集所、トラック競技、フィールド競技、混成競技、 競歩競技 およびビデオ監察には必要に応じて1人以上の審判長を任命する。
CR 18.3	… スタート審判長（スタート審判長が任命されていなければトラック競技審判長または競歩競技審判長）は、…明らかな不正スタートの場合には、その権限は及ばない。 …	… スタート審判長（スタート審判長が任命されていなければトラック競技審判長または競歩競技審判長）は、…明らかな不正スタートの場合には、その権限は及ばない。 TR8.4.1も参照のこと。 …
CR18.4	… 各種目が終了したら、記録用紙に当該審判長による署名または承認を行った後、記録・情報処理員に引き継ぎ、成績表として直ちに完成させなければならない。	… 各種目の 予選・決勝等の各ラウンド が終了したら、記録用紙に当該審判長 または写真判定主任 による署名または承認を行った後、記録・情報処理員に引継ぎ、成績表として直ちに完成させなければならない。
CR18.5	【TR7へ移動】 <u>審判長は競技者にあるまじき行為、下品な行為をした競技者やリレー・チーム、TR6、16.5、17.14、17.15.4、25.5、25.19、54.7.6、54.10.8、55.8.8に違反があった競技者やリレー・チームに警告を与えたり、当該競技会から除外したりする権限を持つ。警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことによって競技者に知らせる。警告や除外の事実は記録用紙に記入する。審判長が警告および除外処分を行った場合は、そのことを記録・情報処理員および他の審判長に知らせなくてはならない。</u> <u>招集所審判長はウォーミングアップ場から競技場所に至るまで、競技規則を適用する権限を有す</u>	審判長は TR7.1 に基づき、競技者やリレー・チームに対して警告を与えたり、当該競技会から除外したりする権限を持つ。

る。そのほかの場合も含め、審判長は競技中だけでなく、競技を終えた後にも担当した種目について権限を持つ。

当該審判長は競技場所やウォーミングアップエリア、招集所、コーチ席も含めた競技に関連する場所で、競技者以外の者がふさわしくない行為や不適切な行為をしたり、競技者に競技規則に違反した助力を行ったりした場合、（競技会ディレクターがいる場合は相談の上）警告を与え、除外することができる。

〔注意〕

- i. 審判長は十分な根拠のある状況では、警告なしで競技者やリレー・チームを除外する事ができる。〔参照 TR6.2 〔注意〕〕
- ii. 道路競技審判長は（例えば、TR6、54.10、55.8に係る）違反があった場合には、失格を告げる前に警告を与えなければならない。異議を申し立てられた場合はTR8を適用する。
- iii. 本条に基づき当該競技者やリレー・チームを当該競技から除外する場合には、すでにイエローカードで警告が与えられている競技者に対しては、審判長は二枚目のイエローカードを示した後、直ちにレッドカードを提示する。
- iv. 一度目の警告に気付かないでイエローカードによる警告を提示した場合、その後、二度目の警告である事実が判明した時点で、レッドカードを提示したのと同じ結果となる。審判長は直ちに当該競技者やリレー・チーム、もしくは所属チームに対して除外通知を行わなければならない。

カードが示され記録される方法に関連して、以下の通りガイドラインを示し、明確化する。

- a. イエローカードとレッドカードは、懲戒処分（その多くはCR18.5及びTR7.2を参照）だけでなく、反スポーツ精神的と見なされるに十分なほど深刻な場合は競技規則違反にも出されることがある（例：レースにおける深刻で明確な妨害）
- b. レッドカードの前に、イエローカードが出されているのが一般的であり通常想定されることであるが、特に悪質な反スポーツ的または不適切な行為の場合には、即時に（イエローなしで）レッドカードを出すことができる。この場合、競技者あるいはリレー・チームは、かかる決定を Jury に上訴する機会が与えられていることを忘れてはならない。
- c. イエローカードを出すことが現実的でなく、さらに論理的でない場合もある。例えば、TR6.2の注意は、レース中のペーシングがあったなど TR6.3.1に該当することが明確に証明されれば、即、レッドカードを出すことが特に認められる。
- d. 審判長がイエローカードを出した際に、競技者あるいはリレー・チームが不適切な態度で応答したことで、即時にレッドカードを出すことが正当である場合、前項と同様に、即、レッドカードという状況になることもある。短時間の中で不適切な振る舞いが続いた際に、それぞれに異なる事由をつける必要はない。
- e. 〔注意〕 iii により、競技者あるいはリレー・チームがその競技会中に既にイエローカードを出されており、次に出されるカードがレッドカードとなることを審判

	<p>長が認識している場合には、審判長は最初に2枚目のイエローカード、その後、レッドカードを提示する。しかし、審判長が2枚目のイエローカードを表示しない場合であっても、レッドカードの提示は無効とはならない。</p> <p>f. 審判長がすでに出されたイエローカードを認識しておらず、イエローカードのみを表示した場合は、この事実が判明した時点で、できるだけ早くその競技者を失格させるための適切な措置を講じる。通常、これは審判長が直接競技者本人に、またはチームを通して競技者に通告することによって行われる。</p> <p>g. リレー競技では当該競技会のどのラウンドであっても、一人または複数のチームメンバーが受けたカードは、チームに対して示されたものとしてカウントする。このため、もし、リレーに出場している一人の競技者がリレー競技の予選、決勝等のラウンドで2枚目のイエローカードを示されたのなら、当該リレー・チームはレッドカードを示されたことになり、失格となる。リレー競技で示されたカードはリレー・チームに対してのみ効力があり、個別競技者単位としては無関係で、これをカウントしない。</p>	
CR18.7	<p>…</p> <p>再競技は審判長の決定に従い、同日または別の日に行う。〔参照 TR8.4、17.2〕</p>	<p>…</p> <p>再競技は審判長の決定に従い、同日または別の日に行う。〔参照 TR8.4、17.1〕</p>
CR19.3	トラック競技と道路競技	競走競技と競歩競技
CR20 グリーン	<p>…</p> <p>TR8.4.4（途中棄権でも違反行為があった場合の報告義務）が追加となったのは、世界各地での対応に明確な違いがあるため、監察員が取るべき行動を標準化し、CR20.4〔注意〕iiを補完することを目的としている。全体に共通する標準的対応では、競技者またはリレー・チームが途中棄権した場合、ハードル競走で規則に違反したもののフィニッシュラインに到達しないケースを含め、通常はDQ（失格）ではなくDNF（途中棄権）と表示される。TR8.4.4は、このような際に競技者やチームが抗議を行う可能性に対応するために設けられている。以上の背景からTR8.4.4が追加された。</p>	<p>…</p> <p>TR8.4.4（途中棄権でも違反行為があった場合の報告義務）が追加となったのは、世界各地での対応に明確な違いがあるため、監察員が取るべき行動を標準化し、CR20〔注意〕iiを補完することを目的としている。全体に共通する標準的対応では、競技者またはリレー・チームが途中棄権した場合や、ハードル競走で規則に違反して明らかにレースを中止しながらも、結局はフィニッシュラインに到達した場合を含め、通常はDQ（失格）ではなくDNF（途中棄権）と表示される。TR8.4.4は、このような際に競技者やチームが抗議を行う可能性に対応するために設けられている。</p>
CR22.7	TR16.7—16.8、39.8.3に規定されている警告や失格の決定についてはスターターのみが行うことができる。	TR16.8、39.8.3に規定されている警告や失格の決定についてはスターターのみが行うことができる。
CR22.1.1	スタートチームのメンバーにそれぞれの任務を割り当てる。但し、国際競技会定義1.1とエリアの選手権大会・エリア競技会において、どの種目を国際スターターが撃つかの割り当ての決定は技術代表の責務である。	スタートチームのメンバーにそれぞれの任務を割り当てる。但し、 ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c) と 2. (a)(b)(c) に該当する競技会では、どの種目を WA スターターが撃つかの割り当てを技術代表が決める。
CR25.3	国際競技会定義1.1の競技会を除く競技会で、以下の競技者に同時参加を認めた場合、その結果は別に取扱い、障がいクラス分けも明示されなければならない。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b) を除く競技会では、以下の競技者に同時参加を認めた場合、その結果は別に取扱い、障がいクラス分けも明示されなければならない。
CR25.4	<p>…</p> <p>途中棄権（トラック競技、競歩競技） DNF</p> <p>…</p> <p>ジュリーの決定による通過者 qJ</p> <p>ベント・ニー（競歩） ></p> <p>…</p> <p>レーン侵害（TR17.4.3、TR17.4.4）</p>	<p>…</p> <p>途中棄権（トラック競技、競歩競技、混成競技) DNF</p> <p>…</p> <p>ジュリーの決定による通過者 qJ</p> <p>抽選による次ラウンドへの進出 qD</p> <p>ベント・ニー（競歩） ></p> <p>…</p> <p>レーン侵害（TR17.3.3、TR17.3.4） L</p> <p>抗議中の競技 P</p>

<p>CR25.5</p> <p>グリーン</p>	<p>国際競技会定義1.1、1.2、1.3、1.6、1.7の競技会では、テクニカルインフォメーションセンター（T I C）を設置する。またそれ以外の競技会でも開催期間が1日を超える場合はT I Cを設置することが望ましい。</p> <p>T I Cは各チーム代表、主催者、技術代表および競技会運営機関の間で、競技会の技術面等に関する事項について円滑なコミュニケーションを図ることを主要業務とする。</p> <p>…</p> <p>TIC 及び SID の開設時間は長くなる可能性があるため、TIC マネージャーには複数の補佐役が必要であり、シフト制で任務につく必要がある。</p> <p>TIC のいくつかの任務は競技規則…</p>	<p>ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)(c)に該当する競技会では、テクニカルインフォメーションセンター（T I C）を設置する。またそれ以外の競技会でも開催期間が1日を超える場合はT I Cを設置することを推奨する。TIC はバーチャルに運営するか（Web方式）、実際に設置して運営するか、その両方を組合せて運営することができる。</p> <p>T I Cは各チーム代表、主催者、技術代表および競技会運営機関の間で、競技会の技術面等に関する事項について円滑なコミュニケーションを図ることを主要業務とする。</p> <p>〔国内〕 主催者が設備や関係者間の連絡体制を整えられるのであれば、Web方式の TIC を設置してもよい。</p> <p>…</p> <p>TIC 及び SID の開設時間は長くなる可能性があるため、TIC マネージャーには複数の補佐役が必要であり、シフト制で任務につく必要がある。</p> <p>バーチャル TIC を完全または部分的に運営させる場合、より簡単に稼働時間の延長はできるが、バーチャル TIC の運営状況を監視する時間を明確にすることが重要である。</p> <p>TIC のいくつかの任務は競技規則…</p>
<p>CR31.2.3</p>	<p>室内世界記録</p>	<p>【削除】</p>
<p>CR31.2.4</p>	<p>U20室内世界記録</p>	<p>【削除】</p>
<p>CR31.3.3</p>	<p>CR31.2.2または31.2.4に基づいて提出される記録の場合は、該当する競技者の生年月日が事前に WA 事務総長によって確認されている場合を除き、…</p>	<p>CR31.2.2を対象として提出される記録の場合は、該当する競技者の生年月日が事前に WA 事務総長によって確認されている場合を除き、…</p>
<p>CR31.8</p>	<p>記録は、予選または準決勝、走高跳・棒高跳における同成績を解決するための追加試技、CR18.7または TR8.4.2、17.2、25.20、54.7.3により結果的に無効とされた競技もしくはその一部であっても…</p>	<p>記録は、予選または準決勝、走高跳・棒高跳における同成績を解決するための追加試技、CR18.7または TR8.4.2、17.1、25.20、54.7.3により結果的に無効とされた競技もしくはその一部であっても…</p>
<p>CR31.10.3</p>	<p>新たな世界記録が承認されるたびに世界記録認定リストを更新する。このリストに記載された記録は、リスト公表日以降、WA によって CR32、33、34、35に記載される各承認種目で競技者またはチームが達成し、承認された最も優れた記録とみなされる。</p>	<p>新たな世界記録が承認されるたびに世界記録認定リストを更新する。このリストに記載された記録は、リスト公表日以降、WA によって CR32に記載されている各承認種目で、競技者またはチームが達成し、承認された最も優れた記録とみなされる。</p>
<p>CR31.12</p>	<p>道路競技を除いて</p>	<p>400mトラックでの世界記録</p>
<p>CR31.12.1</p>	<p>記録は WA に承認された競技施設または TR2、もしくは該当する場合は TR11.2に適合する競技場所で達成されたものでなければならない。</p>	<p>記録は WA に承認された競技施設または TR2、もしくは該当する場合は TR11.2または11.3に適合する競技場所で達成されたものでなければならない。</p>
<p>CR31.12.4</p>	<p>屋外で行われるトラック種目は、TR14に適合するトラックで行われた場合のみが認められる。</p>	<p>400mトラックで行われる種目は、TR14に適合するトラックで行われた場合のみが認められる。</p>
<p>CR31.13</p>	<p>室内世界記録</p>	<p>200mトラック（ショート・トラック）での世界記録</p>
<p>CR31.14.3</p>	<p>200m以内の屋外で達成された記録は、TR17.8～17.13に示される方法で測定された風速の報告が必要である。平均秒速2mを超える風が走る方向へ吹いていたと測定された場合、記録は公認されない。</p>	<p>屋外で達成された200m以下の記録は TR17.8～17.13に示される方法で測定された風速の報告が必要である。ただし200mトラックにおける200mの記録（200m sh）は除く。平均秒速2mを超える風が走る方向へ吹いていたと測定された場合、記録は公認されない。</p>
<p>CR31.14.4</p>	<p>TR17.4.3と TR17.4.4が適用される場合で当該種目での1回目の違反でない限り、TR17.3に違反したらその記録は認められない。混成競技の個々の</p>	<p>以下の場合を除き、TR17.3に違反したらその記録は認められない。 (a) TR17.3.1、17.3.2に該当する場合。</p>

	種目については TR39.8.3で認められている不正スタート（1回目の不正スタートの後の2回目以降のスタート）での記録は、世界記録としては公認されない。	(b) TR17.3.3と TR17.3.4が適用される場合で、当該種目での1回目の違反である場合。 あるいは、混成競技の個々の種目について TR39.8.3で認められている不正スタート（1回目の不正スタートの後の2回目以降のスタート）の場合。
CR31.14.5	CR32と CR34の対象となる400m（4×200mリレーおよび4×400mリレーを含む）までの全てのレースの世界記録の公認は、TR15.2に準拠した WA 承認のスタート・インフォメーション・システムに連結したスターティング・ブロックを使用し、…ものでなければならない。	CR32の対象となる400m（4×200mリレーおよび4×400mリレーを含む）までの全てのレースの世界記録の公認は、TR15.3に準拠した WA 承認のスタート・インフォメーション・システムに連結したスターティング・ブロックを使用し、…ものでなければならない。 【注意】 当該規則は U20世界記録には適用しない。
CR31.14 グリーン	TR17.4の改正は、競技者またはリレー・チームが記録を達成した際、そのレースで競技者（またはリレーの各走者）が TR17.4.3と TR17.4.4に定められている規則に1回だけ違反した場合、あるいは当該種目の複数行われるラウンドの中で最初の違反であった場合には、その記録を認めるというものである。…	TR17.3の改正は、競技者またはリレー・チームが記録を達成した際、そのレースで競技者（またはリレーの各走者）が TR17.3.3と TR17.3.4に定められている規則に1回だけ違反した場合、あるいは当該種目の複数行われるラウンドの中で最初の違反であった場合には、その記録を認めるというものである。…
CR31.15.2	(例：1時間走と20,000m 参照：TR18.3)	(例：1時間走と10,000m 参照：TR18.3)
CR31.19	競歩競技の世界記録 少なくとも3人の WA レベルもしくはエリアレベルの国際競歩審判員が審判を務め、世界記録認定申請書に署名しなければならない。	競歩競技の世界記録 少なくとも3人の WA ゴールド、シルバー、ブロンズレベルの競歩審判員が審判を務め、世界記録認定申請書に署名しなければならない。
CR32	CR.32 世界記録として公認される種目	CR.32 世界記録と U20世界記録として公認される種目
CR32 本文～ CR35 CR32	本文：削除	【表：世界記録として認められる種目一覧】 (別添)
	全自動写真判定 F.A.T. 手動計時 H.T. トランスポンダー計時 T.T. 【注意】 i 競歩競技を除く女子の道路競走については、WA は男女混合レース（男女混合）で達成された世界記録と女子レース（女子単独）で達成された世界記録という二つの世界記録を公認するものとする。 女子の競歩競技については、男女混合レース（男女混合）または女子レース（女子単独）のどちらかで達成された一つの世界記録を公認するものとする。 道路競走の1マイルについては、単一の性別者のみが出場したレースの記録を世界記録として公認する。 ii 女子単独の道路競走は、男女異なるスタート時間を設けることで実施できる。その際、特にコースが同じ箇所を複数回通過するように設定されている場合は、助力、ペース調整、妨害の可能性を防ぐべく適切な時間差が設定されるべきである。	sh=ショート・トラック（200mトラック） 【注釈】 ショート・トラック（200mトラック）とは、1周200mまでのトラックを示す。 写：全自動写真判定 F.A.T. 手：手同計時 H.T. ト：トランスポンダー計時 T.T. 【注意】 i 競歩競技と道路競走の1マイル（1マイル（R））を除く女子の道路競走については、WA は男女混合レース（男女混合）で達成された世界記録と女子レース（女子単独）で達成された世界記録の二つの世界記録を公認するものとする。 女子の競歩競技については、男女混合レース（男女混合）または女子レース（女子単）のどちらかで達成された一つの世界記録を公認するものとする。 道路競走の1マイルについては、単一の性別者のみが出場したレースの記録を世界記録として公認する。 ii 女子単独の道路競走は、男女異なるスタート時間を設けることで実施できる。その際、特にコースが同じ箇所を複数回通過するように設定されている場合は、助力、ペース調整、妨害の可能性を防ぐべく適切な時間差が設定されるべきである。

	<p>写真判定装置による0.01秒単位の記録、またはトランスポンダーシステムによる0.1秒単位の記録が認められる。</p> <p>35km, 35,000m 競歩：記録の初回認定は2023年1月1日とし、男子は2時間22分00秒以内、女子は2時間38分00秒以内の記録を対象とする。男子の30,000mの記録は、35,000mの初回認定記録が掲載された段階で削除する。</p> <p>50,000m 競歩：記録の初回認定は2019年1月1日以降とし、4時間20分00秒以内の記録を対象とする。</p> <p>道路競走1マイル：記録の初回認定は2023年9月1日とし、男子3分50秒以内、女子4分19秒以内の記録を対象とする。その時点で上記記録が達成されていなかった場合、その時点でのベストタイムが世界記録となる。</p> <p>50km：記録の初回認定は2022年1月1日とし、CR31に適合した記録とする。男子は2時間43分38秒以内、女子単独レースは3時間07分20秒以内、女子男女混合レースは2時間59分54秒以内の記録を対象とする。</p>	<p>iii 道路競走の1マイルについては、写真判定装置による0.01秒単位の記録、または手動計時かトランスポンダーシステムによる0.1秒単位の記録が認められる。</p> <p>U20女子十種競技：7300点を超える場合のみ公認</p> <p>35,000m 競歩：記録の初回認定は2023年1月1日とし、男子は2時間22分00秒以内、女子は2時間38分00秒以内の記録を対象とする。男子の30,000m競歩の記録は、35,000m競歩の初回認定記録が掲載された段階で削除する。</p> <p>35km 競歩：記録の初回認定は2023年1月1日とし、男子は2時間22分00秒以内の記録を対象とする。</p> <p>50,000m 競歩：記録の初回認定は2019年1月1日以降とし、4時間20分00秒以内の記録を対象とする。</p>
CR33	<p>CR.36 その他の記録 36.1 36.2</p>	<p>CR.33 その他の記録 33.1 33.2</p>
CR34	<p>CR.37 日本記録と公認記録 37.1 : 37.9</p>	<p>CR.34 日本記録と公認記録 34.1 : 34.9</p>
CR37.10 ～ CR37.15	<p>本文：削除</p>	<p>34.10 日本記録・公認記録となる種目 【表：日本記録・公認記録として認められる種目一覧】 (別添)</p>
CR34.1	<p>37.1 …。 日本記録は (a)日本記録 (b)U20 日本記録 (c)U18 日本記録 (d)室内日本記録 (e)U20 室内日本記録 (f)U18 室内日本記録 とする。 このうち、(a)日本記録(b)U20 日本記録(c)U18 日本記録は、本条の日本記録の公認要件を満たしていなければならない。また、(d)室内日本記録(e)U20 室内日本記録(f)U18 室内日本記録は、CR31.13 室内世界記録の公認条件に準じる。〔参照 CR32～35〕</p>	<p>… 日本記録は (a)日本記録 (b)U20 日本記録 (c)U18 日本記録 (d)日本記録 (sh) (e)U20 日本記録 (sh) (f)U18 日本記録 (sh) とする。 このうち、(a)日本記録、(b)U20 日本記録、(c)U18 日本記録は、本条の日本記録の公認要件を満たしていなければならない。また、(d)日本記録 (sh)、(e)U20 日本記録 (sh)、(f)U18 日本記録 (sh) は、CR31.13 ショート・トラック 世界記録の公認条件に準じる。〔参照 CR32〕</p>

CR34.5	37.5 記録公認の競技場および競技会の条件は、CR31 世界記録の 31.14.1～4、31.15、31.16、31.17、31.18、31.21.2～3、31.21.6～7 を適用する。	記録公認の競技場および競技会の条件は、CR31 世界記録の 31.12.2 、31.14.1～4、31.15、31.16、31.17、31.18、31.21.2～3、31.21.6～7を適用する。
CR34.10	37.10 日本記録として公認される記録	<p>日本記録と公認記録として認められる種目</p> <p>[注意]</p> <p>i 1マイル=1,609.344m</p> <p>ii 道路競技の1マイル (1マイル (R)) : 初回認定は2023年12月31日とする。 写真判定装置による0.01秒単位の記録、または手動計時およびトランスポンダーシステムによる0.1秒単位の記録が認められる。</p> <p>iii 競歩競技と道路競技の1マイルを除く女子道路競走について、男女混合レースで樹立された日本記録と女子単独レース (男女別時間差スタートを含む) で樹立された日本記録に分けて二つの日本記録を公認する。</p> <p>iv 女子の競歩競技については、男女混合レース (男女混合) または女子レース (女子単独) のどちらかで達成された一つの日本記録を公認するものとする。</p> <p>v 道路競走の1マイルについては、単一の性別者のみが出場したレースの記録を日本記録として公認する。</p>
CR35	CR.38 アナウンサー	CR.35 アナウンサー
CR36	CR.39 公式計測員	CR.36 公式計測員

【競技規則 (TR)】

条文番号	修正前	修正
TR1	… あらゆる競技会は WA 競技規則による方式によらないで競技を実施することができる。但し、競技者に WA 競技規則によるよりも多くの権利を与えるような規則は適用できない。…	… いかなる競技会も WA が定める WA 競技会規則 (CR)、競技規則 (TR) を適用せずに 競技を実施することができる。但し、競技者に WA 競技規則によるよりも多くの権利を与えるような規則は適用できない。…
TR2	… 国際競技会定義 1.1 に該当する屋外競技会は、WA クラス 1 の認証を保持している施設のみで行われる。また、そのような施設が使えるのならば国際競技会定義 1.2～1.10 に該当するいかなる屋外競技会も、こうした施設で行うことが望ましい。いずれの場合も国際競技会定義 1.2～1.10 に該当する屋外競技会で使用しようとする競技施設は、WA クラス 2 の認証が必要である。…	… ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b) に該当する 400m トラックで行う 競技会は、WA クラス 1 の認証を保持している施設のみで行われる。また、そのような施設が使えるのならば ワールドランキングコンペティション定義 1. (c)(d)(e) と 2. に該当する 400m トラックで行う 競技会も、こうした施設で行うことが望ましい。… いずれの場合も ワールドランキングコンペティション定義 1. (c) と 2. (a)(b)(c) に該当する 400m トラックで行う 競技会の競技施設は、WA クラス 2 の認証が必要である。… ワールドランキングコンペティション定義 1. (d)(e) と 2. (d)(e) および 3. に該当するすべての競技会も、認証施設や少なくとも随時修正される規程と規則に必ず合致した施設で開催することを推奨する。適用される規則またはワールドランキングコンペティションのカテゴリーで必要な場合、施設は認証を受けなければならない。 …
TR2	〔注意〕 iv 室内陸上競技施設については TR41 を参照すること。	〔注意〕 iv 200m トラック (ショート・トラック) 競技施設 については TR41 を参照すること。
TR3.6	〔注意〕 TR3 の規定に違反した場合の制裁措置については、資格に関する規程 (Eligibility Rules) を参照すること。	〔注意〕 TR3.6 の規定に違反した場合の制裁措置については、 必要に応じてトランスジェンダー・アスリートの資格に関する規定または女性の分類に関する資格規定 (Regulations for Transgender Athletes or Eligibility Regulations for the Female Classification) を参照すること。
TR4.1	本連盟の規則によって行われる競技会では、参加申し込みは有資格競技者に限られる。〔 参照 本連盟の規約のもとで競技する競技者の資格に関する規程〕	本連盟の規則によって行われる競技会では、参加申し込みは有資格競技者に限られる。
TR4.2	外国人が日本の競技会に出場する場合は、競技者の自国・地域の加盟団体の参加資格を持ち、同加盟団体の参加承認がなければ出場することは許されない。海外で競技を行う競技者の参加資格は、「国際競技会で競技するための要件 (Requirements to Compete in International Competitions Rules)」に記載されている通りである。技術代表に対し反対の申し出がない限りは、当該資格は受け入れられる (TR8.1 参照)。	外国人が 自国外の競技会に出場する資格は、参加資格規則 (Eligibility Rules) 第 5 条 「国際競技会で競技するための要件 (Requirements to Compete in International Competitions Rules)」に定められている通りである。こうした資格は、技術代表に対し反対の申し出がない限りは、当該資格は受け入れられる (TR8.1 参照)。 〔国内〕 外国人が日本の競技会に出場する場合は、競技者の自国・地域の加盟団体の参加資格を持ち、同加盟団体の参加承認がなければ出場することは認められない。
TR4.3	競技者が同時に、トラック競技とフィールド競技あるいは……競技会に先立って決めた順序によらないで、試技を行うことを許可することができる	競技者が同時に、トラック競技とフィールド競技あるいは……競技会に先立って決めた スタートリスト記載の順序によらないで、あるいは

	る。 もし、その後の試技を行うべき順序の際に競技者が不在の場合は、その試技時間が過ぎればパス扱いとする。	TR25.6.1 に従って決定される順序 によらないで、試技を行うことを 認める ことができる。 もし、その後の試技を行うべき順序の際に競技者が不在の場合は、その試技時間が過ぎればパス扱いとする。 このことは審判長が許可した特定のラウンドや試技のみでありうるが、競技者がその後のラウンドや試技を行わなければ、競技順序は再びスタートリスト記載の、あるいはTR25.6.1に従って決定される順序によって行われ、試技を行うべき順序の際に競技者が不在の場合は、その試技時間が過ぎれば無効試技とする。
TR4.3	〔国内〕 走高跳および棒高跳においては、事前に申告すれば無効試技扱いとすることができる。	〔国内〕 走高跳および棒高跳においては、事前に申告すれば無効試技扱いとすることができる。 但し、ワールドランキングコンペティションでは、パス扱いとしなければならない。
TR4.3 グリーン	… 競技者が最終ラウンドの場におらず、それ以前にパスすることを表明していない場合、その競技者の試技に許される制限時間がカウントダウンされ、時間が経過する前に戻らなければパスとして記録される。	… 競技者が最終ラウンドの場におらず、それ以前にパスすることを表明していない場合、その競技者の試技に許される制限時間がカウントダウンされ、時間が経過する前に戻らなければ 無効試技 として記録される
TR4.3 グリーン	【TR26.2 へ移動】 <u>TR4.3と26.2において、高さを競う跳躍ではある高さを1回目または2回目の試技でクリアした場合には、同じ高さの2回目または3回目を跳躍することはできないとしているが、子供や学校の大会のように競技者のレベルが高くない場合には、同じ高さの2回目または3回目の試技を選択できるように規則を変更してもよい。</u>	
TR4.4	参加の拒否 …〔国際〕国際競技会定義 1.1~1.3、1.6に該当する全ての競技会において、次の競技者はリレーも含む当該競技会で実施される全種目（当該競技者が同時にエントリーし参加している他の種目も含む）に以後参加することが認められない。…	参加の拒否 …〔国際〕 ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c) と 2. (a)(b)に該当する競技会 において、次の競技者はリレーも含む当該競技会で実施される全種目（当該競技者が同時にエントリーし参加している他の種目も含む）に以後参加することは認められない。… 〔国内〕 主催者は当該規則を適用することができる。
TR4.4.1	その種目に出場するという最終確認がなされていたにもかかわらず、出場しなかった競技者。… …〔国際〕注意〕… 出場者を最終確認時間は、あらかじめ発表されなければならない。…	その種目に出場するという最終確認がなされていたにもかかわらず、出場しなかった競技者。… …〔国際〕注意〕… 出場者を最終確認時間は、あらかじめ発表されなければならない。…
TR4.4.2	その種目における以後の出場者を決める予選や準決勝等において資格を得たにもかかわらず、その後の競技をしなかった競技者。…	その種目における以後の出場者を決める予選や準決勝等において資格を得たにもかかわらず、その後の競技をしなかった競技者。… 〔国際〕注意〕 適用する規則により敗者復活戦が行われる場合、当該競技者がその敗者復活戦に出場できなかったとしても、この規則の違反にはならない。…
TR4.4.3	誠実に全力を尽くして競技しなかった競技者。その判断は審判長が行い、公式記録で本件の記載がなされなければならない。… …〔国際〕注意〕… TR4.4.3で想定される状況は、混成競技の個々の種目には適用されない。…	誠実に全力を尽くして競技しなかった競技者。その判断は審判長が行い、公式記録で本件の記載がなされなければならない。… …〔国際〕注意〕… TR4.4.3で想定される状況は、混成競技の個々の種目には適用されない。…

TR4.4 グリーン	… 審判長がそのような決定を下す過程、またはそれに起因する抗議を考慮したジュリーの検討の過程において、競技者や競技者に代わってチームから示された棄権や出場しなかった理由が考慮され得る。	… 技術代表がそのような決定を下す過程、またはそれに起因する上訴を考慮したジュリーの検討の過程において、競技者や競技者に代わってチームから示された棄権や出場しなかった理由が考慮され得る。
TR5.1	…〔国際〕… 国際競技会定義 1.1～1.3、1.6、1.7に該当する競技会と国際競技会定義 1.4、1.8 において加盟団体を代表する場合は、競技者はその加盟団体によって定められたユニフォームを着て参加しなければならない。…	…〔国際〕… <u>ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c) と 2. (a)(b)(c)に該当する競技会と、ワールドランキングコンペティション定義 1. (e) と 2. (e)に該当する競技会において加盟団体を代表する場合は、競技者はその加盟団体によって定められたユニフォームを着て参加しなければならない。…</u>
TR5.2 グリーン		競技用靴に関する規程 (the Athletic Shoe Regulations) も参照のこと。
TR6.2	競技中、競技区域内で、助力を与えたり受けたりしている競技者は (TR17.14、17.15、54.10、55.8 の場合を含む)、審判長によって警告され…	競技中、競技区域内で、助力を与えたり受けたりしている競技者は (TR17.14、 17.15.4、54.10.8、55.8.8 の場合を含む)、審判長によって警告され…
TR6.3.4 グリーン		機械的補助用具規程 (the Mechanical Aid Regulations) も参照のこと。
TR6.4.5	フィールド種目に出場している競技者が、当該競技者に代わり競技区域 (TR6.1 [注意] 参照) の外にいる者によって録画されたそれ以前の試技の映像を見ること。その録画再生機器や録画映像を競技区域内に持ち込むことは認められない。	フィールド種目に出場している競技者が、当該競技者に代わり競技区域 (TR6.1 [注意] 参照) の外にいる者によって録画されたそれ以前の試技の映像を見ること。その録画再生機器や録画映像は録画映像を提供する者のすぐ近くの位置であれば、競技区域内に持ち込むことが認められる。画像をより詳しく見るために、競技者は画像を撮影した人とコミュニケーションをとりながら録画再生機器を手にしても良い。
TR7	TR 7. 失格	TR 7. 警告および失格
TR7.1	【TR7.2 へ移動】 <u>競技規則違反による失格の取扱い</u> <u>(CR18.5、TR16.5の非適用時)</u> <u>競技者が競技規則 (CR18.5、TR16.5の適用を除き) に違反をして失格させられれば、その種目の同じラウンドで達成した記録は無効とする。しかし、その前のラウンドまでの記録は有効とする。</u>	【CR18 から移動・記述内容の一部変更】 <u>誠実に力を尽くしての参加、反スポーツマンシップ行為及び不適切な行為</u> <u>競技者およびリレー・チームは、誠実に力を尽くして陸上競技会に参加しなければならず、反スポーツマンシップ行為や不適切な行為を行ってはならない。当該規則に従わない競技者およびリレー・チームは、警告を受けるか失格となる場合がある。</u> <u>審判長は、当該規則または CR6.1 [注意] ii iii iv、TR6、16.5、17.14、17.15.4、25.5、25.19、54.7.6、54.10.8、55.8.8に違反があった競技者やリレー・チームに警告を与えたり、当該競技会から除外したりする権限を持つ。警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことによって競技者に知らせる。警告や除外の事実は記録用紙に記入する。審判長が警告および除外処分を行った場合は、そのことを記録・情報処理員および他の審判長に知らせなくてはならない。</u> <u>招集所審判長はウォーミングアップ場から競技場所に至るまで、競技規則を適用する権限を有する。そのほかの場合も含め、審判長は競技中だけでなく、競技を終えた後にも担当した種目について権限を持つ。</u>

グリーン		<p>当該審判長は競技場所やウォーミングアップエリア、招集所、コーチ席も含めた競技に関連する場所で、競技者以外の者がふさわしくない行為や不適切な行為をしたり、競技者に競技規則に違反した助力を行ったりした場合、（競技会ディレクターがいる場合は相談の上）警告を与え、除外することができる。</p> <p>〔注意〕</p> <ul style="list-style-type: none"> i 審判長は十分な根拠のある状況では、警告なしで競技者やリレー・チームを除外することができる。〔参照 TR6.2〔注意〕〕 ii 競技場外で行われる競走競技と競歩競技の審判長は（例えば、TR6、54.10、55.8に係る）違反があった場合には、失格を告げる前に警告を与えなければならない。異議を申し立てられた場合はTR8を適用する。 iii 本条に基づき当該競技者やリレー・チームを当該競技から除外する場合には、すでにイエローカードで警告が与えられている競技者に対しては、審判長は二枚目のイエローカードを示した後、直ちにレッドカードを提示する。 iv 一度目の警告に気付かないでイエローカードによる警告を提示した場合、その後、二度目の警告である事実が判明した時点で、レッドカードを提示したのと同じ結果となる。審判長は直ちに当該競技者やリレー・チーム、もしくは所属チームに対して除外通知を行わなければならない。 <p>カードが示され記録される方法に関連して、以下の通りガイドラインを示し、明確化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. イエローカードとレッドカードは、懲戒処分（主に当該規則を参照）だけでなく、懲戒的と考えられる性質を持つ特定の規則違反のいずれかで与えられることができる。 b. レッドカードの前に、イエローカードが出されているのが一般的であり通常想定されることであるが、特に悪質な反スポーツ的または不適切な行為、または誠実な態度で競技に参加しなかった場合には、即時に（イエローなしで）レッドカードを出すことができる。この場合、競技者あるいはリレー・チームは、かかる決定を Jury に上訴する機会が与えられていることを忘れてはならない。 c. イエローカードを出すことが現実的でなく、さらに論理的でない場合もある。例えば、TR6.2の注意は、レース中のペースングがあったなど TR6.3.1に該当することが明確に証明されれば、即、レッドカードを出すことが特に認められる。 d. 審判長がイエローカードを出した際に、競技者あるいはリレー・チームが不適切な態度で応答したことで、即時にレッドカードを出すことが正当である場合、前項と同様に、即、レッドカードという状況になることもある。短時間の中で不適切な振る舞いが続いた際に、それぞれに異なる事由をつける必要はない。 e. 〔注意〕 iii により、競技者あるいはリレー・チームがその競技会中に既にイエローカードを出されており、次に出されるカードがレッドカードとなることを審判長が認識している場合には、審判長は最初に2
------	--	---

		<p>枚目のイエローカード、その後、レッドカードを提示する。しかし、審判長が2枚目のイエローカードを表示しない場合であっても、レッドカードの提示は無効とはならない。</p> <p>f. 審判長がすでに出されたイエローカードを認識しておらず、イエローカードのみを表示した場合は、この事実が判明した時点で、できるだけ早くその競技者を失格させるための適切な措置を講じる。通常、これは審判長が直接競技者本人に、またはチームを通して競技者に通告することによって行われる。</p> <p>g. リレー競技では当該競技会のどのラウンドであっても、一人または複数のチームメンバーが受けたカードは、チームに対して示されたものとしてカウントする。このため、もし、リレーに出場している一人の競技者がリレー競技の予選、決勝等のラウンドで2枚目のイエローカードを示されたのなら、当該リレー・チームはレッドカードを示されたことになり、失格となる。</p>
TR7.2	<p>CR18.5適用時の競技規則違反による失格の取扱い (TR16.5の適用も含む)</p> <p>【TR7.3へ移動】</p> <p>競技者が CR18.5、TR16.5 により競技会から除外となった場合は、その種目で失格となる。…</p>	<p>競技規則違反による失格の取扱い (TR7.1の非適用時)</p> <p>【TR7.1から移動】</p> <p>競技者が競技規則 (TR7.1の適用を除き) に違反をして失格させられれば、その種目の同じラウンドで達成した記録は無効とする。しかし、その前のラウンドで達成された記録や混成競技でその種目の前のまでに達成された個々の種目の記録は有効とする。記録は有効とする。</p>
TR7.3	<p>【TR7.4へ移動】</p> <p>リレー・チームが CR18.5により競技から除外処分を受けた場合、そのチームはそのリレー種目では失格としなければならない。除外処分を受ける前のラウンドまでの記録は有効とする。この失格は当該リレー種目のみに適用されるもので、個々の競技者は当該競技会の混成競技の個別種目への出場やリレー以外の個別種目への出場、リレー・チームもその後に行なわれる他のリレー種目への出場が妨げられるものではない。</p> <p>但し、個々の競技者の一つまたは複数の行動が極めて悪質だと見なされる場合は、当該競技者に CR18.5を適用し、警告を与えたり競技会から除外したりすることができる。</p>	<p>競技規則違反による失格の取扱い (TR7.1適用時)</p> <p>【TR7.2から移動】</p> <p>競技者が TR7.1により競技会から除外となった場合は、その種目で失格となる。…</p>
TR7.4	<p>【TR7.5へ移動】</p> <p>違反が重大であるとみなされた場合は、総務は不適格行為として本連盟に報告しなければならない。</p>	<p>【TR7.3から移動】</p> <p>リレー・チームが TR7.1により競技から除外処分を受けた場合、そのチームはそのリレー種目では失格としなければならない。除外処分を受ける前のラウンドまでの記録は有効とする。</p> <p>リレー・チームの失格が TR7.1による競技者個人の行為の結果である場合、TR7.3 が当該競技者に適用される。</p> <p>それ以外の場合、かかる失格は、競技者やリレー・チームがその競技会の他の種目へ出場することを妨げるものではない。</p> <p>但し、個々の競技者の一つまたは複数の行動が極めて悪質だと見なされる場合は、当該競技者に TR7.1を適用し、警告を与えたり競技会から除外したりすることができる。</p>

TR7.5		【TR7.4から移動】 違反が重大であるとみなされた場合は、総務は不適格行為として本連盟に報告しなければならない。
TR7.5 グリーン		TR7.3はリレー競技中に2回目の警告を受けた選手、または、リレー競技で当該チームの失格につながる除外を直接受けた競技者にも適用される。
TR8.3		〔国際ー注意〕 WA 写真判定員が任命されている場合、競技者の順位に関する抗議に関しては、トラック審判長と競歩競技審判長に代わって対応する必要がある。
TR8.4 TR8.4.1	トラック種目で、 〔国際〕不正スタートを告げられたことに対して直ちに口頭で抗議をした場合、スタート審判長（スタート審判長が任命されていなければトラック競技審判長）は、不正スタートであったと少しでも確信が持てない時…。 但し、スタート・インフォメーション・システムが明らかに不正確であると審判長が判断した場合はこの限りでない。	トラック種目で 〔国際〕不正スタートを告げられたことに対して直ちに 現場で抗議（競技中の抗議） をした場合、スタート審判長（スタート審判長が任命されていなければトラック競技審判長と 競歩競技審判長 ）は、不正スタートであったと少しでも確信が持てない時…。 但し、スタート・インフォメーション・システムが明らかに不正確であると審判長が判断した場合はこの限りでない。 「抗議中」として競技することを認めた場合、競技者に対して、赤白（斜め半分形）カードを示す。 〔国内〕 SIS 使用時のみ、主催者は当該規則を適用することができる。
TR8.4.2	スタートに関するレース後の抗議は、スターターが不正スタートであったにもかかわらずリコール（呼び戻し）できなかった場合、または TR16.5 の行為があったにもかかわらずスタートの中止ができなかったことを理由に行われる。その抗議はそのレースを走り終えた競技者本人、またはその競技者の代理人からのみ行うことができる。抗議が認められると、当該不正スタートまたは本来スタート中止を招くはずだった行為を行い、TR16.5、16.7、16.8、39.8.3の警告または失格の対象となった競技者は、レース後であっても警告または失格処分を受ける。…	スタートに関するレース後の抗議は、スターターが不正スタートであったにもかかわらずリコール（呼び戻し）できなかった場合、または TR16.5 の行為があったにもかかわらずスタートの中止ができなかったことを理由に行われる。その抗議は、 通常、誠実に力を尽くして そのレースを走り終えた競技者本人、またはその競技者の代理人からのみ行うことができる。抗議が認められると、当該不正スタートまたは本来スタート中止を招くはずだった行為を行い、 TR16.5、16.8、39.8.3 の警告または失格の対象となった競技者は、レース後であっても警告または失格処分を受ける。…
TR8.4.3	〔注意〕 この規則は審判長やジュリーが適用するのがふさわしいと考えた時に、適用することができる。〔参照 TR17.2〕	〔注意〕 この規則は審判長やジュリーが適用するのがふさわしいと考えた時に、適用することができる。〔参照 TR17.1 〕
TR8.4 グリーン	スタート審判長が不正スタートを課せられた競技者による現地での口頭抗議を裁定する時は…。 しかし、誤解のないように補足すれば、不正スタートが正常に動作している SIS によって感知された場合、及びその競技者に不正スタートの責任があることが視覚的に明らかで抗議を認める理由がない場合には、抗議中の立場で競技することを認めてはならない。	スタート審判長が不正スタートを課せられた競技者による 現地での抗議（競技中の抗議） を裁定する時は…。 不正スタートが正常に動作している SIS によって感知された場合、及びその競技者に不正スタートの責任があることが視覚的に明らかで抗議を認める理由がない場合には、 審判長は通常、 抗議中の立場で競技することを認めてはならない。 但し、反応時間が許容限界に近づくと、動きがほとんど見えなくなる可能性があることが認識されている。このような場合、スタート審判長が技術的証拠のさらなる分析が必要であると判断したら、関係者全員の権利を守るために、スタート審判長は抗議中の立場で競技者が競技することを許可することができる。
TR8.5	〔国際〕フィールド種目で、もし競技者が無効試技と判定されたことに対し、直ちに口頭の抗議を行った場合、審判長は疑義があると考えたら、該当する事項を保全するためにその試技を計測、記	〔国際〕フィールド種目で、もし競技者が無効試技と判定されたことに対し、直ちに 現場で抗議（競技中の抗議） を行った場合、審判長は疑義があると考えたら、該当する事項を保全ために

	録させることができる。	その試技を計測、記録させることができる。 〔国内〕 主催者は当該規則を適用することができる。
TR8.6	〔国際〕フィールド競技において口頭抗議が行われ、抗議中として競技を行なう競技者がいる場合、その抗議が認められれば競技を続けることができないはずの別の競技者も競技を続けることが認められた場合、抗議の扱いがどうなったかに関わらず、競技継続が認められた競技者の記録や最終成績は有効となる。	〔国際〕フィールド競技において 現場で抗議（競技中の抗議） が行われ、抗議中として競技を行なう競技者がいる場合、その抗議が認められれば競技を続けることが認められた場合、抗議の扱いがどうなったかに関わらず、競技継続が認められた競技者の記録や最終成績は有効となる。
TR9.2	… 但し、国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 以外の競技会においては、以下の混合競技を認めることがある。国際競技会定義 1.4、1.5、1.7～1.10 の競技会では、フィールド競技と以下 TR9.2.1 に述べる状況であれば、所管するエリア陸連の特別な許可により、常に男女混合競技が認められる。	… 但し、 ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c) と 2. (a)(b)以外の 競技会においては、以下の混合競技を認めることがある。 ワールドランキングコンペティション定義 1. (e)(d) と 2. (c)(d)(e)に該当する 競技会では、フィールド競技と以下 TR9.2.1 に述べる状況であれば、所管するエリア陸連の特別な許可により、常に男女混合競技が認められる。
TR9.2 グリーン	TR9.2.1の目的は5000m以上の長距離種目の実施を促進することであり、より長い種目で男女のいずれかまたは男女ともに少数の競技者が出場する場合に（例えば、10,000m 以上の競歩競技）、タイムテーブルの制約により別々のレースを実施することが困難になる。 … b. 国際競技会定義1.9、1.10に基づいて開催される競技会においては、関連するエリア陸連によって特別に許可されている場合に認められる。 c. 国際競技会定義1.1～1.8に基づいて開催される競技では認められない。 …	TR9.2.1の目的は5000m以上の長距離種目の実施を促進することであり、より長い種目で男女のいずれかまたは男女ともに少数の競技者が出場する場合 や、より長い距離の種目 （例えば、10,000m 以上の競歩競技）、タイムテーブルの制約により別々のレースを実施することが困難になる。 … b. ワールドランキングコンペティション定義 2. (d)に該当する 競技会においては、関連するエリア陸連によって特別に許可されている場合に認められる。 c. ワールドランキングコンペティション定義1. と2. (a)(b)(c)(e)に該当する競技会においては、フィールド競技に適用される規則で、特に規定されていない 認められない。 …
TR10.1	〔国際〕マークの正確性、および TR2、11.2 の設備の配置状況は、有資格計測員によって計測の詳細と関連する組織・団体あるいは設備の所有者ないし運営者に対して提出された、適切な検査済証とともにチェックされなければならない。	〔国際〕マークの正確性、および TR2、11.2、 11.3、41 の設備の配置状況は、有資格計測員によって計測の詳細と関連する組織・団体あるいは設備の所有者ないし運営者に対して提出された、適切な検査済証とともにチェックされなければならない。
TR10.2	国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 における競技会のトラックおよびフィールド競技の計測は、正しく目盛りが設定された鋼鉄製巻尺、高度計または科学計測装置で行われる。… 国際競技会定義1.1～1.3、1.6以外の競技会では、ファイバークラス製巻尺を使用してもよい。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当する競技会 のトラックおよびフィールド競技の計測は、正しく目盛りが設定された鋼鉄製巻尺、高度計または科学計測装置で行われる。… ワールドランキングコンペティション定義1. (a)(b)(c)と2. (a)(b)以外の 競技会では、ファイバークラス製巻尺を使用してもよい。
TR11.3	施設の長さやその他の仕様が室内競技規則に準拠していない、屋内や完全または部分的に屋内となる会場で行われる競技の記録は有効であり、以下の全ての条件を満たす場合には、 室内記録 としてではなく屋外で実施される競技の記録として扱う。	施設の長さやその他の仕様が ショート・トラック競技規則に準拠していない、完全または部分的に壁や屋根に覆われた会場 で行われる競技の記録は有効であり、以下の全ての条件を満たす場合には、 400mトラック で実施される競技の記録として扱う。
TR11.3	〔国際－注意〕 競技場所・施設が規則に合致していることを示す報告書の現行の標準書式は、WA 事務局より入手可能で、WA のウェブサイトからダウンロードすることができる。	〔国際－注意〕 競技場所・施設が規則に合致していることを示す報告書の現行の標準書式は、WA 事務局より入手可能で、 必要に応じて WA のウェブサイトまたは グローバルカレンダープラットフォーム からダウンロードすることができる。

TR11.3 グリーン	規則に適合し、競技者に利点となるものは何もない施設において、…統計目的で使用されることを妨げない。200m未満の屋内トラックで行われる競技の記録は、室内200mの記録に含まれる現在の慣行に変更はない。	規則に適合し、競技者に利点となるものは何もない施設において、…統計目的で使用されることを妨げない。200m未満の ショート・トラック で行われる競技の記録は、 ショート・トラック の記録に含まれる現在の慣行に変更はない。
TR11.4	予選ラウンドで達成された記録、走高跳と棒高跳の1位決定戦の記録、CR18.7、TR8.4.2、TR17.2、TR25.20の各規定により、審判長が…。	予選ラウンドで達成された記録、走高跳と棒高跳の1位決定戦の記録、CR18.7、TR8.4.2、 TR17.1 、TR25.20の各規定により、審判長が…。
TR12	国際競技会定義1.1～1.3の下で実施される競技会および、できるならばその他の競技会においても、全ての種目において技術代表が納得する形で公式のビデオ撮影を行うものとする。…	ワールドランキングコンペティション定義1. (a)(b)(c)に該当する 競技会および、できるならばその他の競技会においても、全ての種目において技術代表が納得する形で公式のビデオ撮影を行うものとする。…
第2部 トラック 競技	TR17.2、17.6 (TR54.12 と TR55.9 を除く)、17.14、TR18.2、TR19、TR21.1はTR第6、7、8部にも適用する。	TR17.1 、17.6 (54.12 と 55.9 を除く)、17.14、18.2、19、21.1はTR第6、7、8部にも適用する。
TR14.1	標準的なトラックの長さは400mとする。トラックは平行している二つの直走路と、半径が同じ二つの曲走路からなる。トラックの内側は、高さ最低50mm、幅最低50mmの適当な材質の縁石で境をする。縁石の色は可能な限り白とする。…	標準的なトラックの長さは400mとする (400mトラック)。トラックは平行している二つの直走路と、半径が同じ二つの曲走路からなる。トラックの内側は、高さ最低50mm、幅最低50mmの適当な材質の縁石で境をする。縁石の色は可能な限り白とする。…
TR14.5	国際競技会定義1.1～1.3、1.6による競技会では、最少8レーンのトラックでなければならない。	ワールドランキングコンペティション定義1. (a)(b)(c)と2. (a)(b)に該当する 競技会では、最少8レーンのトラックでなければならない。
TR15.3	<u>国際競技会定義1.1～1.3、1.6に該当する競技会、CR32あるいはCR34の対象となる世界記録として…。</u>	ワールドランキングコンペティション定義1. (a)(b)(c)と2. (a)(b)に該当する競技会、CR32の対象となる世界記録として…。
TR15.4	国際競技会定義1.1～1.6の競技会および国内の全天候走路での競技会では、競技者は主催者によって用意されたスターティング・ブロックのみを使用する。	ワールドランキングコンペティション定義1.と2. (a)(b)に該当する競技会 および国内の全天候走路での競技会では、競技者は主催者によって用意されたスターティング・ブロックのみを使用する。
TR16.2	以下の〔注意〕に記載された競技会を除き、国際競技会におけるスターターは、開催する国や地域の言語、英語またはフランス語で合図しなければならない。	以下の〔注意〕に記載された競技会を除き、 全ての競技会において 、スターターは開催する国や地域の言語、英語またはフランス語で合図しなければならない。
TR16.2	〔注意〕 国際競技会定義1.1～1.3、1.5、1.9の競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会においては、スターターの合図は英語のみとする。	〔注意〕 ワールドランキングコンペティション定義1. (a)(b)(c)(d)と2. (d)に該当する 競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会においては、スターターの合図は英語のみとする。
TR16.2 グリーン	…。国際競技会定義1.1～1.6に該当する競技会やその他多くのハイレベルの競技会では、常に写真判定装置とスタートインフォメーションシステム(SIS)を担当する提供会社が存在する。 …	…。 ワールドランキングコンペティション定義1.と2. (a)(b)に該当する 競技会やその他多くのハイレベルの競技会では、常に写真判定装置とスタートインフォメーションシステム(SIS)を担当する提供会社が存在する。 …
TR16.5.3	スターターは下記の行為を競技者が行ったと判断したら、スタートを中止しなくてはならない。 「On your marks (位置について)」または「Set (用意)」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者の妨害をした時。 この場合、審判長はCR18.5ならびにTR7.2に従い、不適切行為があったとして当該競技者に対して警告を与えることができる…。	スターターは下記の行為を競技者が行ったと判断したら、スタートを中止しなくてはならない。 「On your marks (位置について)」または「Set (用意)」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者の妨害をし、 その結果、その選手が他の競技者の不正スタートを生じさせた時 。 この場合、審判長は TR7.1 ならびに TR7.3 に従い、不適切行為があったとして当該競技者に対して警告を与えることができる…

TR16.5 グリーン	… この規則の主旨の高潔性を維持するため、スターターと審判長が TR16.5 の適用、さらには不正スタートの検出に忠実であることは重要である。…	… この規則の主旨の高潔性を維持するため、スターターと審判長が不正スタートを検出するのと同じくらい TR16.5 を忠実に適用することが重要である。…
TR16.7	競技者は最終の用意の姿勢をとった後、信号器の発射音を聞くまでスタートを開始してはならない。競技者が少しでも早く動作を開始したとスターターが判断した時は (CR22.6 を適用することを含む)、不正スタートとなる。スタートの開始とは以下のように定義される。	競技者は完全かつ最終的なスタートの姿勢を取った後、信号器の発射音を聞くまでスタートを開始してはならない。競技者が少しでも早くスタートを開始したとスターターが判断した時は (CR22.6 を適用することを含む)、不正スタートとなる。スタートの開始とは以下のように定義される。
TR16.7.1	クラウチング・スタートの場合、結果的にスターティング・ブロックのフットプレートから片足または両足が離れようとしている、あるいは地面から片手または両手が離れようとしているあらゆる動作。	クラウチスタートの場合、片足または両足がスターティング・ブロックのフットプレートから離れたり、片手または両手が地面から離れたりすることを含む、あるいはその動作の結果として離れることにつながるあらゆる動作。
TR16.7.2	スタンディング・スタートの場合、片足または両足が地面から離れようとする結果になるあらゆる動作。	スタンディング・スタートの場合、片足または両足が地面から離れたり、あるいはその動作の結果として離れたりすることにつながるあらゆる動作。
TR16.7 〔注釈〕	Set の後、最終のスタート姿勢になってから号砲までの間に次の動きを確認した場合、不正スタートとする。 i 静止することなく、動いたままスタートした場合。 ii 手が地面から、あるいは足がスターティング・ブロックのフットプレートから離れた場合。	Set の後、完全かつ最終的なスタート姿勢になってから号砲までの間に次の動き (i または ii) を確認した場合、不正スタートとする。 i 静止することなく、動いたままスタートした場合。 ii 手が地面から、あるいは足がスターティング・ブロックのフットプレートから離れた場合。
TR17	レース	レース レースにおける妨害
TR17.1	【TR17.2 へ移動】 少なくとも一つの曲走路を含むレースでは、走ったり歩いたりする方向は左手が内側になるようにする。またレーンナンバーは、左手側から順にレーン 1 とつける。 〔国内〕 直線競走 (100m、100m ハードル、110m ハードル) を逆走で競技を行う時は、公式に計測された競技場において、かつ審判を行う諸設備が整っている場合に限る。 条件が許され、トラックが適切に検定されていれば、直走路の種目は逆走で (すなわち右側が内側) で実施してもよい。	【TR17.2 から移動】 競技中、押されたり走路を塞がれたりして、競技者の前進が妨げられた場合の扱いは以下の通りとする。
TR17.1.1		妨害行為が意図的でないと見なされる場合、または、競技者以外によって引き起こされた場合、審判長は、そのような行為が特定の競技者 (またはチーム) に深刻な影響をもたらしたと判断したら、CR18.7 または TR8.4 に従い、競技者 1 名での、または当該レースに関する複数名あるいは全員での再レースの実施を命じるか、影響を受けた競技者 (またはチーム) が当該種目の次のラウンドで競技することを認めることができる。
TR17.1.2		別の競技者が妨害行為の責任があると審判長が判断した場合、その競技者 (またはチーム) は当該種目で失格となる。審判長は、そのような行為が特定の競技者 (またはチーム) に深刻な影響をもたらしたと判断したら、失格となった競技者 (またはチーム) を除いて、CR18.7 または TR8.4 に従い、競技者 1 名での、または当該レースに関

<p>グリーン</p>		<p>する複数名あるいは全員での再レースの実施を命じるか、失格となった競技者やチームを除く影響を受けた競技者（またはチーム）が当該種目の次のラウンドで競技することを認めることができる。</p> <p>〔注意〕 悪質と考えられる場合は、TR7.1およびTR7.3を適用することができる。</p> <p>TR17.1.1と17.1.2のいずれの場合においても、再レース等を認められる競技者（またはチーム）は、通常、誠実に力を尽くして当該種目を完走した競技者（またはチーム）である。</p> <p>押し合い（Jostling）とは、他の競技者との物理的な接触と理解する必要があり、それによって不当な利益を得たり、他の競技者にケガをさせたり、危害を加えたりすることを引き起こす行為である。</p>
<p>TR17.2</p>	<p>【TR17.1へ移動】 競技中、押されたり走路を塞がれたりして、競技者の前進が妨げられた場合の扱いは以下の通りとする。</p> <p>17.2.1 妨害行為が意図せずに引き起こされた場合、または、競技者以外によって引き起こされた場合、審判長は、そのような行為が特定の競技者（またはチーム）に深刻な影響をもたらしたと判断したら、CR18.7またはTR8.4に従い、競技者1名での、または当該レースに関する複数名あるいは全員での再レースの実施を命じるか、影響を受けた競技者（またはチーム）が当該種目の次のラウンドで競技することを認めることができる。</p> <p>17.2.2 別の競技者が妨害行為を意図的に引き起こしたと審判長が判断した場合、その競技者（またはチーム）は当該種目で失格となる。審判長は、そのような行為が特定の競技者（またはチーム）に深刻な影響をもたらしたと判断したら、失格となった競技者（またはチーム）を除いて、CR18.7またはTR8.4に従い、競技者1名での、または当該レースに関する複数名あるいは全員での再レースの実施を命じるか、失格となった競技者やチームを除く影響を受けた競技者（またはチーム）が当該種目の次のラウンドで競技することを認めることができる。</p> <p>〔注意〕 悪質と考えられる場合は、CR18.5、TR7.2を適用することができる。</p> <p>TR17.2.1と17.2.2のいずれの場合においても、再レース等を認められる競技者（またはチーム）は、通常、誠実に力を尽くして当該種目を完走した競技者（またはチーム）である。</p> <p>押し合い（Jostling）とは、他の競技者との物理的な接触と理解する必要があり、それによって不当な利益を得たり、他の競技者にケガをさせたり、危害を加えたりすることを引き起こす行為である。</p>	

<p>TR17.2.1</p> <p>TR17.2.2</p> <p>TR17.2.3</p> <p>TR17.2.4</p>	<p>全てのレースにおいて</p> <p>【TR17.1から移動】</p> <p>少なくとも一つの曲走路を含むレースは、左手が内側になるように行う。またレーンナンバーは、左手側から順にレーン1とつける。</p> <p>〔国内〕</p> <p>直線競走（50m、55m、60m、100m、50mハードル、55mハードル、60mハードル、100mハードル、110mハードル）を逆走で競技を行う時は、公式に計測された競技場において、かつ審判を行う諸設備が整っている場合に限る。</p> <p>完全に直線のみを走る場合、走る方向は利用可能な条件に応じて、左手または右手を内側としてもよい。</p> <p>【TR17.3から移動】</p> <p>レーンで行うレース（一部をレーンで行う場合も含む）では、各競技者はスタートからフィニッシュまで自分に割り当てられたレーンを走らなければならない。カーブを走る部分では、左側（内側）のライン上またはその内側（最も内側のレーンでは走路の境界を示す内側の縁石または線）を踏んだり走ったりしてはならない。</p> <p>レーンで行わない（一部をレーンで行わない場合も含む）全てのレースの曲走路で、あるいはTR17.5.2に規定された第2グループを走る際に、または障害物競走の水濠に向かう迂回路の曲走路区間を走る際に、各競技者は、境界を示すために設置されている縁石やラインの上や内側（トラックの内側、グループスタートでトラックの外側からスタートした際の第1グループと第2グループの走路の境界の内側、障害物競走の水濠に向かう迂回路の曲線区間の内側）を踏んだり、走ったりしてはならない。</p>	<p>全てのレースにおいて</p> <p>【TR17.1から移動】</p> <p>少なくとも一つの曲走路を含むレースは、左手が内側になるように行う。またレーンナンバーは、左手側から順にレーン1とつける。</p> <p>〔国内〕</p> <p>直線競走（50m、55m、60m、100m、50mハードル、55mハードル、60mハードル、100mハードル、110mハードル）を逆走で競技を行う時は、公式に計測された競技場において、かつ審判を行う諸設備が整っている場合に限る。</p> <p>完全に直線のみを走る場合、走る方向は利用可能な条件に応じて、左手または右手を内側としてもよい。</p> <p>【TR17.3から移動】</p> <p>レーンで行うレース（一部をレーンで行う場合も含む）では、各競技者はスタートからフィニッシュまで自分に割り当てられたレーンを走らなければならない。カーブを走る部分では、左側（内側）のライン上またはその内側（最も内側のレーンでは走路の境界を示す内側の縁石または線）を踏んだり走ったりしてはならない。</p> <p>レーンで行わない（一部をレーンで行わない場合も含む）全てのレースの曲走路で、あるいはTR17.5.2に規定された第2グループを走る際に、または障害物競走の水濠に向かう迂回路の曲走路区間を走る際に、各競技者は、境界を示すために設置されている縁石やラインの上や内側（トラックの内側、グループスタートでトラックの外側からスタートした際の第1グループと第2グループの走路の境界の内側、障害物競走の水濠に向かう迂回路の曲線区間の内側）を踏んだり、走ったりしてはならない。</p>
<p>TR17.3</p>	<p>レーン侵害行為</p> <p>【TR17.2へ移動】</p> <p>全てのレースにおいて</p> <p>17.3.1 レーンで行うレースでは、各競技者はスタートからフィニッシュまで自分に割り当てられたレーンを走らなければならない。この規定は競走の一部をレーンで走る場合にも適用される。</p> <p>17.3.2 レーンで行わない（一部をレーンで行わない場合も含む）全てのレースの曲走路で、あるいはTR17.5.2に規定された第2グループを走る際に、または障害物競走の水濠に向かう迂回路の曲走路区間を走る際に、各競技者は、境界を示すために設置されている縁石やラインの上や内側（トラックの内側、グループスタートでトラックの外側からスタートした際の第1グループと第2グループの走路の境界の内側、障害物競走の水濠に向かう迂回路の曲線区間の内側）を踏んだり、走ったりしてはならない。</p> <p>TR17.4を除き、競技者が本規則に違反し、審判長が審判員か監察員の報告に同意した場合は、その競技者または当該レースのリレー・チームは失格となる。</p>	<p>レーン侵害行為</p> <p>全てのレースにおいて、競技者がTR17.2.3または17.2.4に違反し、審判長が審判員か監察員の報告に同意した場合は、その競技者または当該レースのリレー・チームは失格となる。但し、以下の場合は失格とはならない。</p>

<p>TR17.3.1</p> <p>TR17.3.2</p> <p>TR17.3.3</p> <p>TR17.3.4</p>		<p style="text-align: right;">【TR17.4から移動】</p> <p>レース中に他の者や何らかの物によって押されたり、妨害されたりしたために、自分のレーン外、縁石やラインの上あるいは内側に足が入ったり走ったりした場合。</p> <p>レーンで行うレースの直走路において自分のレーン外を、もしくは障害物競走の水濠に向かう迂回路の直線区間において走路外を踏んだり走ったりした場合。またはレーンで行うレースの曲走路において自分のレーンの外側のラインを踏んだり、外側のレーンを走ったりした場合。</p> <p>レーンで行う（一部をレーンで行う場合も含む）全てのレース（TR17.2.4参照）の曲走路で、レーンの左側の白線や走路の境界を示す内側の縁石または白線に1回（1歩）だけ触れた場合。</p> <p>レーンで行わない（一部をレーンで行わない場合も含む）全てのレース（TR17.2.4参照）の曲走路で、走路の境界を示す縁石または白線を1回（1歩）だけ踏んだり、完全に越えたり（内側に入ったり）した場合。</p> <p>尚、上記の場合であっても他の競技者を押しのけたり走路を塞いだりして進行を妨害したと判定されたり（TR17.1参照）、実質的な利益を得たと判定されたり（TR17.4参照）、その競技者または当該レースのリレー・チームは失格となる。</p> <p>複数ラウンドで行われるレースでは、TR17.3.3またはTR17.3.4に定められた行為は、ある競技者の当該種目の全てのラウンドの中での1回の行為は失格とはならない。当該種目の同じラウンドで行われたか他のラウンドで行われたかに関わらず、2回以上の行為があると当該競技者は失格となる。</p> <p>リレーの場合、TR17.3.3とTR17.3.4に定められた行為を2回以上行ったら、違反したのが同一競技者かそのチームの他の競技者によるものかに関わらず、また当該種目の同じラウンドで行われたか他のラウンドで行われたかに関わらず、当該チームは失格となる。</p> <p>記録の公認については、CR31.14.4を参照のこと。</p> <p>〔注釈〕 1回の違反であっても、有利な位置取りをするために行った場合や他の競技者を妨害した場合は、直ちに失格となる。</p>
<p>TR17.4</p>	<p>【TR17.3へ移動】 次の場合は失格とはならない。 17.4.1 レース中に他の者や何らかの物によって押されたり、妨害されたりしたために、自分のレーン外、縁石やラインの上あるいは内側に足が入ったり走ったりした場合。 17.4.2 レーンで行うレースの直走路において自分のレーン外を、もしくは障害物競走の水濠に</p>	

	<p>向かう迂回路の直線区間において走路外を踏んだり走ったりした場合。またはレーンで行うレースの曲走路において自分のレーンの外側のラインを踏んだり、外側のレーンを走ったりした場合。</p> <p>17.4.3 レーンで行う全てのレース (TR17.3.1参照) の曲走路で、レーンの左側の白線や走路の境界を示す縁石または白線に1回 (1歩) だけ触れた場合。</p> <p>17.4.4 レーンで行わない (一部をレーンで行わない場合も含む) 全てのレース (TR17.3.2参照) の曲走路で、走路の境界を示す縁石または白線を1回 (1歩) だけ踏んだり、完全に越えたり (内側に入ったり) した場合。</p> <p>但し、上記の場合であっても実質的な利益を得たと判定されたり、他の競技者を押しのけたり走路を塞いだりして進行を妨害したと判定されたら、その競技者または当該レースのリレー・チームは失格となる (参照 TR17.2)。</p> <p>複数ラウンドで行われるレースでは、TR17.4.3とTR17.4.4の適用により、ある競技者の当該種目の全てのラウンドの中での1回の違反は失格とはならない。当該種目の同じラウンドで行われたか他のラウンドで行われたかに関わらず、2回以上の違反があると当該競技者は失格となる。</p> <p>リレーの場合、TR17.4.3とTR17.4.4に定める違反を2回以上行ったら、違反したのが同一競技者かそのチームの他の競技者によるものかに関わらず、また当該種目の同じラウンドで行われたか他のラウンドで行われたかに関わらず、当該チームは失格となる。</p> <p>記録の公認については、CR31.14.4を参照のこと。</p> <p>〔注釈〕 1回の違反であっても、有利な位置取りをするために行った場合や他の競技者を妨害した場合は、直ちに失格となる。</p> <p>〔注意〕 実質的な利益とは、あらゆる方法で順位を上げることやレース中にトラックの縁石の内側に足が入ったり走ったりして、「囲まれた (ポケットされた)」状況から抜け出すことを含む。</p>	<p>TR17.3 に規定されていないことを含む何らかの手段で、またはレース中にトラックの縁石の内側に足が入ったり走ったりして「囲まれた (ボックスポジション)」状況から抜け出すことによって、実質的な利益を得た場合、競技者 (またはリレー・チーム) は失格となる。</p>
<p>TR17.4 グリーン</p>	<p>この注意は、特に競技者がレース中にトラックの内側に入り込むことにより……。</p> <p>スタート時にはレーンが割り当てられ、スタート後にレーンを使用しないレースでは、TR17.3とTR17.4はそれぞれの場所 (レーンを使用して走っている場所とレーンを</p>	<p>TR17.4 は、特に競技者がレース中にトラックの内側に入り込むことにより……。</p> <p>スタート時にはレーンが割り当てられ、スタート後にレーンを使用しないレースでは、TR17.2とTR17.3はそれぞれの場所 (レーンを使用して走っている場所とレーンを</p>

	使用しないで走っている場所) に適用される。 靴や足の一部が内側の白線の左側にある場合に、TR17.4.3 を例外的に適用するかどうか判断するには、…	使用しないで走っている場所) に適用される。 従って、TR17.3.3 または TR17.3.4 に基づく違反は、1 回のみ認められる。同じレースで 2 回目の違反があった場合は失格となる。 靴や足の一部が内側の白線の左側にある場合に、 TR17.3.3 を例外的に適用するかどうか判断するには、…
TR17.5	国際競技会定義 1.1 の競技会 (他の国際競技会でもできる限り) および国内競技会では、…	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)に該当する競技会および他の国際競技会でもできる限り、加えて国内競技会では…
TR17.5.1	<u>〔国際－注意〕</u> 国際競技会定義 1.4、1.8 の競技会では、当事者の合意によってレーンを使用しない場合がある。	<u>〔国際－注意〕</u> ワールドランキングコンペティション定義 1. (e) と 2. (e)に該当する競技会では、当事者の合意によってレーンを使用しない場合がある。
TR17.5 グリーン	… a. 競技者が TR17.3に違反し、ラインの上や内側を踏んだ。…	… a. 競技者が TR17.2.3または17.2.4 に違反し、ラインの上や内側を踏んだ。…
TR17.7	〔注意〕 悪質と考えられる場合は、CR18.5、TR7.2 を適用することができる。	〔注意〕 悪質と考えられる場合は、 TR7.1 および TR7.3 を適用することができる。
TR17.9	国際競技会定義 1.1～1.8 に該当する競技会ならびに世界記録認定のために提出される成績には、非機械的 (超音波) 風向風速計を使用しなければならない。	ワールドランキングコンペティション定義 1. と 2. (a)(b)(c)(e)に該当する 競技会ならびに世界記録認定のために提出される成績には、非機械的 (超音波) 風向風速計を使用しなければならない。
TR17.10	トラック競技審判長は、風向風速計が直走路の第 1 レーンに隣接してフィニッシュラインから 50 m の地点に設置してあることを確認する。風向風速計の測定面はトラックから 2m 以上離してはならず、高さは 1m220 (±50 mm) でなければならない。	トラック競技審判長は、 種目に応じて 、風向風速計が直走路の第 1 レーンに隣接してフィニッシュラインから 手前の、以下の地点 に設置してあることを確認する。 50m,60m 競走 (ハードルを含む) : 30m 100m,110m,200m 競走 (ハードルを含む) : 50m 風向風速計の測定面はトラックから 2m 以上離してはならず、高さは 1m220 (±50 mm) でなければならない。 〔国内〕 55m競走 (ハードルを含む) : 30m
TR17.12	風速を計測する時間は、スターターの信号器の発射 (閃光/煙) から次の通りとする。 60m 5 秒間 100m 10 秒間 100mハードル 13 秒間 110mハードル 13 秒間 200m 先頭の走者が直走路に入った時から 10 秒間	風速を計測する時間は、スターターの信号器の発射 (閃光/煙) から次の通りとする。 50m 5 秒間 50m ハードル 5 秒間 60m 5 秒間 60mハードル 5 秒間 100m 10 秒間 100mハードル 13 秒間 110mハードル 13 秒間 200m 先頭の走者が直走路に入った時から 10 秒間。 但し、ショート・トラックでの競技は除く。 〔国内〕 55m 5 秒間 55m ハードル 5 秒間
TR17.15	給水・スポンジ	トラック競技における給水・給食・スポンジ
TR19.10.2		〔注意〕 〔TR19.10.2 から移動〕 道路競技の 1 マイルは、次のより長い 0.1 秒に変換する (切上げる)。
TR19.13.1	… 国際競技会定義 1.1 の競技会の場合、合成画像は 1 秒あたり少なくとも 1,000 枚の画像から合成されなければならない。	… ワールドランキングコンペティション定義 1. および 2. に該当する 競技会の場合、合成画像は 1 秒あたり少なくとも 1,000 枚の画像から合成されなければならない。

TR19.19	… 写真判定員主任はトラック競技審判長とスターターの協力を得て、写真判定システムが…	… 写真判定員主任は スタート審判長（もし指名されていなければ、関連するトラック競技審判長や競歩競技審判長） とスターターの協力を得て、写真判定システムが…
TR19.20	〔注意〕 2 台以上の写真判定システムを使用する場合、1 台は競技会の開始前に技術代表（あるいは指名された国際写真判定員）から公式システムとして指定されなければならない。	〔注意〕 2 台以上の写真判定システムを使用する場合、1 台は競技会の開始前に技術代表（あるいは指名された WA 写真判定員）から公式システムとして指定されなければならない。
TR19.23	〔注意〕 【TR19.10.2 へ移動】 <u>道路競技の 1 マイルは、次のより長い 0.1 秒に変換する（切上げる）。</u>	〔注意〕 TR11.2 に従って行われる種目の計時と記録の扱いは、競技場内で行われる種目として見なす。
TR19.23.1	10,000m(を含む)以下のレースでは、厳密に 0.01 秒とにならない場合は、次のより長い 0.01 秒に変換する（切上げる）。	トラックでの 10,000m(を含む)以下のレースでは、厳密に 0.01 秒とにならない場合は、次のより長い 0.01 秒に変換する（切上げる）。
TR19.25	19.24.5 【条文番号変更】 全てのレースで、0.1 秒単位が厳密に「.0」にならない場合は、次のより長い 1 秒に変換する（切上げる）。	19.25 全てのレースで、0.1 秒単位が厳密に「.0」にならない場合は、次のより長い 1 秒に変換する（切上げる）。
TR19.26	19.24.6 【条文番号変更】 このシステムによって決定された時間と着順を公認する際には、必要に応じて TR18.2 と 19.2 を適用する。	19.26 このシステムによって決定された時間と着順を公認する際には、必要に応じて TR18.2 と 19.2 を適用する。
TR19.26 グリーン	19.24 【条文番号変更】 トランスポンダーシステムを使用する場合、主催者が適切なバックアップシステムを設置すること、特に TR19.24.6 を遵守することが重要である。	19.26 グリーン トランスポンダーシステムを使用する場合、主催者が適切なバックアップシステムを設置すること、特に TR19.26 を遵守することが重要である。
TR19.27	19.25 【条文番号変更】 トランスポンダー主任はシステムが正しく作動することに責任を持つ。競技のスタート前に担当の技術スタッフと打ち合わせを行い、装置を理解し、全ての設定を確認する。また、機器のテストを監督し、トランスポンダーのフィニッシュライン上通過時に競技者のフィニッシュ時間が記録されることを確実にする。審判長と協力して、必要に応じて TR19.24.6 を適用する準備をしなければならない。	19.27 トランスポンダー主任はシステムが正しく作動することに責任を持つ。競技のスタート前に担当の技術スタッフと打ち合わせを行い、装置を理解し、全ての設定を確認する。また、機器のテストを監督し、トランスポンダーのフィニッシュライン上通過時に競技者のフィニッシュ時間が記録されることを確実にする。審判長と協力して、必要に応じて TR19.26 を適用する準備をしなければならない。
TR20.2.1	…こうした情報は予備予選時にも示されていなければならない。	…こうした情報は 追加的に行われる 予備予選時にも示されていなければならない。
TR20.2.1	〔国際－注意〕 あらかじめ競技注意事項等で規定されていない場合や主催者が決めていない場合には、WA のウェブサイトに掲載されている組分け方法（テーブル）を使用してもよい。	〔国際－注意〕 i …あらかじめ競技注意事項等で規定されていない場合や主催者が決めていない場合には、WA のウェブサイトに掲載されている組分け方法（テーブル）を使用してもよい。 ii … 準決勝および決勝において棄権により空いたレーンについて、前ラウンドで当該ラウンドに進出する資格を獲得した競技者の次にランク付けされた者で補充することを、適用する規則で定めることができる。
TR20.2.2	各国または各チームの代表および最も良い記録を持つ競技者は、競技会の予選ラウンドにおいて可能な限り異なった組に入れる。… …競技者の交換が必要な場合は可能な範囲で、 TR20.4.2 に従い同じ「ランクの競技者（レーン・グループ）」間で行なう。	各国または各チームの 競技者と 最も良い記録を持つ競技者は、競技会の予選ラウンドにおいて可能な限り異なった組に入れる。… 競技者の交換が必要な場合は可能な範囲で、 TR20.4.3 ～ 20.4.5 に従い同じ「ランクの競技者（レーン・グループ）」間で行なう。

<p>TR20.2 グリーン</p>	<p>… 主要競技会で組み合わせの基本となるのは、少なくとも事前に決められた期間中の有効な条件（関連種目での風速を含む）で、各競技者が達成した最も良い記録でなければならない。この期間は通常、競技会規定または競技会のエントリー条件と基準を定めた文書に明記される。</p> <p>… 最も良い記録を持つ競技者に関連する規則の要件では、…。例えば、通常上位に組分けされる可能性のある競技者が所定の期間（怪我、病気、資格停止、または室内競技会で屋外の記録しか持たないなど）で、有効記録を持たないとか、…</p> <p>… 同時に、同じ国またはチームの競技者が異なる組になるよう調整する必要がある。</p> <p>… b. 次のラウンドにおいては、TR20.4.2 に基づく同様のランキングを有する競技者の間で、行う。</p>	<p>… 適用される規則で別に定めがない限り、主要競技会で組み合わせの基本となるのは、少なくとも事前に決められた期間中の有効な条件（関連種目での風速を含む）で、各競技者が達成した最も良い記録でなければならない。この期間は通常、競技会に適用される規則または競技会のエントリー条件と基準を定めた文書に明記される。</p> <p>… 最も良い記録を持つ競技者に関連する規則の要件では、…。例えば、通常上位に組分けされる可能性のある競技者が所定の期間（怪我、病気、資格停止、またはショート・トラックで行われる競技会で400mトラックでの記録しか持たないなど）で、有効記録を持たないとか、…</p> <p>… 同時に、同じ加盟団体またはチームの競技者が異なる組になるよう調整する必要がある。</p> <p>… b. 次のラウンドにおいては、TR20.4.3～20.4.5 に基づく同様のランキングを有する競技者の間で、行う。</p>						
<p>TR20.3.1</p>	<p>最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストからシードを決定し、ジグザク配置によって予選の組を決める。</p>	<p>最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、シードを決定し、ジグザク配置によって予選の組を決める。</p>						
<p>TR20.3.2 a</p>	<p>… 100m～800m（4×400mリレーを含む）の種目は、その前のラウンドの順位と記録に基づいて組分けを行う。…</p>	<p>… 800m（4×400mリレーを含む）までの種目は、その前のラウンドの順位と記録に基づいて組分けを行う。…</p>						
<p>TR20.4</p>	<p>100mから800mまで、また4×400mまでのリレー種目で複数のラウンドが行われる場合は、そのレーン順は下記によって決める。</p>	<p>800mまで（4×400mリレーを含む）までの種目で複数のラウンドが行われる場合は、そのレーン順は下記によって決める。</p>						
<p>TR20.4.1</p>	<p>最初のラウンドと TR20.1により追加的に行う予備予選ラウンドにおいて、レーン順は全員（または全チーム）を抽選で決める。</p>	<p>適用される規則に特別な定めがない限り、最初のラウンドとTR20.1により追加的に行う予備予選ラウンドにおいて、レーン順は全員（または全チーム）を抽選で決める。</p>						
<p>TR20.4.2</p>	<p>次のラウンドからは TR20.3.2 a.または b.で示された手順により、各組の編成終了後、競技者は次のようにランク付けされ、三つのグループに分けて</p> <p>a. 上位グループ 4名（または 4 チーム）を 3, 4, 5, 6 レーンで、</p> <p>b. それに続く 5・6 番目の中位グループ 2名（または 2 チーム）を 7, 8 レーンで、</p> <p>c. 下位グループ 2名（または 2 チーム）を 1, 2 レーンで、抽選する。</p> <p>—[注意]— 8レーンより少ない、あるいは多い場合には、上記の方法に準じて適宜決めることが望ましい。</p>	<p>次のラウンドからは TR20.3.2 a.または b.で示された手順により、各組の編成終了後、競技者は次のようにランク付けする。</p> <p>8 レーンのトラックの場合、三つのグループに分けて抽選を行う。8レーン未満の場合、または9レーン以上の場合は、次の考え方を原則とし、必要な変更を加えて適用する。</p>						
<p>TR20.4.3</p>		<p>直線種目（100m・100mH・110mH等）</p> <table border="1" data-bbox="917 1977 1501 2072"> <tr> <td>上位グループ</td> <td>3・4・5・6 レーン</td> </tr> <tr> <td>中位グループ</td> <td>2・7 レーン</td> </tr> <tr> <td>下位グループ</td> <td>1・8 レーン</td> </tr> </table>	上位グループ	3・4・5・6 レーン	中位グループ	2・7 レーン	下位グループ	1・8 レーン
上位グループ	3・4・5・6 レーン							
中位グループ	2・7 レーン							
下位グループ	1・8 レーン							

<p>TR20.4.4</p> <p>TR20.4.5</p>		<p>200m競走</p> <table border="1" data-bbox="919 215 1501 315"> <tr> <td>上位グループ</td> <td>5・6・7 レーン</td> </tr> <tr> <td>中位グループ</td> <td>3・4・8 レーン</td> </tr> <tr> <td>下位グループ</td> <td>1・2 レーン</td> </tr> </table> <p>400m競走・スタート時にレーンを使用する 800m競走・4×400mR までのリレー競走</p> <table border="1" data-bbox="919 412 1501 512"> <tr> <td>上位グループ</td> <td>4・5・6・7 レーン</td> </tr> <tr> <td>中位グループ</td> <td>3・8 レーン</td> </tr> <tr> <td>下位グループ</td> <td>1・2 レーン</td> </tr> </table> <p>〔国内〕 TR20.4.3～20.4.5 の考え方に加え、以下の考え方を適用しても良い。</p> <table border="1" data-bbox="919 640 1501 741"> <tr> <td>上位グループ</td> <td>3・4・5・6 レーン</td> </tr> <tr> <td>中位グループ</td> <td>7・8 レーン</td> </tr> <tr> <td>下位グループ</td> <td>1・2 レーン</td> </tr> </table>	上位グループ	5・6・7 レーン	中位グループ	3・4・8 レーン	下位グループ	1・2 レーン	上位グループ	4・5・6・7 レーン	中位グループ	3・8 レーン	下位グループ	1・2 レーン	上位グループ	3・4・5・6 レーン	中位グループ	7・8 レーン	下位グループ	1・2 レーン
上位グループ	5・6・7 レーン																			
中位グループ	3・4・8 レーン																			
下位グループ	1・2 レーン																			
上位グループ	4・5・6・7 レーン																			
中位グループ	3・8 レーン																			
下位グループ	1・2 レーン																			
上位グループ	3・4・5・6 レーン																			
中位グループ	7・8 レーン																			
下位グループ	1・2 レーン																			
<p>TR20.4</p>	<p>〔注意〕</p> <p>i 国際競技会定義 1.4～1.10 に該当する競技会における 800m競走は、それぞれのレーンで1名または2名の競技者が走ってもよいし、弧形のライン後方からスタートするグループスタートでもよい。国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 に該当する競技会では、同着で、あるいは審判長またはジュリーの判断で次のラウンドに進出する競技者の数が増えた場合を除いて、このスタート方式は予選にのみ適用することが望ましい。</p>	<p>〔注意〕</p> <p>i ワールドランキングコンペティション定義 1. (d)(e)と 2.に該当する 競技会における 800m競走は、それぞれのレーンで1名または2名の競技者が走ってもよいし、弧形のライン後方からスタートするグループスタートでもよい。ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当する 競技会では、同着で、あるいは審判長またはジュリーの判断で次のラウンドに進出する競技者の数が増えた場合を除いて、このスタート方式は予選にのみ適用することが望ましい。</p>																		
<p>TR20.5</p>	<p>国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 の競技会および本連盟が主催、共催する競技会では…。</p>	<p>ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当する 競技会および本連盟が主催、共催する競技会では、…。</p>																		
<p>TR20.9</p> <p>グリーン</p>	<p>1日開催の競技会 〔国際〕国際競技会定義 1.5、1.9、1.10の競技会では、競技者は主催者が決めた…</p> <p>1日のみで実施される競技会では「決勝」ラウンドのみだが、複数のレースがある場合、レースは競技会またはその競技会が属している一連の競技会シリーズのための開催規定に従って実施される必要がある。…</p>	<p>招待競技会 〔国際〕ワールドランキングコンペティション定義 1. (d)と 2. (d)に該当する 競技会では、競技者は主催者が決めた…</p> <p>招待競技会では「決勝」ラウンドのみでありながら複数の「レース」が行われる場合、レースは競技会またはその競技会が属している一連の競技会シリーズのための開催規定に従って実施される必要がある。…</p>																		
<p>TR21.1</p>	<p>決勝審判員もしくは写真判定員が TR18.2、19.17、19.21、19.24により、どの順位においても競技者を区別することができない時は同成績として決定し、同成績はそのままとする。</p>	<p>決勝審判員もしくは写真判定員が TR18.2、19.17、19.21、19.26により、どの順位においても競技者を区別することができない時は同成績として決定し、同成績はそのままとする。</p>																		
<p>TR22.1</p>		<p>50m、60m のハードルの配置は TR47参照</p>																		
<p>TR22.3</p>		<p>50m、60m のハードルの高さは TR47参照</p>																		
<p>TR22.6</p>	<p>〔注意〕 この規則が守られ、ハードルの位置が変わらず、ハードルの高さが下がったりどちらの向きにも傾いたりしなければ、競技者はハードルをどのような方法（姿勢）で越えてもよい。</p>	<p>【〔注意〕を本文に変更】 この規則が守られ、ハードルの位置が変わらず、ハードルの高さが下がったりどちらの向きにも傾いたりしなければ、競技者はハードルをどのような方法（姿勢）で越えてもよい。</p>																		
<p>TR22.6</p> <p>グリーン</p>	<p>ハードル競走はレーンを走る。各競技者は…。これに違反した場合は、TR17.4が適用されない限りは失格となる。</p> <p>各ハードルを越えるための要件は、競技者が各ハードルを自身のレーン内で越えることを求めていると読むべきで</p>	<p>ハードル競走はレーンを走る。各競技者は…。これに違反した場合は、TR17.3が適用されない限りは失格となる。</p> <p>各ハードルを越えるための要件は、競技者が各ハードルを自身のレーン内で越えることを求めていると読むべきで</p>																		

	<p>はない。常にTR17.3、17.4の意図に従うことが要件となる。しかし、競技者が別のレーンのハードルを蹴り倒したり、他のレーンのハードルを移動させたりすることによって他の競技者の進路に影響を及ぼす場合、その競技者は失格となる。</p> <p>…</p> <p>このことは立っている監察員または競技者の正面に位置しているビデオカメラから、最も確実に状況を確認することができる。これに関してはTR17.2を適用することができる。</p>	<p>はない。常にTR17.1、17.3の意図に従うことが要件となる。しかし、競技者が別のレーンのハードルを蹴り倒したり、他のレーンのハードルを移動させたりすることによって他の競技者の進路に影響を及ぼす場合、その競技者は失格としなければならない。</p> <p>…</p> <p>このことは立っている監察員または競技者の正面に位置しているビデオカメラから、最も確実に状況を確認することができる。これに関してはTR17.1を適用することができる。</p>
TR22.6.1	<p>ハードルを越える瞬間に、足または脚がハードルをはみ出て（どちら側でも）バーの高さより低い位置を通った時。</p>	<p>ハードルを越える瞬間に、足または脚が（いずれの側かにかかわらず）ハードルをはみ出て、バーの高さより低い位置にある時。</p>
TR23.3	<p style="text-align: center;">【TR23.4に移動】</p> <p>障害物競走ではフィニッシュラインを初めて通過してから各周に5個の障害物があり、その4番目に水濠を越す。障害物は均等距離に置く方がよい。すなわち障害物間の距離は、1周の長さの約5分の1とする。</p> <p>〔注意〕</p> <p>WA 陸上競技施設マニュアルに示すように、フィニッシュライン前後での安全確保を目的として、スタートラインから最初の障害物までの距離や次の障害物までの距離を十分に取るため、障害物の間隔の調整が必要な場合がある。</p> <p>〔国内〕</p> <p>1. <u>トラックの内または外側の地域に水濠を設置することによって、1周の距離を延ばしたり縮めたりすることができる。1周の正確な長さを定めることや、水濠の位置を正確には明記できない。</u></p> <p>2. <u>3,000m競走ではスタート時の競技者の安全を確保するため、スタートラインから最初の障害物までを70m以上とする。9レーンのトラックで水濠がトラックの外側に設置されている競技場においては、この距離を確保するためスタートラインから最初の障害物までを70mとし、全競技者が第1障害物を通過した後、この障害物を等間隔の位置に置き換える。</u></p>	<p style="text-align: center;">【TR23.4から移動】</p> <p>2,000m競走は障害物を18回と水濠を5回越えなければならない。最初の障害物は、周回の3番目の障害物の位置とする。それよりも手前にある障害物は、最初に競技者が通過するまでは設置しない。</p>
TR23.4	<p style="text-align: center;">【TR23.3に移動】</p> <p>2,000m競走は障害物を18回と水濠を5回越えなければならない。最初の障害物は、周回の3番目の障害物の位置とする。それよりも手前にある障害物は、最初に競技者が通過するまでは設置しない。</p>	<p style="text-align: center;">【TR23.3から移動】</p> <p>障害物競走ではフィニッシュラインを初めて通過してから各周に5個の障害物があり、その4番目に水濠を越す。障害物は均等距離に置く方がよい。すなわち障害物間の距離は、1周の長さの約5分の1とする。</p> <p>〔注意〕</p> <p>WA 陸上競技施設マニュアルに示すように、フィニッシュライン前後での安全確保を目的として、スタートラインから最初の障害物までの距離や次の障害物までの距離を十分に取るため、障害物の間隔の調整が必要な場合がある。</p> <p>〔国内〕</p> <p>1. <u>トラックの内または外側の地域に水濠を設置することによって、1周の距離を延ばしたり縮めたりすることができる。1周の正確な長さを定めることや、水濠の位置を正確には明記できない。</u></p> <p>2. <u>3,000m競走ではスタート時の競技者の安全を確保するため、スタートラインから最初の障害</u></p>

		物までを70m以上とする。9レーンのトラックで水濺がトラックの外側に設置されている競技場においては、この距離を確保するためスタートラインから最初の障害物までを70mとし、全競技者が第1障害物を通過した後、この障害物を等間隔の位置に置き換える。
TR23.7.2	障害物を通過する瞬間、足または脚が障害物の外側（いずれの側かにかかわらず）のバー水平面より低い位置にある時。	障害物を通過する瞬間に、足または脚が（いずれの側かにかかわらず）障害物をはみ出て、バーの高さより低い位置にある時。
TR24.1	〔国際－注意〕 メドレーリレーは走る距離の順番を入れ替えることができる。その場合、TR24.14、24.18～24.20の適用においては、適切な調整を行うこと。	〔国際－注意〕 メドレーリレーは走る距離の順番を入れ替えることができる。その場合、TR24.3、24.14、24.20の適用においては、適切な調整を行うこと。
TR24.4	〔注意〕 悪質と考えられる場合は、CR18.5、TR7.2を適用することができる。	〔注意〕 悪質と考えられる場合は、TR7.1およびTR7.3を適用することができる。
TR24.5	バトンは競技場内で行われる全てのリレー競技で使用され、レース中は手で持ち運ばなければならない。国際競技会定義 1.1～1.3、1.6の競技会では各バトンには番号が付され、異なる色とし、トランスポンダーシステムを組み込むことができる。	バトンは競技場内で行われる全てのリレー競技で使用され、レース中は手で持ち運ばなければならない。ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当する競技会では各バトンには番号が付され、異なる色とし、トランスポンダーシステムを組み込むことができる。
TR24.7	バトンはテイク・オーバー・ゾーン内で受け渡されなければならない。… テイク・オーバー・ゾーン外でのバトンの受け渡しは、失格となる。	バトンはテイク・オーバー・ゾーン内で受け渡されなければならない。… テイク・オーバー・ゾーン外でのバトンの受け渡しは、失格となる。該当する場合、TR17.3.2が適用される。
TR24.7 グリーン	監察員はバトンがテイク・オーバー・ゾーンに入る前に、次走者がバトンに触れる位置を確実に観察する必要がある。バトンがゾーン内に入る前に次走者がバトンに触れたら、そのチームは失格となる。…	TR17.3.2が適用されるのは、バトンパスを行っている最中に、実質的な利益を得ず、他の競技者が妨害されることもなく、テイク・オーバー・ゾーンの割り当てられたレーンの内側を踏んだ場合に適用されることがある。 バトンの位置を決めるにあたっては、バトン全体を考慮する必要がある。 監察員はバトンがテイク・オーバー・ゾーンに入る前に、次走者がバトンに触れる位置を確実に観察する必要がある。バトンがテイク・オーバー・ゾーン内に入る前に次走者がバトンに触れたら、そのチームは失格となる。…
TR24.8	…とどまる。 TR17.3、17.4は適用されない。但し、自分のレーンの外を走ったり、外で立ち止まったりすることによって、バトンを渡し終えた競技者が他のチームの競技者を妨害した時は、TR17.2が適用される。	…とどまる。 TR17.2、17.3は適用されない。但し、自分のレーンの外を走ったり、外で立ち止まったりすることによって、バトンを渡し終えた競技者が他のチームの競技者を妨害した時は、TR17.1が適用される。
TR24.11	リレー競技のチームの編成は、各ラウンドの第1組の招集完了時刻の1時間前までに正式に申告しなければならない。… 〔国際〕 リレー競技のチームの編成は、各ラウンドの第1組のfirst call time（その時間までに競技者が招集所にいなければならない時刻）の1時間前までに正式に申告しなければならない。一度申告したらその後の変更は、final call time（出場する競技者が招集所から競技場所に移動を開始する時刻）までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。各チームは申告された競技者がその順番で走らなければならない。この規則に従わなければ、そのチームは失格となる。	リレー競技のチームの編成は、各ラウンドの第1組の招集完了時刻の1時間前までに正式に申告しなければならない。… 〔国際〕 リレー競技のチームの編成は、当該競技会の各ラウンドの各組のfirst call time（その時間までに競技者が招集所にいなければならない時刻）までに正式に申告しなければならない。各チームは申告された競技者がその順番で走らなければならない。この規則に従わなければ、そのチームは失格となる。…

TR24.20	<p>〔注意〕 4×200mリレーにおいて、レーンを完全に走行するのではなく途中でレーンを離れる方法で実施するならば、前走者がレーン内走行でない場合、次走者はスタートリストの順番で内側より外側に一列に並ぶ。</p> <p>〔国内〕 第二曲走路入り口地点を示すために、フィールド内1～2mの場所に黄旗を立てる。</p>	<p>〔国内〕 第二曲走路入り口地点を示すために、フィールド内1～2mの場所に黄旗を立てる。</p> <p>〔注意〕 4×200mリレーにおいて、レーンを完全に走行するのではなく途中でレーンを離れる方法で実施するならば、前走者がレーン内走行でない場合、次走者はスタートリストの順番で内側より外側に一列に並ぶ。</p>
TR25.2.4	投てき用具（投てき物）を持つ、持たないに関係なく、サークルや着地場所	<p>投てき用具（投てき物）を持つ、持たないに関係なく、サークルや助走路および着地場所</p> <p>但し、サークルや助走路以外での投てき物の使用は、いかなる場合も禁止する。</p>
TR25.3.3	<p>〔TR25.3.4へ移動〕 棒高跳の助走路に沿って、ゼロラインを起点として2.5mから5mの間は0.5mごとに、5mから18mの間は1mごとに、適切で安全なディスタンスマーカーを設置する。</p>	<p>〔TR25.3.4から移動〕 規則に違反しているマーカーがあれば規則に合わせるよう、あるいは剥がすよう、審判員は当該競技者を指導する。指導に従わない場合は、審判員が剥がさなくてはならない。</p> <p>〔注意〕 悪質と考えられる場合は、TR7.1およびTR7.3を適用することができる。</p>
TR25.3.4	<p>〔TR25.3.3へ移動〕 規則に違反しているマーカーがあれば規則に合わせるよう、あるいは剥がすよう、審判員は当該競技者を指導する。指導に従わない場合は、審判員が剥がさなくてはならない。</p> <p>〔注意〕 悪質と考えられる場合は、CR18.5、TR7.2を適用することができる。</p>	<p>〔TR25.3.3から移動〕 棒高跳の助走路に沿って、ゼロラインを起点として2.5mから5mの間は0.5mごとに、5mから18mの間は1mごとに、適切で安全なディスタンスマーカーを設置する。</p>
TR25.3 グリーン	… TR25.3.3 は、競技者とそのコーチが助走路の踏切位置と跳躍状況を判断する際に役立つように考案されている。	… TR25.3.4 は、競技者とそのコーチが助走路の踏切位置と跳躍状況を判断する際に役立つように考案されている。
TR25.5	<p>TR25.6 が適用される場合を除き、競技者は抽選で決められた試技順に従って競技を行わなくてはならない。</p> <p>競技者が自身の判断で事前に決められた試技順とは異なる順番で試技を行なった場合、CR18.5とTR7.2を適用しなければならない。…</p>	<p>TR25.6 が適用される場合を除き、あるいは適用される規則に特段の定めがある場合を除き、競技者は抽選で決められた試技順に従って競技を行わなくてはならない。</p> <p>競技者が自身の判断で事前に決められた試技順とは異なる順番で試技を行なった場合、TR7.1およびTR7.3を適用しなければならない。…</p>
TR25.6	<p>…</p> <p>競技者が8名以下の場合には、競技注意事項等で特に規定していなければ、各競技者に6回の試技が許される。前半の3回の各試技のラウンドで有効試技が一つもない競技者も後半の試技が許されるが、その試技順は有効試技のある競技者の前とし、複数いる場合は当初のスタートリスト順とする。</p> <p>〔注意〕 v 国際競技会定義 1.5、1.9、1.10 の競技会では、当該競技会に適用される規則または主催者が…</p>	<p>…</p> <p>競技者が8名以下の場合には、競技注意事項等で特に規定していなければ、各競技者に6回の試技が許される。前半の3回の各試技のラウンドで有効試技が一つもない1名以上の競技者にも後半の試技が許されるが、その試技順は有効試技のある競技者の前とし、複数いる場合は当初のスタートリスト順とする。</p> <p>〔注意〕 v ワールドランキングコンペティション定義 1.(d)と2.(d)に該当する競技会では、当該競技会に適用される規則または主催者が…</p>
TR25.6 グリーン	競技者が自分の意思により、あるいはCR6により競技を途中で止めた場合、当該競技者はその競技のその後の試技を行うことはできない。例えば高さを競う跳躍競技での1位決定のためのジャンプオフや、混成競技のそれ以降の種目には出場できない。	競技者が自分の意思により、あるいはCR6により競技を途中で止めた場合、当該競技者はその競技のその後の試技を行うことはできない。例えば高さを競う跳躍競技での1位決定のためのジャンプオフや、混成競技において途中でやめた当該種目には出場できない。

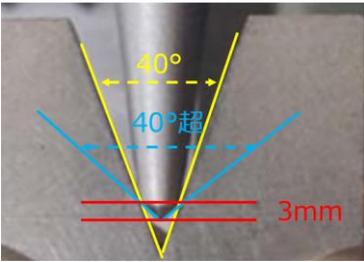
TR25.9	… どの競技者に参加資格を与え、どのラウンドから出場できるかという手順や考え方（特定の期間に達成された参加標準記録、指定競技会での順位やランキング等）については、各競技会の大会要項や競技注意事項等に記載する。	… どの競技者に参加資格を与え、どのラウンドから出場できるかという手順や考え方（特定の期間に達成された参加標準記録、指定競技会での順位や 指定された ランキング等）については、各競技会の大会要項や競技注意事項等に記載する。
TR25.10	予選は通常では競技者を二つ、あるいはさらに多くのグループに無作為に分けて実施するが、これらのグループはおおよそ同じレベルに分けることが望ましく、できるならば同じ加盟団体やチームの代表は異なったグループにする。	予選は通常では競技者を二つ、あるいはさらに多くのグループに無作為に分けて実施するが、これらのグループはおおよそ同じレベルに分けることが望ましく、 可能な限り 同じ加盟団体やチームの 競技者 は異なったグループにする。
TR25.12	予選の通過標準記録および…決定する。技術代表をおかない場合は、主催者が諸条件を定める。国際競技会定義1.1～1.3、1.6に該当する競技会では、特別な規定がない限り決勝は少なくとも12名とする。	予選の通過標準記録および…決定する。技術代表をおかない場合は、主催者が諸条件を定める。 ワールドランキングコンペティション定義1.(a)(b)(c)と2.(a)(b)に該当する 競技会では、特別な規定がない限り決勝は少なくとも12名とする。
TR25.12		〔国際－注意〕 決勝に出場する資格のある競技者が棄権した場合の扱いについて、前ラウンドで当該ラウンドに進出する資格を獲得した競技者の次にランク付けされた者で補充することを、適用する規則で定めることができる。
TR25.16 グリーン	走高跳と棒高跳の予選グループの組み合わせでは、TR25.10と25.16の要件が両方とも遵守されていることが重要である。…	走高跳と棒高跳の予選グループの組み合わせでは、 TR25.10の要件が遵守されていることが重要である。 …
TR25.17		〔注意〕 v 高さを競う跳躍競技では、バーが新たな高さに上がった時点で、引続き競技が行える選手の数が決まる。
TR25.17		〔注意〕 vi 連続試技の時間は、走高跳と棒高跳では、連続試技を行う同じ高さまたは連続した高さで、または次の高さで試技順が変更された場合に関係なく、当該競技者が連続して試技を行う際に適用される。 連続試技の時間は、残っている競技者の人数に適用する試技時間より長い場合に適用される。但し、残りの競技者の数え方により、競技者がより長い時間の権利を有する場合にはその時間が適用される。
TR25.19	審判員の許可を…。これに違反すれば警告の対象となり、その後、二度目の警告を受けたり、悪質であったりする場合は失格となる。	審判員の許可を…。これに違反すれば警告の対象となり、その後、二度目の警告を受けたり、悪質であったりする場合は失格となる。 試技を行うべき順序の際に競技者が不在の場合には、その試技時間が過ぎれば無効試技とする。
TR25.20 グリーン	…。TR11.3も参照のこと。	…。 TR11.4 も参照のこと。
TR26.2 グリーン		【TR4.3から移動】 TR26.2において、高さを競う跳躍ではある高さを1回または2回目の試技でクリアした場合には、同じ高さの2回目または3回目を跳躍することはできないとしているが、子供や学校の大会のように競技者のレベルが高くない場合には、同じ高さの2回目または3回目の試技を選択できるように規則を変更してもよい。
TR27.3	助走路の幅は16m以上、距離15m以上とする。但し国際競技会定義1.1～1.3、1.5、1.6に該当する競技会では25mとする。	助走路の幅は16m以上、距離15m以上とする。但し、 ワールドランキングコンペティション定義1.(a)(b)(c)(d)と2.(a)(b)に該当する 競技会では、 25m以上 とする。

TR27.10	国際競技会定義1.1～1.3、1.5、1.6に該当する競技会の場合、着地場所は、幅6m×奥行4m×高さ0.7mを下回ってはならない。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)(d)と 2. (a)(b)に該当する競技会では、着地場所は、幅 6m×奥行 4m×高さ 0.7mを下回ってはならない。
TR28.1	… もし、競技者がバーの位置の変更を求めた時は、事前に申告した希望位置でバーがセットされる前に審判員に申し出る。これを怠って変更しようとする場合は、新しい位置にセットする時間も制限時間に含まれる。	… もし、競技者がバーの位置の変更を求めた時は、事前に申告した希望位置でバーがセットされる前に審判員に申し出る。これを怠って変更しようとする場合は、新しい位置にセットする時間も制限時間に含まれる。 試技時間のカウントが開始されたら、バーの高さを変更することはできない。
TR28.8	棒高跳の踏切はボックスを使って行う。ボックスは上部の隅が丸められるか柔らかい適切な材質で作り、助走路と同じ高さに埋める。ボックスの地上部と地面の接点にすき間ができないように、全天候舗装で覆われていることが好ましい。ボックスの底面の内側は…	棒高跳の踏切はボックスを使って行う。ボックスは上部の隅が丸められるか柔らかい適切な材質で作り、助走路と同じ高さに埋める。 全天候舗装で覆われていてもいなくても、ボックスの地上部と地面の接点にすき間ができないようにする。全天候舗装で覆われている場合、ボックスの高さの許容範囲内になければならない。 ボックスの底面の内側は…
TR28.8	〔注意〕 競技者は、…できる。かかる用具の設置は、競技者の試技に割り当てられた時間内に行わなければならない。競技を終えた後、直ちに当該競技者が取り除く。国際競技会定義 1.1～1.3、1.5、1.6の競技会においては、主催者がこれを提供する。	〔注意〕 競技者は、…できる。 こうした用具の設置は、競技者の試技に割り当てられた時間内に行わなければならない。競技を終えた後、直ちに当該競技者が取り除く。ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)(d)と 2. (a)(b)に該当する競技会では、主催者がこれを提供する。
TR28.11	競技者は自分のポールを使用してよい。私物のポールはその所有者の同意がない限り、他の競技者は使用することはできない。 ポールの材質（材料の混合を含む）、長さ…	競技者は自分のポールを使用してよい。私物のポールはその所有者の同意がない限り、他の競技者は使用することはできない。 〔注意〕 審判員がこの競技規則に違反していることに気づいたら、当該競技者に規則を遵守するよう指示する。その指示に従わない場合、その試技は無効としなければならない。また、違反に気づく前に試技を行っていても無効試技としなければならない。悪質と考えられる場合は、TR7.1 および TR7.3 を適用することができる。 ポールの材質（材料の混合を含む）、長さ、…
TR28.12	国際競技会定義 1.1～1.3、1.5、1.6 に該当する競技会では、着地場所は、正面の張り出し部分を除いて、幅 6m×奥行 6m×高さ 0.8mより小さくしてはならない。正面の張り出し部分の長さは、最短 2mとする。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)(d)と 2. (a)(b)に該当する競技会では、着地場所は、正面の張り出し部分を除いて、幅 6m×奥行 6m×高さ 0.8mより小さくしてはならない。正面の張り出し部分の長さは、最短 2mとする。
TR29.3	踏切地点を示すために助走路および砂場の表面と同じ高さに踏切板を埋める。踏切板の砂場に近い方の端を踏切線と呼ぶ。踏切線のすぐ先に、判定しやすいように粘土板を置くことができる。 〔注意〕 【TR29.5 に移動】 助走路の踏切板部分にあらかじめ粘土板を設置するように施工されている場合、粘土板を使用しないのであれば、その窪みは埋める必要がある。	踏切板 踏切地点を示すために助走路および砂場の表面と同じ高さに踏切板を埋める。踏切板の砂場に近い方の端を踏切線と呼ぶ。踏切線のすぐ先に、判定しやすいように粘土板を置くことができる。
TR29.5	あらゆる競技会において、審判長が TR30.1 を適用した判定を行うことを支援するために、ビデオカメラや他の技術を用いた機器を使用することを強く推奨する。但し、こういった機器が使用できない場合は、粘土板を使用することができる。	あらゆる競技会において、審判長が TR30.1 を適用した判定を行うことを支援するために、ビデオカメラや他の技術を用いた機器を使用することを強く推奨する。但し、こういった機器が使用できない場合は、 踏切線のすぐ先に設置した粘土板を使用することができる。

TR29.5		<p>【注意】 【TR29.3 から移動】</p> <p>i <u>助走路の踏切板部分にあらかじめ粘土板を設置するように施工されている場合、粘土板を使用しないのであれば、その窪みは埋める必要がある。</u></p> <p>ii <u>踏切板は幅 200mm の白色部分と幅 100mm の対照的な色部分が一体となった、幅 300mm の単一の板として作成することができる。即ち、踏切板設置位置の窪みを、踏切板と窪みを埋める器具とを一体で形成したものでよい。</u></p>
TR30.1.1	競技者が踏切る際、跳躍しないで走り抜ける中で、あるいは跳躍の動きの中で、踏切足または踏切足の靴のどこかが、踏切板から離れる前に、または地面から離れる前に、踏切線の垂直面より前に出た時。	<p>競技者が踏切る際、跳躍しないで走り抜ける中で、あるいは跳躍の動きの中でのいかなる時にも、踏切足または踏切足の靴の前部のどこかが、踏切板から離れる前に、または地面から離れる前に、踏切線の垂直面より前に出た時。</p> <p>【注意】 靴本体ではなく、靴紐など靴の緩んだ部分が踏切線の垂直面より前に出た時は、無効試技とは見なさない。</p>
TR30.3 グリーン	—	<p>TR30.1.1 は踏切時の靴と足の前部の位置に着目しており、手や腕が先に前に出たり、踏切中に身に着けていたアクセサリが落ちたりといった、他の身体部位やアイテムが垂直面より前に出るかどうかは関係がない。同様に、靴紐の緩みなどが垂直面を出たとしても、判定には関係ない。</p>
TR31.2	競技者はホップで踏切った同じ足で…。跳躍中に「振り出し足」が地面に触れても、無効試技とはならない。	<p>競技者はホップで踏切った同じ足で…。 試技中に「振り出し足」が地面に触れても、無効試技とはならない。</p>
TR31.3 見出し	踏切線	踏切線・踏切区域
TR31.4	国際競技会では踏切板を男女で分けて行う。	競技会のレベルに応じて必要な場合は、踏切板を男女で分けて行う。
TR32.1	国際競技会で使用する用具（投てき物）は、WA が定める現行の規格に合致したものでなければならない。	<p>ワールドランキングコンペティションで使用する用具（投てき物）は、WA が定める現行の規格に合致したものでなければならない。投てき物は WA 認証品のみとする。</p> <p>【国内】 ワールドランキングコンペティションでは WA 認証品のみを使用する。但し、WA 認証品かどうかの証明は、持込んだ競技者が行う。</p>
TR32.1	<p>【注意】 現行の標準の用具認証および更新申請書は WA 事務局あるいは WA のウェブサイトから入手できる。</p>	<p>【注意】</p> <p>i 現行の標準の用具認証および更新申請書は WA 事務局あるいは WA のウェブサイトから入手できる。</p> <p>ii WA がカテゴリーを定めている年齢未満、パラ競技会、マスター競技会で一般的に使用される他の用具の推奨重量と仕様は、WA のウェブサイトに掲載される。</p>
TR32.2	<p>【国内】 本連盟が主催、共催する競技会においては、用具（投てき物）は主催者が用意する。これらの競技会で…ができる。ただし、主催者が用意した用具（投てき物）としてリストに記載されていない場合で、本連盟検定済みのもので、競技前に主催者により検査を受け合格のマークが記したものでなければならない。このとき、すべての競技者が使用できることが条件となる。技術総務が特に決めない限り、投てき種目に出場する競技者はどの種目であっても、2 個まで個人所有の用具（投てき物）の使用（持込み）が認め</p>	<p>【国内】 本連盟が主催、共催する競技会においては、用具（投てき物）は主催者が用意する。これらの競技会で…ができる。ただし、主催者が用意した用具（投てき物）としてリストに記載されていない場合で、本連盟検定済みのもので、競技前に主催者により検査を受け合格のマークが記したものでなければならない。このとき、すべての競技者が使用できることが条件となる。技術総務が特に決めない限り、投てき種目に出場する競技者はどの種目であっても、2 個まで個人所有の用具（投てき物）の使用（持込み）が認め</p>

	<p>られる。</p> <p>〔国際〕 以下に述べる場合を除き、用具（投てき物）は主催者が用意する。技術代表は……条件となる。そのような用具（投てき物）と同モデルが、主催者が用意した用具（投てき物）としてリストに記載されている場合は認められない。 技術代表が特に決めない限り、投てき種目に出場する競技者はどの種目であっても、2個まで個人所有の用具（投てき物）の使用（持込み）が認められる。</p>	<p>られる。</p> <p>尚、主催者は〔国際〕を適用し、主催者が用意した用具（投てき物）としてリストに記載されているものであっても、2個まで個人所有の用具（投てき物）の使用（持込み）が認めることができる。</p> <p>〔国際〕 以下に述べる場合を除き、用具（投てき物）は主催者が用意する。技術代表は……条件となる。 技術代表が特に決めない限り、投てき種目に出場する競技者はどの種目であっても、2個まで個人所有の用具（投てき物）の使用（持込み）が認められる。</p>
TR32.3	<p>競技会中はどの用具に対しても、変形させたり調整したりしてはならない。</p>	<p>競技会中はどの用具に対しても、変形させたり調整したりしてはならない。 唾液や汗を用具に吹き付けたり、その他の方法で塗りつけたりすることは許されない。</p>
TR32.4.4	<p>〔注意〕 審判員がこうした助力行為に気づいたら、この規則に従わない競技者に対して是正するよう、指示しなければならない。競技者が従わなければ、その試技は無効としなければならない。規則違反に気づく前に試技が行われていた場合、審判長はどのような判定をするか決めなければならない。悪質と考えられる場合は、CR18.5、TR7.2を適用することができる。</p>	<p>〔注意〕 審判員がこうした助力行為に気づいたら、この規則に従わない競技者に対して是正するよう、指示しなければならない。競技者が従わなければ、その試技は無効としなければならない。違反に気づく前に試技を行っていたとしても、無効試技としなければならない。悪質と考えられる場合は、TR7.1 および TR7.3を適用することができる。</p>
TR32.9	<p>国際競技会定義1.1～1.3、1.5、1.6に該当する競技会においては、最短で33m500とする。条件が許せば36m500以上であることが望ましい</p>	<p>やり投の助走路の長さは最短で 30mとする。但し、ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)(d)と 2. (a)(b)に該当する競技会では、最短で 33m500 とする。条件が許せば 36m500 以上であることが望ましい。</p>
TR32.14.2	<p>〔注意〕 但し、サークルに入り最初の回転動作を行う際に、サークルの中心を見通してサークルの両側の外に引かれた脇の白線より完全に後方のサークルの外側の地面に足が触れても、推進力を得ることがなければ（外に出た足が地面に触れる程度であれば）、無効とはしない。</p>	<p>〔注意〕 但し、サークルに入り最初の回転動作を行う際に、サークルの中心を見通してサークルの両側の外に引かれた脇の白線より完全に後方のサークルの外側の地面に足が触れても、無効とは見なさない。 また、靴の緩んだ部分（靴紐など）や衣服、身体につけていたその他のアイテム（帽子など）が、投てき開始時、投てき中または投てき後に、足留材上部に触れたとしても、無効とは見なさない。</p>
TR32.14 グリーン	<p>… TR32.14.2〔注意〕は、砲丸投、円盤投またはハンマー投で競技者が行う回転技術に適用される。第1回目の回転中のサークル後半部に関して、縁部の上端または外側の地面への「偶発的な」接触は、その事実だけでは無効試技とはみなさないと解釈されるべきである。しかし、それを利用することによって推進力を得て、優位性の獲得につながるあらゆる技術（テクニク）は無効試技と定義されることは明らかである。 囲いの境界とは、……定義される。</p>	<p>… TR32.14.2〔注意〕は、砲丸投、円盤投またはハンマー投で競技者が行う投げ始めの 1 周目の回転技術に適用される。1 周目の回転中のサークル後部における縁部の上端または外側の地面への「偶発的な」接触は、その事実だけでは無効試技とはみなさないと解釈されるべきである。 囲いの境界とは、……定義される。 加えて、TR32.14.2 が意図しているのはサークルの限界を定めた目的を重視し、競技者がサークルから正しく出るまでサークル内に留まることを遵守させることである。 バランスを崩しすぎない限り、重要なのは足や靴の位置だけである。サークルの縁の鉄製円形リング上端部や外側の地面、あるいは足留材の上部に、緩んだ靴紐などが触れたり、試技中に選手の体から落ちた帽子やアクセサリが触れたりしても関係ない。</p>

TR32.15	〔注意〕 この条文で許される動作は TR25.17の制限時間に含まれる。	〔注意〕 当該規則 で許される動作は TR25.17の制限時間に含まれる。
TR32.16	砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が最初に着地して残した痕跡が、区画ラインや区画ラインの外側地面、あるいは他の物体（TR32.14〔注意〕による囲いを除く）に触れた場合は、無効試技とする。	砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が最初に着地して残した痕跡が、区画ラインや区画ラインの外側地面、あるいは他の物体（ TR32.14〔注意〕 ii による囲いを除く）に触れた場合は、無効試技とする。
TR32.20 グリーン	…。 ビデオ距離計測が使用されている場合を除いて、有効な試技ごとにマーカー（通常は金属製）を、踏切線に最も近い着陸エリアに競技者が残した痕跡に垂直に刺す必要がある。	…。 ビデオ距離計測が使用されている場合を除いて、有効な試技ごとにマーカー（通常は金属製）を、 サークルの円弧 に最も近い着陸エリアに競技者が残した痕跡に垂直に刺す必要がある。
TR33.2	〔注意〕 WA1983/1984 仕様の足留材は引き続き許可される。	〔注意〕 1983/1984仕様 の足留材は引き続き認められる。
TR33.4	砲丸は、鉄、真ちゅう、真ちゅうより…その表面の仕上げは滑らかとする。 滑らかであるためには表面の荒さは1.6 μm 未満、即ちラフネスナンバー N7未満でなければならない。	砲丸は、鉄、真ちゅう、真ちゅうより…その表面の仕上げは滑らかとする。 砲丸の中に詰め物を使用する場合、詰め物は動かず、TR 36.5 に定義されている重心の要件を満たすような方法で挿入されなければならない。 滑らかであるためには 平均的な 表面の荒さは1.6 μm 以下、即ちラフネスナンバー N7以下でなければならない。
TR34.1	円盤の胴体は中身が充填されていても中空でもよく、木またはその他の適当な材質と金属の縁枠でできており、縁枠の角は円くなっている。縁の断面は半径6mmの正しい円弧とする。金属の板を両面の中心に水平にはめ込んでもよい。 別の仕様として、もしその部分が平面で用具の寸法や総重量が仕様に一致していれば、金属板なしで円盤をつくってよい。 円盤の両面は同一であり、…	円盤の胴体は中身が充填されていても中空でもよく、木またはその他の適当な材質と金属の縁枠でできており、縁枠の角は円くなっている。縁の断面は半径 6 mmの正しい円弧とする。金属の板を両面の中心に水平にはめ込んでもよい。 金属の板はしっかりと固定され、回転することがないようにする必要がある。 別の仕様として、もしその部分が平面で用具の寸法や総重量が仕様に一致していれば、金属板なしで円盤をつくってよい。 緩んだ部分があってはならない。 円盤の両面は同一であり、…
TR35.4	…〔国際〕… 網目の大きさは、紐で作られた場合は最大45mmとする。…	…〔国際〕… 網目の中心の大きさは、紐で作られた場合は最大45 mm、鋼製ワイヤーの場合は最大 50 mmとする。…
TR36.6		〔注意〕 長さ 500 mm、内径 5 mmの透明なビニールチューブの小さな部品を、ワイヤーの端のねじった部分に被せても良い。
TR37.3	〔注意〕 サークル後部については、中心から最低3m500離れてさえいれば、それがパネルであるか網目であるかは大きな問題ではない。	〔注意〕 i サークル後部については、中心から最低 3m 500 離れてさえいれば、それがパネルであるか網目であるかは大きな問題ではない。 ii ハンマー投囲いの図で示す位置でネットを支持するために、任意の数の支柱を使用することができる。
TR37.4	従来の形状に比較して同程度の防護機能を備え、危険区域が拡大していなければ、新式の形状は WA から承認を受けることができる。	従来の形状に比較して同程度 以上 の防護機能を備え、危険区域が拡大していなければ、新式の形状は WA から承認を受けることができる。
TR37.5	…〔国際〕… 網目の大きさは、紐で作られた場合は最大45mmとする。…	…〔国際〕… 網目の中心の大きさは、紐で作られた場合は最大45 mm、鋼製ワイヤーの場合は最大 50 mmとする。…

TR38.7		<p>〔注意〕 先端に安全対策がなされた構造のやりの場合、先端から3mmまでの金属製頭部は、先端の角度を無視してもよい。</p>
TR38.8	<p>グリップの厚さは均一でなければならない。グリップは重心のまわりを巻き、その直径は柄の直径より8mmを超えてはならない。</p>	<p>グリップの厚さは均一でなければならない。グリップは重心のまわりを巻き、その直径は柄の平均直径より8mmを超えてはならない。</p>
TR38.9	<p>… グリップから頭部先端および後部末尾に至る縦断面は直線であるか、もしくは、わずかなふくらみがあってもよいが（〔注意〕ii参照）、頭部の直前の部分およびグリップの直前、直後の部分を除き、やりの長さの全体を通して直径に急な変化をつけてはならない。やりの頭部の後ろの部分における直径の減少は2.5mm以下とし、この縦断面に求められる(直径の急な変化禁止の)要件に例外が認められるのは、先端部から300mm以下の範囲である。</p>	<p>… グリップから頭部先端および後部末尾に至る縦断面は直線であるか、もしくは、わずかなふくらみがあってもよいが（〔注意〕ii参照）、頭部の直前の部分およびグリップの直前、直後の部分を除き、やりの長さの全体を通して直径に急な変化をつけてはならない。やりの頭部の後ろの部分における直径の減少は2.5mm以下とする。</p>
TR38.10	<p>【2023年度ルールブック P.232・P.260】 <U18 男子・やり> 700g L0: 2m300~2m400 L1: 860mm~1m000 L2: 1m300~1m540 L3: 250~330mm L4: 150~160mm D0: 23~28mm</p>	<p><U18 男子・やり> 700g L0: 2m400~2m500 L1: 850mm~990mm L2: 1m410~1m650 L3: 250~330mm L4: 150~160mm D0: 23~28mm 【2025.4.1 から適用】</p>
TR38 図	<p>〔注意〕 直径の計測は0.1mm単位でなければならない</p>	<p>〔注意〕 直径の計測は0.1mm未満の精度で行わなければならない。</p>
TR39.8.5	<p>混成競技での最終種目のスタートの並び順やレーン順は、〔国際〕技術代表または混成審判長が望ましいと判断したとおりに決めることができる。それ以外の種目の試技順やレーン順は抽選によって決める。</p>	<p>混成競技での最終種目のスタートの並び順やレーン順は、〔国際〕技術代表または混成審判長が望ましいと判断したとおりに決めることができる。 200m 競走と 400m 競走では、TR20.3.1 に従い競技者を順位付けした後に、それぞれ TR20.4.4 および TR20.4.5 に従ってレーン順を決めなければならない。 それ以外の種目の試技順やレーン順は抽選によって決める。</p>
第5部	<p>第5部 室内競技</p>	<p>第5部 200mトラック（ショート・トラック）競技</p>
TR40	<p>TR40. 屋外競技規則の室内競技への適用</p> <p>競技規則・第5部およびTR17、29に記されている風力が要件となる規則を除いて、以下の競技規則で定められた内容以外は、屋外競技の第1部から第4部の競技規則（TR）が室内競技にも適用される。</p>	<p>TR40. 400mトラック競技規則のショート・トラック競技への適用</p> <p>競技規則・第5部および、壁で囲まれ、かつ屋根で覆われている施設で達成された記録は、TR17、29に記されている風力が要件となる規則を除いて、以下の競技規則で定められた内容以外は、400mトラックに適用される競技規則の第1部から第4部の競技規則（TR）が、200mトラック（ショート・トラック）で行われる競技にも適用される。</p> <p>〔注釈〕 ショート・トラック（200mトラック）とは、1周200mまでのトラックを示す。</p>

TR41	TR41. 室内競技場	TR41. ショート・トラック競技場
TR41.1	室内競技場は完全に壁で囲まれ、かつ屋根で覆われていなければならない。照明、暖房、換気設備は、競技会運営が満足のいく状態となるよう備え付けられていなくてはならない。	競技場は完全に壁で囲まれ、かつ屋根で覆われていても差し支えない。壁で囲まれ、かつ屋根で覆われている場合は、照明、暖房、換気設備が競技会運営を行う上で、満足のいく状態となるよう備え付けられていなくてはならない。
TR41.3	… 国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 に該当する室内競技会は、WA による室内競技施設認定を受けた施設で実施する。国際競技会定義 1.4、1.5、1.7～1.10 に該当する競技会も、このような施設で実施することが推奨される。	… ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当するショート・トラックでの競技会は、WA によるショート・トラック競技施設認定を受けた施設で実施する。ワールドランキングコンペティション定義 1. (d)(e)と 2. (c)(d)(e)に該当する競技会も、このような施設で実施することが推奨される。
TR41	〔注意〕 i 弾むような箇所とは、競技者に特別な助力を与えるように意図的に設計、デザインされ、建設された箇所のこと。 ii WA 陸上競技施設マニュアルには、トラックの計測やマーキングのための図を含むショート・トラック競技場の構造や設計のための詳細や規定する仕様が含まれており、WA 事務局あるいは WA ウェブサイトからダウンロードにより入手可能である。 iii WA の施設公認手続き方法をはじめ、申請のための標準書式や計測報告書書式は、WA 事務局あるいは WA ウェブサイトからダウンロードにより入手可能である。	〔注意〕 【TR41.4 の〔注意〕に変更】 ± 弾むような箇所とは、競技者に特別な助力を与えるように意図的に設計、デザインされ、建設された箇所のこと。 【TR41 の〔注意〕に変更】 ± i WA 陸上競技施設マニュアルには、トラックの計測やマーキングのための図を含む ショート・トラック 競技場の構造や設計のための詳細や規定する仕様が含まれており、WA 事務局あるいは WA ウェブサイトからダウンロードにより入手可能である。 ± ii WA の施設公認手続き方法をはじめ、申請のための標準書式や計測報告書書式は、WA 事務局あるいは WA ウェブサイトからダウンロードにより入手可能である。
TR41 グリーン	適切な照明の不足は室内競技会の共通の問題である。屋根で覆われたスタジアムは競技の正確で公正な実施を可能にする照明を備えていなければならない。テレビの中継がある場合、照明レベルはより高くする必要がある。フィニッシュライン付近は写真判定装置のために追加の照明を必要とすることがある。	適切な照明の不足は 屋根付の競技場で行われる 競技会の共通の問題である。屋根で覆われたスタジアムは競技の正確で公正な実施を可能にする照明を備えていなければならない。テレビの中継がある場合、照明レベルはより高くする必要がある。フィニッシュライン付近は写真判定装置のために追加の照明を必要とすることがある。
TR42	TR42. 直走路（屋内） 屋外競技規則および WA 陸上競技施設マニュアル参照。	TR42. 直走路（ショート・トラック） 400mトラック 競技規則および WA 陸上競技施設マニュアル参照。
TR43	TR43. 周回トラックおよびレーン（室内）	TR43. 周回トラックおよびレーン（ショート・トラック）
TR43.1	トラック1周の通常の長さは、200mが望ましい。トラックは、平行である二つの直走路と、同じ半径でかつ傾斜（バンク）してもよい二つの曲走路から構成される。…	トラック トラック1周の 標準 の長さは 200mとする（ 200mトラック ）。トラックは、平行である二つの直走路と、同じ半径でかつ傾斜（バンク）してもよい二つの曲走路から構成される。…
TR43.4	〔注意〕 WA が直接主催する室内競技会では、内側に縁石を使用することを強く推奨する。	〔注意〕 WA が直接主催する ショート・トラック 競技会では、内側に縁石を使用することを強く推奨する。
TR43.4 グリーン	… 旗またはコーンを置くときは、第1レーンの内側にある白線がそのレーンに含まれないということを考慮する必要がある（つまり白線の土に置くべき）。室内競技会では、縁石でなくコーンを使用することが推奨される。	… 旗またはコーンを置くときは、第1レーンの内側にある白線がそのレーンに含まれないということを考慮する必要がある。 ショート・トラックで行われる 競技会では、縁石でなくコーンを使用することが推奨される。

TR44	TR44. 周回トラックのスタートおよびフィニッシュ (室内)	TR44. 周回トラックのスタートおよびフィニッシュ (ショート・トラック)
TR44.1	200mの傾斜した室内トラックの構造とマーキングに関する詳細は、WA 陸上競技施設マニュアルに記載されている。その中の基本的原則を以下に示す。	標準的な傾斜のあるショート・トラックの構造とマーキングに関する詳細は、WA 陸上競技施設マニュアルに記載されている。その中の基本的原則を以下に示す。
TR44.6	〔注意〕 i 国際競技会定義 1.1~1.3、1.6 に該当しない競技会では、800mについては参加チームの合意によりレーンを使用しないで行うことができる。	〔注意〕 i ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当しない競技会では、800mについては参加チームの合意によりレーンを使用しないで行うことができる。
TR45	TR45. トラック競技におけるレーンの抽選 (室内)	TR45. トラック競技におけるレーンの抽選 (ショート・トラック)
TR45.1	ランキングや予選の組み合わせは TR20.3に従って作成する。	ランキングや予選の組み合わせは TR20.3に従って作成する。 〔注意〕 i. 実施するラウンドの数や予選の数を定めるための表や、あらかじめ競技注意事項等で規定されていない場合や主催者が決めていない場合には、WA のウェブサイトに掲載されている組分け方法 (テーブル) を使用してもよい。 ii. <u>〔国際〕準決勝および決勝において棄権により空いたレーンについて、前ラウンドで当該ラウンドに進出する資格を獲得した競技者の次にランク付けされた者で補充することを、適用する規則で定めることができる。</u>
TR45.3	その他の種目の場合、レーン順は TR20.4.1~20.4.2、20.5に従って決定をする。	その他の種目の場合、レーン順は TR20.4.1~ 20.4.3 、20.5に従って決定をする。
TR47	TR47. ハードル競走 (室内)	TR47. ハードル競走 (ショート・トラック)
TR47.1	標準の距離はフィールド内直走路で 50mまたは60mとする。	標準の距離は 直走路トラック で50mまたは60mとする。
TR48	TR48. リレー競走 (室内)	TR48. リレー競走 (ショート・トラック)
TR48	〔注意〕 室内のリレー競走は狭いレーンのため、屋外のリレー競走よりも衝突や意図しない妨害がとてもしやすい。それ故、可能ならば空きのレーンが各チームの間にあることが望ましい。	〔注意〕 ショート・トラック のリレー競走は狭いレーンのため、 400m トラック のリレー競走よりも衝突や意図しない妨害がとてもしやすい。それ故、可能ならば空きのレーンが各チームの間にあることが望ましい。
TR49	TR49. 走高跳 (室内)	TR49. 走高跳 (ショート・トラック)
TR50	TR50. 棒高跳 (室内)	TR50. 棒高跳 (ショート・トラック)
TR51	TR51. 長さの跳躍 (室内)	TR51. 長さの跳躍 (ショート・トラック)
TR52	TR52. 砲丸投 (室内)	TR52. 砲丸投 (ショート・トラック)
TR52.3	室内競技場の限られた空間を考慮して、防止柵によって囲まれた場所は34.92度の扇形全部を含む広さでなくてもよい。そのような場合は、以下の条件を適用する。	競技エリアのスペースが限定される場合 、防止柵によって囲まれた場所は34.92度の扇形全部を含む広さでなくてもよい。そのような場合は、以下の条件を適用する。
TR52.6	… 表面の荒さは 1.6µm 未満、即ちラフネスナンバー N7 未満でなければならない。	… 表面の 平均的な荒さは1.6µm 以下 、即ちラフネスナンバー N7以下 でなければならない。
TR53	TR53. 混成競技 (室内)	TR53. 混成競技 (ショート・トラック)
TR54.1	競歩競技の標準となる距離は、室内では 3,000m、5,000m とし、屋外では 5,000m、10km、10,000m、20km、20,000m、35km、35,000m、50km、50,000m とする。	競歩競技の標準となる距離は、 ショート・トラック では3,000m、5,000m とし、 400m トラック では 5,000m、10,000m、20,000m、35,000m、50,000m とする。道路のコースでは 10km, 20km, 35km, 50km とする。
TR54.3.3	国際競技会定義 1.1 に該当する競技会では、競歩審判員は WA レベルの国際競歩審判員でなくてはならない。国際競技会定義 1.2、1.3、1.5~1.7、	該当する競技会では、競歩審判員は CR 9 に従って任命されなければならない。

	1.10 に該当する競技会では、競歩審判員は WA レベルまたは地域レベルの国際競歩審判員でなければならない。	
TR54.3.6	国際競技会定義 1.1 に該当する競技会では一つの加盟団体から 2 人以上の国際審判員（競歩審判員主任は除く）が任命されることはない。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b) に該当する競技会 では一つの加盟団体から 2 人以上の国際審判員（競歩審判員主任は除く）が任命されることはない。
TR54.3.6	〔注意〕 加盟団体の国際競歩審判員は WA レベルまたは地域陸連レベルの国際競歩審判員として、最新の名簿に登録されていること。	〔注意〕 加盟団体の国際競歩審判員は WA ゴールド、シルバー、ブロンズレベルの競歩審判員 として、最新の名簿に登録されていること。
TR54.4.1	競歩審判員主任は、国際競技会定義 1.1～1.4、1.6 に該当する競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会では、…	競歩審判員主任は、 ワールドランキングコンペティションに該当する全ての競技会 ならびに本連盟が主催、共催する競技会では…
TR54.4.2	競歩審判員主任は競技会の役員を監督しなければならない。また、国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 に該当する競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会では、2人以上競歩審判員主任補佐を任命しなければならない。	競歩審判員主任は競技会の役員を監督しなければならない。また、 ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c) と 2. (a)(b) に該当する競技会 ならびに本連盟が主催、共催する競技会では、2人以上競歩審判員主任補佐を任命しなければならない。
TR54.4.3	国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 に該当する競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会およびできる限り他の大会でも、掲示板係と競歩記録員を任命しなければならない。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c) と 2. (a)(b) に該当する競技会 ならびに本連盟が主催、共催する競技会およびできる限り他の大会でも、掲示板係と競歩記録員を任命しなければならない。
TR54.7.2	国際競技会定義 1.1～1.3、1.5 の競技会では、いかなる場合でも、同じ加盟団体の 2 人の審判員が失格させる権限をもたない。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)(d) に該当する競技会 では、いかなる場合でも、同じ加盟団体の 2 人の審判員が失格させる権限をもたない。
TR54.7.2	〔注意〕 加盟団体の国際競歩審判員は WA レベルまたは地域陸連レベルの国際競歩審判員として、最新の名簿に登録されていること。	加盟団体の国際競歩審判員は WA ゴールド、シルバー、ブロンズレベルの競歩審判員 として、最新の名簿に登録されていること。
TR54.7.5	TR54.7.3 を適用するいかなる場合でも、4 枚以上のレッドカードが出たら、当該競技者は失格となる。	TR54.7.3 を適用するいかなる場合でも、4 枚以上のレッドカードが出たら、当該競技者は失格となる。 この失格の通知は、競歩審判員主任か競歩審判員主任補佐から行われなければならない。もし、通知を怠ったとしても、当該競技者の失格が取り消されることはない。
TR54.7.6	トラックで行われる競歩では…ならない。失格した競技者がコースまたはトラックから離れない場合、または TR54.7.3 に定められるペナルティゾーンに入ることおよびペナルティゾーン内にとどまることの指示に従わなかった場合は、CR18.5 と TR7.2 に従って罰せられることがある。	トラックで行われる競歩では…ならない。失格した競技者がコースまたはトラックから離れない場合、または TR54.7.3 に定められるペナルティゾーンに入ることおよびペナルティゾーン内にとどまることの指示に従わなかった場合は、 TR7.1 および TR7.3 に従って罰せられることがある。
TR54.7.8	国際競技会定義 1.1 に該当する競技会では、競歩審判員はレッドカードを競歩記録員と掲示板係に知らせるために通信機能付き携帯パソコン端末装置を使用しなければならない。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b) に該当する競技会 では、競歩審判員はレッドカードを競歩記録員と掲示板係に知らせるために通信機能付き携帯パソコン端末装置を使用しなければならない。
TR54.9	国際競技会定義 1.1～1.3、1.6 に該当する競技会では、主催者は道路を全面車両通行止にして、自動車の通行を遮断しなければならない。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c) と 2. (a)(b) に該当する競技会 では、主催者は道路を全面車両通行止にして、自動車の通行を遮断しなければならない。
TR54.10	道路競技における水・スポンジおよび飲食物供給所	道路競歩競技 における水・スポンジおよび飲食物供給所

	道路競技における水・スポンジおよび飲食物供給所は以下の通りとする。	道路競歩競技 における水・スポンジおよび飲食物供給所は以下の通りとする。
TR54.10.6	国際競技会定義 1.1~1.3、1.6 に該当する競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会では、加盟団体（チーム）あたり最大 2 名のチーム役員が同時にテーブルの後方に位置してもよい。...	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当する 競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会では、加盟団体（チーム）あたり最大 2 名のチーム役員が同時にテーブルの後方に位置してもよい。...
TR54.14		この競技規則（CR・TR）が適用されない競歩競技会の場合、適用する特別な規則や競技実施方法を明確にした競技規則を定める必要がある。
TR55.3	... 国際競技会定義 1.1 と、できれば 1.2、1.3、1.6 に該当する競技会においては、測定線を他のマーキングと間違えないように特有の色でコースに沿ってマークする。 〔国際〕 国際競技会定義 1.1~1.3 および 1.6 に該当する競技会における測定誤差許容範囲は、全長の 0.1%(すなわち、マラソンは 42m)より長くなってはならず、コースの長さは WA 公認コース計測員によって事前に確認する。...	... ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b) と、できれば 1. (c)と 2. (a)(b)に該当する 競技会においては、測定線を他のマーキングと間違えないように特有の色でコースに沿ってマークする。 コースの長さは競技の公式距離を下回ってはならない。全てのワールドランキングコンペティション競技会では、測定誤差許容範囲は全長の 0.1%(すなわち、マラソンは 42m)を超えてはならない。コースの長さは国際道路コース計測員によって事前に測定され、確認されていなければならない。 〔国内〕 長距離競走路ならびに競歩路公認に関する細則によって計測する。
TR55.5	〔国際〕 ロードリレーでは、幅 50 mm のライン（基準線）をコース上に引いて、各区間の距離とスタートラインを示す。同様のラインは引継ぎ区間の表示のためにスタートラインの前後 10m にも引く。引継ぎは、主催者が別途規定しない限り、前走者と次走者との間で身体的接触によって行われなければならない。その全ての動作がこの引き継ぎ区域内で完結しなければならない。	〔国際〕 ロードリレーでは、幅 50 mm のライン（基準線）をコース上に引いて、各区間の距離とスタートラインを示す。同様のラインは引継ぎ区間の表示のためにスタートラインの前後 10m にも引く。 全ての引継ぎ（中継）において、次走者はテイク・オーバー・ゾーンの外から走り出してはならず、そのゾーンの中でスタートしなければならない。 引継ぎは、主催者が別途規定しない限り、前走者と次走者との間で身体的接触によって行われなければならない。その全ての動作がこの引き継ぎ区域内で完結しなければならない。 この規則に従わなければ、そのチームは失格となる。
TR55.7	国際競技会定義 1.1~1.3、1.6 に該当する競技会では、主催者は道路を全面車両通行止にして、自動車の通行を遮断しなければならない。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当する 競技会では、主催者は道路を全面車両通行止にして、自動車の通行を遮断しなければならない。
TR55.8	水・スポンジおよび飲食物供給所 水・スポンジおよび飲食物供給所は以下の通りとする。	道路競技における水・スポンジおよび飲食物供給所 水・スポンジおよび飲食物供給所は以下の通りとする。
TR55.8.5	主催者は柵やテーブルを置いて、または地面に印をつけることによって、飲食物を受け取れる区域を示さなければならない。	主催者は柵やテーブルを置いて、または地面に印をつけることによって、飲食物を 準備し 受け取れる区域を示さなければならない。
TR55.8.6	国際競技会定義 1.1~1.3、1.6 の競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会においては、各加盟団体（チーム）最大 2 名の役員が所定区域で同時に待機できる。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)(b)(c)と 2. (a)(b)に該当する 競技会ならびに本連盟が主催、共催する競技会においては、各加盟団体（チーム）最大 2 名の役員が所定区域で同時に待機できる。
TR56.1	56.1 世界クロスカントリー選手権大会における距離は、おおよそ下記の通りとする。	世界クロスカントリー選手権大会における距離は、おおよそ下記の通りとする。

	男子 ロングコース 10km 女子 ロングコース 10km U20 男子 8km U20 女子 6km	シニア 男子 10km シニア 女子 10km U20 男子 8km U20 女子 6km
TR56.3.1	1周が1,500mから2,000mの周回コースを設計しなければならない。必要であるならば個々の種目の所定の距離に合わせるために、…	周回コースは適切に設計されなければならない、1周は1,500mから2,000mの間の長さとするべきである。 必要であるならば個々の種目の所定の距離に合わせるために…
TR56.4.1	コースはその両側をテープではっきりと区画しなければならない。コースの片側に沿い、その外側からしっかりとフェンスをめぐらせた幅1mの通路を、主催者およびメディアの専用（選手権大会では必須）として設けることが望ましい。重要なエリア…	コースはその両側をテープではっきりと区画しなければならない。コースの片側に沿い、その外側から 厳重なフェンスで囲まれた幅1mの通路を、大会関係者およびメディア関係者が使用できるように設置 することが 推奨される 。重要なエリア、…
TR56.5	クロスカンントリーリレーではテイク・オーバー・ゾーンを幅5cmの線で、20m間隔でコースを横切るように引く。主催者が具体的に明記していない限り、走者間での受け渡しはこのゾーンの中で前走者と次走者の身体的接触によって行われなければならない	クロスカンントリーリレーではテイク・オーバー・ゾーンを 幅 300 mm の線で、20m間隔でコースを横切るように引く。 全てのテイク・オーバー・ゾーンにおいて、競技者はテイク・オーバー・ゾーンの外から走り出してはならず、ゾーン内からスタートしなければならない。 主催者が具体的に明記していない限り、走者間での受け渡しはこのゾーンの中で前走者と次走者の身体的接触によって行われなければならない。 この規則に従わなければ、そのチームは失格となる。 [注意] テイク・オーバー・ゾーンの入口と出口には 1m×1mの旗を、2m以上の高さで設置する。緑色の旗は入口を、赤色の旗は出口を示す。
TR56.8	飲料水・スポンジおよび飲食物供給所	クロスカンントリー競走における飲料水・スポンジおよび飲食物供給所
TR56.9 グリーン	… フィニッシュ順に関する 上訴 があった際に対応できるよう、競技者の着順を記録するビデオ録画機器（可能であればフィニッシュ時間がわかるもの）を扱う審判員が割り当てられ、フィニッシュラインの数メートル後方に配置される。	… フィニッシュ順に関する 抗議や上訴 があった際に対応できるよう、競技者の着順を記録するビデオ録画機器（可能であればフィニッシュ時間がわかるもの）を扱う審判員が割り当てられ、フィニッシュラインの数メートル後方に配置される。
TR57.12.1	クラシック Uphill : ジュニア（男子・女子） 5～6km シニア（男子・女子） 10～12km	クラシック Uphill : シニア（男子・女子） 10～12km U20 （男子・女子） 5～6km
TR57.12.2	クラシック Up & Down : ジュニア（男子・女子） 5～6km シニア（男子・女子） 10～12km	クラシック Up & Down : シニア（男子・女子） 10～12km U20 （男子・女子） 5～6km

CR32.10 世界記録として認められる種目

種目		男子	女子	U20 男子	U20 女子	計時方法
競走競技	50m	○	○	—	—	写
	60m	○	○	○	○	写
	100m	○	○	○	○	写
	200m	○	○	○	○	写
	200m sh	○	○	○	○	写
	400m	○	○	○	○	写
	400m sh	○	○	○	○	写
	800m	○	○	○	○	写
	800m sh	○	○	○	○	写
	1,000m	○	○	○	○	写・手
	1,000m sh	○	○	○	○	写・手
	1,500m	○	○	○	○	写・手
	1,500m sh	○	○	○	○	写・手
	1 マイル	○	○	○	○	写・手
	1 マイル sh	○	○	○	○	写・手
	2,000m	○	○	—	—	写・手
	3,000m	○	○	○	○	写・手
	3,000m sh	○	○	○	○	写・手
	5,000m	○	○	○	○	写・手
	5,000m sh	○	○	○	○	写・手
10,000m	○	○	○	○	写・手	
1 時間	○	○	—	—	写・手	
3000m 障害	○	○	○	○	写・手	
ハードル競走	50mハードル	○	○	—	—	写
	60mハードル	○	○	○	○	写
	100mハードル	—	○	—	○	写
	110mハードル	○	—	○	—	写
	400mハードル	○	○	○	○	写
フィールド競技	走高跳	○	○	○	○	—
	棒高跳	○	○	○	○	—
	走幅跳	○	○	○	○	—
	三段跳	○	○	○	○	—
	砲丸投	○	○	○	○	—
	円盤投	○	○	○	○	—
	ハンマー投	○	○	○	○	—
	やり投	○	○	○	○	—
混成競技	五種競技 sh	—	○	—	○	写
	七種競技	—	○	—	○	写
	七種競技 sh	○	—	○	—	写
	十種競技	○	○	○	○	写
競歩競技	3,000m sh	—	○	—	—	写・手
	5,000m sh	○	—	—	—	写・手
	10,000m	—	○	○	○	写・手
	10km	—	—	○	○	写・手・ト
	20,000m	○	○	—	—	写・手
	20km	○	○	—	—	写・手・ト
	30,000m	○	—	—	—	写・手
	35,000m	○	○	—	—	写・手
	35km	○	○	—	—	写・手・ト
	50,000m	○	○	—	—	写・手
50km	○	○	—	—	写・手・ト	

種目		男子	女子	U20 男子	U20 女子	計時方法
道路競走	道路競走 1 マイル	○	○	—	—	写・手・ト
	5km	○	○	—	—	写・手・ト
	10km	○	○	—	—	写・手・ト
	ハーフマラソン	○	○	—	—	写・手・ト
	マラソン	○	○	—	—	写・手・ト
	50km	○	○	—	—	写・手・ト
	100km	○	○	—	—	写・手・ト
	ロードリレー42.195km	○	○	—	—	写・手・ト
リレー競走	4×100m	○	○	○	○	写
	4×200m	○	○	—	—	写
	4×200m sh	○	○	—	—	写
	4×400m	○	○	○	○	写
	4×400m sh	○	○	—	—	写
	4×400m男女混合*	○	○	—	—	写
	4×800m	○	○	—	—	写・手
	4×800m sh	○	○	—	—	写・手
	4×1,500m	○	○	—	—	写・手
	ディスタンスメドレー	○	○	—	—	写・手

*男女混合種目（ユニバーサル種目）

CR34.10 日本記録・公認記録として認められる種目

種目		男子	女子	U20 男子	U20 女子	U18 男子	U18 女子	日本記録 計時方法	公認 男子	公認 女子	公認記録 計時方法	
競走競技	50m	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手	
	55m	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手	
	60m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手	
	100m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手	
	150m	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手	
	200m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手	
	200m sh	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手	
	300m	○	○	—	—	—	—	—	○	○	写・手	
	300m sh	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手	
	400m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手	
	400m sh	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手	
	500m	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	500m sh	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	600m	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	600m sh	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	800m	○	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手
	800m sh	○	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手
	1,000m	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	1,000m sh	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	1,500m	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	1,500m sh	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	1 マイル (T)	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	1 マイル (T) sh	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	2,000m	○	○	—	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	2,000m sh	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	3,000m	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	3,000m sh	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	2 マイル	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	2 マイル sh	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	5,000m	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	5,000m sh	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	10,000m	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手
	15,000m	○	—	—	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
1 時間	○	○	—	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手	
2000m 障害	—	—	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手	
3000m 障害	○	○	○	○	○	○	○	写・手	○	○	写・手	
ハードル競走	50mハードル	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手	
	55mハードル	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手	
	60mハードル	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手	
	100mハードル	—	○	—	○	—	○	写	○	○	写・手	
	110mハードル	○	—	○	—	○	—	写	○	○	写・手	
	300m ハードル	—	—	○	○	○	○	写	○	○	写・手	
	400mハードル	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手	
フィールド競技	走高跳	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	
	棒高跳	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	
	走幅跳	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	
	三段跳	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	
	砲丸投	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	
	円盤投	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	
	ハンマー投	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	
やり投	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—		

種目		男子	女子	U20 男子	U20 女子	U18 男子	U18 女子	日本記録 計時方法	公認 男子	公認 女子	公認記録 計時方法
混成競技	五種競技 sh	—	○	—	○	—	○	写	○	○	写・手
	七種競技	—	○	—	○	—	○	写	○	○	写・手
	七種競技 sh	○	—	○	—	○	—	写	○	○	写・手
	八種競技	—	—	—	—	○	—	写	○	○	写・手
	十種競技	○	○	○	○	—	—	写	○	○	写・手
競歩競技	3,000m	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	3,000m sh	—	○	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	5,000m	○	○	—	○	—	○	写・手	○	○	写・手
	5,000m sh	○	—	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	5km	—	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	10,000m	○	○	○	○	○	—	写・手	○	○	写・手
	10km	○	○	○	○	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	15,000m	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	15km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	20,000m	○	○	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	20km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	30,000m	○	—	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	30km	○	—	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	35,000m	○	○	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	35km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	男女混合競歩リレー*※	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手・ト
	50,000m	○	—	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
50km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト	
道路競技	1 マイル (R)	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	5km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	10km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	15km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	10 マイル	○	—	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	20km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	ハーフマラソン	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	25km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	30km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	マラソン	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	50km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
	100km	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト
ロードリレー ※	○	○	—	—	—	—	写・手・ト	○	○	写・手・ト	
リレー競走	4×100m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手
	4×200m	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	4×200m sh	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	100+200+300+400m	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	4×400m	○	○	○	○	—	—	写	○	○	写・手
	4×400m sh	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	4×400m男女混合*	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	4×800m	○	○	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	4×800m sh	○	○	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	4×1,500m	○	○	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	ディスタンスメドレー	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手

*男女混合種目 (ユニバーサル種目)

※42.195 km

WRk競技会に関するお願い

加入団体の競技会にご注意ください

再掲事項であるが更新された記載は青字で表記

確認事項 WRk競技会について(再掲)

<WRK の条件>

- 必ず事前申請でオンラインによる手続きが必要
 - 遅くとも60日前までに、実施種目、開催場所などを申請しないといけない
 - WAラベル大会、コンチネンタルツアーなどWA、AAが認証する国際競技会もオンライン申請に移行。(対応者:ラベル=大会事務局 CT=陸連事務局)
 - 申請料を支払う必要がある
- WRk競技会にするにはWA規則に準拠していなければならない
 - WA規則に沿った器具の使用
 - ロードはWA認証のコース検定が必要、
 - 競歩はU20以下を除き、3名以上のIRWJが必要

確認事項 WRk競技会について(再掲)

<WRK の条件>

- 大会終了後**24 時間以内に記録の報告**が必要
 - WRk競技会は一つの競技会のなかでも対象とする種目と対象としない種目に分けることができる
 - WRk競技会は WA カレンダーに掲載され、ラベルが付与される
 - WRk大会における記録は国際大会などの参加標準記録やワールドランキングの対象となる**
- WRk非対象大会は、世界記録相当でも世界記録公認されず、国際大会の資格記録にはならずランキングにも反映されない

確認事項 WRk競技会について(再掲)

<申請に必要な項目>

- 大会名(英語名称)
 - 大会会場(英語名称)
 - 大会期日
 - WRk実施種目(年齢カテゴリー+種目名)
 - 大会情報掲載ページURL
 - 大会記録掲載ページURL
 - 大会情報発信ページURL(streaming page情報など)
 - 大会問い合わせ先(メールアドレスなど)
 - 競歩種目実施の場合IRWJ3名の氏名など
- 申請料1大会あたりの申請料(4000円)が必要

確認事項

WRk競技会について(再掲)

<競技運営>

- WA規則で大会を運営すること
特に記録や計測に関わる部分の適用計測器具
- 投てき器具
- 計測方法など(WAに承認された器具・方法)
- ロードはWA認証コース、
- 競歩はWA認証コース、IRWJ3名以上が必要

確認事項

WRk競技会について(再掲)

・800mまでの競走:写真判定を利用しているか? SISの使用は必須ではない。

→ただし、エリア記録(アジア記録)以上が出た場合は、短距離種目は認定されない。

・計測機器:WAの認定を受けているものを使用しているか?

透過式計測器を使用してもよい(走幅跳及び三段跳)

→ただし、エリア記録(アジア記録)以上が出た場合は、鋼鉄製巻き尺での再計測・確認が必要となる。

確認事項 WRk競技会について(再掲)

- ・機械式風力計を使用してもよい。(CTは不可 TR17.9)
→ただし、エリア記録(アジア記録)以上が出た場合は、認定されない。
- ・競技開始前にゼロコントロールテスト(写真判定機)を実施し、正確性を担保しているか？
- ・競技開始前後に、光波測定器の正確性を担保しているか？
- ・フィールド競技で試技終了後1回ずつ計測をしているか？
- ・走幅跳及び三段跳で粘土板あるいはビデオによる踏切判定が行われているか？

確認事項 WRk競技会について(再掲)

WRk競技会の記録報告に必要な条件

記録報告

- 競技会が開催された**24時間以内**に、公認記録電子申請により記録報告を行う
- 電子申請には従来より指定の項目のほか、英語種目、英字氏名、生年月日、国籍、などを必要とする
 - *英字氏名、生年月日、国籍などの情報は、エントリー時に取得する
- 陸マガ記録室だけでなく、WAアドレスにも必ず送信する

確認事項

WRk競技会について(再掲)

<記録の信憑性について>

- 記録の信憑性について世界的に課題になっている
- 日本国内でも、ルール通りの運営が行われていないと思われる競技会がある
- ルール通りに実施されていない競技会をWRk競技会として報告した場合、日本全体として非常に重いペナルティー(監視対象国に指定され、日本選手権、CT大会など以外はWRk競技会に申請できなくなる)を受けることになる
- 記録の信憑性の確保:他の加盟団体からA級以上・審判長経験者を招聘し競技会全般を監督してもらう

WRk競技会に関するお願い1

WRk競技会に指定する場合は、WAに事前申請する
その際

➤ 加入団体の競技会で、特に行政や新聞社、実行委員会が主催者の場合

➤ 海外の競技者を招待/参加する場合

○ 主催者がWAにWRk申請していない場合がある

(海外競技者はWRk競技会と認識していることがある)

➤ 各加盟団体に把握しておく必要がある

WRk競技会に関するお願い2

競技場のWA承認に関して

ワールドランキングFカテゴリーの大会は国内公認で差し支えない

2025年からはEカテゴリーの国内WRk大会でもクラス2以上が必要となる

本当は2024年からの適用だったが各国のクラス2更新が進んでいないため一年適用開始が延期になった

WRk大会カテゴリー 一覧

大会のカテゴリー別に順位ポイントが付与される。以下、カテゴリー別競技会の例。
※CT：コンチネンタルツアー（WAが主催する陸上競技の世界ツアー）

大会カテゴリー	競技会の例
OW	オリンピック/世界選手権
DF	ダイヤモンドリーグ ファイナル
GW	世界室内/ダイヤモンドリーグ・世界ロード/プラチナラベルマラソン 例：プラチナラベルマラソン（東京/大阪国際/名古屋）
GL	アジア選手権・混成ツアーゴールド（ゲティス・タレンス大会のみ）
A	各種ツアーゴールド（CT/混成/競歩クロカン/ゴールドラベルマラソン） 例：アジア大会/セイコーゴールドGP/ゴールドラベルマラソン（福岡国際/大阪）
B	各種ツアーシルバー/ワールドエリートシリーズ / 国内選手権例：日本選手権
C	各種ツアーブロンズ（CT/混成/競歩/クロカン/エリートラベルマラソン） 例：織田記念大会、木南記念大会、静岡国際大会、Yogibo Athletics Challenge Cup
D	CTチャレンジャー 例：日本グランプリシリーズG2加盟大会（兵庫RC/エディオンDCなど）
E	国別対抗戦・国際競技会・各国陸連が指定した国内競技会 例：日本グランプリシリーズG2加盟大会（Dカテゴリー以外）など
F	各国国内WRk対象公認競技会

▼WA大会カテゴリー (1.3 CATEGORIES OF COMPETITIONS)
<https://worldathletics.org/world-ranking-rules/basics>

国内の多くの競技会が
Fカテゴリーに該当します。

日頃より競技会の公認申請にご尽力いただき誠にありがとうございます。
2024年度分申請は、日本陸上競技連盟(以下「本連盟」という)が定める所定書式(様式1、Excelファイル)に記入の上、公認競技会申請システム(以下「申請システム」という)にアップロードをお願いします。
2023年度の運用をふまえ、より使いやすいシステムに改良しました。

* 詳細については全国競技運営責任者会議でご説明します

本連盟ホームページには、各都道府県市区町村で行われる「公認競技会申請をしたすべての競技会」を掲載します。一次申請後の追加・変更・訂正等も、申請システムで修正して頂くと本連盟ホームページが随時連動します。

申請のない競技会の記録は公認記録になりません。

また、期日や会場等が未入力のままアップロードしても、公認競技会とはなりません。会場の公認期限切れの表示がある場合も同様です。
必ず競技会開催までに、修正等していただきますようお願いいたします。

1. 2024年度一次申請

一次申請期限 : 2024年2月29日(木)

競技会開催日を過ぎてからの事後申請は、受け付けません。

2. 追加申請について

一次申請時に、開催日や会場などが未定のまま一次申請をした場合は決定次第、追加をしてください。

また、変更が出た場合も直ちに申請をしていただきます。

気象災害または天災、感染症等に伴う感染拡大時(特別対応)などのような、やむをえない場合を除いて、追加・変更等は開催前申請を厳守してください。

以上

2024年度公認競技会申請について

公益財団法人日本陸上競技連盟
(2024/02/05)

1

2024年度公認競技会申請について

変更内容

- 基本的には23年度と同様です
- 1次申請は従来どおりのExcelファイルを作成し、アップロード
- それ以降の変更・中止・新規大会追加はシステム上で申請
- **WRk申請大会はそれを記載する項目を追加しました**

目次

- 申請スケジュール ……3
- ① 1次申請
 - 1. Excelファイルを作成する ……4
 - 2. システムにログインする ……5
 - 3. Excelファイルをアップロードする ……6
 - 4. アップロードした内容を確認する ……7
 - 5. 申請する・承認待ち ……8
 - 6. 承認済み ……9
- ② 変更・中止・新規大会追加申請
 - 1. 編集ボタン ……10
 - 2. 変更・中止 ……11
 - 3. 新規大会追加 ……12

2

スケジュール	内容	
2/12(月) ~29(木)	①1次申請	1. 申請用のExcelファイルを作成してください。 2. 下記URLにログインして、 https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/ Excelファイルをアップロードしてください。
3/1(金)~	②追加・変更 中止など	1次申請以降は https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/ にアクセスして追加・変更・中止作業を行ってください。

申請者が23年度から変更になる場合は、kyogi23@jaaf.or.jpまでご連絡ください

①-1 一次申請(Excelファイルを作成する)

学連競技会以外の、自県で開催する全ての公認競技会を申請してください。

全国大会、地域大会も開催県から申請してください。

2024(公別)日本陸上競技連盟公認競技会申請フォーム

①都道府県を選択してください

②競技場コードを入力してください

例) 4/1 形式で入力
50大会の場合は地域を選択
日本陸連主催大会は全国を選択

高校総体、高校新人、高校駅伝は「高体連」
通信、全中予選、全中駅伝は「中体連」
実業団は「実業団」
日本マスターズ申請大会は「マスターズ」を選択

高体連(主催が加盟団体・協力団体以外)のみ記入
主催が加盟団体・協力団体以外
医務員配置
緊急医療体制
AED配置含
見舞金補償制度

主催者欄「50」の大会は必ずK列で地域を選択してください
日本陸連主催大会は「全国」を選択してください

WRK申請大会はグレードを入力してください。
基本はFを選択してください。

高校総体、高校新人、高校駅伝は「高体連」
通信、全中予選、全中駅伝は「中体連」
実業団は「実業団」
日本マスターズ申請大会は「マスターズ」を選択

①-2 一次申請(システムにログインする)

<https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/>

にログインしてください

①で設定したメールアドレスを入力してください

①で設定したパスワードを入力してください

5

①-3 一次申請(Excelファイルをアップロードする)

1. 公認大会申請を選択

2. アップロードを選択

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編集	確認	Excelダウンロード
2022	確認中	2021-12-01 00:00~2022-02-20 12:00	2022-01-17 19:04:06				
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00					

大分県 2022年度

3. ①で作成したExcelファイルを選択して「確認に進む」を選択

Excelファイル

ファイルを選択 選択されていません

確認画面に進む

6

①-4 一次申請(アップロードした内容を確認する)

1. アップロードされた内容を確認してください

公認大会申請 ホーム

内容をご確認の上、ページ下の申請ボタンをクリックしてください。

延期 中止 非公開	月	日	競技会・行事	競技会コード	会場	競技場コード	チェック	地域	協力団体	選考競技(主催が加盟団体・協力団体以外)		
										主催が加盟団体・協力団体以外	医務員配置	緊急医療体制 A E D 配置含
	4	10	第1回春季陸上競技大会	21 44 0310	大分市富陸上競技場	442040	OK	九州	マスターズ			
	4	18	第1回大分市陸上競技記録会兼第1回大分県長距離記録会	21 44 0701	大分市富陸上競技場	442040	OK					
	4	14	第1回大分市陸上競技記録会	21 44 0501	大分市陸上競技場	442040	OK		マスターズ			
	11	13	第8回大分県高校学年別陸上競技大会	21 44 1003	大分市富陸上競技場	442040	OK					
	11	21	第40回大分国際車いすマラソン(マラソ)	21 44 0020	大分国際車いすマラソンコース	447030	登録なし			○	有り: 3名以上	有り
	11	28	第5回県長距離記録会兼都道府県駅伝選考会	21 44 0307	大分市富陸上競技場	442040	OK					
	2	6	第70回別府大分毎日マラソン大会(マラソ)	22 50 2003	別府大分毎日長距離競走路	447050	OK	全国		○	有り: 3名以上	有り
	3	6	2022スプリングチャレンジ陸上inリノスタ	22 44 0315	大分市富陸上競技場	442040	期限切れ					
	3	12	第26回県南陸上競技選手権大会	22 44 0801	佐伯市陸上競技場	443050	期限切れ					

2. 競技場の公認期間を確認してください
期間が切れていれば、期限切れが表示されます

3. アップロードした内容で問題なければ「申請する」を
修正がある場合はExcelファイルを修正して、再度アップロードしてください

①-4 一次申請(申請する・承認待ち)

1. 申請が完了すると受け付けたことが表示されます。
また自動返信メールが送信されます。

公認大会申請

2022年度の公認大会申請を受け付けました。
承認・不承認の結果については後日ご連絡します。

大分県の2022年度公認大会申請を受け付けました

miyake+kyogi21@jaaf.or.jp
To miyake+44

ご担当者様

大分県の2022年度公認大会申請を受け付けました。
Excel申請期間中に変更が発生した場合には再度Excelをアップロードしてください。

[お問い合わせ先]
公益財団法人日本陸上競技連盟

2. 申請状況のステータスが
「確認中」に変わります

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編
2022	確認中	2021-12-01 00:00~2022-02-20 12:00	2022-01-21 19:14:11		
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00			

①-4 一次申請(承認済み)

1. 日本陸連に承認されると申請状況のステータスが「**チェック済**」に変わります。
また日本陸連からメールが送信される場合があります。

大分県

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編集	確認	Excelダウンロード
2022	チェック済	2021-12-01 00:00~2022-02-20 12:00	2022-01-21 19:27:09				
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00					

2. 現在の状況をExcelファイルでDLすることができます

②-1 変更・中止・新規大会追加申請(編集ボタン)

1. 1次申請期間が過ぎるとExcelファイルがアップロードできなくなります。
*アップロードボタンが消える

大分県

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編集	確認	Excelダウンロード
2022	期間外	2021-12-01 00:00~2022-01-06 12:00	2022-01-21 19:42:12				
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00					

2. 1次申請期間後の追加・変更・中止の申請に関しては「編集」機能で申請してください。
こちらのボタンを押してください。

②-2 変更・中止・新規大会追加申請(変更・中止)

1. 変更・中止する大会の「編集」を押してください

編集	延期 中止 非公開	月	日	競技会・行事	競技会コード	会場
編集		4	10	第1回春季陸上競技大会	21 44 0310	大分市尚陸上競技場
編集		4	18	第1回大分市陸上競技記録会兼第1回大分県長距離記録会	21 44 0701	大分市尚陸上競技場
編集		4	18	第1回日田市陸上競技記録会	21 44 0501	日田市陸上競技場

2. 内容を変更する場合は、記載内容を変更して「変更する」ボタンを押して下さい。

公認大会申請

第18回野田市陸上競技記録会

競技初日 2023/04/01

月・日 4 1

WRk申請競技会

競技会・行事 第18回野田市陸上競技記録会

競技会コード 23 12 0745

会場 千葉県 [123220] 野田市総合運動公園 (陸)

地域

協力団体

道路競技 (主催が加盟団体・協力団体以外) のみ記入 ↓

主催が加盟団体

3. 中止の場合は、「中止」を
延期の場合は、「延期」を選択してください。

ステータス

中止・延期 通常

公開 通常 中止 延期

変更する

4. 削除の場合は、「一般非公開にする」にチェックしてください。

公開 一般非公開にする

②-2 変更・中止・新規大会追加申請(変更・中止)

公認大会申請

第57回県記録会 兼国体第一次選考会(種目分散同一大会)

競技初日 2023/04/08

月・日 4 8~9

WRk申請競技会

競技会・行事 記録会 兼国体第一次選考会(種目分散同一大会)

競技会コード 17 0301

会場 千葉県 [21010] 千葉県総合スポーツセンター (陸)

地域

協力団体

道路競技 (主催が加盟団体・協力団体以外) のみ記入 ↓

主催が加盟団体

WRk申請競技会の場合は、そのグレードを選択してください。
国内の競技会はほとんどの場合「F」です。

②-3 変更・中止・新規大会追加申請(新規大会追加)

1. 追加する場合は画面の一番下の

「大会を新規登録する」を押してください

2. 必要な情報を入力して、「追加する」ボタンを押して下さい。

競技初日	年 / 月 / 日 □
月・日	<input type="text"/>
WRK申請競技会	<input type="text"/>
競技会・行事	<input type="text"/>
競技会コード	<input type="text"/> 12 <input type="text"/>
会場	千葉 <input type="text"/> <input type="text"/> 印西市松山下公園総合体育館室内棒高跳場 <input type="text"/>
地域	<input type="text"/>
協力団体	<input type="text"/>
道路競技（主催が加盟団体・協力団体以外）のみ記入 ↓	
主催が加盟団体・協力団体以外	<input type="text"/>
医務員配置	<input type="text"/>
緊急医療体制 AED設置	<input type="text"/>
見舞金補償制度	<input type="text"/>

1. 2023 年度に樹立された日本記録の数

※ 2023 年 12 月 31 日までの記録を集計してもっともよい記録を日本記録として認定する。

✓ 日本記録	男子…14	女子…13	混合…1
✓ 日本タイ記録	男子…1	女子…0	混合…0
✓ U20 日本記録	男子…4	女子…2	混合…0
✓ U20 日本タイ記録	男子…0	女子…0	混合…0
✓ U18 日本記録	男子…0	女子…1	混合…0
✓ U18 日本タイ記録	男子…0	女子…0	混合…0
✓ 室内日本記録	男子…2	女子…7	混合…0
✓ 室内日本タイ記録	男子…0	女子…0	混合…0
✓ U20 室内日本記録	男子…0	女子…0	混合…0
✓ U20 室内日本タイ記録	男子…0	女子…0	混合…0
✓ U18 室内日本記録	男子…0	女子…0	混合…0
✓ U18 室内日本タイ記録	男子…0	女子…0	混合…0

2. 日本記録の追加認定について

	種目	記録	氏名	所属	競技日	競技会名	場所
女	5000m	15:23.87	矢田 みくに	デンソー	2022/2/27	ボストン大学トラック&テニスセンター	マサチューセッツ州ボストン(米国)

3. 日本記録を認める種目について

国際陸連(WA)の世界記録を認める種目追加こともない、日本記録も追加する。[参照 CR34.10]

注意1) 屋外、室内の区別がなくなる。400mトラックまたは 200msh

※ sh ⇒ ショート・トラック

注意2) 風力の報告が必要ない場合がある。

※ ルールの修正を参照し、遺漏の内容に気をつける。

例1) 室内での競技会

例2) 200msh で実施された、200m

4. 日本記録の申請について

…公認記録申請しても、日本記録がつくられた時は日本記録の申請も忘れずにしてください。

<日本記録申請に必要な資料>

[国内]CR34. より

日本記録

34.1 日本記録がつくられた時には、競技会を統括する加盟団体は本連盟に成績を速やかに連絡し、記録を確認するために必要な資料を揃え送付しなければならない。

⇒ **できるだけ速やかに申請する(競技会終了後、一週間をめどとする)**[参照 CR34.2]

日本記録は、(a) 日本記録

(b) U20 日本記録

(c) U18 日本記録

(d) 日本記録(sh)

(e) U20 日本記録(sh)

(f) U18 日本記録(sh) とする。

このうち、(a)日本記録、(b)U20 日本記録、(c)U18 日本記録は、本条の日本記録の公認要件を満たしていなければならない。また、(d)日本記録(sh)、(e)U20 日本記録(sh)、(f)U18 日本記録(sh)は、CR31.13 ショート・トラック世界記録の公認条件に準じる。[参照 CR32]

✓ 日本記録申請に必要な資料には、以下のものが挙げられる。[参照 CR34.3]

① すべての種目に共通して必要なもの

日本陸上競技連盟新(タイ)記録申請書 ⇒ 申請用紙は、JAAF-30A～JAAF30G の用紙

- (1) 当該種目
- (2) 達成記録
- (3) 風力(追い風が問題となる各試技の実施時)
- (4) 競技者名と所属名(競技者が U20、U18 の場合は、生年月日)
- (5) 競技会が行われた日時
- (6) 競技会の開かれた場所
- (7) 競技会名
- (8) 本連盟の規則が正確に適用されたことの確認(総務と当該審判長に署名)
- (9) 競歩競技の場合は、判定を行った少なくとも一人の JRWJ の署名 [参照 CR34.4.6]

<添付書類>

- (1) 印刷した大会プログラム
- (2) 当該種目の全記録(予選を含む全記録)

② トラック競技の場合、①に加えてさらに必要なもの

- ✓ 写真判定が行われた場合には、その記録の判定写真およびゼロ・コントロールテストの写真
- ※ 印刷に数値が表示されない機種については画面で確認したものを記入する。

③ フィールド競技の場合、①に加えてさらに必要なもの

- ✓ 全記録用紙。申請に用いる成績表は、コンピュータで記録処理を行った競技会にあっては、コンピュータシステムに直結した印刷装置で出力した記録表もしくは、その記録表をもとにして製版印刷された記録表を使用することができる。また、電子データによる申請も、所定の要件を満たす場合は使用することができる。
- ✓ 科学測定を行った場合は、確認を行った全審判員のサインが入った適合確認書を添付する。
- ※ フィールド記録用紙は一跳、一投ごとに計測した記録を記入する。

④ 投てき競技の場合、①③に加えてさらに必要なもの

- ✓ 使用した投てき物の試技後の検査(技術総務等確認者のサイン)
- ※ 確認者のサインは、申請書 E・F にあるサイン欄に行う。

⑤ その他

- ✓ 日本記録がオリンピック種目の場合は、ドーピングテストを受ける必要があり(U20、U18 は対象外) [参照 CR34.4.5]
 - ✓ 海外における競技会で、日本記録がつけられた時は、それを確認できる記録証明書等。[参照 CR34.4.7]
- 【競技会参加前に登録証明承認書(海外大会出場用)の提出が必要】**
- ※ 使用されたシューズが、WA が発表しているリストに適合しているかの確認を含めルールに則り競技が行われたことを承認するサイン

<日本記録申請に関する留意事項>

- ① 日本陸連に一報を入れてください。
- ② 必要な書類を整えてください。

✓ 注意を要する点①

・ハードル競技

インターバルが同じ場合、高さが不利になる競技で出された記録は年齢の低いクラスでの日本記録となる。

例1) U18 の競技者が、年齢の高い規格の競技に出場し、U18 の日本記録を超えた場合は、年齢の低いクラスでの日本記録となる。(シニアの競技に出場した場合も同様)

110mH の例(インターバル=9.14m)

	シニア	U20	U18
高さ	1.067m	0.991m	0.914m

✓ 注意を要する点②

・投てき競技

重さが不利になる競技で出された記録は、年齢の低いクラスでの日本記録となる。

例2) 砲丸投で U18 の競技者が、6kg の砲丸で U18(5kg)の日本記録を超えた場合は、U18 の日本記録となる。 ※ その他の投擲競技も同様

③ U20、U18 日本記録および日本タイ記録については、生年月日をしっかりと確認してください。

- ✓ アンダー18 (U18) 男子・女子：競技会が行われる年の 12 月 31 日現在で
16 歳あるいは 17 歳の競技者
- ✓ アンダー20 (U20) 男子・女子：競技会が行われる年の 12 月 31 日現在で
18 歳あるいは 19 歳の競技者

〔国内〕 国内の U18、U20 競技会では、年齢区分の下限は設けない。〔参照 TR3〕

5. 記録の公認申請について

公認記録 CR34.8 より

加盟団体は、主催、共催あるいは所管した競技会の成績表(トラック種目とリレー種目の予選・準決勝・決勝記録表、フィールド種目の記録表、混成競技記録表等)各 1 部を、できるだけ速やかに本連盟へ送付しなければならない(競技会終了後、一週間をめぐとする)。成績表に報告された以外の記録は、いかなる場合も公認記録の対象とはならない。

※ 審判ハンドブック 2023-2024 年度版 p.48「公認記録申請の方法」を参照

「JAAF が定めている記録用紙などの様式」の 2024 年度改訂案について

競技運営委員会

陸連ホームページ(HP)では記録用紙を PDF と EXCEL で掲載しています。これは EXCEL をダウンロードした際に生じる避けられないズレを確認する目的もあります。EXCEL に競技会名や出場者名等を入力したものをプリントアウトして使用する場合は、PDF 版で記載文等が途切れてないかを必ず確認していただきますようお願いいたします。今年度、改訂をする予定の記録用紙は以下のものです。すべてのサンプルを添付できませんので、4 月以降 HP をご確認ください。(HP→委員会情報→競技運営委員会→「JAAF が定めている記録用紙などの様式」)

1. JAAF-13 走高跳・棒高跳記録表 ・ 14 走幅跳・三段跳記録表 ・ 16 投てき種目記録表

- ・ TR8.5 適用の競技会で抗議中の競技があった場合に対応するため、審判長記入欄を設けました。
- ・ 競技終了後記録用紙をコピーします。審判長裁定内容をコピーしたものに赤字で記入し、原本と一緒に保管してください。13(HJ)と 16(JT)に記入例を付けましたので、参考にしてください。

2. JAAF-19 監察員記録用紙 A・B・C・D

- ・ 規則番号と条文の文言の改正に合わせて修正を入れました。
- ・ これまでリストになかった違反規則例の追加をしました。
- ・ TR8.4 適用の競技会で抗議中の競技があった場合に、審判長記入欄に「P」を書き入れるようにしました。

監察員記録用紙は現在、過去のスタイルに合わせて記入欄と規則を同じページにまとめた A と、記入用紙を独立させた C があります。(A・C は外水濠の図に対して、B・D は内水濠の図となっています)

書式 A は、記入欄のある 1 ページにすべての違反規則例をまとめるのはスペース的に不可能なため、おおよその頻度に合わせて表面と裏面(または別紙)に分けて掲載しています。

書式 C を追加したのは、記入事項が増えたことから 1 ページにまとめるのがますます難しくなったためです。今後は皆様からのご意見も考慮しながら、A・B を廃止して、2~3 年後をめどに C・D のみとする予定です。使い慣れていたいただくためにも、できるだけ C・D を使用するよう、ご検討ください。

3. JAAF-30 日本記録・タイ記録申請書 A・B・C・D・E・F

- ・ 日本記録公認種目の改正に合わせて、風向風力記入欄に室内で競技したことを意味するチェック欄を設けました。
- ・ 申請種目についても修改後の CR37.10 に合わせた表記となります。(例 : 200msh、七種競技 sh)

4. JAAF-32 スタート記録表

- ・ 不正スタートに対する抗議中の競技の記号として「P」を追加しました。

5. JAAF-35 競技会で使用する略号例・略号例表の原本

- ・ 抽選による次ラウンド進出者「qD」、抗議中の競技「P」を追加しました。
- ・ 室内日本記録がなくなったこと、規則の文言の改正に合わせて改訂しました。
- ・ 略号表の英語意味を WA 表記に合わせて修正しました。

以 上

(男・女) 走高跳・棒高跳 予選・決勝 (組) 記録表

P

審判長

期日 年 月 日 (曜) 開始時刻 : 終了時刻 :

J T O

陸協名 コード 競技会名

記録主任

主催団体名 コード 競技場名

記録担当審判員

試技順	ナンバ	競技者名(生年)	都道府県名 所属・学年	試技										最高記録	無効試技数	順位	得点	備考
				m	m	m	m	m	m	m	m	m	m					
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		

審判長記入欄

注1: 試技結果が次の場合、該当する日本語表記、または略号を記入欄に記入する。(有効試技…○、無効試技…×、失格…DQ、欠場…DNS、パス…-、試技放棄…+、記録なし…NM)

注2: 日本新記録、大会新記録などは備考欄を利用して記入する。日本新記録・日本タイ記録は、3名のアドバイザーと審判員が皆測る必要がある。(CR3.1.7.1)

注3: (生年)は生まれた年(西暦)の下2桁を記入する。例) 2006年生まれ → (06) 注4: 学年は中高一貫校及びクラブチームの場合、高校生は H1~3 (High school)、中学生は J1~3 (Junior high school) で記入する。

注5: TR8.5を適用している競技会で、抗議中の競技があった場合は、抗議の対象になった試技の記録には「×」をつけ、備考欄に「P」を記入する。(例) 2m.00の2回目に抗議があった場合は「2m.00の3回目よりP」)。

競技終了後、記録担当者が必要事項を記入したものをコピーをする。記録主任または審判長がコピーしたものに必要があれば赤字で記録・順位等の訂正をし、審判長は備考欄に赤字で記入する。

記録主任・審判長は赤字でサインの上、原本と一緒に保管する。

審判長 佐藤 P

(男・女) (走高跳・棒高跳予選・決勝) (組) 記録表

抗議中の競技の記入例 ② 裁定の結果、有効競技と認められた場合は記入例 (コピーしたものに赤字で記入)

期日 年 月 日 (曜) 開始時刻 終了時刻 競技会場 都道府県 選手名

座席名 コード 競技者名 (生年) ナンバー 競技順

記録主任 佐藤 記録担当審判員 R

PV 支柱移動	試技順	ナンバー	競技者名 (生年)	都道府県 所属・学年	試技										無効 試技数	順位	得点	備考	
					> m0	> m0.5	> m1	> m1.5	> m2	> m2.5	> m3	> m3.5	> m4	> m4.5					> m5
	1		A		0	0	XO	XXO	XXX								207	8	
	2		B		0	XO	XXOXO	XXX									207	7	
	3		C		-	XO	XO	XXOXO	0	XXX							213	1	
	4		D		XO	XXO	XXOO	XXX									207	5	
	5		E		-	0	XO	XXO	XXX								211	4	
	6	123	F	特許正		XXOXO	0	XXOXO	XXX								211	3	2m07 /1000&1P
	7		G		0	XXOXO	XXOXO	XXX									211	6	
	8		H		0	XO	XO	XXO	XXX								207	4	
	9		I		0	XO	XXOXO	XXOXO	XXX								211	8	4
	10																		
	11																		
	12																		
	13																		
	14																		
	15																		
	16																		
	17																		
	18																		
	19																		
	20																		

審判長記入欄 123 F 2m05 (3回目) 有効競技と判定 ←赤字で記入

注1: 競技結果が改訂の場合、該当する日本語表記、または番号を記入欄に記入する。日本新記録・日本タイ記録・3名のワールド審判員が計測する必要がある。(CR3.1.17.1)

注2: 日本新記録、大会新記録などは備考欄を利用して記入する。例) 2005年生まれ → (05) 注3: 生年は生まれた年(西暦)の下2桁を記入する。例) 2005年生まれ → (05) 注4: 学年は中高一貫校及びクラブチームの場合、高校生は HI ~3 (High school)、中学生は J1 ~3 (Junior high school) で記入する。注5: TR8.5を適用している競技会で、抗議中の競技があった場合は、抗議の対象になった試技の記録には (Y) をつけ、備考欄に P を記入する (例: 2m00の2回目に抗議があった場合は 2m00の3回目に YPJ)。

記録終了後、記録担当者が必要事項を記入したものをコピーをする。記録主任または審判長がコピーしたものに必要があれば赤字で記録・順位等の訂正をし、審判長は審判長記入欄に裁定結果を赤字で記入する。記録主任・審判長は赤字でサインの上、原本と一緒に保管する。

(JAAF-13, 2024/3)

審判長 佐藤
J T O 赤字記入
記録主任 X
記録担当審判員 R

(男・女) (走高跳・棒高跳 予選・決勝) (組) 記録表

抗議中の競技の記入例 (3) 裁定の結果、無効競技とした場合の記入例 (コヒーたものを赤字で記入)

期日 年 月 日 (曜) 開始時刻 : 終了時刻 : 競技会名 (注) 便宜上、必要に応じて記入しているコード コード

陸協名 主権団体名 競技場名 郡 道府 県 所属・学年 競技者名 (生年) ナンバー 試技順

PV 支柱移動	試技順	ナンバー	競技者名 (生年)	郡 道府 県 所属・学年	試 技										無効 試技数	順位	得点	備 考	
					2m00	2m05	2m10	2m15	2m20	2m25	2m30	2m35	2m40	2m45					2m50
	1		A		0	0	XO	XXOX	XXX							207	3	78	
	2		B		0	XO	XXOX	O	XXX							207	4	67	
	3		C		-	XO	XO	XOXO	O	XXX						213	6	1	
	4		D		XO	XXOX	O	XXX								207	5	56	
	5		E		-	0	XO	XO	XXOX	XXX						211	4	45	
	6	123	F		-	XXOX	XO	XXOX	XXX	XXX					203	2	93	2m07 /同目上P	
	7		G		0	0	XXOX	O	XXX							211	6	2	
	8		H		0	XO	XO	XXOX								207	4	8	
	9		I		0	XO	XXOX	O	XXX							211	8	34	
	10																		
	11																		
	12																		
	13																		
	14																		
	15																		
	16																		
	17																		
	18																		
	19																		
	20																		

審判長記入欄 123 F 2m05 (3回目) 無効試技とし、記録及び順位を訂正をいした ← 赤字で記入

注1: 試技結果が次の場合、該当する日本語表記を記入欄に記入する。(有効試技...O、無効試技...X、失格...DQ、欠場...DNS、パス...一、試技放棄...T、記録なし...NM)

注2: 日本新記録、大会新記録などは備考欄を利用して記入する。日本新記録・日本タイ記録は、3名のファイナル審判員が計測する必要がある。(CR31.17.1)

注3: (生年)は生まれた年(西暦)の下2桁を記入する。例) 2005年生まれ → (05)

注4: 学年は中高一貫校及びクラブチームの場合、高校生は HI~3 (High school)、中学生は JI~3 (Junior high school) で記入する。抗議の対象になった試技の記録には() をつけ、備考欄に P を記入する(例: 2m00の2回目に抗議があった場合は「2m00の3回目上P」)。

注5: TR8.5を適用している競技会で、抗議中の競技があった場合は、抗議の対象になったものをコヒーとする。記録担当者が必要事項を記入したものをコヒーとする。記録主任または審判長がコヒーしたものには必要があれば赤字で記録、順位等の訂正をし、審判長は審判長記入欄に裁定結果を赤字で記入する。記録主任・審判長は赤字でサインの上、原本と一緒に保管する。

(男・女) 砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投 (規格 kg・g) 予選(組)・決勝 記録表A P

審判長
 J T O
 記録主任
 記録担当審判員
 期日 年 月 日 () 開始時刻 : 終了時刻 : 区分
 陸協名 コード 競技会名
 主催団体名 コード 競技場名

試技順	ナンバー	競技者名(生年)	都道府県名 所属・学年	試技			トップ8の 試技順	試技			最高記録	順位	得点	備考
				1	2	3		4	5	6				
1											m			
2											m			
3											m			
4											m			
5											m			
6											m			
7											m			
8											m			
9											m			
10											m			
11											m			
12											m			
13											m			
14											m			
15											m			
16											m			
17											m			
18											m			
19											m			
20											m			

審判長記入欄

注1: 試技結果が次の場合、該当する日本語表記または略号を記入欄に記入する。(無効試技...× 失格...DQ 欠場...DNS パス...- 試技放棄...r 記録なし...NM 抗議中の試技...P)
 注2: 日本新記録、大会新記録などは備考欄を利用して記入する。日本新記録・日本タイ記録は、3名のフーワード審判員が計測する必要がある。(CR31.17.1)
 注3: (生年)は生まれた年(西暦)の下2桁を記入する。例) 2005年生まれ → (05) 注4: 学年は中高一貫校及びクラブチームの場合、高校生はHI³(high school)、中学生はJ³(junior high school)を記入する。
 注5: TR8、5を適用している競技会で、抗議中の試技があった場合は、抗議の対象になった試技の記録には()をつけ、備考欄にPを記入する(例:2回目に抗議があった場合は「3回目よりP」)。
 競技終了後、記録担当者が必要事項を記入したものをコピーをする。記録主任または審判長がコピーしたものに必要があれば赤字で記録・順位等の訂正をし、審判長は赤字で記入する。
 記録主任・審判長は赤字でサインの上、原本と一緒に保管する。

(男・女) 砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投 (規格) kg・g 予選(組)・決勝 記録表A P

審判長 J T O
 記録主任
 記録担当審判員 R

抗議中の競技の記入例 (注) 便宜上、必要は欄のみ記入して下さい

期日 年月日 () 開始時刻 : 終了時刻 : 区分

陸協名 コード
 主催団体名 コード

競技会名
 競技場名

試技順	競技者名(生年)	都道府県名 所属・学年	試技			3回の 最高記録	トップ8の 試技順	試技			最高記録	順位	得点	備考
			1	2	3			4	5	6				
1	A					59m62	9				60m12	1		
2	B					53m89	4				54m20	7		
3	C					56m28	6				57m60	3		
4	D					52m37					52m37	9		
5	E					49m33					49m33			
6	F					57m46	7				57m46	4		
7	678 G					54m56	1				54m56	6		3E E 6 1 P
8	H					50m11					50m11			
9	I					55m95	5				56m25	5		
10	J					51m82	2				52m45	8		
11	K					58m80	8				59m36	2		
12						m					m			
13						m					m			
14						m					m			
15						m					m			
16						m					m			
17						m					m			
18						m					m			
19						m					m			
20						m					m			

審判長記入欄

注1: 試技結果が次の場合、該当する日本語表記、または略号を記入欄に記入する。(無効試技... X 失格... DQ 欠場... DNS パス... 試技放棄... r 記録なし... NM 抗議中の試技... P)

注2: 日本新記録、大会新記録などは備考欄を利用して記入する。日本新記録・日本タイ記録は、3名のフィールド審判員が計測する必要がある。(CR31.17.1)

注3: (生年)は生まれた年(西暦)の下2桁を記入する。例) 2005年生まれ → (05) 注4: 学年は中高一貫校及びクラブチームの場合、高校生はH1~3(High school)、中学生はJ1~3(Junior high school)を記入する。

注5: TR8、5を適用している競技会で、抗議中の競技があった場合は、抗議の対象になった試技の記録には()をつけ、備考欄にPを記入する(例: 2回目に抗議があった場合は「3回目よりP」)。

競技終了後、記録担当者が必要事項を記入したものをコピーをする。記録主任または審判長がコピーしたものに必要であれば赤字で記録・順位等の訂正をし、審判長は審判長記入欄に裁定結果を赤字で記入する。

記録主任・審判長は赤字でサインの上、原本と一緒に保管する。

(男・女) 砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投 (規格) kg・g 予選 (組)・決勝 記録表A P

抗議中の競技者の記入例 ②裁定の結果有効競技とされた場合
 期日 年月日 () 開始時刻 : 終了時刻 : 区 分/エピソードのものに
 陸協名 : コード : 競技会名 : (赤字で記入)
 主催団体名 : コード : 競技場名 :
 審判長 J T O 赤字で記入
 記録主任 X R
 記録担当審判員 R

試	技			トップ8の 試技順	3回の 最高記録	技				最高記録	順位	得点	備考	
	1	2	3			4	5	6						
1				9	59m62						60m12	1		
2				4	53m89						54m20	7		
3				6	56m23						57m60	3		
4					52m37						52m37	9		
5					49m33						49m33	9		
6				7	57m46						57m46	4		
7				1	54m56						54m56	6		3EETIP
8	678				50m11						50m11			
9					55m95						56m25	5		
10					51m82						52m45	8		
11					58m80						59m36	2		
12					m						m			
13					m						m			
14					m						m			
15					m						m			
16					m						m			
17					m						m			
18					m						m			
19					m						m			
20					m						m			

審判長記入欄 678 G 2回目 54m 56 を有効競技とする ←赤字で記入

注1: 試技結果が球の場合、該当する日本新記録、または略号を記入欄に記入する。(無効試技...X 失格...DQ 欠場...DNS パス... 試技放棄...T 記録なし...NM 抗議中の試技...P)
 注2: 日本新記録、大会新記録などは備考欄を利用して記入する。日本新記録・日本タイ記録は、3名のフィードバック審判員が計測する必要がある。(CR3.1.17.1)
 注3: (生年)は生年と年(西暦)の下2桁を記入する。例) 2005年生まれ → (05) 注4: 学年は中高一貫校及びクラブチームの場合、高校生はH1~3(High school)、中学生はH1~3(Junior high school)を記入する。
 注5: TR8、5を適用している競技会で、抗議中の競技があった場合は、抗議の対象になった試技の記録には「0」をつけ、備考欄にPを記入する(例: 2回目に抗議があった場合は「3回目よりP1」)。
 記録終了後、記録担当者が必要事項を記入したものをエビデンスとする。記録主任は赤字で記録・順位等の訂正をし、審判長は審判長記入欄に裁定結果を赤字で記入する。
 記録主任・審判長は赤字でサインの上、原本と一緒に保管する。

(男・女) 砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投 (規格) (決勝) 記録表A P

抗議中の競技の記入例 ③裁定の結果無効競技とした場合 (注) 便宜上、必要は関係のみ 審判長 J T O 赤字サイン

期日 年月日 () 開始時刻 : 終了時刻 : 陸協名 競技会名 コード 競技場名 主権団体名

kg・g 予選(組) 記録表A

記録主任 記録担当審判員

試技順	ナンバー	競技者名(生年)	都道府県名 所属・学年	試技			3回の 最高記録	トップ8の 試技順	試技						最高記録	順位	得点	備考
				1	2	3			4	5	6							
1		A					59m62	9										
2		B					53m89	4										
3		C					56m23	6										
4		D					52m37											
5		E					49m33											
6		F					57m46	7										
7	678	G					54m36	1										
8		H					50m11											
9		I					55m95	5										
10		J					51m82	2										
11		K					58m80	8										
12							m											
13							m											
14							m											
15							m											
16							m											
17							m											
18							m											
19							m											
20							m											

審判長記入欄 678 G 2回目も無効競技とし、記録と川原の訂正をした 赤字で記入

注1: 試技結果が次の場合、該当する日本語表記、または略号を記入欄に記入する。(無効試技... X 失格... DQ 欠場... DNS ハス... 試技放棄... T 記録なし... NM 抗議中の試技... P)

注2: 日本新記録、大会新記録などは備考欄を利用して記入する。日本新記録・日本タイ記録は、3名のフルード審判員が計測する必要がある。(CR3.17.1)

注3: (生年)は生まれた年(西暦)の下2桁を記入する。例) 2005年生まれ → (05) 注4: 学年は中高一貫校及びクラブチームの場合、高校生(HI)~3(High school)、中学生(HJ)~3(Junior high school)を記入する。

注5: TR8、5を適用している競技会で、抗議中の競技があった場合は、抗議の対象になった試技の記録には()をつけ、備考欄にPを記入する(例: 2回目に抗議があった場合は「3回目にP」)。

競技終了後、記録担当者が必要事項を記入したものを「赤字」で記録・順位等の訂正をし、審判長は審判長記入欄に裁定結果を赤字で記入する。

記録主任・審判長は赤字でサインの上、原本と一緒に保管する。

記録欄記入例

監 察 員 記 録 用 紙 C (外水濠)

※記入欄だけのシートです。違反事例を1ページにまとめたJAAF-19C②、またはよくある事例とその他の事例を2ページにまとめた19C③-1,2 のどちらかを参照にしてください。

競技会名				日時	/	:	
種 目		男・女		予選 / 準決 ()組			決勝
○をつける	レーンNo.	ビブスNo.		リレー			
規則違反 / 途中棄権				走→			走
				× 発生場所 ▲ 監察員位置 該当する項目に✓ <input type="checkbox"/> 妨害した <input type="checkbox"/> 妨害された <input type="checkbox"/> 妨害はなかった			
該当項目に○、必要事項を記入 []周目 []m []台目 直走路 曲走路 内側(レーン左側) []歩 []カ所 []回 ライン 縁石 外側(レーン右側) 踏んだ 完全に内側に入った 倒した 移動させた 出た <small style="margin-left: 20px;">ラインや縁石に足がかかっている</small>							
監察員所見 ※ 詳細(ユニフォームの色なども記録しておくとい)							
当該競技者の履歴 [YC / L] [種目・ラウンド]							
該当する規則 [TR / CR] ※別紙19C②または19C③参照							
報告者氏名				記入者自署			
※ 以下、審判長記入 上記以外の判定の根拠となる規則No.やその他の判定資料〔ビデオ映像(カメラNo.を明記)、SISなど〕 抗議中で競技をした場合ビブスNo.と「P」を記入							
裁定/結果	ビブスNo.	失 格	失格としない	途中棄権	救 済		
		Y C (警 告)		YRC / RC (除 外)			
審判長自署							

※ YC = イエローカード YRC = 2度目のイエローカード RC = レッドカード L = TR17.3.3またはTR17.3.4の適用 P=抗議中で競技をした

(JAAF-19C.2024/3)

監察員記録用紙 C ②

※違反事例を1ページにまとめたものです。文字が小さいと感じたら③を使用してください。

規則違反内容		規則 No.
誠実に力を尽くして競技に参加しなかった。反スポーツマンシップ行為、不適切行為があった。		TR7.1
スタート	「On your marks」または「Set」の合図の後で、正当な理由もなく手を挙げた、立ち上がった	TR 16.5.1
	合図に従わない。速やかに位置につかない	TR 16.5.2
	合図の後、音声・動作などで他の競技者を妨害し、他の競技者の不正スタートを生じさせた	TR 16.5.3
	不正スタート〔 単独種目 / 混成競技 (TR39.8.3) 〕	TR 16.8
妨害	妨害行為があった (詳細は所見欄に記入)	TR 17.1
	他者や物に押されて・妨害されて、自分のレーンの外、縁石・ライン上や内側に入った	TR 17.3.1
行うレーンで	直走路で自分のレーン外を曲走路で自分のレーンの外側を踏んだ、走った、歩いた	TR 17.3.2
	曲走路で、レーン左側の白線や走路の境界を示す縁石または白線に1回(1歩)だけ触れた	TR 17.3.3
	曲走路で、レーン左側の白線や、走路の境界を示す縁石や白線に2回(2歩)以上触れた。または、TR17.3.3を適用した後の2回目の違反	TR 17.3
行わな	曲走路で、走路の境界を示す縁石や白線を1回(1歩)だけ踏んだ、完全に越えた(内側に入った)	TR 17.3.4
	曲走路で、走路の境界を示す縁石や白線を2回(2歩)以上踏んだ、完全に越えた(内側に入った)または TR17.3.4を適用した後の2回目の違反	TR 17.3
	縁石の内側に入ったあと、囲まれた状況から抜け出す際、実質的な利益があった	TR 17.4
ブレイクライン手前でレーンを離れ内側レーンに入った		TR 17.5.3
競技者が自らの意思でトラックから離脱した		TR 17.6
リレー以外で走路上や走路脇にマークをつけた、物を置いた。指導したが取り除かなかった		TR 17.7
助力	競技中、競技区域内で、助力を与えたり受けたりすることを繰り返した	TR 6.2
	同一レースに参加していない者によってペースを得た。	TR 6.3.1
	周回遅れか、周回遅れになりそうな競技者がペースメーカーとして競技をした	TR 6.3.6
	転倒後、他の競技者から立ち上がることを助けしてもらう以外に、前に進むための助けを得た	TR 17.14
	審判長の承諾なしに、競技区域内で途中時間を知らされた	TR 17.15.4
主催者が設置した供給所以外で飲食物や水を受け取った、他の競技者に飲食物・水の受け渡しを繰り返した		TR 6.3.2~5
ハードル	割り当てられたレーン以外を走った	TR 22.6
	すべてのハードルを越えなかった	TR 22.6
	足・脚がハードルをはみ出てバーの高さより低い位置にあった	TR 22.6.1
	手や体、振り上げ脚の前側でハードルを〔 倒した / 移動させた 〕	TR 22.6.2
	自分や他のレーンのハードルを〔 倒して / 移動させて 〕他の競技者に影響を与えた・妨害した	TR 22.6.3
障害物	水濠へ向かう迂回路の直線区間で走路外を踏んだ、走った、歩いた	TR 17.3.2
	すべての障害物と水濠を越えていない	TR 23.7
	水濠のある場所で、水濠以外の地面を踏んだ(水濠の右左を問わず)	TR 23.7.1
	足・脚が障害物をはみ出して障害物の高さより低い位置にあった	TR 23.7.2
リレー	バトンパスがテイク・オーバーゾーン内で完了しなかった (オーバーゾーン)	TR 24.7
	テイク・オーバーゾーンの外からスタートした	TR 24.19
	ブレイクライン手前でレーンを離れ内側レーンに入った	TR 24.17
	バトンを渡し終えた競技者が他のチームを妨害した	TR 24.8
	コーナートップの順に並んだあと 入れ替わった	TR 24.20
	コーナートップ順に並んだ次走者が、内側に移動する際に他の走者を妨害した、押しのけた	TR 24.21
	バトンパスの〔 完了前に後走者 / 完了後に前走者 〕が落としたバトンを拾った	TR 24.6
	バトンを拾い上げた後、落とした地点に戻らずにレースを再開した	TR 24.6
	許可されている以外のマーカーを剥がすよう指導したが、従わなかった	TR 24.4
	バトンを手でもち運ばなかった	TR 24.5
	手袋をはめた、何かを手につけた	TR 24.5
	バトンを落とした際、または落としたバトンを拾う際、他のチームを妨害した	TR 24.6
	他のチームのバトンを使った、拾い上げた	TR 24.9
	落としたバトンを他のチームが拾い上げたことで、落としたチームが有利になった	TR 24.9

(JAAF-19C②.2024/3)

監察員記録用紙 C ③-1

※よくある違反事例を1に、それ以外を2にまとめたものです。

規則違反内容	規則 No.
「On your marks」または「Set」の合図の後で、正当な理由もなく手を挙げた、立ち上がった	TR16.5.1
合図に従わない。速やかに位置につかない	TR16.5.2
合図の後、音声・動作などで他の競技者を妨害し、他の競技者の不正スタートを生じさせた	TR16.5.3
不正スタート〔 単独種目 / 混成競技 (TR39.8.3) 〕	TR16.8
直走路で自分のレーン外を	TR17.3.2
曲走路で自分のレーンの外側を 踏んだ、走った、歩いた	TR17.3.3
曲走路で、レーン左側の白線や走路の境界を示す緑石 または白線に1回(1歩)だけ触れた	TR17.3
曲走路で、レーン左側の白線や、走路の境界を示す緑石や白線に2回(2歩)以上触れた。または、TR17.3.3を適用した後の2回目の違反	TR17.3.4
曲走路で、走路の境界を示す緑石や白線に1回(1歩)だけ踏んだ、完全に越えた(内側に入った)	TR17.3
曲走路で、走路の境界を示す緑石や白線を2回(2歩)以上踏んだ、完全に越えた(内側に入った) または TR17.3.4 を適用した後の2回目の違反	TR17.4
緑石の内側に入ったあと、囲まれた状況から抜け出す際、実質的な利益があった	TR17.3.1
他者に押されて・妨害されて、自分のレーン外、緑石・ラインの上や内側に入った	TR17.5.3
ブレイクライン手前でレーンを離れ内側レーンに入った	TR22.6.1
足・脚がハードルをはみ出てバーの高さより低い位置にあった	TR22.6.2
手や体、振り上げ脚の前側でハードルを〔倒した/移動させた〕	TR22.6.3
自分や他のレーンのハードルを〔倒して / 移動させて〕他の競技者に影響を与えた・妨害した	TR17.3.2
障害物競走の水濼へ向かう迂回路の直線区間で	TR23.7.1
走路外を踏んだ、走った、歩いた	TR23.7.2
水濼のある場所、水濼以外の地面を踏んだ(水濼の左右は問わず)	TR24.7
足・脚が障害物をはみ出して障害物の高さより低い位置にあった	TR24.19
バトンパスがテイク・オーバーク・ゾーン内で完了しなかった(オーバーク・ゾーン)	TR24.17
テイク・オーバーク・ゾーンの外からスタートした	TR24.20
ブレイクライン手前でレーンを離れ内側レーンに入った	
次走者がコーナートップ順に並んだあと入れ替わった	

(JAAF-19C③-1.2024/3)

監察員記録用紙 C ③-2

規則違反内容	規則 No.
③-1 以外の 規則違反内容	
誠実に力を尽くして競技に参加しなかった。 反スポーツマンシップ行為、不適切行為があった。	TR7.1
妨害行為があった(詳細は所見欄に記入)	TR17.1
競技者が自らの意思でトラックから離脱した	TR17.6
リレー以外で走路上や走路脇にマークをつけた、またはマークの代わりに物を置いた。指導した取り除かなかった	TR17.7
競技中、競技区域内で、助力を与えたり受けたりすることを繰り返した	TR 6.2
同一レースに参加していない者によってペースを得た。 周回遅れか、周回遅れになりそうな競技者がペースメーカーとして競技をした	TR6.3.1
転倒後、他の競技者から立ち上がることを助けしてもらう以外に前に進むための助けを得た	TR6.3.6
審判長の承諾なしに、競技区域内で途中時間を知らされた	TR17.14
主催者が設置した供給所以外で飲食物や水を受け取った 他の競技者に飲食物・水の受け渡しを繰り返した	TR17.15.4
上記以外の助力があった	TR 6.3.2~5
割り当てられたレーン以外を走った	TR22.6
すべてのハードルを越えなかった	TR22.6
すべての障害物と水濼を越えなかった	TR23.7
許可されている以外のマーカーを剥がすよう指導したが、従わなかった	TR24.4
バトンを手でもち運ばなかった	TR24.5
手袋をはめた、何かを手につけた	TR24.5
バトンパスの〔 完了前に後走者 / 完了後に前走者 〕が落としたバトンを持った	TR24.6
バトンを拾い上げた後、落とした地点に戻らずにレースを再開した	TR24.6
バトンを落とした際、またはバトンを拾う際、他のチームを妨害した	TR24.6
バトンを渡し終えた競技者が他のチームを妨害した	TR24.8
他のチームのバトンを使った、拾い上げた	TR24.9
落としたバトンを他のチームが拾い上げたことで、落としたチームが有利になった	TR24.9
コーナートップ順に並んだ次走者が、内側に移動する際に他の走者を妨害した、押しのけた	TR24.21

(JAAF-19C③-2.2024/3)

③は、②を2ページに分けたものです

日本記録・日本タイ記録申請書 A (トラック個人種目)

日本陸上競技連盟競技規則により、次の記録を申請する。

※ 該当するすべての項目の□にしろしをつける。日付は西暦。

<input type="checkbox"/> 男子	<input type="checkbox"/> 女子	種目名
<input type="checkbox"/> 日本記録	<input type="checkbox"/> 日本タイ記録	<input type="checkbox"/> U 20 <input type="checkbox"/> U 18
1. 記録	風向風力 十・一	m <input type="checkbox"/> 室内(i)
フリガナ	生年月日	登録都道府県
2. 氏名	年 月 日	
所属団体正式名	JAAF ID (確認できれば記入)	
3. 競技会名	コード	
4. 記録した日	年 月 日	
5. 競技場名	コード	

※ 以下の確認した項目・該当するすべての項目の□にしろしをつける

6. 競技場・施設用器具について、私は以下のことについて確認した。	
<input type="checkbox"/> この競技場が日本陸上競技連盟の公認競技場である <input type="checkbox"/> 競技場のすべての施設用器具が日本陸上競技連盟競技規則に則るものであり、正しく使用された	
技術総務自署	JAAF ID
7. 競技会運営・実施について、私は以下のことについて確認した。	
<input type="checkbox"/> (<input type="checkbox"/> 写真判定装置 <input type="checkbox"/> 手動計時で使用したストップウォッチ) が正しく作動し、計測された <input type="checkbox"/> 風向風力計が正しい位置に設置され、正しく作動し、計測された <input type="checkbox"/> 競技が日本陸上競技連盟競技規則に則り、正しくおこなわれた <input type="checkbox"/> これは混成競技の中で記録されたものであるが、スタートや風向風力など単独種目の条件を満たしている	
トラック競技審判長自署	JAAF ID
スタート審判長自署 <small>(任命されている場合)</small>	JAAF ID
混成競技審判長自署 <small>(混成競技の場合)</small>	JAAF ID
総務自署	JAAF ID
8. 私は上記すべてについて正しいことを確認し、以下の書類を添付して申請する。	
<input type="checkbox"/> 大会プログラム <input type="checkbox"/> 当該レースの全記録 (風向風力・ハードルの規格などを記入した) <input type="checkbox"/> 判定写真 (トラック競技審判長・写真判定員主任・写真判定員の3名がサインした) <input type="checkbox"/> ゼロコントロールテスト写真 <small>(トラック競技審判長・スターター・写真判定員主任・派遣されていればJTOがサインした。装置のメーカー名・品番が明記されている)</small> <input type="checkbox"/> (手動計時の場合) 計時順位判定表・計時記録判定表	
<input type="checkbox"/> ドーピング検査の依頼をした。(オリンピック種目のみ。U20/18・室内は不要)	
依頼日	月 日 / 実施日 月 日
記録申請日	年 月 日
加盟団体名/協力団体名	
代表者自署	

期日 年 月 日()

スタート記録表

競技会名

男・女 種目	予準決	レーン									失格			摘要		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	レーン	理由	時間			
男・女	予準決														:	
	組														:	
															:	
男・女	予準決														:	
	組														:	
															:	
男・女	予準決														:	
	組														:	
															:	
男・女	予準決														:	
	組														:	
															:	
男・女	予準決														:	
	組														:	
															:	
男・女	予準決														:	
	組														:	
															:	
男・女	予準決														:	
	組														:	
															:	
男・女	予準決														:	
	組														:	
															:	
男・女	予準決														:	
	組														:	
															:	

競技会で使用する略号例 (2024年度改訂)

記録用紙やスクリーンには、次のような略号を用いて簡潔に表記する。その際、観客や競技者が意味を理解できるように、使用する略号を説明した一覧表等をプログラムに記載する。

1. スタートリスト・記録用紙・スクリーンなどに用いる略号 (CR25.4)

略号	日本語表記	意味
DNS	欠場	Did Not Start
DNF	途中棄権 (トラック競技・道路競技)	Did Not Finish
NM	記録なし	No valid trial recorded
DQ	失格	Disqualified
O	成功・有効試技 (走高跳・棒高跳)	Valid trial in High Jump and Pole Vault
X	失敗・無効試技	Failed trial
—	パス	Passed trial
r	試技放棄(離脱)(フィールド競技・混成競技)	Retired from competition
Q	順位による通過者	Qualified by place in Track Events
		Qualified by standard in Field Events
q	記録による通過者	Qualified by time in Track Events
		Qualified by performance in Field Events
qD	抽選による次ラウンド進出者	Advanced to next round by draw
qR	審判長の決定による通過者	Advanced to next round by Referee
qJ	ジューリーの決定による通過者	Advanced to next round by Jury of Appeal
>	ベントニー (競歩)	Bent knee (Race Walking)
~	ロス・オブ・コンタクト(競歩)	Loss of contact (Race Walking)
YC	警告	Yellow card
YRC	2回目の警告	Second Yellow card
RC	レッドカードによる失格	Red card
L	レーン侵害(TRI7.3.3、TRI7.3.4)の適用	Lane Infringement (TRI7.3.3、TRI7.3.4)
P	抗議中の競技	Competing under protest

※備考

- ① 競技者が規則違反で失格になった場合は、相当する規則番号を明記する。

例: 「DQ TRI6.8」

「DQ FS」(以下の「3.失格の理由を示す略号の例」を使用) など

なお「**反スポーツマンシップ行為及び不適切な行為**」(TR7.1)で失格になった場合はその理由について公式記録に明記する。

- ② 「Q、q」について

・トラック競技の場合 (例:3組2着+2)

Q: 各組2着以内の競技者 (Qualified by place)

q: 3着以下で記録が上位の競技者2名 (qualified by time)

(JAAF-35①, 2024/3)

・フィールド競技の場合

Q: 予選通過標準記録突破者 (Qualified by pre-set standard)

q: TR25.15 による決勝進出者 (qualified as per TR25.15)

予選通過標準記録を突破した競技者が 12 名に満たない場合、決勝進出者を 12 名とすることから、予選通過標準記録突破者に「Q」を、TR25.15 による決勝進出者に「q」をつける。

③ 競歩競技のベント・ニー(>)、ロス・オブ・コンタクト(~)について

(>)、(~)の略号は競技運営上、競技者にパドルや掲示板で示す場合や、記録用紙に違反マークとして使用される。電光掲示板やリザルトに失格の理由が表示される場合は、「DQ」と「K1~K5」(以下の「3. 失格の理由を示す略号の例」を使用)の表記などが用いられる

2. 新記録などの略号例

略号	日本語表記	意味
P B	自己最高記録	Personal Best
S B	今季自己最高記録	Season Best
W R	世界記録	World Record
= W R	世界タイ記録	Equal World Record
W J R	U20世界記録	World U20 Record
= W J	U20世界タイ記録	Equal World U20 Record
N R	日本記録	National Record
= N R	日本タイ記録	Equal National Record
N J R	U20日本記録	National U20 Record
= N J	U20日本タイ記録	Equal National U20 Record
N Y R	U18日本記録	National U18 Record
= N Y	U18日本タイ記録	Equal National U18 Record
G R	大会記録 ◆	Game Record
= G R	大会タイ記録	Equal Game Record

◆ 競技会規模や性格により異なる大会記録略号の例		
G R	国体など	Game Record
C R	選手権大会	Championship Record
M R	ゴールデンランプリなど	Meet Record

※備考④ 競技会が行われる年の 12 月 31 日現在で、「U20」は 18 歳あるいは 19 歳、「U18」は 16 歳あるいは 17 歳の競技者のこと。「U20」の記録は 19 歳以下、「U18」は 17 歳以下の競技者が出した時に認定される。

(JAAF-35②. 2024/3)

3. 失格の理由を示す略号の例

失格の理由を示す略号は、主催団体が決めてよい。

以下はあくまでも参考例であり規則ではなく、「DQ TR16.8」のように表記してもよい。
 前述のとおり、略号を使用する場合は、観客や競技者が略号の意味を理解できるように、
 略号を説明した一覧表等をプログラムなどに記載すること。

略号例	内 容	規則番号
FS	不正スタート	TR16.8
T1	他の競技者を妨害した	TR17.1
T2	TR17.3.3またはTR17.3.4を適用した後の2回目の違反	TR17.3
T4	ブレイクライン手前でレーンを離れ内側に入った	TR17.5.3
T5	競技者が自らの意思でトラックから離脱した	TR17.6
T6	ハードルをすべて越えなかった	TR22.6
T7	足または脚がハードルをはみ出してバーの高さより低い位置にあった	TR22.6.1
T8	手や体、振り上げ脚の前側でハードルを倒した/移動させた	TR22.6.2
T9	自分または他のレーンのハードルを倒したり移動させて妨害した	TR22.6.3
T10	水濠と障害物をすべて越えなかった	TR23.7
T11	水濠と障害物を越える際に規則違反があった	TR23.7.1または7.2
R1	テイク・オーバー・ゾーン内でバトンパスが完了しなかった	TR24.7
R2	バトンを落とした際に規則違反があった	TR24.6
R3	コーナートップで並んだ際に規則違反があった	TR24.20または21
K1	ロス・オブ・コンタクトで3名以上がレッドカードを出した	TR54.7.1
K2	ベント・ニーで3名以上がレッドカードを出した	TR54.7.1
K3	ロス・オブ・コンタクトとベント・ニーで3名以上がレッドカードを出した	TR54.7.1
K4	ロス・オブ・コンタクトで競歩主任が単独で失格にした	TR54.4.1
K5	ベント・ニーで競歩主任が単独で失格にした	TR54.4.1

(JAAF-35③. 2024/3)

〔国内〕 広告規程 修改正ポイントと、運営・運用例

0 WA 広告規程 C-7.4 衣類とアクセサリー 20231201 施行

国際競技会（国際招待試合・サーキット・ラベルロードレース）におけるアスリートキット

①所属団体名/ロゴ（A/B 2パターン）別、各種表示サイズや個数の変更

A：所属団体名/ロゴが【非営利団体名】の場合の各種表示サイズや個数の変更

B：所属団体名/ロゴが【営利（商品名含み）団体名】の場合の各種表示サイズや個数の変更

②その他のアクセサリーに掲出できる製造会社名/ロゴのサイズの変更

③セレモニービブスのサイズ拡大可

1 2024年度〔国内〕規程 (20240201 現在 案) ※新規、追記、修正事項のみ

C-7.1 適用競技会、適用と責任

①適用競技会 (1.1.1)

②大会主催者独自の規則の作成と告知 (1.3.1)

③適用競技会における主催者の責任、広告規程管理者任命の推奨 (巻末)

C-7.4 アスリートキット/衣服と、アクセサリー

④所属団体名/ロゴ（C/D 2パターン）別、各種表示数の変更

C：所属団体が【一般・クラブ】の場合のスポンサー・製造会社名表示数の変更

D：所属団体が【学校】の場合のスポンサー・製造会社名表示数の変更

⑤医療用テープおよび一般的なテープの扱い (6.5)

C-1.4 競技場・競技場外競技における展示物関係

※WA「任意」扱い → 〔国内〕基準

2 競技会での運営・運用例

①大会要項への例示表示や、事前チェックについて

②現場での対応 「教育的指導」/「隠すべきは隠す」 他

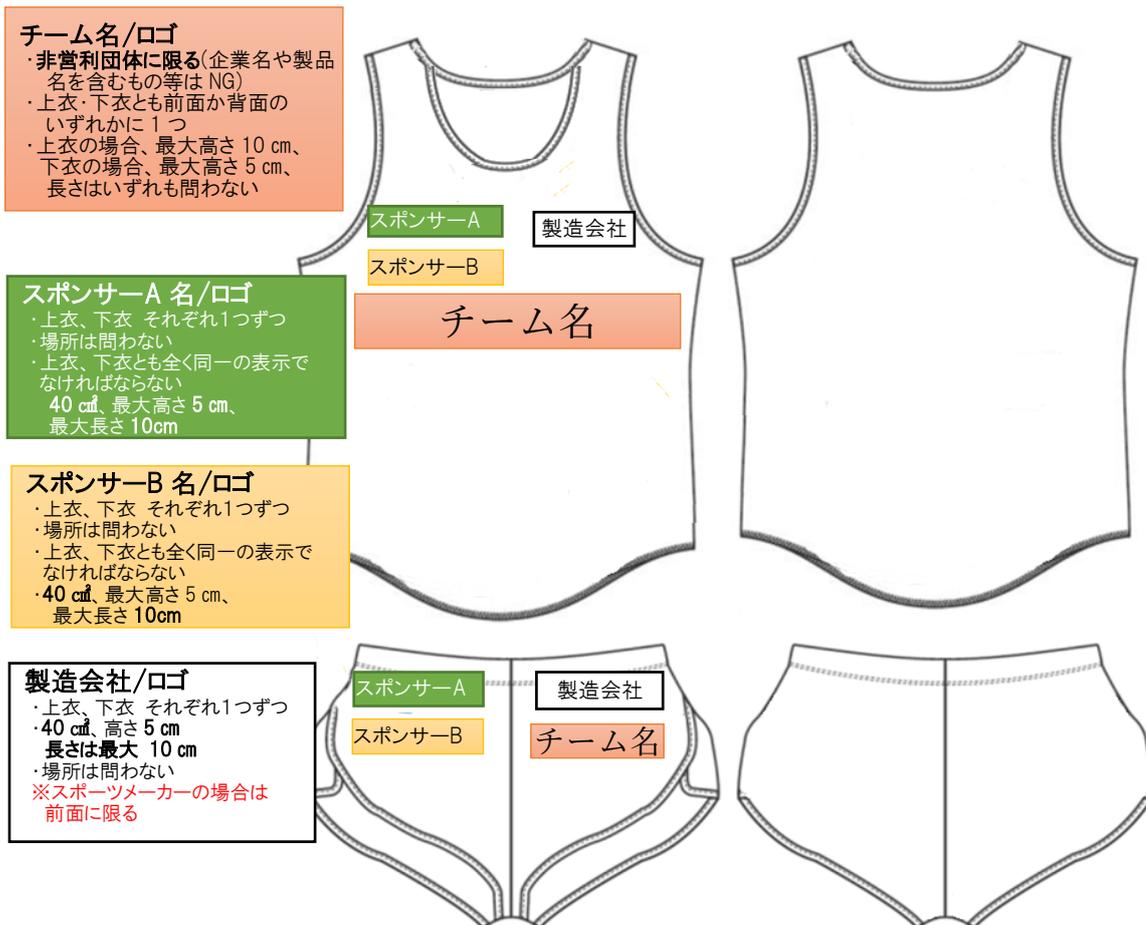
WA 広告規程 アスリートキット (衣類)

国際大会〔国際招待大会、サーキットとラベルロードレース〕用

※ユニフォーム、ジャージ等の衣類全て

A: 営利 (企業) 名 / 商品名 を 所属団体名 / ロゴ

に含まない場合 (例) 学校



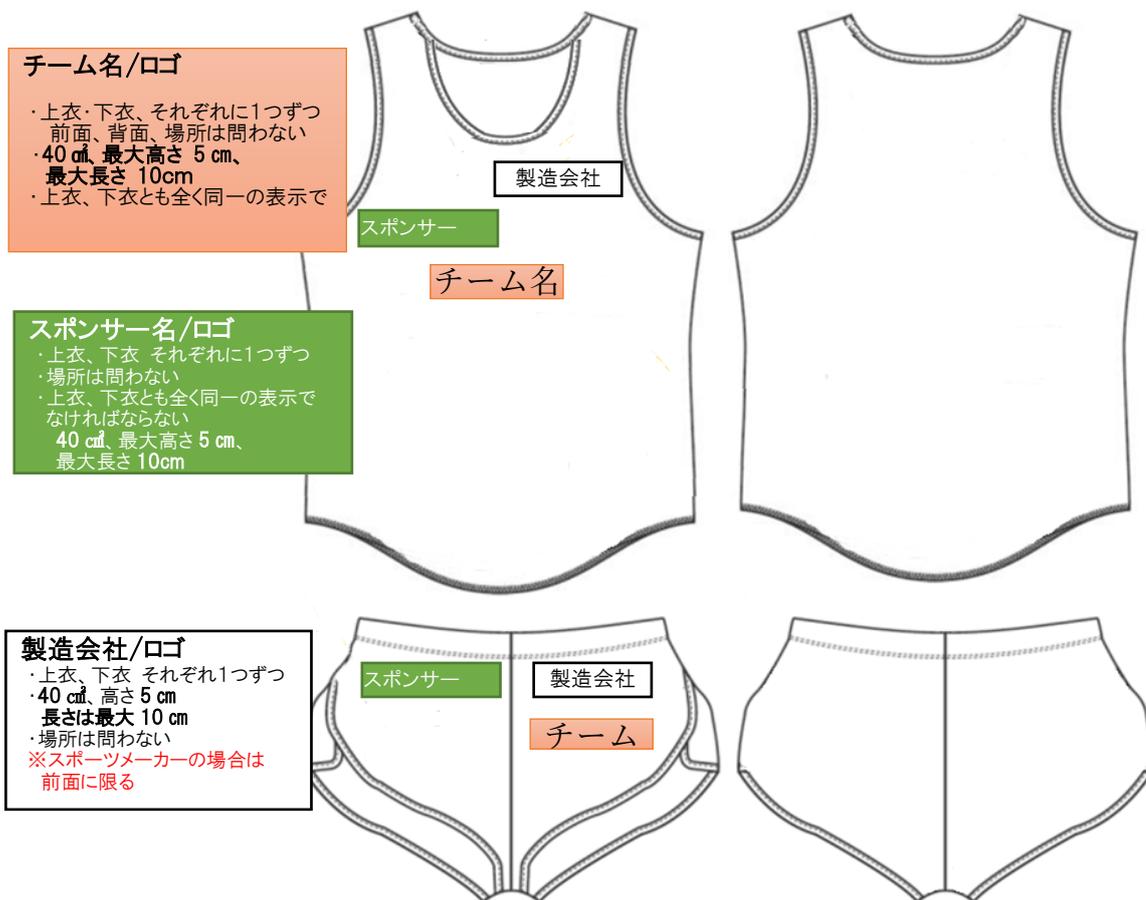
WA 広告規程 アスリートキット (衣類)

国際大会〔国際招待大会、サーキットとラベルロードレース〕用

※ユニフォーム、ジャージ等の衣類全て

B: 営利 (企業) 名 / 商品名 を 所属団体名 / ロゴ

に含む場合 (例) 実業団登録団体 等



JAAF[国内]広告規程 アスリートキット (衣類)

※ユニフォーム、ジャージ等の衣類全て

C: 一般・クラブ (所属団体) 名/ロゴ、個人 表示用

The diagram illustrates the placement of logos and names on a tank top and shorts. The tank top is shown from the front and back, and the shorts are shown from the front. Various colored boxes indicate where logos and names can be placed: green for Sponsor A, yellow for Sponsor B, and orange for the team name. A white box indicates the manufacturer's name/logo.

スポンサーA 名/ロゴ
・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
・場所は問わない
・上衣、下衣 とも全く同一の表示でなければならない
・40 cm²、最大高さ 5 cm、最大長さ 10cm

スポンサーB 名/ロゴ
・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
・場所は問わない
・上衣、下衣 とも全く同一の表示でなければならない
・40 cm²、最大高さ 5 cm、最大長さ 10cm

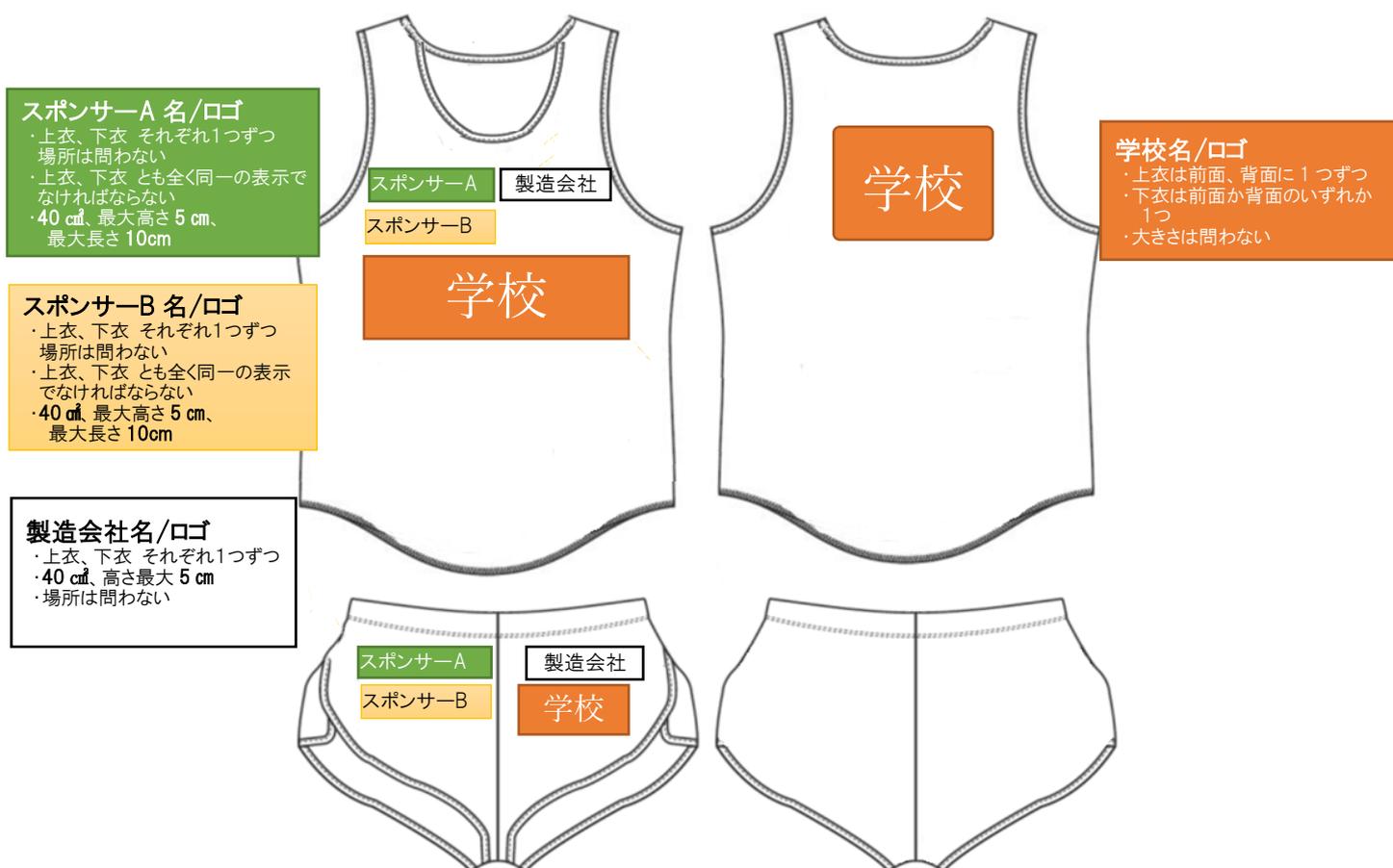
製造会社/ロゴ
・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
・40 cm²、高さ 5 cm
・長さは最大 10 cm
・場所は問わない
※スポーツメーカーの場合は前面に限る

チーム名/ロゴ
・上衣は前面、背面に1つずつ
・下衣は1つのみ
・上衣前面の最大高さ 5 cm
・上衣背面の最大高さ 4 cm、
・下衣は最大高さ 5cm
それぞれ長さは問わない

JAAF[国内]広告規程 アスリートキット (衣類)

※ユニフォーム、ジャージ等の衣類全て

D: 学校用



競技会における広告および展示物に関する規程

(2024 年 4 月修正)

2019 年 11 月 23 日に WA 広告規程として以下の C7.1~5 が公開された。

C7.1 - Marketing and Advertising Rules

C7.2 - Marketing and Advertising Regulations Clothing & Accessories (International Competitions 1.1(a), 1.3 & 1.4)

C7.3 - Marketing and Advertising Regulations Events (International Competitions 1.1(a), 1.3 & 1.4)

C7.4 - Marketing and Advertising Regulations Clothing & Accessories (International Competitions 1.5 & 1.9)

C7.5 - Marketing and Advertising Regulations Events (International Competitions 1.5 & 1.9)

2023 年 3 月 31 日に C7.1 が、また 2023 年 12 月 1 日に C7.2~7.5 が改編され、

以下の通りとなった。

C7.1 - Marketing and Advertising Rules

C7.2 - Marketing and Advertising Regulations Clothing & Accessories

(World Athletics Series = WA シリーズ)

C7.3 - Marketing and Advertising Regulations Events (International Competitions 1.1(a), 1.3 & 1.4) → (下記に移行：2023.3.31)

C1.2 WAS Regulations Marketing and Advertising : Event Branding ・ Appendix7

(WA シリーズ規則 マーケティングや広告 イベントのブランディング 付録 7

及び C-7.2)

C7.4 - Marketing and Advertising Regulations Clothing & Accessories

(World Rankings Competitions : Invitation Meetings / Circuits and Label Road Races)

C7.5 - Marketing and Advertising Regulations Events (International Competitions 1.5 & 1.9)

→ (下記に移行：2023.3.31)

C1.2 WAS Regulations Marketing and Advertising : Event Branding ・ Appendix7

(WA シリーズ規則 マーケティングや広告 イベントのブランディング 付録 7

及び C-7.4)

C1.4 Marketing and Advertising Regulations WRk Event Branding ・ Appendix1

(マーケティングや広告規則 WRk 競技会 イベントのブランディング 付録 1

及び C-7.1 の 1.6 及び、C-7.4)

このうち C7.2 は WA 主催競技会の規程であるため割愛し、本規程は WA 広告規程 C7.1 お

よび C7.4 と、C1.4 付録に記載されているものを日本語訳したもので、国際大会での使用を基本とする。本規程を国内大会で使用する場合、[国内]-本連盟独自に追加したもの-を適用し、さらに WA を JAAF あるいは大会主催者に読み替えて使用する必要がある。

WA 広告規程 (2023 年 12 月 1 日)

Book C – C7.1

特定の定義

本規程で使用される語句のうち、定義された用語（頭文字を大文字で示す）は、憲章および／または一般的定義に明記された意味、あるいは（以下の語句に関しては）以下の意味を持つものとする：

賭博/Bet

スポーツ競技規則の操作に係る規則で定義されている通り。

賭博行為/Betting

ベットを行う、受け入れる、またはレイオウすることであり、固定オッズおよびランニングオッズ、トータリゼーター/トートゲーム、ライブベッティング、ベッティングエクステンジ、スプレッドベッティング、ピアツーピアベッティング、および合法的なベッティングオペレーターまたは違法なベッティングオペレーターによって提供されるその他のゲームなど、一般的にスポーツベッティングと呼ばれる活動を含むものとします。

賭け事/Gambling

カジノ、オンラインおよび/または賭博行為でプレイされるタイプのゲーム（ポーカー、ビンゴ、バックギャモン、ルーレット、バカラ、ブラックジャック、ケノ、スロットマシン、サイコロを含むが、これらに限定されない）。

1. マーケティングおよび広告規程

1.1 本規則は、以下のワールドランキング対象競技会に適用される：

ワールドランキング競技定義パラグラフ番号	定義 – WA が開催または、認可する競技会
1.a	ワールド・アスレティックス・シリーズ (WAS)
1.c	複数エリア (地域) からの参加者による総合競技大会の陸上競技プログラム、およびその他の陸上競技大会の陸上競技プログラム
1.d	国際招待大会、サーキットとラベルロードレース
1.e	複数エリア (地域) からの参加者による国際競技会

1.1.1 〔国内〕WA が指定する競技会の他、以下の（i）から（v）の国内競技会に、本連盟が定めるマーケティングおよび広告に関する規程が適用される。

- （i） 本連盟主催・共催競技会
- （ii） 本連盟後援競技会
- （iii） テレビ放映またはインターネット等によって不特定多数に送信される競技会
- （iv） アスリートビブス広告協賛を付した競技会
- （v） その他大会要項において本規程の適用を定めている競技会

1.2 エリア（地域）陸連は、独自のマーケティングおよび広告の規程と規則を作成し、適用することができる：

ワールドランキング競技定義パラグラフ番号	定義—エリア（地域）陸連が開催または、認可する競技会
2.a	エリア選手権（すべての種別や種目）
2.b	エリア内選手権
2.c	参加者が単一（地域）のエリアに限定された総合競技大会の陸上競技プログラム、およびその他の陸上競技大会の陸上競技プログラム
2.d	国際招待大会、サーキットとラベルロードレース
2.e	単一エリア（地域）からの参加者による国際競技会

競技規則に基づき WA に認められた適用可能な規程を適用する。

1.3 このワールドランキング対象競技会の定義で第 1 項および第 2 項に規定されている競技会では、本規程および規則に基づき制定される規則を遵守することを条件に、独自に作成のマーケティングおよび宣伝広告の展示が許可される。

1.3.1 〔国内〕（ii）から（v）の競技会では、大会主催者が独自にマーケティングおよび広告の規則を作成し適用することができる。施行する規則は事前に告知するものとする。

〈注意〉誤解を避けるために記すが、大会主催者独自の作成規則とは、当該競技会のスポンサーやサプライヤーを守るために、大会主催者の責任において WA 広告規程および国内規程では許される表示の一部を変更する規則をさす。

1.4 カウンシルは、ワールドランキング対象競技会の定義で第 1 項および第 2 項に規定されている競技会における広告の形式、および宣伝物その他の掲示方法に関する詳細なガイダンスを提供する規則を随時承認する。

1.5 マーケティングおよび広告に関する規程の適用範囲 「衣類およびアクセサリ」：

ワールド・アスレティックス・シリーズ競技会（Book C、C7.2 参照）、およびマーケティングおよび広告に関する規程（Marketing and Advertising Regulations Event Branding）：以下のワールドランキング対象競技会への「ワールドアスレティックスシリーズ競技会」（Book C, C1.2 Appendix 4 参照）の適用範囲は以下の通りである：

適用	ワールドランキング競技定義パラグラフ番号	定義
必須	1 .a	ワールド・アスレティックス・シリーズ（WAS）
任意選択	1 .c	複数エリア（地域）からの参加者による総合競技大会の陸上競技プログラム、およびその他の陸上競技大会の陸上競技プログラム
	1 .e	複数エリア（地域）からの参加者による国際競技会
規則 1 および 2 に従い、上記エリア（地域）連盟が独自の規則を持たない場合、通常（c 7.2）が適用される	2 .a	エリア選手権（すべての種別や種目）
	2 .b	エリア内選手権
	2 .c	参加者が単一（地域）のエリアに限定された総合競技大会の陸上競技プログラム、およびその他の陸上競技大会の陸上競技プログラム
	2 .e	単一エリア（地域）からの参加者による国際競技会

1.6 マーケティングおよび広告に関する規程の適用範囲「イベント・ブランディング」：以下のワールドランキング対象競技会へのダイヤモンドリーグ&コンチネンタルツアー・ゴールド（Book C、C1.3 Appendix 1 および C1.4 Appendix 1 参照）の適用範囲は以下の通りである：

適用	ワールドランキング競技定義パラグラフ番号	定義—WA が開催または、認可する競技会または、エリア（地域）陸連が開催または、認可する競技会
必須	1 .d & 2 .d	ダイヤモンドリーグ、コンチネンタルツアー・ゴール

		ドのみ
任意選択	1.d & 2.d	特に指定のない、上記以外の国際招待大会、サーキットとラベルロードレース ※但し、誤解を避けるために記すが、マーケティングおよび広告規程 1.7 は、すべての国際招待大会、サーキットおよびラベルロードレースに適用される。

1.7 ワールドランキング対象競技会の定義で第1項および第2項に規定されている競技会には、以下の、許可および禁止事項が適用される：

- 1.7.1 総則：WAの見解において、品格に欠ける、目障りとなる、侮辱的、中傷的、その他公序良俗に反するマーケティングは、ワールドランキング対象競技会の趣旨を考慮して、禁止されている。
- 1.7.2 アルコール製品：アルコール製品のマーケティングは次のものが許可される：
 - a. 関連するすべての法律に準拠しているもの。
 - b. アルコール含有量が20%未満のアルコール製品。
- 1.7.3 たばこおよび関連製品：たばこまたはたばこ関連製品および電子たばこ（e-shishaまたはe-hookah）または電子たばこ関連製品（詰め替え用など）のマーケティングは禁止されている。
- 1.7.4 武器および兵器：武器および兵器（それらの製造業者を含む）のマーケティングは禁止されている。
- 1.7.5 食品サプリメント/栄養補助食品：食品サプリメント/栄養補助食品/製品のマーケティングは、WA健康科学部との協議の後、書面で特別に承認されていない限り禁止されている。
- 1.7.6 エネルギードリンク：エネルギードリンク（刺激物を含む）のマーケティングは、WA健康科学部との協議の後、書面で特別に承認されていない限り禁止されている。
- 1.7.7 スポーツドリンク/水分補給タブレット：スポーツドリンク/水分補給タブレットのマーケティングは、許可されている。
- 1.7.8 製薬会社および（または）製薬製品：製薬会社および（または）製薬製品のマーケティングは、WA健康科学部との協議の後、書面で特別に承認されていない限り禁止されている。誤解を避けるために記すが、カンナビジオール(CBD/大麻草の

茎や種子から抽出・製造)を含む製品のマーケティングは禁止されています。

- 1.7.9 賭博行為：書面による特別な承認がない限り、賭博行為と関連するギャンブルの商品およびサービスのマーケティングはアスレティックス・インテグリティ・ユニットとの協議の後、書面で特別に承認されていない限り禁止されている。
- 1.7.10 宝くじ：国や地方自治体の宝くじのマーケティングは許可される。
- 1.7.11 政治的／宗教的マーケティング：政治的（例：政党、政治団体、政治運動、政治的概念・主義主張あるいはその他政治目的を推進する宣伝）および宗教的（例：宗教、宗教活動、宗教的概念・主義主張あるいはその他宗教大義を推進する宣伝）なマーケティングは、いずれも禁止されている。
- 1.7.12 すべてのマーケティングおよび広告は、適用されるすべての法令と安全上の規則を遵守しなければならない。

規則 1.1 および 1.2 に関する注意事項

エリア（地域）陸連が、本規程に基づき、評議会（カウンスル）によって認められた規程を適用することを選択する場合、エリア（地域）連盟は、内部承認の過程に従って、当該規則の採用の承認を求めなければならない。エリア（地域）連盟が独自のマーケティングおよび広告の規則を作成する場合であっても、本規程および本規程に基づき施行された規則が適用される場合であっても、その規則の適用および施行に責任を負うのはエリア（地域）連盟であり、WAではない。ワールドランキング競技会（国際競技会）の定義 1.c.、1.d.、1.e.および 2.d.の競技会の場合、WAではなく大会主催者が、規程の適用と施行に責任を負う。

〔国内〕 1.1.1 の競技会では、(i) は本連盟、(ii) から (v) については、大会主催者が、規程の適用と施行に責任を負う。

〔国内〕 1.1.1 の競技会では、WA 競技規則 CR30.に定めのある、広告コミッショナーに準じた任務、広告規程の管理担当者の任命を推奨する。

Book C – C7.4 マーケティングおよび広告規程

衣類とアクセサリー

ワールドランキング競技大会

(国際招待大会、サーキットとラベルロードレース)

1. 定義

つぎにあげる用語は、本規程の目的のために以下の特定の意味をもつ。

広告

販売促進の性質をもつあらゆる広告および展示物。

適用法

すべての法律および法的規制（競技が開催される国の法律および競技者の母国の法律を含む）、ならびに安全や衛生に関する法律および放送局によって制定された、または放送局に適用されるあらゆる法的規制。

アスリートキット

競技用の衣類（トップス、ベスト、ショーツ・パンツ、レギンスなど）、ウォームアップ用の衣類、セレモニーキット（トラックスーツ、Tシャツ、スウェットシャツ、スウェットパンツ、レインジャケット）、および競技会に参加時に競技者が着用するあらゆるその他のキットやアパレルなど。

アスリートスポンサー

競技者に関して商業的権利（マーケティング権）を許諾された、あるいは取得した会社（スポンサー）

ビブス

競技会中に競技者が身に着ける識別（ID）カード（国名、名前や番号で識別）。

招集所

競技前、競技エリア（FOP）に入る直前に競技者が集合する競技会会場にある部屋。

競技者係

競技前に招集所ですべての競技者の衣服や携行品を競技規則に基づいて確認する 1 名以上の競技役員。

招集所審判長

招集所に関して競技規則に従って任命された 1 名以上の審判長。

競技会

競技者が参加し、競技する陸上競技会（いろいろな形式・種目で）。

競技会役員

競技規則に従って大会主催者により任命された役員およびその代表。

複合ロゴ

別のロゴやクラブ名と組み合わせたロゴを意味する。

クラブ

競技者が現在所属するクラブを意味する。加盟会員であり、国内会員連盟が開催または認可した大会に参加し、代表することを目的とする（世界ランキング大会の定義 1.3 を参照）。

競技会

国際招待競技会、サーキット、またはラベルロードレースを指す。

（ワールドランキング競技会の定義 1.d. および 2.d. を参照）。

大会主催者

競技の運営に責任があり、関連する WA のラベルまたは許可を与えられた主催者。

競技会会場

すべての競技場エリア競技の場合、大会主催者の管理下にあるスタジアム内およびスタジアムに直接隣接するエリア（屋内または屋外）。すべてが競技場外競技の場合、主催者の管理下にあるコースまたはルート。

大会スポンサー

エリア（地域）または国のレベルの競技会に関してスポンサーシップならびに（または）その他商業的権利を獲得および与えられた会社で、タイトルスポンサーを含む。

大会タイトル（大会名）

大会の公式タイトル（タイトルスポンサー名を含む）。

競技エリア（FOP）

競技者が競技を行う場所（競技場外の競技ではコースも含む）および競技者が表彰を受ける場合は、待機場所、ミックスゾーン、報道エリア、表彰台およびビクトリーランエリアも含まれる。

ジュリー

競技規則の下で設置された抗議対応の陪審員。

ロゴ

シンボル、デザインまたはその他の図案化された表示、スローガン、会社名（ウェブサイトやソーシャルメディア上の肩書を含む）、ならびにまたは、そうした会社の製品名あるいは競技会名を表すもの。

マーケティング

広告、宣伝、報道、契約、推奨、販売促進、後援、または出版物を含むが、これらに限定されない製品またはサービスの販売および販売促進活動。

プレゼンテーションビブス

表彰式で表彰台に上がる競技者が身に着ける色付きのビブス。

プロバイダー

競技会の企画、開催に必要なあらゆる製品またはサービス（以下に例示）を競技者、競技役員あるいは競技会に製造または供給することを主な事業とするすべての会社。例えば、飲料、コピー機、車両、計時、計測、コンピューター（ハードウェア/ソフトウェア）、通信、ホームエレクトロニクス（テレビ/オーディオ/ビデオ/放送設備）など。あるいは大会主催者に

よって認められたあらゆる製品またはサービスを競技者、競技役員あるいは競技場に供給するすべての会社。

審判長

競技規則に従って任命された審判員。

タイトルスポンサー

大会の公式名に組み込まれている大会のタイトルスポンサーになっている大会スポンサー。

2. 目的と開始

2.1 本規程は、WA 競技規則の中の憲章およびマーケティングおよび広告規程の第 4.1 条 (d) および 47.2 条 (d) に従って作成された。

2.2 WA 競技規則におけるマーケティングおよび広告に従って、本規程は、WA カウンシル（世界陸上競技評議会）により随時改正される場合がある。規程に加えられた改正は後続版に含まれ、そのような変更がカウンシルによって承認された日から有効になる。

〔国内〕 本規程は発効時期を含め理事会の議決を必要とする。ただし、WA 規程の改定に伴う改定の場合はその限りではない。

2.3 本規程は、競技者、競技者スポンサー、大会スポンサー、フォトグラファー（スチールカメラマン）とカメラクルー、プロバイダー関係者、大会主催者（ボランティアを含む）の、またはこれらの人々に関連する、マーケティングを、以下の競技会会場で管理する。

適用	ワールドランキング競技定義パラグラフ番号	その他 世界陸上競技大会または地域協会のいずれかによって認可されたもの
必須	1.d & 2.d	招待競技会・サーキット・ラベルロードレース

2.4 これらの規則は、WA 競技規則と他の WA 規程と併せて読む必要がある。

2.5 以下の間に不一致があった場合、

2.5.1 本規程および規則では、WA の競技規則の関連条項が適用される。

2.5.2 本規程と WA 憲章では、憲章の関連条項が適用される。

2.6 本規程に関するお問い合わせは以下のメールアドレスまで。

kitapprovals@worldathletics.org

3. 総則

3.1 競技会会場でマーケティングはすべて、WA 競技規則と規程、本規程、WA によって発行された適用可能なガイドライン、およびすべての適用法に準拠する必要がある。

- 3.2 (a) 競技者 (b) 大会スポンサーによる、またはこれらに関連するマーケティング (c) フォトグラファー (スチールカメラマン) とカメラクルー (d) 本規程に記載されているプロバイダーのスタッフおよびその他の人物、または彼らに関連するマーケティングは、すべて競技会会場で、本規程に従っている必要がある。また、競技の技術的運営に (競技場を含む) に悪影響を与えてはならない。
- 3.3 本規程で明示的に許可されているか、大会主催者によって承認されている場合を除き、広告、ロゴ、またはその他のブランド表示が付いたアイテムは、競技者、競技役員、大会スポンサー、フォトグラファー (スチールカメラマン)、カメラクルー、プロバイダー、または本規程に記載されているその他の人物、または大会を支援している人物によって、競技会会場に表示、持ち込み、着用、または配置することはできない。
- 3.4 大会ロゴと大会マスコットは、アスリートキットや競技役員に表示することはできないが、第 11 項に従って、大会ロゴはフォトグラファー (スチールカメラマン) とカメラクルーのビブに表示できる。
- 3.5 TR5.1 に従って、競技者は清潔で、不快に思われぬようにデザインされ仕立てられた衣類 (アスリートキット) を着用しなければならない。その布地は濡れても透き透らないものでなければならない。
- 3.6 許可と禁止
- 3.6.1 本規程は、マーケティングおよび広告規程の 1.7 に定められた許可および禁止が常に適用される。

4. アスリートスポンサー

- 4.1 競技者がアスリートキットにアスリートスポンサーのロゴを表示することを希望する場合、競技者は、本規則に定められた要件が遵守される場合に限り、表示することができる。誤解を避けるために付記するが、アスリートスポンサーと大会主催者の間にスポンサーカテゴリーの競合がある場合、競技者のイベントへの参加を管理する商業上の取り決めを考慮し、競技者と主催者が解決するものとする。大会主催者は、競技者の認定された競技者代表と事前に連絡を取り、そのようなカテゴリーの競合を解決する必要がある。このような問題は WA が解決するものではないが、スポーツメーカーのスポンサーカテゴリーにおける紛争は、陸上競技のスポーツにおいて受け入れられた習慣および慣行であるとみなされるため、WA によって禁止されているわけではない。

[国内] アスリートスポンサー名/ロゴと、所属団体名/ロゴを、アスリートキット、および許可されている場合は個人の所有物やアクセサリに表示することができる。個人の所有物やアクセサリに表示する場合は、いずれも同じスポンサー名/ロゴ(所属団体名/ロゴ) でなければならない。

- 4.2 誤解を避けるために記すが：

- 4.2.1 製造会社およびアスリートスポンサーは、本規程に従って、アスリートキットまたはその他のアパレル（規則 5.5 項 参照）および個人の所有物またはアクセサリー（規則 6 項参照）のアイテムに 1 つのブランド名/ロゴを 1 回のみ表示できる。
- 4.2.2 アスリートキットの製造会社は、アスリートキット、その他のアパレル、個人の所有物、またはアクセサリーに 1 つのブランド名/ロゴを入れ、アスリートキット、その他のアパレル、個人の所有物、またはアクセサリーに別のブランド名/ロゴを入れることはできない。また、アスリートキットやその他のアパレル、個人の所有物、アクセサリーのアイテムに複数回、同じ名前/ロゴを表示することもできない。

4.3 競技会会場で着用するアスリートキット

- 4.3.1 競技者は本規程に準拠したアスリートキットを常に競技会会場で着用しなければならない。（ウォームアップエリアやウォームアップトラックでのウォームアップセッション中、および式典中の競技者も含む）。誤解を避けるために記すが、選手者は、WA によって書面で承認されている場合、競技会会場で加盟国のチームキットを着用できる。

5. アスリートキット

5.1 キット

- 5.1.1 本規程で明示的に許可されていないアスリートキットのマーケティングまたはその他の識別は固く禁じられており、本規程の違反となる。
- 5.1.2 以下の名前/ロゴは、（WA によって別段の指定がない限り）さらなるガイダンスで示された配置に従ってアスリートキットに表示してもよい。
- ・ 製造会社名/ロゴ
 - ・ アスリートスポンサー（非製造会社）名/ロゴ
 - ・ 競技者/クラブ名/ロゴ
- 5.1.3 競技者が所属クラブのアスレチックキットを着用する場合、本規程に準拠する必要があり、クラブ名/ロゴが営利団体の名前を表示している場合、許可されている場合でもアスリートスポンサー名/ロゴの数は 1 つ減じられる。

5.2 トップス、ベスト、シャツを含むアスリートキット

- 5.2.1 規則 5.1.3 に従って、競技用トップスに次の表示を行うことが許可される。（以下のオプション A または B のいずれか）。

競技用トップス (上衣)				
(ベスト、T シャツ、レオタード上半身、セレモニーキット、トラックスーツ (ジャージ)、スウェットスーツ、レインジャケットなど)				
	オプション A 製造会社名/ロゴ あり		オプション B 製造会社名/ロゴ なし	
名称/ロゴ/エンブレム	数(最大)	大きさ(最大)	数(最大)	大きさ(最大)
スポーツメーカー - スポンサー / サポーター / サプライヤー (フロントのみ)	1つだけ	高さ 5cm 長さ 10cm まで 40 cm ²	×	×
スポンサー (非スポーツメーカー) (前面か背面のどちらか)	2社 (異なるスポンサー)。		3社 異なるナショナルスポンサー (非スポーツメーカー) - 国内スポンサーごとに1つの配置	高さ 5cm 長さ 10cm まで 40 cm ²
クラブロゴ (非営利、クラブロゴに商業名がある場合は規則 5.1.3 を参照) またはアスリート名 (該当する場合) を前面または背面に	1個	高さ 10cm	1個	高さ 10cm
合計	計 4		計 4	

5.2.2 規則 5.1.3 に従って、ショーツ (パンツ)、タイツ、またはレギンス (オプション A または B) に次の表示を行うことが許可される。

競技用ボトムズ (下衣)				
ショーツ (パンツ)、タイツ、レギンス、レオタード下半身、セレモニーキットボトムズ、トラックスーツ (ジャージ) ボトムズ、スウェットパンツなど)				
	オプション A 製造会社名/ロゴ あり		オプション B 製造会社名/ロゴ なし	
名称/ロゴ/エンブレム	数(最大)	大きさ(最大)	数(最大)	大きさ(最大)
スポーツメーカー - スポンサー / サポーター / サプライヤー (フロントのみ)	1つだけ	高さ 5cm 長さ 10cm まで 40 cm ²	×	×
スポンサー (非スポーツメーカー) (前面か背面のどちらか) - 上衣と同じスポンサー (最大2社)	2社 異なるスポンサー		3社 異なるスポンサー (非スポーツメーカー) - 1社ごと1つの配置	高さ 5cm 長さ 10cm まで 40 cm ² 高さ 10cm
クラブロゴ (非営利、クラブロゴに商業名がある場合は規則 5.1.3 を参照) またはアスリート名 (該当する場合) を前面または背面に	1個	高さ 5cm	1個	高さ 5cm
合計	計 4		計 4	

5.2.3 レオタード (ワンピースを含む) の場合、上半身 (つまり腰より上) の表示は規則 5.2.1 に準拠し、下半身 (つまり腰から下) の表示は規則 5.2.2 に準拠する必要がある。

5.2.4 競技者が着用するセレモニーキット、トラックスーツ (ジャージ)、スウェットシャツ、レインジャケットを含むその他のアスリートキットの上半身アイテム (つまり、腰より上/上衣) では、表示は規則 5.2.1 に準拠する必要がある。

〔例示1 WA 規程 国際大会〕：〔国際招待大会、サーキットとラベルロードレース〕用
営利（企業）名 / 商品名 を 所属団体名 / ロゴ に含まない場合 ・ 学校名

（ユニフォーム、ジャージ等のその他の衣類全て同様）

チーム名/ロゴ

- ・非営利団体に限る（企業名や製品名を含むものはNG）
- ・上衣・下衣とも前面か背面のいずれかに1つ
- ・上衣の場合、最大高さ 10 cm、下衣の場合、最大高さ 5 cm、長さはいずれも問わない

スポンサーA 名/ロゴ

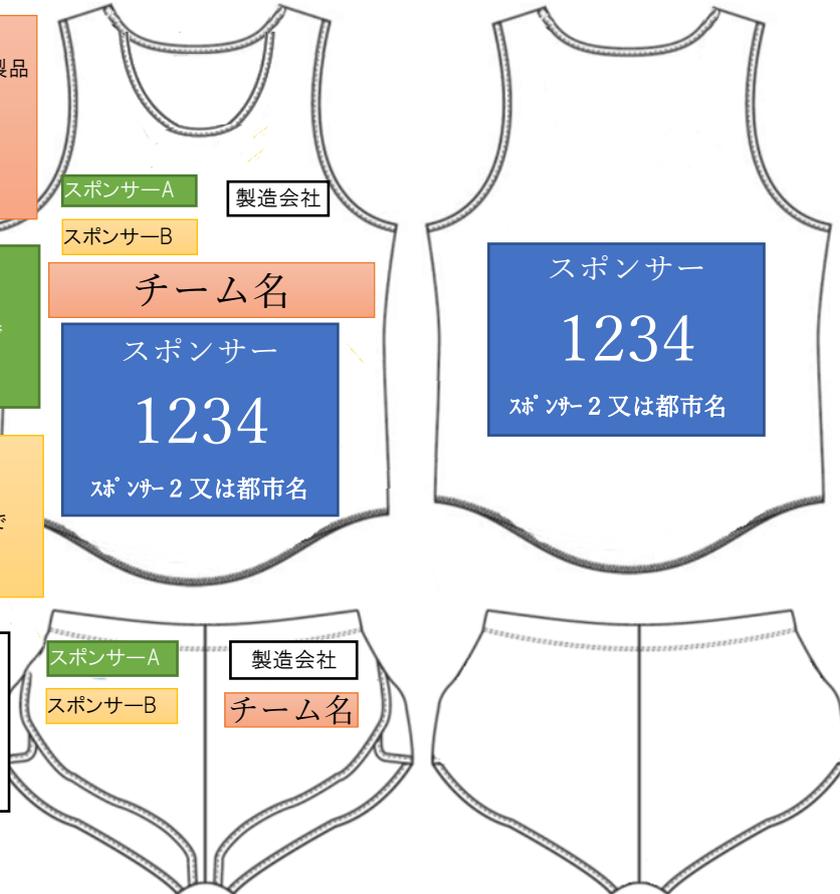
- ・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
- ・場所は問わない
- ・上衣、下衣とも全く同一の表示でなければならない
- ・40 cm、最大高さ 5 cm、最大長さ 10cm

スポンサーB 名/ロゴ

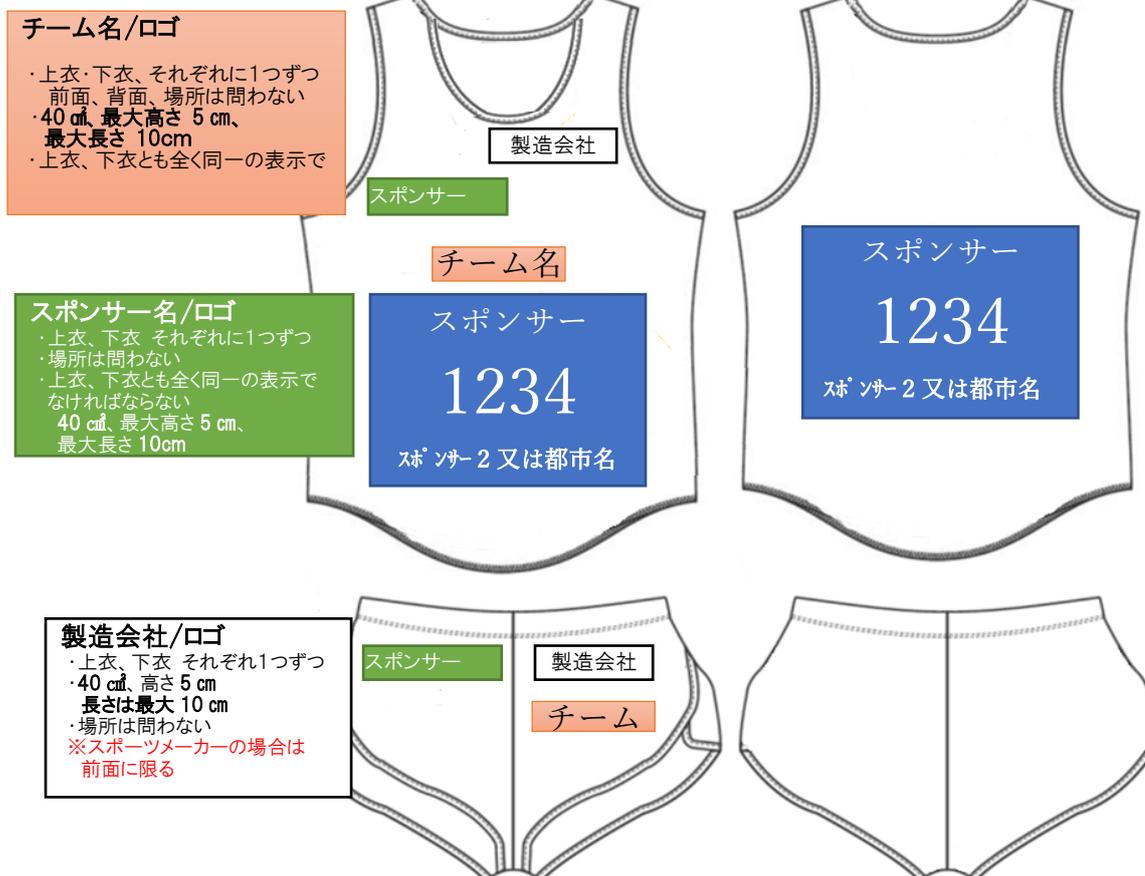
- ・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
- ・場所は問わない
- ・上衣、下衣とも全く同一の表示でなければならない
- ・40 cm、最大高さ 5 cm、最大長さ 10cm

製造会社/ロゴ

- ・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
- ・40 cm、高さ 5 cm
- ・長さは最大 10 cm
- ・場所は問わない
- ※スポーツメーカーの場合は前面に限る



〔例示2 WA 規程 国際大会〕：〔国際招待大会、サーキットとラベルロードレース〕用
 実業団等（企業名・商品名を含む）所属団体名/ロゴの場合
 （ユニフォーム、ジャージ等のその他の衣類全て同様）



〔国内〕所属団体（クラブ）名/ロゴ、所属団体（クラブ）スポンサー名/ロゴや競技者スポンサー名/ロゴを以下の形式でベスト、パンツまたはレオタード（上・下）にそれぞれ、表示することができる。

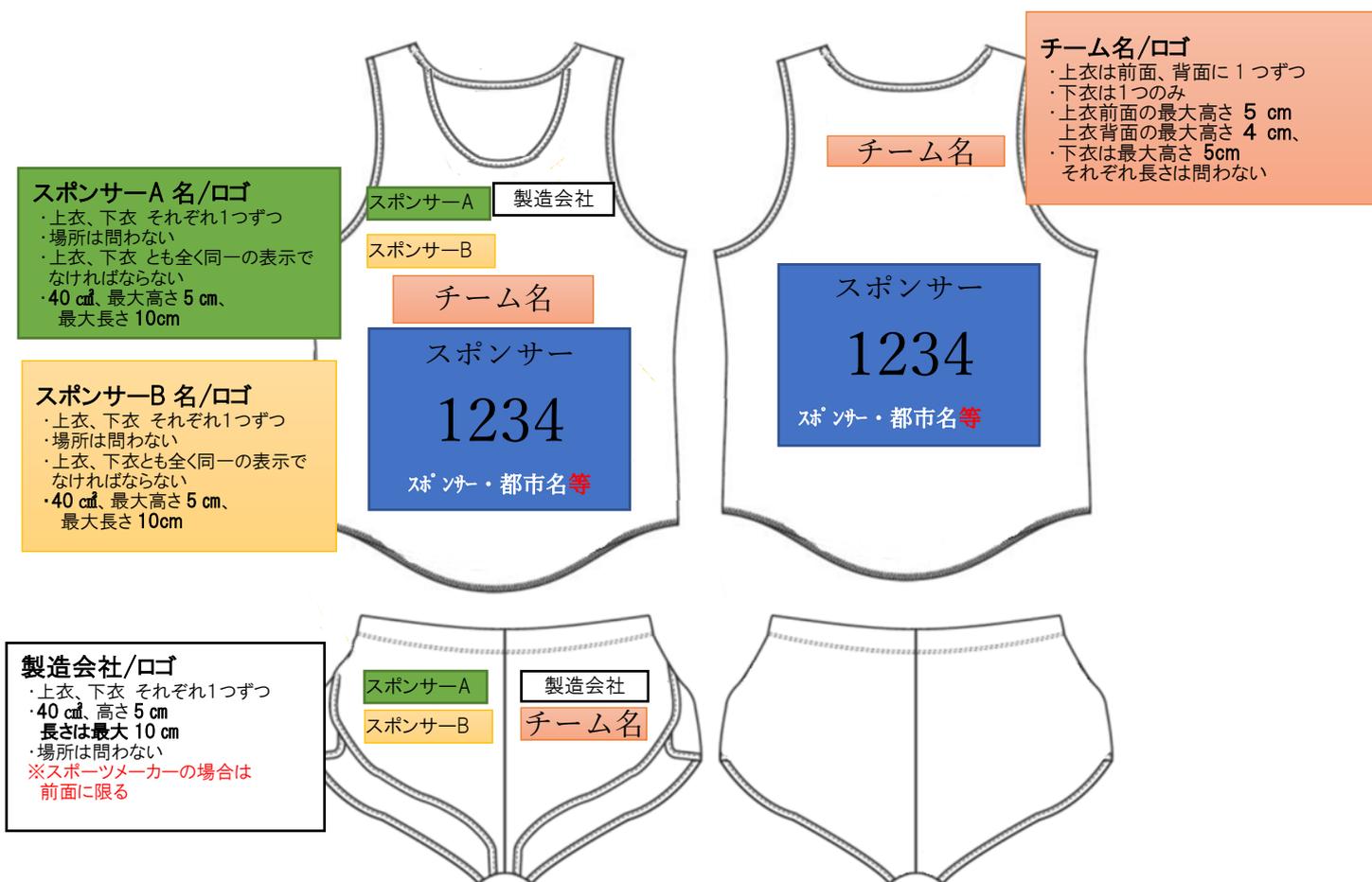
- (i) 所属団体（クラブ）名/ロゴ、所属団体（クラブ）名+所属団体（クラブ）ロゴの組み合わせのいずれか1つ。（名前とロゴを切り離して表示することはできず並列して表示しなければならない）。上衣の前面の文字およびロゴの高さは5 cm以内とするが長さの制限は設けない。ただし、文字が表示されたワッペンをつける場合はワッペンの高さは5 cm以内とし、長さの制限は設けない。
- 所属団体（クラブ）名/ロゴまたは、所属団体（クラブ）名+所属団体（クラブ）

ロゴの組み合わせは、ベストまたはレオタードの背面にも表示することができる。その文字の高さは4 cm以内とし、長さの制限は設けない。

(ii) 所属団体(クラブ)名/ロゴまたは、所属団体(クラブ)名+所属団体(クラブ)ロゴの組み合わせは、下衣(パンツまたはレオタード下)に1つ表示することができる。その文字の高さは5 cm以内とし、長さの制限は設けない。

(iii) 所属団体(クラブ)スポンサー名/ロゴや競技者スポンサー名/ロゴ、所属団体(クラブ)スポンサー名+所属団体(クラブ)スポンサーロゴの組み合わせあるいは競技者スポンサー名+競技者スポンサーロゴの組み合わせのいずれかを2つまで表示できる。文字およびロゴの最大の大きさは40 cm²、最大の高さは5 cm、最大の長さは10 cm までとする。

〔例示3 JAAF 国内規程 国内大会〕：一般・クラブ(所属団体)名/ロゴ、個人 表示用(ユニフォーム、ジャージ等のその他の衣類全て同様)



〔国内〕 日本学生陸上競技連合、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟に加盟している学校教育法第1条、第124条および第134条に規定する学校の学校名/マー

クはベストまたはレオタードの上衣の前面および背面にそれぞれ1つずつ、下衣にも1つ表示できるものとし、大きさに制限は設けない。また、スポンサー名/ロゴ、スポンサー名+スポンサーロゴの組み合わせあるいは競技者個人スポンサー名/ロゴ、競技者個人スポンサー名+競技者個人スポンサーロゴの組み合わせのいずれか2つを表示できる。(名前とロゴを切り離して表示することはできず並列して表示しなければならない)。文字およびロゴの最大の大きさは40cm²、最大の高さは5cm、最大の長さは10cmまでとする。

〔注意〕スポンサー名/ロゴが製造会社名/ロゴと同一であってはならない。また、スポンサー名/ロゴを表示する場合は、各アスリートキットに同じものを表示する。

〔例示4 JAAF 国内規程 国内大会〕： 学校用

(ユニフォーム、ジャージ等のその他の衣類全て同様)



〔国内〕 都道府県名/ロゴ

- (i) 都道府県対抗競技会においては、所属する都道府県名/ロゴをベストまたはレオタードの前面および背面にそれぞれ1つずつ表示することができる。また、パンツまたはレオタード(下半身)にも1つ表示することができる。
- (ii) 加入団体の所在地を示す場合は、クラブ名とは切り離れた形で各アスリートキ

ットに1つ表示できる。最大の高さは4 cmとし、長さの制限は設けない。

5.2.5 競技者が着用するセレモニーキットのボトムス、トラックスーツ（ジャージ）のボトムス、スウェットパンツなどを含むその他のアスリートキットの下半身アイテム（つまり腰より下/下衣）では、表示は規則 5.2.2 に準拠する必要がある。

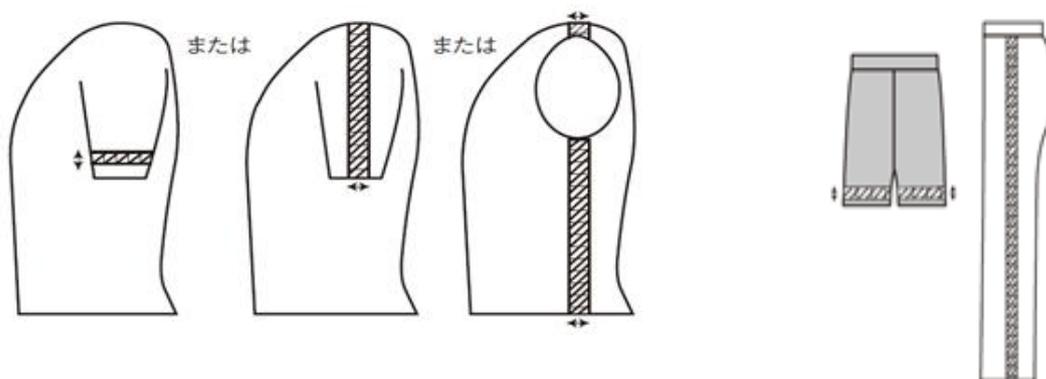
5.3 アスリートキットに製造会社のグラフィック、または象徴的なロゴ（名前や文字を含まない）は、「装飾的なデザインマーク」として、以下の箇所に、1回または幅10 cm以内の帯状で繰り返して表示できる。ただし、そのような使用が、WAの意見や裁量により、衣服の外観を支配したり、過度に損なったりしない場合に限る。

- ・ ショーツ（パンツ）またはレオタードの両袖、両裾の先端
- ・ 両袖の外側の縫い目沿い（Tシャツ、トラックスーツ（ジャージ）上衣 他）
- ・ 両脚の外側の縫い目沿い（レオタード、レギンス 他）

誤解を避けるために付記するが、装飾的なデザインマークは、以下の規則 5.5 に記載されている、その他のキットまたはアパレルに使用することはできない。また、アスリートキットの生地、生地、素材等のデザインに、アスリートキットのスポーツメーカーの名称、ロゴ、装飾的なデザインマーク等を使用（プリント、縫製、織り等）することはできない。

〔参照〕

製造会社の「装飾的なデザインマーク」を表示してよい箇所



帯状での使用が認められている「装飾的なデザインマーク」の例



文字を含むため、帯状での使用が認められない「装飾的なデザインマーク」の例



5.4 シューズ

競技者が使用する靴の製造会社名/ロゴのサイズに制限はない。競技者の名前、競技者個人のソーシャルメディアのハッシュタグ（すなわち商業的な参照のないハッシュタグ）も同様に、サイズや配置の制限なしに表示できる（これには、競技者自身の靴のブランドが含まれる）。

5.5 その他のアパレル

競技中に競技者が使用するその他のキットまたはアパレル（靴下（膝丈ソックスおよびレッグスリーブを含む）、ヘッドギア、帽子、ヘッドバンド、手袋、メガネ、サングラス、リストバンド、アームスリーブ（前腕バンド）など）については、以下の表示が許可される。

その他のアパレル/アクセサリ		
その他のキットまたはアパレル（靴下（膝丈の靴下およびレッグスリーブを含む）、ヘッドギア、帽子、ヘッドバンド、手袋、メガネ、サングラス、リストバンド、アームスリーブなど）		
	その他のアパレル/アクセサリ	
名称/ロゴ/エンブレム	数(最大)	大きさ(最大)
スポーツメーカー スポンサー/サポーター/ プレイヤー	1 個	高さ 4cm あるいは長さ 4cm 最大 10 cm ²
スポンサー (非スポーツメーカー)	許可されていない	
競技者名	1 個	高さ 5cm
合計	計 2	

6. 個人の所有物およびアクセサリ

6.1 すべてのタオル（ビーチタオル、バスタオル、ハンドタオル、フェイスタオルなど）、およびブランケット（毛布）、バッグには以下の表示ができる。

個人の所有物とチームのアクセサリ				
(例: ビーチタオル、バスタオル、ハンドタオル、フェイスタオルなど) およびブランケット（毛布）とバッグ				
	タオル(ビーチタオル、バスタオル、ハンドタオル、フェイスタオルなど) およびブランケット		バッグ (タグやラベルも含む)	
名称/ロゴ/エンブレム	数(最大)	大きさ(最大)	数(最大)	大きさ(最大)
スポーツメーカ	1 個	高さ 5cm	1 個	高さ 5cm

ー スポンサー/サ ポーター/サブ ライヤー		長さ 10cm まで 40 cm ²		長さ 10cm まで 40 cm ²
スポンサー (非スポーツメー カー)	2 個		2 個	
アスリートの名 前; または 個人的なソーシ ャルメディア ハッシュタグ	1 個		1 個	
合計	計 4		計 4	

[国内] アスリートスポンサー名/ロゴのうち 1 つを、あるいは、競技者名または個人的なソーシャルメディアハッシュタグを、所属団体名/ロゴまたは学校名/ロゴにすることができる。高さは最大 5 cm とし、長さの制限は設けない。学校名/ロゴの大きさに制限は設けない。

- 6.2 ドリンクの提供者、製造業者および（または）アスリートスポンサー名/ロゴは、競技者の個人の飲料ボトルに 2 つ表示できる。その名/ロゴのサイズは、ボトル上で最大 40cm²、最大の高さ 5 cm までとする。競技者は個人のドリンクボトルを競技場エリアに持ち込むことができる。
- 6.3 フィールド競技および混成競技（円盤投、砲丸投、ハンマー投、やり投、棒高跳用のポールなど）で競技者が使用する道具に表示されるマーケティングに関する規程は、マーケティングおよび広告規程—イベントブランディング：ダイヤモンドリーグおよびコンチネンタルツアーゴールドに規程されている。（参照 ブック C、C1.3 付録 1 および C1.4 付録 1）。
- 6.4 競技者は、ビデオレコーダー、ラジオ、CD プレーヤー、無線送信機、携帯電話、ヘッドフォン、カメラ、ボディカメラを競技場エリアに持ち込むことはできない。さらに、競技規則で明示的に許可されていない限り、その他のアイテムを競技場エリアに持ち込むことはできない。誤解を避けるために記すが、競技者はウォームアップエリアと競技エリアで時計を着用することはできる。
- 6.5 競技者が使用する医療用テープまたは一般的なテープは、無地でも、テープに競技者の名前が付いていても構わない。医療用テープまたは一般的なテープに記載される商品名/ロゴは、大会主催者の書面での承認が必要である。

[国内] C7.1.1.1 [国内] の競技会では、競技者が競技規則に反しない限り、医療用テープまたは、一般的なテープを使用することができる。表示できる製造会社名/ロ

ゴは、1枚につき最大の大きさは、10 cm²とする。

6.6 誤解を避けるために記すが、競技者に付き添うメンバー（家族、コーチ、競技者代理人など）は、禁止されているアイテム（本規程に準拠していないアイテムを含む）を競技場エリアの競技者に渡すことはできない。競技者が競技会会場にいる限り、第6項に従わなければならない。

7. ネイル、ボディアート、ヘアデザイン&ジュエリー

7.1 アスリートスポンサー名/ロゴは、以下では表示できない；

7.1.1 タトゥー（恒久的または一時的かを問わず、ヘナまたは同様の製品の使用を含む）；

7.1.2 ヘアデザイン

7.1.3 コンタクトレンズ；または

7.1.4 ネイルアート

誤解を避けるために記すが、競技者はタトゥーをしてもいいし、ヘアデザインをしてもいいし、コンタクトレンズを着用してもいい。

7.2 競技者はジュエリーを身に付けることができる（ボディピアスおよび本規程の第6.5項の対象となる時計を含む）。ジュエリー（デザインにジュエリーブランドの名前またはロゴのデザインが含まれているものを含む）の着用は認められている。

8 アスリートビブス

8.1 ビブスの最大の大きさは幅 24cm × 高さ 16cm とする：

	アスリートビブス			
	オプション A		オプション B	
名称/ロゴ	数(最大)	大きさ(最大)	数(最大)	大きさ(最大)
大会スポンサー	1社	高さ 6cm ビブス上部	2社	高さ 6cm ビブス上部
競技者名/番号	1つ	高さ 6cm－ ビブス中央部	1つ	高さ 6cm－ ビブス中央部
大会スポンサーと（または）開催地・都市	1つ（開催地・都市）+ 1社（ビブスの上に大会スポンサーが1社だけの場合はイベントスポンサー）	高さ 4cm－ ビブス下部	1つ（開催地・都市）	高さ 4cm－ ビブス下部

合計	計 4	ビブスの合計サイズ - 高さ 16cm & 長さ 24cm	計 4	ビブスの合計サイズ - 高さ 16cm & 長さ 24cm
----	-----	-------------------------------------	-----	-------------------------------------

[国内] 競技者識別表示より下の表示の最大の高さは4cmとする。そのような表示には、大会主催者によって事前に承認されていれば、(a) 大会名/ロゴ、(b) 加盟団体名、(c) 大会スポンサー名/ロゴまたはマーケティングデバイス、(d) 大会が開催されている都市または地域のいずれかを表示できる。

- 8.2 ビブスは、競技役員が競技者の識別情報（名前または番号）を最大限かつ容易に視認できるように印刷されなければならない。
- 8.3 ビブスとビブス上の競技者の識別情報（名前または番号）は、大会中、競技場エリアで競技を行っている間は、常に見えるようにしなければならない（つまり、折り畳んだり、見えないように隠したりしない）。（ビブの提供者によってミシン目、ピアスマたは穴が開いているように設計されている場合を除く）。競技者は競技場エリアではビブスをアスリートキットから外してはならない。
- 8.4 種目ごとに異なる大会スポンサーをビブスに表示することができる（例：女子 100m と男子やり投など）。

[国内] 駅伝競走においては、アスリートビブスに番号数字の代わりにチーム名（都道府県名、学校名等）、区間を表す文字もしくは競技者の大会登録番号をバランスよく表示することができる。ただし、会社名（チーム名）は表示できないものとする。

9. プレゼンテーションビブス

- 9.1 プレゼンテーションビブスは、表彰台に上る競技者がセレモニーキットに取り付けるためのものです。プレゼンテーションビブスの最大の大きさは高さ 20cm × 幅 24cm とする。

プレゼンテーションビブス		
名称/ロゴ	数(最大)	大きさ(最大)
大会スポンサー	1 社	高さ 6cm - ビブス上部
大会ロゴ	1 個	高さ 14cm - ビブスの残り
合計	計 2	大きさは幅 24cm × 高さ 20cm

10 競技役員の服装

- 10.1 競技役員の服装（上半身と下半身）には次のものが表示できる。

	競技役員の服装			
	オプション A		オプション B	
名称/ロゴ/エンブレム	数(最大)	大きさ(最大)	数(最大)	大きさ(最大)
スポーツメーカー スポンサー/サポーター/サブライヤー	1社(個)	高さ 5cm 長さ 10cm まで 40 cm ²	1社(個)	高さ 5cm 長さ 10cm まで 40 cm ²
大会スポンサー (非スポーツメーカー)	0社—スポーツメーカーが大会タイトルスポンサーの場合		1社—スポーツメーカーが大会のタイトルスポンサーでない場合	
大会名称と、あるいは /WAS 大会ロゴ	1個	高さ 5cm	1個	高さ 5cm
合計	計 2		計 3	

10.2 製造会社のグラフィック、または象徴的なロゴ（名前や文字を含まない）は、「装飾的なデザインマーク」として、以下に、幅 10 cm 以内の 1 回あるいは帯状で繰り返して表示できる。ただし、そのような使用が、WA の意見や裁量により、衣服の外観を支配したり、過度に損ねたりしない場合に限る。

- ・ 両袖、両裾の先端
- ・ 両袖の外側の縫い目沿い
- ・ 両脚外側の縫い目沿い

誤解を避けるために付記するが、装飾的デザインマークは、上記の規則 5.5 で言及されているその他のキットまたはアパレルに使用することはできない。

10.3 大会にスポンサーがいる場合は、完全な大会タイトル名を衣服に表示する必要がある。（タイトルスポンサー名に限定した表示をすることはできない）。

10.4 該当する場合、競技役員に提供されるその他の衣類（靴下（膝丈の靴下およびレッグスリーブを含む）、ヘッドギア、帽子、ヘッドバンド、手袋、メガネ、サングラス、リストバンド、長袖など）については、本規程のサイズ要件に従う必要がある。製造メーカーが大会スポンサーであり、そのサイズが大会主催者によって承認される場合はこの限りではない。

11 フォトグラファー/カメラクルー — ビブス

11.1 競技エリア (FOP) にアクセスできるフォトグラファー (スチールカメラマン)

またはテレビのカメラクルーのメンバーは、大会主催者が提供する公式のビブスを着用する必要がある。大会主催者と別段の合意がない限り、公式フィールド内ビブスには以下が表示される場合がある。

名称/ロゴ	フォトグラファー		テレビカメラクルー	
	数(最大)	大きさ(最大)	数(最大)	大きさ(最大)
ホスト放送局	N/A	N/A	2個	高さ 10cm
大会スポンサー	2個 (前面×1、背面×1)	高さ 10cm	(大会スポンサーまたはホスト放送局のいずれかを選択) (前面×1、背面×1))	
大会タイトル/ロゴ	1個 (前面)		1個 (前面)	
合計	計 3		計 3	

12 競技会会場内の大会スポンサーの衣服

12.1 大会開催中に商品やサービスを提供する大会スポンサーのスタッフの服装には、以下の表示ができる。

名称/ロゴ/エンブレム	商品やサービスを提供する大会スポンサーの衣服 (大会中の商品やサービスの提供)	
	数(最大)	大きさ(最大)
大会スポンサー	1個	高さ 5cm
その衣類品の製造会社	1個	長さ 10cm – 40 cm ²
大会タイトルと WAS 大会ロゴ (大会スポンサーの場合は、完全なタイトルである必要)	1個	高さ 4cm
合計	計 3	

13 競技会会場内のその他の役員

13.1 競技会会場内のその他のすべての役員 (ボランティア、プロバイダーの要員、組織委員会の職員、スタジアムの要員など) は、大会主催者が提供する公式の大会用衣服を

着用するか、ブランドのない衣服を着用しなければならない。

14 指名代表者

大会主催者は大会での本規程の規制の遵守、管理、解釈、監督を行う権限と任務を持つ代表者を指名するものとする。

15. 一般的な執行

大会主催者の命令に従わなかったり、競技役員が大会主催者に指定された代表者の見解で必要とされた措置の命令を拒否した場合、その人物または競技役員は、規則および（または）本規程およびその他の該当する規則または規制に従って制裁の対象となる場合がある。

16 大会での実施

招集所（コールルーム）

- 16.1 競技規則に従い、すべての競技者が本規程の第5条、6条、7条、8条を遵守し、競技前に招集所（コールルーム）でチェックし確認することが競技者係の責任である。具体的には、競技者係は、競技者が承認されたアスリートキットを着用し、ビブスが適切に着用されていること、該当する場合、競技者の衣服（アパレル）、アクセサリ、個人の所有物、ネイル、ボディーアート、ヘア、およびジュエリーのマーケティングが規則と本規程を遵守し、許可されていない物品が競技場エリアに持ち込まれないように確認する。競技者係は、未解決の問題または発生した問題（招集所での抗議や異議を含む）を招集所審判長に照会する。
- 16.2 アスリートキットに表示されるマーケティングまたはその他の識別表示のサイズ、および許可されている場合、衣服や個人の所有物（競技場エリアに持ち込まれる場合）は、大会主催者が指定の代表者を通じて着用中または使用できる状態で測定される。
- 16.3 大会主催者による指定代表者の任命は、規則および本規則に基づく招集所審判長および競技者係の権限および権力を妨げたり損なわれたりすることはない。

競技エリア（FOP）

- 16.4 競技者は、競技のために競技エリアにいる間、本規程を遵守しなければならない。一旦競技場エリアに入ったら、競技者は、本規程を適用する権限を持つ担当の審判長の責任に帰する。
- 16.5 審判長は、必要に応じて、競技エリアでの本規程の適用に関連する問題やあらゆる事項を決定する際に、大会主催者の指名した代表者と協力して取り組むものとする。

17. 競技者に対する違反と救済

17.1.1 取り外し、隠蔽、または広告のない衣服の着用

アスリートキットに該当する、衣服（アパレル）、アクセサリ、個人の所有物、

ネイル、ボディーアート、ヘア、およびジュエリーが本規程に準拠していない場合、競技者は、違反しているアイテムを取り除く、隠す、または広告のない服を着用するように指示される場合がある。

17.1.2 指示の拒否

競技者が招集所審判長、競技者係、または大会主催者の指定代表者（該当する場合）の指示に従うことを拒否した場合、競技者は本規程に基づく制裁の対象となる。

17.1.3 準拠アスリートキットから非準拠アスリートキットへの変更

招集所でのチェックと確認後に、準拠しているアスリートキット、および該当する場合、衣服、アクセサリ、個人の所有物、ネイル、ボディーアート、ヘア、およびジュエリーを非準拠のアスリートキットに変更した競技者は、本規程に基づく制裁の対象となる。

17.1.4 非準拠のアスリートキットでの競技エリアへの参加

審判長や大会主催者の指名代表者によって本規程に準拠していないと判断されたアスリートキット、および該当する場合、衣類、アクセサリ、個人の所有物、ネイル、ボディーアート、ヘア、ジュエリーで競技に参加する競技者は、本規程に基づく制裁の対象となる。

18. 競技者に対する制裁

18.1 本規程に違反している、または遵守するように要求されているが、遵守していない競技者は、以下の制裁の対象となる場合がある。

18.1.1 警告を与えられる：

18.1.2 競技エリアへの立ち入りを拒否または退去を要求される：

18.1.3 競技会での失格：

18.1.4 競技結果の無効：または

18.1.5 罰金の宣言、または競技者の場合、出場料が、関連する大会主催者から競技者へ支払われない。

18.2 18.1 で言及されている制裁は、関連する審判長によって本規程に準拠していない競技者に科せられる場合がある。

18.3 競技者に罰金が科せられた場合、罰金は、判決に従い本規程に違反した競技者が直接支払うものとする。

19. 上訴

19.1 大会での提出

招集所または競技エリアでの本規程に従って行われた決定（課された制裁を含む）は、

競技者から上訴できる。このような抗議は、ジュリー（「上訴機関」）に提出されるものとする。この形式の紛争解決手続きは緊急措置であることを意図しているため、最初の決定についての上訴機関による再調査の要求は、不服のある最初の決定の受領後、24時間以内に行うものとする。

**マーケティングおよび広告規程（ワールドランキングコンペティションのブランディング：
ダイヤモンドリーグ&コンチネンタルツアーゴールド）**

衣類とアクセサリー以外

1. 具体的な定義

本規則で使用される定義用語（頭文字大文字で示される）の単語およびフレーズは、憲章、一般定義および/または規則で指定された意味、または（以下の単語およびフレーズに関しては）次の意味を有する。

広告

販売促進の性質をもつあらゆる広告および展示物

広告ボード

競技会会場に設置される静的、固定式、電子式、回転式、ヴァーチャル、その他を問わず、広告用またはその他の識別表示用に適した外観で、境界（周辺）ボードおよびインフィールドボードを含む。

適用法

すべての法律および法的規制（開催国の法律および競技者の母国の法律を含む）、ならびに安全や衛生に関する法律および放送局によって制定された、または放送局に適用される法的規制

ビブス

競技会中に競技者が身に着ける識別カード（国名、名前や番号で識別）

競技会

競技者が参加し、競技する陸上競技会（いろいろな形式・種目で）

競技会役員

競技規則に従って大会主催者により任命された役員およびその代表。

憲章

Generally Applicable Definitions（定義）で定められている通り。

大会

国際競技会の定義 1.d と 2.d.で規定され、開催される競技会。

大会ロゴ

大会のシンボル、デザイン、その他の図案化された表示、および（または）大会の公式名（Web サイトのアドレスおよびソーシャルメディアの肩書を含む）（該当する場合は、関連する大会の正式名称に組み込まれた大会スポンサーの名前を含む）。

大会主催者

競技運営に責任があり、適切な WA のラベルまたは許可を与えられた主催者。

競技会会場

すべての競技場エリア競技の場合で、大会主催者の管理下にあるスタジアム内およびスタ

ジアムに直接隣接するエリア（屋内または屋外）。すべての競技場外競技の場合、大会主催者の管理下にあるコースまたはルート。

大会スポンサー

大会に関連したスポンサーシップならびにまたはその他商業的権利を与えられた会社で、大会（タイトル）スポンサー、大会サポーター、大会サプライヤー、団体を含む。

競技エリア（FOP）

競技者が競技を行う場所（競技場外の競技ではコースも含む）および競技者が表彰を受ける場所は、待機場所、ミックスゾーン、報道エリアも含まれる。

インフィールドボード 競技会場内、トラックの内側の端に設置される広告ボード

国際競技会

Generally Applicable Definitions（定義）で定められている通り。

ロゴ

シンボル、デザインまたはその他の図案化された表示、スローガン、会社名（ウェブサイト、ソーシャルメディア上の肩書を含む）ならびにまたは、そうした会社の製品名を表すもの。

マーケティング

広告、宣伝、報道、契約、推奨、プロモーション（販売促進）、後援、出版物を含むが、これらに限定されない製品またはサービスの販売および販売促進活動。

境界（周辺）ボード

競技会会場のトラックの外側の 1 列目または 2 列目、ウォームアップトラックまたはその近く、または競技場以外で開催される大会または競技会のコースに沿って設置される広告ボード。

プレゼンテーションビブ

表彰式で表彰台に上がる競技者が身に着ける色付きのビブ。

プロバイダー

競技会の企画、開催に必要なあらゆる製品またはサービス（以下に例示）を競技者、審判員や主管団体に供給するすべての会社。例えば、飲料、コピー機、ホームエレクトロニクス（テレビ／オーディオ／ビデオ／放送設備）など。あるいは大会主催者によって認められた必要なあらゆる製品またはサービスを競技者、審判員や主管団体に供給するすべての会社。

タイトルスポンサー

大会タイトルスポンサーである大会スポンサー。

商標（トレードマーク）

すべての登録済みおよび未登録商標、サービスマーク、トレードドレス、および産地、提携、認証または承認を示すその他の標識、商号、エンブレム、ロゴ、企業（社）名、スローガンおよび商業シンボル、キャッチフレーズ、スローガン、タグライン、それに関連するすべてのアプリケーションや関連するすべての営業権。

2. 目的と開始

- 2.1. これらの規則は、WA 憲章第 4.1 条 (c)、(d)、47.2(d) およびマーケティングおよび広告規程に従って作成されている。
- 2.2. マーケティングおよび広告規程に従って、本規程は WA カウンシルにより随時改正される場合がある。規程に加えられた改正は後続版に含まれ、そのような変更がカウンシルによって承認された日から有効になる。
- 2.3. 本規程は、ここに記載されている団体、あるいはダイヤモンドリーグ、コンチネンタルツアーゴールド大会組織または宣伝の参加者、または支援による競技会会場でのマーケティングの表示、導入、または配置されるマーケティングを管理する。
- 2.4. 本規程は、WA 競技規則と WA 規程と併せて読む必要がある。
- 2.5. 以下の間で不一致があった場合:
 - 2.5.1. 本規程および規則では、競技規則の関連条項が適用される。
 - 2.5.2. 本規程と WA 憲章では、WA 憲章の関連条項が適用される。

3. 総則

- 3.1. 競技会会場でのマーケティングは：
 - a) 規則および規程、本規則、WA によって発行された適用可能なガイドライン、および適用されるすべての法律に準拠していなければならない。
 - b) 公式マークの妨害、競技役員への競技者に対する審判やコーチの視点への妨害（例えば競技者のアプローチテクニックの視点などジャンプまたはスローの場合など）を含む競技（競技フィールド上を含む）の誠実性や技術的行為に悪影響を与えないこと。）、特に規則 4 から 10 は常にこれを最優先原則とする。
 - c) WAS 競技会中に観客および放送局のカメラビューを妨げられない。但し、競技会に参加している競技者や競技役員が偶発的に引き起こした妨害は除く。
 - d) テレビカメラやレールカメラを妨害してはならない。
- 3.2. 大会主催者と WA および WA によって指名の代表者によって承認されている場合あるいは本規程で明示的に許可されている場合を除き、広告、ロゴ、またはその他のブランド表示が付いたアイテムは、競技者、チームスタッフ、競技役員、大会主催者、大会スポンサー、フォトグラファー（スチールカメラマン）、カメラクルー、プロバイダー、または本規程に記載されているその他の団体によって、競技会会場に展示、持ち込み、または配置することはできない。
- 3.3. 競技会会場に表示または配置されるマーケティング、広告、および（または）ロゴは、大会主催者の事前承認の対象となる。
- 3.4. 本規程に規定されていない、または本規程から逸脱している競技会会場でのマーケティングの追加の機会は、大会主催者と WA の事前の書面による同意によって提供

される場合がある。

[国内] 日本実業団連合所属チームの対抗競技会における競技者・所属先応援用旗、幟、幕、小旗などの掲出は、この規則から除外し、大会主催者の指示に従うものとする。

[国内] 学校教育法第1条、第124条および第134条に規定する学校が出場する学校対抗競技会における学校名を記載した旗、幟、幕、小旗などの掲出は、この規則から除外し、大会主催者の指示に従うものとする。

3.5. 許可と禁止

3.5.1 これらの規則には、マーケティングおよび広告規程の規則 1.7 に定められた許可および禁止が常に適用される。

3.6 WA ロゴの使用

3.6.1 大会主催者による WA の名前/ロゴの使用は、大会スポンサーと世界陸上競技大会との間の関連性を示唆、または創出するような方法で使用してはならない。WA の名前/ロゴは、関連する WA ブランドガイドラインに従って使用されるものとし、大会スポンサーが以下の場合を除き、大会スポンサーの名前および（または）ロゴの隣に、またはそれらと一緒に、または並べて使用することはできない。また、WA の商業関連会社であり、WA またはその指定代表者が事前に書面による承認を与えている場合は認められる。

4. すべての大会でのマーケティング

4.1. 表彰台

表彰台の前部、上部および表彰台の一部を構成する要素に、大会ロゴおよび/または1つ以上の大会スポンサーのロゴが表示できる。各ロゴの最大高さは、WA またはその指定代表者と別段の合意がない限り、30cm とする。

4.2. 背景

表彰台の背後、ミックスゾーン内や、記者会見などに設置される背景には、WA と別途の合意がない限り、WA のロゴ、大会ロゴおよび/または1つ以上の大会スポンサーのロゴが最大高さ 30cm で表示できる。

4.3. 大会スポンサーのアナウンス

4.3.1. 競技会の前、進行中または終了後に大会スポンサーについてアナウンスすることができる。そのようなアナウンスはジングル（予告音）を伴うこともできるが、適切な方法で行われなくてはならず、競技や放送局の報道を妨げてはならない。競技会中は、大会スポンサーのアナウンスは1時間につき最大 60 秒以内とする。

4.3.2. いかなる大会スポンサーのアナウンスも、放送の録音に影響を与えてはならないため、放送の実況解説やインタビューの位置の近くに設置された発表システムのスピーカーの音量を適切に調整しなければならない。

4.4 スコアボード/大型映像

4.4.1. スコアボードの外側のフレーム（ジャイアントスクリーンとも呼ばれる）は、スポンサーでない限り、製造会社の広告を一切表示しない。大会スポンサーのロゴは、ロゴの端とスコアボード画面の端の間が最大 1.2mであることを条件に、外側のフレームに配置できる。

[国内] スコアボード/大型映像の製造会社名/ロゴやスポンサー名/ロゴは、スコアボード/大型映像周辺に表示することができる。それらの表示のサイズは 1.2mとする。

4.4.2. 音声を伴うかの有無にかかわらず、大会スポンサーの広告（広告枠、コマーシャルなど）は、競技の間のデッドタイムと、各セッションの開始前か終わった直後にスコアボードに表示できる。

4.4.3. 大会スポンサーのロゴは、競技中にスコアボードに表示してもよい。

[国内] 音声を伴わない広告は、競技運営の妨げにならないときに 30 秒以内で表示することができる。

4.5. ガントリー/構築物(台)

ガントリーは、競技会会場に応じてさまざまなデザイン、形状、サイズで製造される。したがって、以下の表示にサイズ、数、位置に制限はない。

- (i) 大会公式タイトル
- (ii) 大会ロゴ;
- (iii) 計時サービスを提供する大会スポンサーのロゴを付けた公式計時装置
- (iv) スタート、フィニッシュ、表彰式の台や、その他の大会内の構造物上の大会スポンサーロゴ。この規則は、スタジアムの競技者入場ゲートおよび構造物に適用される。

[国内] 発着点に設置が認められたすべてのゲートは、必要な安全基準を満たす必要がある。本規程は、道路を使用する競技会において設置するすべての構築物についても適用するものとする。折り返し点の構築物についても同様である。

4.6 フィニッシュラインテープ

大会スポンサーロゴおよび/または大会のロゴをフィニッシュラインテープの両面に繰り返し表示することができる。各ロゴの最大の高さは 20cm。

[国内] 競技会名/ロゴも表示することができる。

[国内] クロスカントリーの大会でも本条項を適用する。

4.7 スペースブランケット

競技中または競技終了時に競技者に提供されるスペースブランケットの両面に、2 つの大会スポンサーロゴを表示できる。各ロゴの大きさは最大 40 cm²で、高さは最大 5cm とする。

[国内] 主催者が用意する毛布、ガウン、バスタオル、スペースブランケットなどの保温用

具に大会名/ロゴ、製造会社名/ロゴ、製造会社名/ロゴ、スポンサー名/ロゴ（複数可）を繰り返し表示することができる。大会名/ロゴの大きさに制限は設けないが、スポンサー名/ロゴ、製造会社名/ロゴの大きさは40 cm²とし、高さは5cm以内とする。

[国内] 道路競技で競技者が着用または持ち込むことができる保温用具の製造会社名/ロゴの大きさは4.7項で認められる範囲とする。

4.8. 表彰品

競技後のフィニッシュライン付近や表彰式で競技者に渡される（メダルを除く）賞品には、1つ以上の大会スポンサーロゴおよび/または大会のロゴを表示できる。それぞれのロゴの最大の高さは5cmとする。

4.9. 製品の配置

大会スポンサーの製品は、競技会中のトラック、フィールド内、競技会のコースに沿って、または記者会見場などを含む、競技会会場に配置できる。このような配置のサイズ、場所、方法は、WAまたはその指名代表者と大会主催者が協議して決定する必要がある。

5. 競技場エリアで開催する競技会のマーケティング

5.1. トラックの表面（メイントラックとウォームアップトラック）

5.1.1. トラック表面の製造会社のロゴ

当該大会の大会スポンサーである場合に限り、トラック表面の実際の製造業者のロゴを最大2ヶ所、平らで透過性のある色調で表示できる。このような平面表示の高さは、屋外競技場では1m、屋内競技場では0.5mを超えてはならない。これらの表示はトラックのマーキングを妨げてはならない。

5.1.2. 競技場の名および/または開催都市の名および/または大会のロゴおよび/または大会スポンサーロゴをトラック表面に表示できる。（数に制限はない）

名称かロゴ 最大2つを下記から選べる	最大の高さ	
	室内	室外
競技場名（含商業名可）	2.5m	5m
開催都市	2.5m	5m
大会ロゴ（含大会スポンサー名可）	2.5m	5m
大会スポンサーロゴ	0.5m	1m

I ただし、透かし識別の色合いは常にトラックの基本色とする。トラックの色を基調に透

過性のある色調による表示の陰影を作るため、トラックのベースカラーから白色で最大66%まで薄めなければならない。トラックのマーキングを妨げてはならず、トラックマーキングの可視性を確保しなければならない。

5.1.3. WA 認定ロゴ

WA 認定製品」および/または WA 認証施設としてのロゴのどちらかを2ヶ所または双方を1つずつ、透過性のある色調で舗装材表面にトラック表面に表示できる。平面表示の幅は、屋外競技場の場合は50cm、屋内競技場の場合は25cmを超えてはならない。トラックのマーキングを妨げてはならず、競技中に競技者が通過するエリアの外側にある必要がある。WA 認定のロゴは、ライセンス使用の規約の対象となり、関連する WA ブランドガイドラインに従って使用されなければならない。

5.2 広告ボード

5.2.1 総則

- 5.2.1.1. (i) 内容：広告ボードには、ロゴや、大会主催者によって認められた、大会スポンサー、大会、開催都市および放送局の、または常に上記3.5項を条件として、大会主催者が定める第三者などの、その他識別やコンテンツの他識別やコンテンツを表示することができる。
- (ii) 前面：広告ボードは両面に広告が表示される場合がある。
- (iii) LED：LEDテクノロジーが使用されている場合、単独のあるいは/または共有の構成が許可される。

5.2.2 屋外競技場

5.2.2.1 境界（周辺）ボード

- (i) 第1層：境界（周辺）ボードは、100m直線沿いのリバースカメラアングル、カメラブラインド側を含むトラックの外側の端から30cmの位置に標準状態で配置する。（"100mストレートボード"）。それらは一定の高さでなければならない。1列でなければならない。2列目は許可されない。
- (ii) 第2層：境界（周辺）ボードには、2層目が認められる。それらは一定の高さとする。
- (iii) 大きさ：境界（周辺）ボードの大きさは、最大の高さ1mとする。

5.2.2.2 100m スタート後方の境界（周辺）ボード

- (i) 1枚の周辺ボードまたは背景を100m（110mH）のスタート後方に、トラックの高さまたはトラック表面から50cmの高さに設置できる。
100mスタート後方の周辺ボードには、1つ以上の大会スポンサーのロゴを表示してもよい。
- (ii) 100m周辺ボードまたは背景の最大の高さは2.5mで、その幅はトラックの幅とす

る。

5.2.2.3 インフィールドボード

- (i) 位置：インフィールドボードを設置する場合、インフィールドのいずれの箇所であってもトラックの内端から 50cm 以上の位置に設置することを標準とする。
- (ii) 最大数（総計）：インフィールドボードの長さは、総計で、最長 120m とする。
- (iii) 大きさ：インフィールドボードの高さは最大 50cm で、地面からインフィールドボードの最上部までの最大の高さ合計が 60cm になるよう 10cm の中立台座上に設置することができる。

[国内] 広告幕

- (i) 位置：広告幕は壁面やフェンスに設置することができる。
- (ii) 段：広告幕は 1 層に制限される。しかし、競技場エリアの恒久的構造物に取りつけるものであれば追加の広告段の設置が認められる。
- (iii) 大きさ：広告幕の大きさは原則として幅 6m×高さ 1m とするが、最大幅 12m×高さ 1.8m 以内までは認められる。
- (iv) 素材：広告幕の材質に関して競技場管理者の規則がある場合はこれに従うものとする。

5.2.3 室内競技場

5.2.3.1 周囲ボード

- (i) 第 1 層：境界（周辺）ボードは、リバースカメラアングル、カメララインド側を含むトラックの外側の端の位置に標準状態で配置する。（"フィニッシングストレートボード）。それらは一定の高さでなければならない。1 列でなければならない。2 列目は許可されない。
- (ii) 第 2 層：境界（周辺）ボードには、2 段目が認められる。それらは一定の高さとする。
- (iii) 大きさ：境界（周辺）ボードの大きさは、最大の高さ 1m とする。

5.2.3.2 インフィールドボード

- (i) 位置：インフィールドボードを設置する場合、インフィールドのいずれの箇所であっても、トラックの内端から 50cm 以上の位置に設置することを標準とする。
- (ii) 最大数（総計）：インフィールドボードの長さは、総計で、最長 30m とする。
- (iii) 大きさ：インフィールドボードの高さは最大 40 cm で、地面からインフィールドボードの最上部までの最大の高さ合計が 50 cm になるよう 10cm の中立台座上に設置することができる。

[国内] 広告幕

- (i) 位置：広告幕は壁面やフェンスに設置することができる。
- (ii) 段：広告幕は 1 層に制限される。しかし、競技場エリアの恒久的構造物に取りつけるものであれば追加の広告段の設置が認められる。

(iii) 大きさ：広告幕の大きさは原則として幅 6m×高さ 1m とするが、最大幅 12m×高さ 1.8m 以内までは認められる。

(iv) 素材：広告幕の材質に関して競技場管理者の規則がある場合はこれに従うものとする。

5.2.4 競技会会場のウォームアップエリア

境界（周辺）ボードはウォームアップエリアに設置できる。このような周辺ボードの最大の高さは 1.2m で、一定の高さでなければならない。

5.2.5 室内競技場の競技者保護用マット

大会スポンサーロゴまたは大会ロゴは、60m の直走路の終わりにある競技者保護用マットに表示できる。そのような表示の最大の高さ 1.5m で、最大幅はトラックの幅とする。

5.2.6 カムカーペット（90度システム広告）

カムカーペットをトラックの表面またはインフィールドで使用できる。メインカメラの角度から見たカムカーペットの相対的な外観の最大の高さは 1.2m とする。

5.3 インフィールド表面の広告

屋外の競技会以上では、大会主催者および/または大会スポンサーが決定したロゴを、インフィールドの表面に描いたり、カーペットまたはその他の素材を敷くことができる。ロゴを 1 つ表示する場合の最大サイズは 80 m²、2 つ以上のロゴを表示す

る場合はそれぞれ最大のサイズは 60 m²。このようなロゴは、フィールド内表面上の着地エリアの端から 3m 以上の場所に配置しなければならない。（つまり、着地エリア内に配置したり、競技役員、フォトグラファー、テレビクルー、その他の権限のある職員の自由な移動やフィールド内および遠隔制御車両での作業を妨げたりしない）

5.4 投てきサークル

砲丸投、円盤投、ハンマー投サークルの投球サークルの周囲の外側のエリアには、大会スポンサーのロゴを表示することができる。ただし競技者が用具を投げる着地範囲や縁/足留材上、または記録測定用でクリーンにしておかなければならないサークルの周りに配置して競技の妨げをすることはできない。

5.5 跳躍・棒高跳の助走路

走幅跳、三段跳、走高跳、棒高跳などの跳躍競技の助走路に沿って、大会、大会スポンサー、開催都市、放送局、および/または WA または WA のマーケティングパートナーが決定したその他の第三者のロゴを表示できる。屋外競技場の場合は最大の高さ 50cm、屋内競技場の場合は最大の高さ 40cm とする。表示は 10cm の中立台座上に設置することができるので、屋外競技場の場合、地面からの最上部までの最大の高さは 60cm になる。屋内

競技場の場合は、50cm なる。いずれの競技場でも表示は助走路から 50cm 以上離れていなければならない。

5.6 やり投の助走路

やり投の助走路に沿って、大会、大会スポンサー、開催都市、放送局、および/または WA または WA のマーケティングパートナーが決定したその他の第三者のロゴを表示できる。表示は 10cm の中立台座上に設置することができるので、地面からの最上部までの最大の高さは 60cm になる。表示は助走路から 50cm 以上離れていなければならない。

6. 競技場外競技会でのマーケティング

6.1 境界（周辺）ボード

- (i) 内容：境界（周辺）ボードには、ロゴや、大会主催者によって認められた、大会スポンサー、大会、開催都市および放送局の、または常に、3.5 項を条件として、大会主催者が定める第三者などの、その他識別やコンテンツの他識別やコンテンツを表示することができる。
- (ii) 位置：境界（周辺）ボードは、スタートエリアとフィニッシュエリアの他、競技コースの周囲にも設置できる。
- (iii) 大きさ：境界（周辺）ボードの最大の高さは 1.2m とする。
- (iv) 両面：広告ボードは両面に広告を表示できる。
- (iii) LED：LED テクノロジーが使用されている場合、単独のあるいは/または共有の構成が許可される。

[国内] 広告ボード/広告幕：

位置：広告ボード/広告幕はコースに沿って一列に設置できる。

素材：広告ボード/広告幕を支える構造は、いかなる天候、特に強風でも十分に広告ボード/広告幕の重さを支えることができる堅固なものとする。

大きさ：広告ボード/広告幕の最大の高さは 1.2m とする。ただし、シリーズ/タイトルスポンサーは 1.5m まで認められる。

[国内] 発着点となる競技場エリアの広告ボード/広告幕は条項 5.2.2.1 を適用する。

[国内] 発着点となる競技場エリアのインフィールドボードは競技運営上支障がない場合は、条項 5.2.2.3 を適用する。

6.2 カムカーペット（90 度システム表示）/道路標示

コース上にカムカーペットを置いたり、道路に大会主催者によって認められた、大会スポンサー、WA、大会、開催都市および放送局の、または常に、3.5 項を条件として、大会主催者が定める第三者などの、その他識別やコンテンツの他識別を標示することができる。メインカメラの角度から見たカムカーペットの相対的な外観の最大の高さは 1.2m とする。

6.3. その他の広告表示

既存のもの、あるいは今後開発されるものに関係なく、競技コースの周囲、コース上、またはコース上（応援ゾーンなど）に設置することができる。大会主催者の承認を条件に、スタートエリアとフィニッシュエリアにも、その他の広告看板に大会スポンサー、大会、開催都市、放送局、またはその他の第三者のロゴを表示できる。

〔国内〕競技運営上必要なサインボード（距離標示版等）に、最大の高さ 15 c m の広告を表示することができる。

6.3.1 〔国内〕競技会においては、開催時期の告知、会場案内、歓迎装飾等を目的に設置する看板等を表示する形態のもの（協賛者名を表示したイベント開催時期の告知看板や歓迎装飾バナーを街灯等に添加したものなど）は、協賛者名等の表示の大きさは原則として表示面積の半分を超えないものとする。

6.3.2 〔国内〕応援用のグッズ：公道上の観衆用に主催者等が準備する応援グッズは競技運営上支障がなく、終了後に投棄などが無いよう充分配慮すること。

7. 競技中に使用される用具および道具

7.1 競技会備品

7.1.1 総則

7.1.1.1 最大2つまで「WA 認証製品」ロゴを、WA のガイドラインに合致している競技会備品（砲丸、円盤、やり、ハンマーなど）やリレーバトンに表示することができる。

7.1.1.2 競技会備品は、公式の大会仕様にブランド化してもよい。

7.1.1.3 競技会備品のプロバイダーまたは製造会社のロゴは、適用法で要求されているその他の識別表示を含めて、競技会備品（砲丸、円盤、やり、ハンマーなど）およびリレーバトンに表示できる。

7.1.2 砲丸、円盤、やり、棒高跳用ポール、ハンマー、クロスバー、アップライト、ラップベル（周回用ベル）、スターティングブロック、レーンボックス

7.1.2.1 競技会で使用する砲丸、円盤、やり、棒高跳用ポール、ハンマー、クロスバー、アップライト、ラップベル（周回用ベル）、スターティングブロック、レーンボックスには、プロバイダーまたは製造会社のロゴを2ヶ所表示できる。ロゴの高さは最大4cm とする。

7.1.2.2 大会スポンサーのロゴおよび大会ロゴを、クロスバー、アップライト、ラップベル（周回用ベル）およびスターティングブロックに表示することができ、各ロゴの最大の高さは4cm。このようなロゴは支柱に垂直に施される。

7.1.3 リレーバトン

プロバイダーまたは製造会社のロゴをリレーバトンに2ヶ所表示できる。ロゴの高さは最大4cm。リレーのバトンには大会ロゴも表示できる。

7.1.4 着地マット

7.1.4.1 着地マットの上面および/または側面に以下を表示することができる：

- (i) 着地ベッドのプロバイダーまたは製造会社のロゴ；
- (ii) 大会スポンサーのロゴ
- (iii) 大会のロゴ。

いずれの場合も、ロゴのサイズは、それぞれの着地マットのサイズに比例した任意のサイズにすることができる。表示されるロゴの数と正確なサイズは、大会主催者の承認を必要とする。

7.1.5 ハードルと障害物競走用障害物

7.1.5.1 次のうちの3つをハードルおよび障害物競走の障害物の非アプローチ側(つまり、ハードルまたは障害物競走の障壁の競技者がアプローチする側とは反対側)の面の長さにわたって表示できる：

- (i) プロバイダーまたは製造会社のロゴ
- (ii) 大会スポンサーのロゴ
- (iii) 開催都市の名称
- (iv) 競技場の名前(商業名が含まれていても可)
- (V) 大会ロゴ

7.1.5.2 ハードル上の各ロゴの表示の最大の高さは5cm、障害物競走の障壁面上の各ロゴの最大の高さは10cmとする。

7.1.6 踏切板

大会スポンサーのロゴ、または大会スポンサーであるプロバイダーまたは製造会社のロゴを以下に掲載することができる：

7.1.6.1 踏切板版に隣接；そして

7.1.6.2 踏切板の上にも。ロゴは踏切板の片側に配置され、板の短辺から最大[10cm]以内、離陸ライン側(つまり、助走路に面する踏切板の長辺側)から[5cm]以内に配置されることが条件で、ロゴの正確なサイズと位置は、WAがWAS大会で採用したサイズと位置を参照。

7.2 その他の備品

7.2.1 電子機器

情報を表示するために競技会で使用される電子機器(計測装置、時計、風力計(風速計)、電子表示盤など)には、当該機器を製造、提供、または販売する大会スポンサーのロゴを当該機器の両側面に表示できる。ロゴの最大の高さは20cm。

7.2.2 情報表示盤

インフィールドスコアボードが競技情報を知らせている場合以外に、大会、WA、または大会スポンサーのロゴ、ビデオおよびアニメーションを競技中にインフィールドスコアボードに順番に表示できる。

7.3 審判/スターター台、ハードルカート、砲丸投キャリアラック；粘土キャリアラック；距離測定器；テープ巻き機；三段跳距離計測器；チョーク容器と箱

7.3.1 上記の物品には、以下のロゴのうち3つを最大の高さ [10cm] で表示できる。

7.3.2 大会ロゴ

7.3.3 大会スポンサー

7.3.4 競技場名（商業名が含まれるものも可）

7.3.5 プロバイダーまたは製造会社のロゴ

7.3.6 開催都市の名前

7.4 放送、データ処理および情報技術機器

7.4.1 製造会社が大会スポンサーであるか、WAによって明示的に承認されている場合、または適用法で義務付けされている場合を除き、競技会会場で使用される放送、データ処理、および情報技術機器には、製造会社のロゴを表示しない。このような機器には、大会のロゴまたは商業関連会社のロゴのいずれかが表示できる。各ロゴの最大の高さは20cm。

7.5 傘と日よけ

7.5.1 競技場エリアで使用する傘/日よけには、大会のロゴおよび以下が表示できる：

- 競技場大会の場合：1つの商業関連会社ロゴ；
- 競技場外の大会の場合：1つ以上の大会スポンサーのロゴ

各ロゴの最大のサイズは40 cm²。

7.5.2 競技場エリア内の計時/計測装置の日よけは、必要な場合、最大の高さ1.7m、最大の直径1.2m、または長方形の日よけの場合は各辺の最大の幅1mのものを使用できる。この場合、測定機器の提供、サービス、または販売する会社が大会スポンサーの場合、1つ大会スポンサーのロゴを日よけに表示できる。ロゴの高さは最大40cm。

7.6 飲食物および/または、スポンジステーション

7.6.1 飲食物および/またはスポンジステーションの数とその配置は、関連する競技会の要件および規則と規定に準拠する必要がある。

7.6.2 競技場エリアでの競技会

7.6.2.1 ドリンクステーションの最大の高さは1.4m、最大の直径は1m、または長方形のドリンクステーションであれば、各辺の最大幅は1mとする。ドリンクステーションの形状には、大会スポンサーが提供するドリンクのパッケージデザイン（ボトルや缶など）を組み込むことができる。

7.6.2.2 大会スポンサーのロゴは、ステーションの縁の周りに、または長方形のステーションの場合は、各側面に表示できる。各ロゴの最大の高さは40cm。

7.6.3 競技場外の競技会

大会スポンサーのロゴは、テーブルの周りのスカートおよびステーションに使用

されるテーブルの上の日よけに表示できる。ロゴの最大の高さは20cm、全長は10mとする。

7.6.4 ステーションの人員

競技場外の競技では、規則や規程で特に定めがない限り、ドリンクを提供する大会スポンサーのスタッフ、またはその他の許可された人員によって、飲食物および/またはスポンジをステーションから配付されることがある。飲食物を提供する大会スポンサーのロゴ、その他の商業関連会社のロゴ、大会ロゴ、または開催都市の名前が、飲食物、および/またはスポンジを提供するスタッフの上半身の衣服に表示できる。ロゴの大きさは最大40cm²。

7.7 その他の用具

競技会会場で使用されるその他の技術機器の製造会社のロゴ、その他の商業関連会社のロゴ、大会のロゴ、または開催都市の名前は、そのような他の機器の両面に2ヶ所だけ表示できる。各ロゴの最大の高さは10cmとする。大会に関連する大会スポンサーではないプロバイダーまたは技術機器の製造会社のロゴは、適用法で義務付けされる識別表示を除き、削除または遮蔽する必要がある。

8 車両

8.1 総則

競技会で使用される車両は、その製造会社が商業関連会社でない限り、車両のモデル標準シリーズ生産で表示されたもの以外の製造会社のロゴを表示できない。

[国内] 車両表示：競技運営関係車両の前部および後部に車両表示（審判長車、報道など）を取り付けることができる。

8.2 帯同車両

競技場外の競技で競技に帯同する放送制作用車両には、車両の両側に大会のロゴまたは商業関連会社のロゴを表示することができる。各ロゴの最大の高さは40cm。

[国内] 道路運送車両保安基準により、フロントガラスおよび左右フロントドアガラスに貼付けすることはできない。

[参照] 道路交通法および道路運送車両法等の保安基準

「車両のフロントガラス、左右フロントドアガラスに不透過物（70%以上光を遮断するもの）を貼ってはならない」

8.3 先導車両/計時車両

8.3.1 大会スポンサーのロゴは、先導車両/計時車両の各側面および上部に1ヶ所ずつ表示できる。各ロゴの最大の高さは40cm。その表示は競技レース中、すべての先導車両/計時車両で同じでなければならない。

8.3.2 加えて、計時に関するサービスを提供する大会スポンサーは先導/計時車両に1つの製品を配置(先導車/計時車の上部に時計の形で製品配置など)をすることが許

可される。このような表示は、先導車・計時車の時計の視認性を損なうものであってはならない。

8.4 カーパレード

適用法に準拠することを前提に、大会スポンサーは、レース前の最初の先導車両/計時車両（「カーパレード」など）に先立って、競技コースを走行する車両に製品配置という手法で自社の製品を搭載して走行することができる。さらに、そのような車両には、車両の側面および上部に大会スポンサーのロゴを表示できる。各ロゴの最大の高さは40cm。

8.5 遠隔操作車両

8.5.1 大会のロゴ、大会スポンサーのロゴ、WAのロゴ、および/またはプロバイダーのロゴは、競技会会場で機器として使用されるラジコン車両、ドローン、またはその他の遠隔制御装置に表示できる。各ロゴの最大の高さは10cm。

8.6 ゴルフカート

8.6.1 競技会会場で使用されるゴルフカートの両側に、大会ロゴまたは大会スポンサーのロゴが表示できる。各ロゴの最大の高さは20cm。

9. 画面上の識別表示

9.1 大会スポンサーのロゴを適用法に従って表示される場合に限り、テレビまたはその他の現在または未来の技術（「画面上の識別」）によって送信される映像に表示できる。

10. デジタル技術の使用

10.1.1 競技中や競技後の映像に、バーチャル広告を挿入するデジタル技術（現在知られている、または今後考案、開発、発明されるもの）を使用した広告（“バーチャル広告”）は認められるが、競技会の高潔性を妨げないよう適切な方法で行われなければならない。

10.1.2 バーチャル広告は、競技会の放送視聴者の妨げになるような方法で挿入してはならない。

10.1.3 バーチャル広告は、競技会の前、競技中、および競技後に、競技場エリアの外と競技場エリアの両方に表示することができる。

10.1.4 ビブスへの適用を除き、競技会会場にいるすべての人（観客、競技者、競技役員を含む）にバーチャル広告を表示することを明示的に禁止する。

11. 施行全般

大会主催者は、大会における本規程の遵守、管理、解釈、監督を行う権限と任務を有する代表者を指名するものとする。

誰かが大会主催者の命令に従わなかったり、または競技役員が大会主催者の指定代表者の

見解で必要とされる実行命令を拒否したりした場合、その人物または競技役員は競技規則および/または本規程またはその他の該当する規則または規制に従って制裁の対象となる場合がある。

12. 紛争

本規程に起因または関連して発生する紛争は、最初に、[当事者]（またはその代理人）とその大会の関連する主催者側最上級執行役員（またはその代理人）の間で解決されるものとする。

競技会における広告および 展示物に関する規程

0. WA広告規程の修改正と

1. 2024年度〔国内〕規程（2.12時点案）のポイント

2. 広告規程の競技会での適用、運用例

競技運営委員会 広告規則検討PT

競技会における広告および 展示物に関する規程

0. WA広告規程の修改正

0 WA広告規程 C-7.4 衣類とアクセサリー 20231201施行

国際競技会（国際招待試合・サーキット・ラベルロードレース）における
アスリートキット

- ①所属団体名/ロゴ（A/B 2パターン）別、各種表示サイズや個数の変更
A：所属団体名/ロゴが【非営利団体名】の場合の各種表示サイズや個数の変更
B：所属団体名/ロゴが【営利（商品名含み）団体名】の場合の各種表示サイズ
や個数の変更
- ②その他のアクセサリーに掲出できる製造会社名/ロゴのサイズの変更
- ③セレモニービブスのサイズ拡大可
- ④セレモニービブス（プレゼンテーションビブス）の高さ変更

0. WA広告規程 修改正

国際競技会〔国際招待・サーキット・ラベルロードレース〕
における アスリートキット【衣服/ユニフォーム・その他のアパレル他】

- ①所属団体名/ロゴの表時と、スポンサー名/ロゴ・製造会社名/ロゴ表示数
A：所属団体名/ロゴ 非営利団体名は、上衣高さ **10 cm**（下衣5 cm）で、
前面or背面に表記可
製造会社名/ロゴを含め、3つまでスポンサー名/ロゴが 掲出可
※資料2 A （例）学校
- B：所属団体名/ロゴ 営利（商品名含み）団体名は、サイズに変更は無し
40 cm²
製造会社名/ロゴを含め、2つまでスポンサー名/ロゴが 掲出可
※資料2 B （例）実業団登録団体等

A : 所属団体名/ロゴに営利（企業）名 / 商品名を含まない場合 （例）学校名
 （ユニフォーム、ジャージ、Tシャツ等 全てのアスリートキット〔衣類〕）

スポンサーA名/ロゴ

- ・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
- ・上衣、下衣とも全く同一の表示でなければならない
- ・40㎝以内、最大高さ5cm、最大長さ10cm
- ・場所は問わない

スポンサーB名/ロゴ

- ・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
- ・上衣、下衣とも全く同一の表示でなければならない
- ・40㎝以内、最大高さ5cm、最大長さ10cm
- ・場所は問わない

製造会社/ロゴ

- ・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
- ・40㎝以内、最大高さ5cm、最大長さ10cm
- ・場所は問わない
- ※スポーツメーカーの場合は、前面に限る



チーム名/ロゴ

- ・**非営利団体に限る**
 （企業名や製品名を含むものはNG）
- ・上衣・下衣とも前面か背面のいずれかに1つ
- ・上衣の場合、最大高さ10cm、
 下衣の場合、最大高さ5cm、
 長さはいずれも問わない

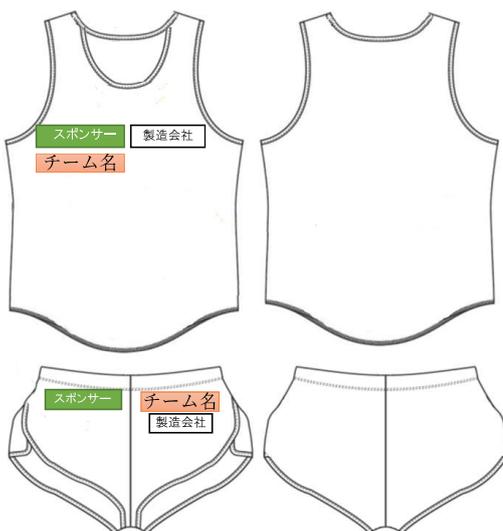
B : 所属団体名/ロゴに営利（企業）名 / 商品名が含まれる場合 （例）実業団登録団体名等
 （ユニフォーム、ジャージ、Tシャツ等 全てのアスリートキット〔衣類〕）

スポンサー名/ロゴ

- ・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
- ・上衣、下衣とも全く同一の表示でなければならない
- ・40㎝以内、最大高さ5cm、最大長さ10cm
- ・場所は問わない

製造会社/ロゴ

- ・上衣、下衣 それぞれ1つずつ
- ・40㎝以内、最大高さ5cm、最大長さ10cm
- ・場所は問わない
- ※スポーツメーカーの場合は、前面に限る



チーム名/ロゴ

- ・上衣・下衣とも前面か背面のいずれかに1つ
- ・上衣、下衣とも全く同一の表示でなければならない
- ・40㎝以内、最大高さ 5cm、最大長さ10cm

0. WA広告規程 修改正

国際競技会〔国際招待・サーキット・ラベルロードレース〕

における アスリートキット【衣服/ユニフォーム・その他のアパレル他】

②その他のアクセサリー〔手袋・帽子・ヘッドバンド・アームウォーマー他〕

に掲出できる 製造会社名/ロゴ (スポーツメーカーに限る) サイズ

最大の大きさ6 cm²・最大高さ3 cm →

最大の大きさ 10 cm²・最大高さ、あるいは長さ4 cmまで。

競技者名 1個 最大高さ 5 cm

③個人の所有物〔タオル/バッグ〕に掲出できる製造会社名/ロゴ

およびスポンサー名/ロゴ 長さど、表示できる非スポーツメーカースポンサー2個

最大の大きさ40 cm²・最大高さ5 cm →

最大の大きさ40 cm²・最大高さ5 cm、長さ10 cmまで。

※表示数は競技者名以外に、3個（製造会社名/ロゴ1、スポンサー名/ロゴ2）

競技者名 最大高さ5 cm、長さ10 cmまで。1個

④セレモニービブス（プレゼンテーションビブス）の高さ 20 cm 大会ロゴ10 cm→14 cm

その他のアパレル



その他のアパレルに装飾的なデザインマークは表示できない。

その他のアパレルにスポンサー表示はできない。

競技会における広告および 展示物に関する規程

1. 2024年度〔国内〕規程 (2.12時点案)のポイント

1. 2024年度〔国内〕広告規程(2.12時点案)

【資料1/WAおよび国内案付記全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

① C-7.1

1.1.1 適用競技会

1.3.1 大会主催者独自の規則の作成と告知、〈注意〉

巻末 適用競技会における大会主催者の責任および、
広告規程管理者・任命の推奨

1. 2024年度〔国内〕広告規程（2.12時点案）

【資料1/WAおよび国内案付記 全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

① C-7.1

1.1.1 適用競技会

Book C – C7.1

1. マーケティングおよび広告規程

1.1 本規則は、以下のワールドランキング対象競技会に適用される：

1.1.1 〔国内〕WAが指定する競技会の他、以下の（i）から（v）の国内競技会に、本連盟が定めるマーケティングおよび広告に関する規程が適用される。

- （i） 本連盟主催・共催競技会
- （ii） 本連盟後援競技会
- （iii） テレビ放映またはインターネット等によって不特定多数に送信される競技会
- （iv） アスリートビブス広告協賛を付した競技会
- （v） その他大会要項において本規程の適用を定めている競技会

1. 2024年度〔国内〕広告規程（2.12時点案）

【資料1/WAおよび国内案付記 全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

① C-7.1

1.3.1 大会主催者独自の規則の作成と告知、〈注意〉

BookC-C7.1

1.3 このワールドランキング対象競技会の定義で第1項および第2項に規定されている競技会では、本規程および規則に基づき制定される規則を遵守することを条件に、独自に作成のマーケティングおよび宣伝広告の展示が許可される。

1.3.1 〔国内〕（ii）から（v）の競技会では、大会主催者が独自にマーケティングおよび広告規則を作成し適用することができる。

施行する規則は事前に告知するものとする。

〈注意〉 誤解を避けるために記すが、大会主催者独自の作成規則とは、当該競技会のスポンサーやサプライヤーを守るために、大会主催者の責任においてWA広告規程および国内規程では許される表示の一部を変更する規則をさす。

1. 2024年度〔国内〕広告規程（2.12時点案）

【資料1/WAおよび国内案付記 全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

① C-7.1

巻末 適用競技会における大会主催者の責任および、広告規程管理者任命の推奨

Book C – C7.1

1.1および1.2に関する注意事項

エリア（地域）陸連が、本規程に基づき、評議会（カウンスル）によって認められた規程を適用することを選択する場合、エリア（地域）連盟は、内部承認の過程に従って、当該規則の採用の承認を求めなければならない。エリア（地域）連盟が独自のマーケティングおよび広告の規則を作成する場合であっても、本規程および本規程に基づき施行された規則が適用される場合であっても、その規則の適用および施行に責任を負うのはエリア（地域）連盟であり、WAではない。ワールドランキング競技会（国際競技会）の定義1.c.、1.d.、1.e.および2.d.の競技会の場合、WAではなく大会主催者が、規程の適用と施行に責任を負う。

〔国内〕 1.1.1の競技会では、(i)は本連盟、(ii)から(v)については、大会主催者が、規程の適用と施行に責任を負う。

〔国内〕 1.1.1の競技会では、WA競技規則 CR30.に定めのある、広告コミッショナーに準じた任務、広告規程の管理担当者の任命を推奨する。

WA競技規則 CR 30.広告コミッショナー

任命された広告コミッショナーは「競技会における広告および展示物に関する規程」が適用され、遵守されていることを管理すると共に、招集所における未解決の問題または発生している問題を招集所審判長と協力して解決する。

具体的例、

☆大会スポンサーから競技用ユニフォームを提供 競技会
出場競技者へ 「衣類やその他のアパレル」着用制限

☆大会スポンサーから飲料の提供を受ける 競技会
持ち込む他メーカー飲料ペットボトルの無ラベル化や、
当該メーカー飲料ボトルの掲出緩和

大会スポンサー・サプライヤーの保護！
大会主催者

1. 2024年度〔国内〕広告規程（2.12時点案）

【資料1/WAおよび国内案付記全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

① C-7.1

1.1.1 適用競技会

1.3.1 大会主催者独自の規則の作成と告知、〈注意〉

巻末 適用競技会における大会主催者の責任および、
広告規程管理者・任命の推奨

1. 2024年度〔国内〕広告規程（2.12時点案）

【資料1/WAおよび国内案付記 全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

① C-7.1

巻末 適用競技会における大会主催者の責任および、広告規程管理者任命の推奨

『広告規程管理担当者』のお仕事

後ほど、2の
広告規程「競技会での適用・運用例」
でも、関連してお話します！

1. 2024年度〔国内〕広告規程（2.12時点案）

【資料1/WAおよび国内案付記全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

② C-7.4

5 アスリートキット 【衣服/ユニフォーム】

C：一般・クラブ（所属団体）名/ロゴ、個人

所属団体名/ロゴ サイズに変更は無し

製造会社名/ロゴを含め、3つまでスポンサー名/ロゴを 表示可

D：学校（所属団体）名/ロゴ

所属団体名/ロゴ サイズに変更は無し（無制限）

製造会社名/ロゴを含め、3つまでスポンサー名/ロゴを 表示可

6.5〔国内〕医療用テープおよび一般的なテープの扱い

1. 2024年度〔国内〕広告規程（2.12時点案）

【資料1/WAおよび国内案付記全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

② C-7.4

5 アスリートキット 【衣服/ユニフォーム】

C：一般・クラブ（所属団体）名/ロゴ、個人

所属団体名/ロゴ サイズに変更は無し

製造会社名/ロゴを含め、3つまでスポンサー名/ロゴを 表示可

D：学校（所属団体）名/ロゴ

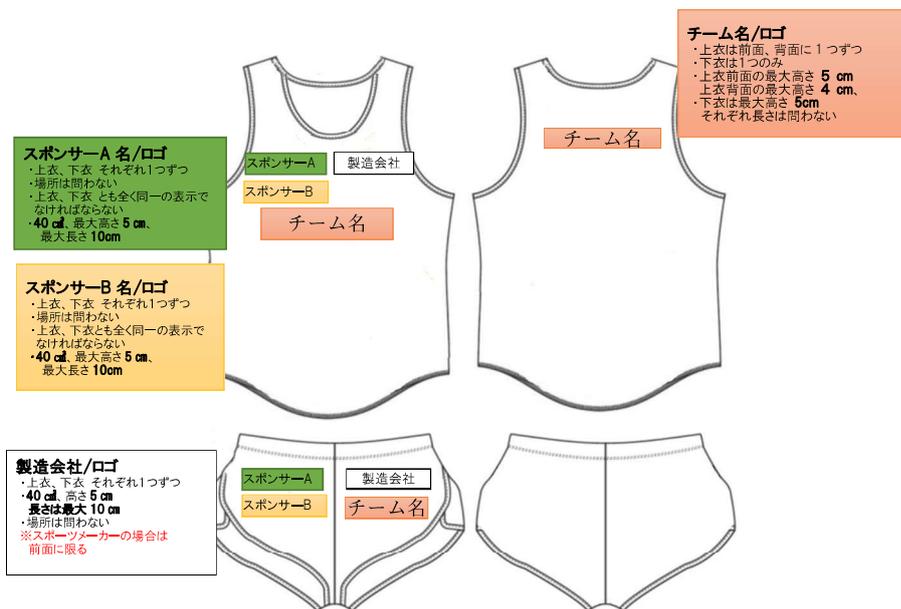
所属団体名/ロゴ サイズに変更は無し（無制限）

製造会社名/ロゴを含め、3つまでスポンサー名/ロゴを 表示可

JAAF[国内]広告規程 アスリートキット (衣類)

※ユニフォーム、ジャージ等の衣類全て

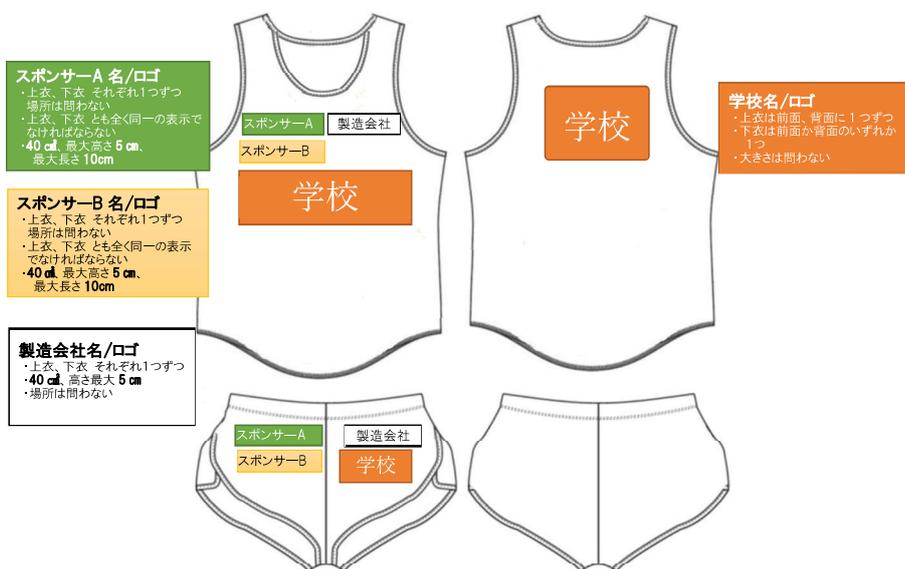
C: 一般・クラブ (所属団体) 名/ロゴ、個人 表示用



JAAF[国内]広告規程 アスリートキット (衣類)

※ユニフォーム、ジャージ等の衣類全て

D: 学校用



〈注意〉 誤解を避けるために記すが、
『公益財団法人全国高等学校体育連盟 競技者及び指導者規程』

第2章 競技者 第3条（競技者のあり方）

- （1）高等学校の生徒として、体育・スポーツ活動を通して自己研鑽に努める。
- （2）競技規則はもとより社会生活におけるルールとマナーを守り、フェアプレイの精神に徹する。
- （3）体育・スポーツ活動を通してお互いの友情を深めるとともに、ボランティア活動等にも積極的に参加する。
- （4）スポーツ活動を行うことによって、物質的な利益を自ら受けない。
- （5）スポーツ活動によって得た名声を、自ら利用しない

1. 2024年度〔国内〕広告規程（2.12時点案）

【資料1/WAおよび国内案付記全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

② C-7.4

6.5

〔国内〕

医療用テープおよび
一般的なテープの扱い

6.5 競技者が使用する医療用テープまたは一般的なテープは、無地でも、テープに競技者の名前が付いていても構わない。医療用テープまたは一般的なテープに記載される商品名/ロゴは、大会主催者の書面での承認が必要である。

〔国内〕 C7.1.1.1〔国内〕の競技会では、競技者が競技規則に反しない限り、医療用テープまたは一般的なテープを使用することができる。表示できる製造会社名/ロゴは、1枚につき最大の大きさは、10cm²とする。

医療テープについて、WAがWAS大会における運用を教えてくださいました。

規程上では、ロゴ入りのメディカルテープは規程では「主催者の書面による承認」が必要です。つまり、世界選手権では事前に許可がなければロゴ入りのテープを使用することはできないルールです。もちろん、通常の大会より厳格に運用していくので事前に参加チーム、競技者に通知していくことが重要です。

しかし、医療用テープは選手の健康を保護するものですので、常識の範囲内で、審判がその都度、ケースバイケースで判断していくしかないというアドバイスです。

テープを外すようなことはできないと考えられますし、全て黒く塗りつぶすことも容易ではないと思います。

あわせてWAのマーケ担当のシンチアさんは、もしロゴ表示を認めるのであれば、他の「その他アクセサリ」にあわせていくしかないであろうと回答しています。

マーケティングの観点からするとテーピングもアスリートの個人やMFのスポンサーの無断で露出する機会になりえるので注意することが望ましいということになります。

なお、DL、コンチネンタルツアー、ラベルレース、WA各種ツアー、国内大会において広告規程の運用と取り締まりについての運用の度合いは各主催者（または日本陸連）に委ねられるところです。そのため日本での対応は、陸連（あるいは主催者）とテーピングメーカーとのスポンサー契約内容、現場審判の負担量など鑑みて、日本国内の対応を考えていく必要があります。

• WAからの回答が来ました。

Strictly speaking the rule states that the tapes must be plain, i.e. unbranded. It would assist if the teams/athletes are informed ahead of competitions, this is what we do for WAS.

If it is not and it cannot be covered then there is a judgement call to make by the official. Of course common sense should prevail as there is a sensitivity about handling the tapes and judgement on a case by case basis on how to handle the situation.

And any logo should not be bigger than 3cm 6cm² to be consistent with other apparel/accessories.

Tape seems also a new common branding opportunities for athletes that they try and take advantage of, which we need to be cautious about.

Best regards,
Cinzia

厳密に言えば、テープはプレーン、つまりブランドのないものでなければならぬと規定されています。競技前にチームや選手に情報を提供していただければ助かります。WASではこれを行っています。そうでなく、カバーできない場合は、担当者が判断する必要があります。もちろん、テープの取り扱いには細心の注意を払い、状況にどう対処するかはケースバイケースで判断する必要があるため、常識が優先されるべきです。また、他のアパレル/アクセサリとの調和を図るため、ロゴは高さ3cm面積6cm²を超えてはなりません。テープは、アスリートが利用しようとする新たな一般的なブランディングの機会でもあるようであり、私たちは注意する必要があります。

【確認事項】

- 国際大会の現状 : 貼付する医療用テープに関して、WAS大会や、アジア選手権、ダイヤモンドリーグ・コンチネンタルツアーなどで事前申請は求められていない。
 - WA : WA スポンサー保護から、WASにおいて、ユニフォーム・アクセサリ類のデザイン全ての提出と承認あり。医療用テープは対象とされていない。(WA スポンサーとバッティングするカテゴリーの不可)
 - DL、CT : ユニフォーム・アクセサリ類の扱いは、主催者の裁量に委ねられ、運用の程度は主催する国ごとに異なる。大会での広告規程の運用を事前に代理人に周知する程度。

- 国内スポンサー : 日本陸連オフィシャルサポーターティングカンパニー

 Nitto

日東電工株式会社 〈テーピングテープ〉

- 主な国内他社 :  NICHIBAN 日本スポーツ協会オフィシャルパートナー

 phiten

※広告PTと情報共有済み。競技会で支障なく使用できる、商品名/ロゴの無い「無印」テープの販売も計画中。

ニットー



ニチバン



6.5 競技者が使用する医療用テープまたは一般的なテープは、無地でも、テープに競技者の名前が付いていても構わない。医療用テープまたは一般的なテープに記載される商品名/ロゴは、大会主催者の書面での承認が必要である。

〔国内〕 C7.1.1.1〔国内〕の競技会では、競技者が競技規則に反しない限り、医療用テープまたは一般的なテープを使用することができる。表示できる製造会社名/ロゴは、1枚につき最大の大きさは、10cm²とする。



パワーテープ
1つ1つ扱い 例 ○

繰り返し掲出 例 ✕ : チタンテープ (1つか所以外消すか、使用しない)

1. 2024年度〔国内〕広告規程(2.12時点案)

【資料1/WAおよび国内案付記全編 参照】

※新規、追記/修正のみ抜粋

③ C-1.2付録および1.4付録

国際競技会〔国際招待・サーキット・ラベルロードレース〕における

展示物の扱い

ダイヤモンドリーグ/コンチネンタルツアーゴールド：WA規程 **必須適用**

上記競技会以外の競技会：WA規程 **任意選択**

国内競技会 (含 国際招待・サーキット・ラベルロードレース)

における展示物の扱い

WA規程+〔国内〕規程を『**基準**』とする。

※ルールブックへは不掲載 日本陸連HPへ

2. 広告規程 競技会での適用・運用例

①大会要項の工夫（例示表示）や、事前チェック

②現場での対応

「教育的配慮/指導」 「隠すべきは隠す」

2. 広告規程の競技会での適用・運用例

①大会要項の工夫（例示表示）や、事前チェック

①大会要項の工夫（例示表示）や、事前チェック

競技会要項（競技会開催案内）へ、 アスリートキット規程を明示！！

【大会注意事項】 → 『要項』
文言 → 資料 2 の活用 C/D 例明示

これまで

〔国内〕 競技会・大会要項

/ 競技者注意事項 記載例

<p>●競技場内で着用できる衣類と持ち込める物品について</p>	<p>競技会における広告および展示物規程により、競技場内で着用できる衣類等に掲出できる製造会社名/ロゴ、スポンサー名/ロゴの大きさ、数については下記の様になっている。 事前に確認しておくこと。違反した場合にはテープ等でマスキング処置を行う。</p> <p>（アスリートキット）</p> <p>（1）競技用の衣類（トップス、ベスト、パンツ、レギンスなど）、ウォームアップ用の衣類、セレモニークット、トラックスーツ、Tシャツ、スウェットシャツ、スウェットパンツ、レインジャケッ ット</p> <p>○上衣 下衣〔それぞれ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造会社名/ロゴ： 1つ/一箇所 40cm²（高さ5cm）まで ・スポンサー名/ロゴ： 1つ/一箇所 40cm²（高さ5cm）まで ・所属団体名/ロゴ または 学校名/ロゴ：〔所属団体名/ロゴ〕 <p>上衣 前後 各一箇所 *長さは問わないが、高さは 前：5cm、後ろ：4cm まで 下衣 一箇所 *長さは問わないが、高さは 5cm まで 〔学校名/ロゴ〕 上衣・下衣 大きさの規制なし</p> <p>（2）競技者が着用するあらゆるその他のアパレル（靴下、ヘッドギア、帽子、ヘッドバンド、手袋、アームバンド、メガネ、サングラス etc）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造会社名/ロゴ： 1つ/一箇所 6cm²（高さ3cm）まで *メガネおよびサングラスについては、製造会社名/ロゴを二箇所掲出できる ・所属団体名/ロゴ または 学校名/ロゴ： 1つ/一箇所〔所属団体名/ロゴ〕6cm² まで〔学校名/ロゴ〕 大きさの規制なし <p>〈個人の所有物およびアクセサリ〉</p> <p>（1）タオル バッグ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造会社名/ロゴ： 1つ/一箇所 40cm²（高さ5cm）まで ・スポンサー名/ロゴ または 競技者名/競技者個人のハッシュタグ：2つ/二箇所 それぞれ40cm²（高さ5cm）まで *バッグについては、スポンサー名/ロゴのうち1つ/一箇所を、次のいずれかに変更できる〔所属団体名/ロゴ〕 長さは問わないが高さは5cm まで〔学校名/ロゴ〕 大きさの規制なし <p>（2）飲料ボトル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドリンクの提供者、製造会社、および（または）アスリートスポンサー名/ロゴ：2つ/二箇所それぞれ40cm²（高さ5cm）まで *ペットボトルを持ち込む場合はラベルをはがすこと。
----------------------------------	---

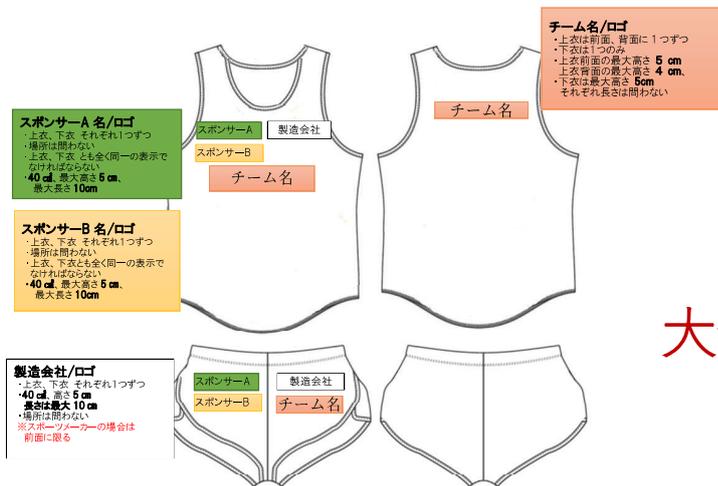
本競技会におけるアスリート規程は以下の通りである。
 参加に当たり、確認の上、申込を行うこと。当日、違反物について指導に従わない場合は、
 参加の拒否や着用には制限を加える場合がある。

※不明な点等 問合せ先

〇〇陸協 TEL △△-△△△△ ☑ ◇◇@◇◇◇◇. JP

※ユニフォーム、ジャージ等の衣類全て

C: 一般・クラブ (所属団体) 名/ロゴ、個人 表示用



①大会要項の工夫 (例示表示) や、事前チェック

競技会要項 (競技会開催案内) へ、

主催者が定めた広告規程の明示

※WA規程・〔国内〕規程の一部制限の場合必須

2. 広告規程の競技会での適用・運用例

①大会要項の工夫（例示表示）や、事前チェック

WEB等の活用から、出場者の着用予定キットの
事前提出と、チェック

関東学連 「箱根駅伝」 の取組 例

関東学連 「箱根駅伝」 の取組 例 事前の提出とチェック



2. 広告規程の競技会での適用・運用例

②現場での対応

「教育的配慮/指導」 「隠すべきは隠す」

②現場での対応

「教育的配慮/指導」

WAより

過度にマスキングテープを張るのは良くない。注意して次から是正されるならそれを尊重した対応にしてほしい。

競技ユニフォームへの貼付は極力避けたい

☆事前の取組 重視

☆配慮と指導

広告規程管理担当

現場での対応

【C7.4】 競技者に対する 違反と救済処置

競技用の ユニフォーム

- ・ スポンサー名/ロゴ 違反 :

『**嚴重注意**』 ☞ 次回以降、参加が認められない可能性を指摘。

* 可能なら改善処置を！ 無理な場合は そのまま。

- ・ 重ね着、重ね履きにかかる違反 :

『**改善指導**』 ☞ マスキング or どちらか1枚の着用

その他のアパレル

- ・ 製造会社名/ロゴ、装飾的デザインマーク 違反 :

『**改善指導**』 ☞ 着用しない or マスキング or 裏返し

バッグやシューズ袋他、一切を配付袋に入れさせる例もある！

2. 広告規程の競技会での適用・運用例

②現場での対応

「教育的配慮/指導」 「**隠すべきは隠す**」

マスキングの方法

部分隠しで良いと、思っている人が一定数いる？

「**隠すべきは隠す**」！！

☆**事前の取組** 重視

☆**配慮と指導**

広告規程管理担当

日本陸連 HP 委員会のページ
「競技運営委員会」広告規程のページ

掲載予定 2024. 4.1 以降に！！

WA広告規程 C7.1

〃 C7.4

〃 〈付録〉 展示物規程

2024年版（含〔国内〕） アスリートキット

競技会レベル別・アスリートキット上の各種表示 案内例

※競技会 大会要項掲載にご活用を！！

ありがとうございました。

仮称）広告規程管理担当者の設置や、積極的
業務遂行を期待いたします。

また、各種の**事前**・当該競技会当日の問い
合せ、お待ちしております。

日本陸上競技連盟 競技運営委員会
広告規程 検討PT

2023年度S級公認審判員昇格候補者

都道府県名		昇格者数	昇格者名					
1	北海道	9	田川 芳紀	上見 篤司	河邊 清一	中田 光哉	長澤 知博	佐々木 清
			藤波 好英	橘 美富	川村 龍彦			
2	青森	3	工藤 真裕	對馬 拓	柴田 敬司			
3	岩手	1	藤原 勲					
4	宮城	5	今野 恒徳	山内 雅也	高橋 秀生	狩野 隆	富田 茂子	
5	秋田	2	阿部 いく夫	須藤 秀雄				
6	山形	3	渋谷 洋司	菅原 和浩	青木 美由貴			
7	福島	11	中山 芳文	大内 訓	山田 貢市	渡辺 裕一	藤沼 賢次	五十嵐 俊道
			鈴木 仁	鈴木 香奈	廣野 友一郎	高橋 浩司	安齊 誠文	
8	茨城	4	南雲 和子	根本 康成	町田 謙一	越藤 克明		
11	埼玉	2	松本 成人	嶋根 祐一				
12	千葉	4	橋本 通平	櫻井 智男	根本 正夫	佐藤 道広		
13	東京	26	窪 とよ子	山口 高史	甲斐 澄子	辻 義治	佐野 豪一	小村 ひろ子
			武村 亨	柳瀬 洋樹	林 勉	原 人三	太田 俊一	
			窪田 博行	石橋 邦隆	大内 一男	中田 裕敏	齋藤 孝	海老沢 力雄
			藤安 和義	荒井 弘子	中川 進	坂本 孝男	浦牟田 和彦	伊藤 鐵之助
			根岸 清和	柳澤 一良	唐津谷 和男			
14	神奈川	4	伊藤 栄	碓井 雅一	内野 豊	福岡 修		
15	山梨	1	矢崎 良子					
16	新潟	2	岩野 與志弘	高野 富士雄				
17	富山	2	深井 武志	平川 和幸				
18	石川	3	中嶋 敏一	高田 清保	川嶋 聡			
19	福井	1	辻垣内 秀行					
20	長野	3	百瀬 貴	白川 雅三	山本 隆			
21	静岡	13	大谷 博文	下山 順一	杉井 將彦	忠 敬吉	清 尊徳	吉川 紳
			松本 寿夫	岡部 邦彦	津村 昌保	飯田 正之	長田 茂	眞田 里子
			永田 智					
24	岐阜	1	土屋 雅敏					
25	滋賀	3	木下 孝之	島 孝志	饗場 伸一			
26	京都	4	阪本 誠	木下 和浩	林 邦夫	森本 康裕		
27	大阪	14	南 良一	西森 幸雄	市田 美雪	二宮 一	谷岡 信吉	西 菊一
			山地 繁信	山田 昇	水谷 勝重	川口 雅繁	野寺 茂	林 正三
			長谷川 哲男	小林 正典				
28	兵庫	3	石川 龍司	安田 太郎	大江 秀和			
29	奈良	2	大前 洋介	梶本 吉博				
30	和歌山	1	寒川 満一					
32	島根	7	矢野 浩	青木 明義	市川 哲男	野津 広	賀元 信哉	飯塚 智
			飯國 秀忠					
33	岡山	5	大石 一廣	下田 和浩	安東 由香利	植月 透	臼井 正徳	
34	広島	3	岩本 邦史	谷本 邦弘	土谷 邁			
35	山口	2	山内 和夫	岡中 寿代				
36	徳島	2	東 隆幸	福島 大				
38	愛媛	4	岡崎 陽治	村下 寿規	白方 順	井上 佳彦		
39	高知	1	岡村 幸文					
40	福岡	5	小野原 英樹	島元 晴治	八嶋 文雄	岡 美佐子	八尋 大助	
41	佐賀	2	多久島 誠	羽立 博文				
43	熊本	4	池田 祐一	宮崎 靖久	一ノ口 武俊	田中 伸二		
44	大分	3	伊藤 由紀子	長野 由美子	副田 博文			
45	宮崎	5	黒木 望	一井 俊広	乙守 信	萱嶋 秀雄	田爪 隆敏	
46	鹿児島	3	東郷 正美	高山 克司	甫立 浩二			
47	沖縄	3	砂川 さとみ	伊波 康成	大城 徳宏			

合計 176

2023年度 S級公認審判員昇格審査(2024年4月1日昇格予定者)結果について

1. 昇格審査結果報告

- 昇格候補者審査は、2024年1月14(日)に実施。
- 申請181名中、176名を昇格候補者とした。

《不合格者の内容》

- ・審判手帳紛失により、審判講習会の押印が1回(講習会受講の確認が出来ないため)
- ・講習会の回数不足(大会引率/管理職勤務で講習会に参加できなかった、との理由)
- ・競技会の回数不足(手帳への記載がないものも含む)

- 競技会の出席回数は申請時点での直近6年間^{注1)}で30回以上を基準とし、陸連主催及び加盟団体からの申請による公認競技会を基本とした(各年度4月1日~3月31日の競技会出席回数)。同一日に複数の競技会に出席していても1回とカウントした(競技会は1日単位でカウント)。
- 審判講習会^{注2)}出席回数は、直近6年間^{注1)}で3回以上を基準とした。同一年度に複数回出席している場合でも1回とカウントした。実技講習会の類はこの講習会の回数には含めない。

^{注1)} 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、通常の講習会が行われず、競技会実施数も激減しました。そのことを考慮し、講習会・競技会の出席回数を直近6年間でカウントすることとします。(2026年度申請までの措置)

^{注2)} 審判講習会：都道府県主催の伝達講習会、陸連主催の全国競技運営責任者会議

- S級昇格者には委嘱状及びS級バッジを贈呈する。

2. 今年度の審査と今後について

- 昨年度、書類の不備が多く複数の団体に問い合わせを行った結果、全国会議までに審査が終わりませんでした。そのため、今年度より提出物の不備について問い合わせは行わず、提出物から確認できる内容のみで審査しました。

※書類に不備があると昇格対象者が不利益を被るため、引き続き各団体できちんと確認すること。

- 講習会開催実績報告書は、2023年度申請までは今まで通り直近6年度分を提出していただきましたが、2024年度申請(来年度)以降は、当該年度のみ提出とします。

⇒来年度以降の審査は、2023年度申請で提出されたものと、当該年度の書類で審査を行います。今年度提出された講習会開催実績報告書が間違っていると、手帳と不一致となり、昇格対象者が不利益を被るため、今一度書類をご確認ください。(万が一、修正の必要がある場合には、今年度中に再送付願います。)

- 昇格対象者がいない場合も、今年度同様、講習会開催実績報告書はご提出ください。

3. 昇格審査におけるお願い等

《審判員手帳について》

記載すべきことを、正しい場所に正確に記載してください。

- 加盟団体の審査でのA級昇格時には、必ず手帳に昇格年月日の記載と承認印の押印を。
⇒手帳の送付は、申請に関わる部分のみでお願いします。(過去6年分のみ…今年度はB級取得時からのものを全て送られてきた方もいました。)
- 講習会への出席は「審判講習会」欄へ、競技会への出席は「審判の記録(競技会記載欄)」の欄に、日付、講師名、担当役員等、それぞれ正確に記入してください。
- 日付の記載は、できる限り西暦で統一してください。
- 手帳の審判講習会の欄が時系列になっていない方がいました。
⇒改ざんを疑われることがあるので、捺印や短冊を作成する際に十分にご注意ください。
- 「審判の記録(競技会記載欄)」には、競技役員(審判員)として出席した場合のみ記載してください。大会役員(会長、副会長等)としての参加は、競技会出席回数に含まれません。また、担当役員欄は空欄にせず、具体的な競技役員名を主催者が記載してください。
⇒担当役員名が明記されていないもの(空欄)は、今後認めません。
⇒担当役員名が「競技役員」となっているものも、具体的な役員名としてください。
- 手帳を役員別に複数冊を使い分けている方がいました。
⇒一人一冊でお願いしたい。また、陸協事務局で安易に手帳を発行しないよう管理の徹底をお願いします。

《提出書類について》

記載漏れ、記載誤り、不要な資料添付がないようにお願いします。

- 講習会一覧の日付が違う・あいまい、講師名が抜けている。
⇒もう一度各陸協で確認いただき、訂正があれば修正版をご提出ください。来年度からは当該年度のみ講習会の情報しか集めないため、今年度出した書類が元となります。間違っても確認のしようがないので、もう一度確認をお願いします。
- 申請書、理由書が過去のデータを利用している。そのため、数式や形式が違っていたりしている。
⇒必ず今年度送付した新しいもの(当該年度のフォーマット)を利用してください。
- 申請書と審判手帳の相違
⇒都道府県陸協で確認をしっかりといただき、正確に(特に数)申請をお願いします。
- 条件に合った申請がされていない。
⇒離島以外は、競技会の回数30回は譲れません。また、仕事等の理由で競技会・講習会の数が不足していても、理由にはなりません。

《理由書について》

災害による影響、離島に居住など、やむを得ない事情のみ、記入してください。

- 家庭の事情、仕事の都合、体調の問題による回数不足は、認められません。
- 申請書類提出後の競技会出席回数は、カウントされません。

《その他》

- 昇格候補の該当者がいない場合は、申請期日までに該当者なしのご一報をお願いします。
- 申請期日までの書類提出を漏れなくお願いします。

2023年度 S級公認審判員昇格審査 (2024年4月1日昇格予定者) 結果について

2024.2.11 (Mon.) 全国競技運営責任者会議

日本陸上競技連盟 競技運営委員会
審判員研修PT



◆2023年度 S級昇格審査概要



2024.1.14
日本陸連事務局にて審査

競技会の出席回数：

直近6年間で30回以上

審判講習会の出席回数：

直近6年間で3回以上

★新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、「直近6年間」のカウントは、2026年度申請までの措置

◆今年度の審査と今後について

【昨年度審査】

不備が多く、多くの団体に問い合わせを行ったため、全国会議までに審査が終了できなかった。



- 提出物の不備についての問い合わせは行わない。
- 提出物から確認できる内容のみで審査を行う。

◆今年度の審査と今後について

【2024年度申請より】

講習会開催実績報告書は、当該年度のみの提出

2023年度申請
(2024年4月1日付昇格)
2018年～2023年審判講習会開催実績報告書

都道府県No.

	年月日	会場	講師名
1	2018年 月 日		
2	年 月 日		
3	年 月 日		
4	年 月 日		
5	年 月 日		
6	年 月 日		
7	2019年 月 日		
8	年 月 日		
9	年 月 日		
10	年 月 日		
11	年 月 日		
12	年 月 日		
13	2020年 月 日		
14	年 月 日		
15	年 月 日		
16	年 月 日		
17	年 月 日		
18	年 月 日		
19	2021年 月 日		
20	年 月 日		
21	年 月 日		



2024年度申請
(2025年4月1日付昇格)
2024年審判講習会(伝達講習)開催実績報告書

都道府県No.

	年月日	会場	講師名
1	2024年 月 日		
2	年 月 日		
3	年 月 日		
4	年 月 日		
5	年 月 日		
6	年 月 日		
7	年 月 日		
8	年 月 日		
9	年 月 日		
10	年 月 日		
(例)	2024年 3月 4日	東京体育館	陸連太郎、江戸花子
(例)	2024年 3月 3日	オンライン講義	陸連太郎、江戸花子

* 各陸協で開催した審判講習会(伝達講習)を古いものから順に記入する。(昇格審査に関係なく、実施した全てを記載)
* 単一部署の講習会は除く(スターター講習、アナウンサー講習等)
* 記入欄が不足する場合は用紙をコピーして付けたしてください。

陸上競技協会 印

● 本年度提出分の再確認を！

◆2023年度 S級昇格結果



2024.1.14

日本陸連事務局にて審査

【不合格者の内容】

- 審判手帳紛失、講習会押印1回
⇒講習会受講確認できず
- 講習会の回数不足
⇒大会引率で受講できず
⇒管理職になり受講できず
- 競技会の回数不足
⇒そもそも回数不足で申請
⇒手帳への記載なし

◆昇格審査におけるお願い

【①審判員手帳について】

- ★毎年お願いしている内容です。
- ★申請案内の要項にも記載してあります。
- ★多くの加盟団体は、正確に処理されています。

講習会／競技会の欄が時系列になっていない方は、改ざんを疑われるので、捺印・短冊作成にご注意を

◆昇格審査におけるお願い

【①審判員手帳について】

★審判の記録の担当役員欄には、競技役員として出席した場合のみ記載。

⇒大会役員（会長・副会長等）は**NG**

⇒担当役員名が明記されていないもの（空欄）は、**今後一切認めない。**

※具体的な競技役員名を**主催者が記載**のこと

◆昇格審査におけるお願い

【①審判員手帳について】

★手帳を役員別に複数冊を使い分けている方がいた。



一人一冊でお願いします...

⇒**陸協で安易に手帳を発行しないよう、管理徹底を**

◆昇格審査におけるお願い

【②提出書類について】

- ★講習会一覧の日付が違ふ／講師名空欄
⇒前述の通り、再度確認をお願いします。
- ★申請書・理由書が過去のデータを使用
⇒必ず当該年度のフォーマットを使用のこと。
- ★申請書と手帳の相違
⇒特に回数のカウントは正確に。

◆昇格審査におけるお願い

【③理由書について】

- ★家庭の事情、仕事の都合、体調の問題による回数不足は認められません。

- 離島以外は、競技会の回数30回は譲れない。
- 災害による影響・離島に居住など、やむを得ない事情のみ記入して下さい。

2023年度 S級公認審判員昇格審査 (2024年4月1日昇格予定者) 結果について

お忙しい中、いつもありがとうございます。
対象者が不利益を被らないために、よろしく願います。

日本陸上競技連盟 競技運営委員会
審判員研修PT



競技規則修改正に伴う運用について

TR8.4 (不正スタート時における現場での抗議 (競技中の抗議)) について

〔国際〕不正スタートを告げられたことに対して直ちに現場で抗議 (競技中の抗議) をした場合、スタート審判長 (スタート審判長が任命されていなければトラック競技審判長と競歩競技審判長) は、不正スタートであったと少しでも確信が持てない時、その権利を留保するために自分の裁量で、抗議中として競技者が競技することを許可できる。WA が承認したスタート・インフォメーション・システムにより不正スタートの判定が下された場合、当該競技者は競技を継続することはできない。但し、スタート・インフォメーション・システムが明らかに不正確であると審判長が判断した場合はこの限りではない。

「抗議中」として競技することを認めた場合、競技者に対して、赤白 (斜め半分形) カードが提示されるものとする。

〔国内〕 SIS 使用時のみ、主催者は当該規則を適用することができる。

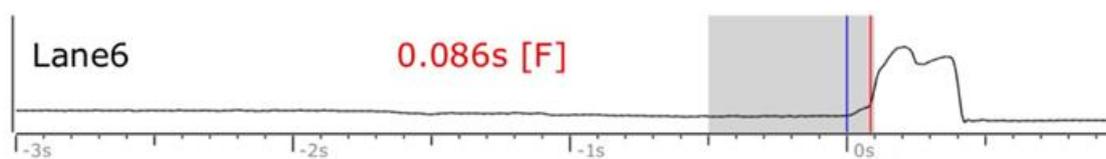
審判長が不正スタートを課せられた競技者による現地での口頭抗議を裁定する時には・・・。

不正スタートが正常に動作しているしている SIS によって感知された場合、及びその競技者に不正スタートの責任があることが視覚的に明らかで抗議を認める理由がない場合には、審判長は通常、抗議中の立場で競技することを認めてはならない。

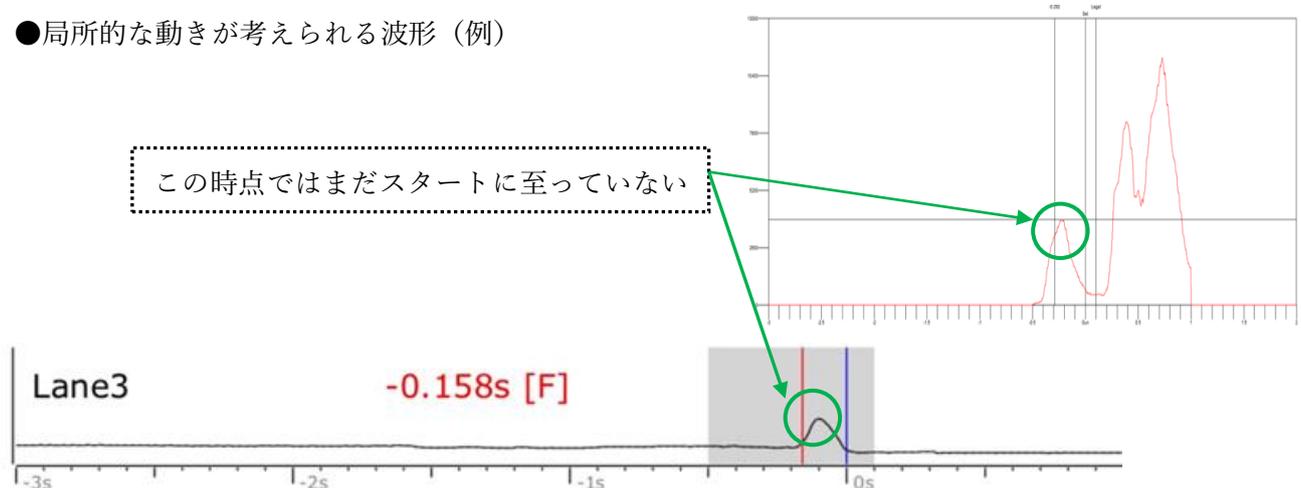
但し、反応時間が許容限界に近づくと、動きがほとんど見えなくなる可能性があることが認識されている。このような場合、スタート審判長が技術的な証拠のさらなる分析が必要であると判断したら、関係者全員の権利を守るために、スタート審判長は抗議中の立場で競技者が競技することを許可することができる。

⇒ (SIS 使用時に) 当該規則を適用する場合は、競技注意事項に明記する。不正スタートの波形と不正スタートではない波形の見分け方を事前に確認しておき、スムーズな判定をすることが大切である。また赤白カードを準備しておく。

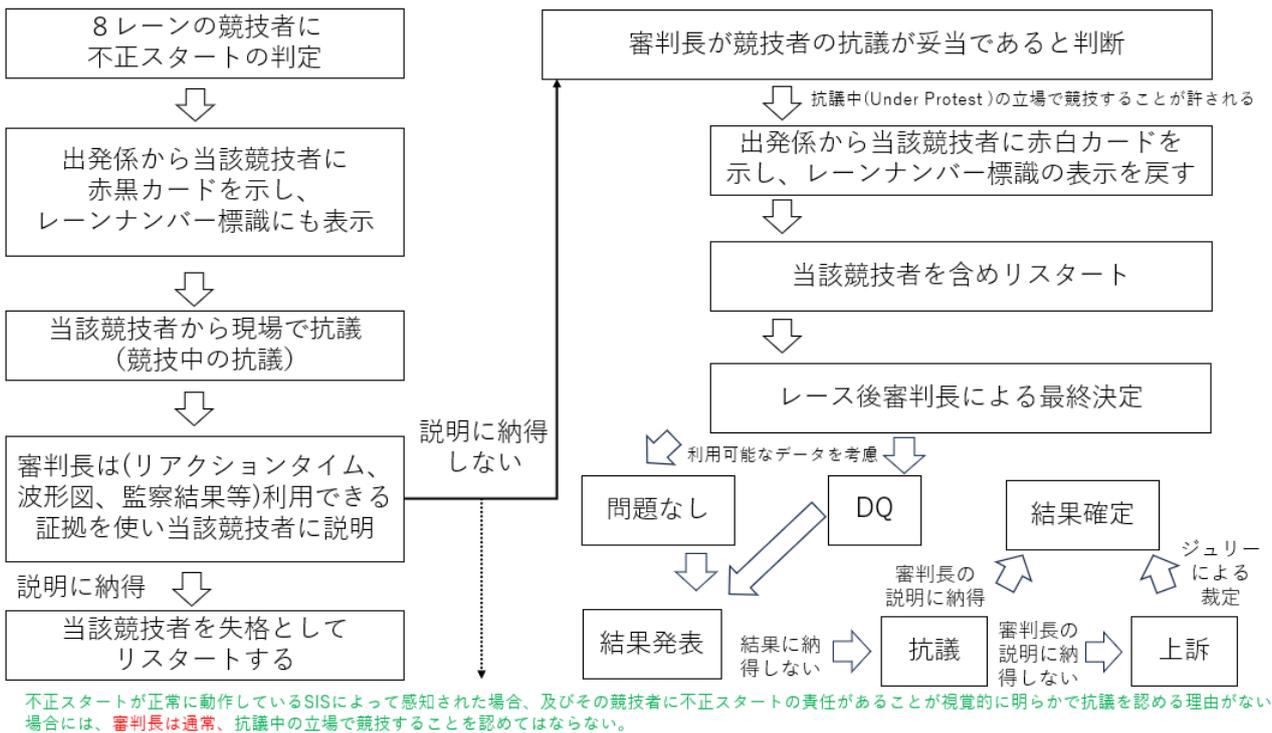
●不正スタートを示す波形 (例)



●局所的な動きが考えられる波形 (例)



【現場で抗議があった際の手順】



TR8.5（フィールド種目における現場での抗議（競技中の抗議））について
 フィールド種目で、もし競技者が無効試技と判定されたことに対し、直ちに現場で抗議（競技中の抗議）を行った場合、審判長は疑義があると考えたら、該当する事項を保全するためにその試技を計測、記録させることができる。
 【国内】主催者は当該規則を適用することができる。

⇒現場での抗議（競技中の抗議）に備え、明らかな無効試技以外はすべて計測しておく必要がある。監視カメラ（ビデオ）がない場合、やり投のスターティングラインや砲丸投のサークルを踏んだかどうかを遡って確認することは難しい。そのため監視カメラ（ビデオ）がない場合、1人だけではなく複数の審判員で主審の判定を補佐していくことが重要である。例えば、タイマーを担当する審判員や鋼鉄製巻尺を持っている審判員が兼務する方法が考えられる。さらにトラブル防止の観点から痕跡を確認する審判員は通信機器を利用し、計測結果との整合性にも気を配る必要がある。引き続き各ラウンド終了時にポイントを確認しておくことも重要である。また科学計測装置のトラブルに備え、鋼鉄製巻尺を用意しておくことも大切であると言える。

第7期 JRWJs 育成セミナー（認定試験）報告

公益財団法人日本陸上競技連盟
競技運営委員会

第7期 JRWJs 選考試験は2023年11月26日（日）に、本連盟事務局会議室で行われた。

2019年に行われた第6期 JRWJs 選考試験では、基準点に達した者がおらず、後日再試験を実施したこともあり、第7期選考試験に向けては、2022年～2023年の2年にかけてのセミナーを計画・実施した。

まず、選考試験前年の2022年11月27日（日）に本連盟事務局会議室にて対面で歩型判定のポイント、競技規則の理解、主任の実務、運営支援システム等の運営実務についてのセミナーを行い、その後2023年3月～9月にかけて、日本選手権、世界陸上等の大会における歩型判定の確認を中心にオンライン研修を4回行って、2023年11月の試験に備えた。

その甲斐あってか、第7期の試験では、受験者19名のうち9名が基準点に達し、合格率は47%であった。

※2024年度は第6期までの70歳定年に達していない JRWJs37名と併せて46名の体制で主催・共催・後援競技会の運営支援に当たることとなる。

以上



2022-2023 年度 JRWJs オンライン育成研修（競歩審判員スキルアップ）実施報告

参加者：2022JRWJs 育成研修受講者、2019JRWJs 育成セミナー受講者、JRWJs

① 第1回オンライン研修 3月4日土曜日 17:00～18:30

- ・競技会：日本選手権男女 20 km W 他(2023. 2. 19(日)神戸市)
- ・内容：(1)挨拶 (PM5:00～05) 競技運営委員会委員長 鈴木 一弘
(2)歩型の判定について (PM5:05～6:00) 講師：三浦 康二
～第106回日本選手権 20 km W、第34回 U20 選抜競歩の判定
(3)ルール改正について (PM6:00～30) 講師：関根 春幸
～2023 年度ルール改正のポイント～

② 第2回オンライン研修 4月8日土曜日 17:00～18:30

- ・競技会：アジア選手権男女 20 km W 他(2023. 3. 19(日)能美市)
- ・内容：(1)オリエンテーション (PM5:00～) 委員 藤崎 明
(2)歩型の判定について (PM5:02～6:00) 講師：三浦 康二
～アジア選手権男女 20 km W 他判定
(3)国際大会の競技運営 (PM6:00～20) 講師：佐藤 孝洋
～2023. 1. 1 東京元旦競歩 WRk 大会～
(4)能美大会の運営上の課題等振返り (PM6:20～30) 進行：藤崎 明

③ 第3回オンライン研修 4月29日土曜日 17:00～18:30

- ・対象競技会：日本選手権男女 35 km W 他 2023. 4. 15(土)～16(日)輪島市)
- ・内容：(1)オリエンテーション (PM5:00～) 委員 藤崎 明
(2)歩型の判定について (PM5:02～6:00) 講師：三浦 康二
～日本選手権 35 km W、全日本競歩 10 km W 他判定～
(3)ペナルティゾーンの運営 (PM6:00～20) 講師：宇井 菜那
～競歩運営支援システムを使用した運営について～
(4)輪島大会の運営上の課題等振返り (PM6:20～30) 進行：藤崎 明

④ 第4回オンライン研修 9月9日土曜日 17:00～18:30

- ・対象競技会：世界陸上ブタペスト大会
(2023. 8. 19(土)20 km W 男、20(日)同女、24日(木)35 km W 男女)
- ・内容：(1)オリエンテーション (PM5:00～) 委員 藤崎 明
(2)歩型の判定について (PM5:00～6:00) 講師：三浦 康二
～ブタペスト世界選手権競歩の判定について～
(3)札幌インターハイの振り返り (PM6:00～15) 講師：宇井 菜那
(4)研修まとめ (振り返り) (PM6:15～30) 講師：佐藤 孝洋
(5)2019JRWJs セミナー受講者からアドバイス
後小路正人氏、杉本明洋氏、川池直人氏

以上

JTOs 派遣報告

日本陸上競技連盟 競技運営委員会

幹事 羽田 雄一

2023年度は第7期JTOsとして7名を加え、第6期までの48名と併せて55名体制で各競技会での運営支援にあたっていただきました。

1. 2023年度派遣競技会の状況

(2022年度全国会議以降)

- ・大阪国際女子マラソン ・日本選手権 20km競歩 ・日本選手権クロスカンントリー ・大阪マラソン 2023
- ・東京マラソン 2023 ・名古屋ウイメンズマラソン ・室内日本選手権 ・全日本競歩能美大会

(2023年度) 4月1日～2024年1月28日までの派遣競技会

- ・金栗記念選抜中距離 ・全日本競歩 35km 輪島大会 ・吉岡隆徳記念出雲陸上
- ・Tokyo Spring Challenge ・長野マラソン ・兵庫リレーカーニバル ・織田記念陸上 ・静岡国際陸上
- ・ゴールデンゲームズ in のべおか ・水戸招待陸上 ・木南道孝記念
- ・SEIKO ゴールデングランプリ ・日本選手権混成・U20 日本選手権混成 ・日本陸上競技選手権大会
- ・布勢スプリント ・南部記念 ・全国高等学校陸上競技選手権大会 ・実業団・学生対抗陸上競技大会
- ・全日本中学校陸上競技選手権大会 ・Athlete Night Games in FUKUI ・北海道マラソン
- ・富士北麓競技会 ・日本学生陸上競技対校選手権大会 ・全日本実業団選手権大会
- ・デンカ・アスレティック・チャレンジ 2023 ・日本選手権リレー ・国民体育大会
- ・田島直人記念陸上 ・U18 / U16 陸上競技大会 ・MGC / レガシーハーフマラソン
- ・全日本競歩 35km 高島大会 ・防府読売マラソン ・全国中学校駅伝大会 ・日本陸上競技選手権大会 10000m
- ・全国高等学校駅伝競走大会 ・全国都道府県対抗女子駅伝競走大会
- ・全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 ・大阪国際女子マラソン

2. 報告事例紹介

○報告事例①

男子 100m 予選 4 組において、1 レーンの競技者が号砲前に飛び出し(RT- 0.034)、隣の 2 レーンの競技者がつられて飛び出した(RT+0.074)。不正スタートの告知後、2 レーンの競技者が「1 レーンの競技者につられて出てしまった」「ここで走った後に失格にしていから走らせてほしい」と申し出た。スタート審判長と共に、つられて出てしまっても不正スタートであること、抗議中で走ることができるのは国際扱いであることを説明した。後ほど TIC を通じて抗議及び上訴があったが、審判長裁定通りとなった。

2024 年度からスタートに関する条文【TR16.5.3】や、抗議に関する条文【TR8.4.1】に変更があるので、上記のような事例への対応方法について理解しておく必要がある。

○報告事例②

男子3000mSC予選1組、スタート直後の1台目の大障害にトップを走っていた競技者が踏み切りに失敗し、思い切り手で障害を押しした。その反動で大障害が浮くと同時に後続の多くの競技者が突っ込んできたために、障害が倒れた。それにより、1回転したり、転倒したり、大障害を避けていったりする等の大混乱が起きた。すぐに審判長に競技者を止めるように指示し、ようやく止めることができたのは水濠を跳んだ後だった。大会本部で協議し、4組が終わった後に再レースする事をすぐに決定。招集所で待機していた競技者に伝えた。怪我をして、医務室で治療した競技者数名が棄権を申し出た。棄権した1名から、決勝に進ませてほしいという抗議。審判長から、抗議内容は受け入れられない旨を説明。もし走りたいのであれば、もう一度予選を1人で走り、プラス進出者の4番目より記録が良かったら決勝に進出できると含みを持たせて説明してもらった。上訴はなかった。

～抗議・上訴対応について～

TIC（抗議や質問の内容をしっかりと把握する。結果発表時刻、抗議者が抗議に来た時刻の管理）→ 抗議担当総務員（審判長への連絡、説明・証拠の収集・ジュリーへの連絡）→ 審判長から抗議者への説明 → 不服の場合、上訴 → 抗議担当総務員・審判長からジュリーへの説明・証拠の提示・ジュリーから抗議担当総務員・審判長のヒアリング → ジュリー（協議）→ 抗議担当総務員から抗議者へ結果の伝達。

施設用器具委員会報告

1. 2024施設用器具委員会関係の規則の改正

最終条文については、ルールブックで確認してください。
地域陸協にも伝達をお願いします。

(1) 主な競技規則の修改正

- ① CR10 ワールドランキングコンペティションの大会で国際道路コース計測員を任命する
- ② CR32、CR34. 10、TR17. 2. 1 世界記録、日本記録・公認記録として認められる種目の追加
 - ・ 男女混合競歩リレーの追加 → 長距離競走路ならびに競歩路公認に関する細則の改正。
 - ・ 50m・55m・60m（ハードル含む）のスタートライン、150m・500m・600m・2マイル → 陸上競技場公認に関する細則第10条の改正
- ③ TR2〔注意〕iv 200mトラック（ショート・トラック）競技施設についてはTR41を参照すること。…TR41も変更されているので注意。
- ④ TR28. 8 棒高跳のボックスの設置…ボックスの設置方法の追加。
- ⑤ TR29. 5 走幅跳・三段跳びの踏切板の粘土板の設置…ビデオカメラを使用した時の粘土板。踏切板と粘土板一体したもの使用可。
- ⑥ TR32. 1 ワールドランキングコンペティションでの投てき物の使用…WA認証品の使用。認証品の証明。持ち込みの本数の緩和も可。
- ⑦ TR33. 4 砲丸の規格…詰め物の規定の追加
- ⑧ TR34. 1 円盤の規格…金属の板の固定、緩みはない規格の追加。
- ⑨ TR35. 4、TR37. 5 囲いの網の規格…鋼製網の規格の追加
- ⑩ TR36. 6 ハンマーの規格…ワイヤーの取り扱いの追加
- ⑪ TR38. 7. 8. 9 ヤリの規格…先端の最大角度は40°について、先端に安全対策がなされた構造のやりの場合、先端から3mmまでの金属製頭部は、先端の角度を無視してもよい。日本からの質問により解釈の追加（TR38. 7）
グリップの厚みは平均直径より8mmを超えない。
- ⑫ TR38. 10 ヤリのU18の新設…競技場の用器具に義務付けはしない。
- ⑬ TR41、TR42、TR43 ショート・トラックの定義…WA競技施設マニュアルの仕様に合致する。（国内の200m競技場は該当しない）
- ⑭ TR55. 3 ワールドランキングコンペティションの計測…道路競技の計測、内容変更なし。



(2) 陸上競技場公認に関する細則の改正

① 公認種目設定による対応

【標識タイル設置の考え方】

- ・ 公認記録の種目を設置する時には検定を要する。
- ・ 50m・55m・60mのスタートライン、ハードル位置、150m・500m・600m・1マイル・2マイルのスタートラインは、設置を希望するところのみ設置する。標識タイル(150m、600mを除く)を設置する。これらのスタートラインはその都度設置する。
- ・ 300mHは別途定めた標識方法とする。
- ・ 150mのスタートラインは、300mHで別途定めた標識方法とする。(300mHのハードル位置が設置している時は、その標識を利用する)スタートラインはその都度設置する。
- ・ 500mのスタートは新たな標識タイルを設置する。
- ・ 600mのスタートはメドレーリレーの標識タイルを利用する。(新たな標識は入れない)

【競技会での対応】

- ・ スタートラインはその都度設置をする。
- ・ 150mスタート 300mHのハードル4台目と同じ。
- ・ 500mスタート 新たな標識タイルが必要。(スタートからフィニッシュまでセパレート)
- ・ 600mスタート
- ・ メドレーリレースタートと同じ。(300m走って、通常の800mのブレイクラインからオープン)

【規則改正】

- ・ 第10条(標識タイルとマーキング)に追記する。

② 第19条(第4種陸上競技場の特例)

(4) 第4種L(ライト)のインフィールドは、人工芝とすることができる。この時、人工芝に投げる投てき種目の施設は設置できない。

変更理由：人工芝の設置できない種目を明記する。

③ 別表2 用器具一覧

〔区別〕4：()は備付を希望するもの。投てき用具、障害物競走用具は競技施設があるときは備え付ける。~~第4種は「陸上競技場公認に関する細則」第18条(5)参照~~

変更理由：第4種L設定のより〔区別〕5で対応しているため。

(3) 長距離競走路ならびに競歩路公認に関する細則の改正

① 競歩路の男女混合競歩リレーの追加

(競走(歩)路)

第2条 略

(2) 競歩路 5 km、10 km、15 km、20 km、30 km、35 km、50 km、**男女混合競歩リレー(マラソンの距離)**

2. 競技会の派遣について

(1) 技術総務の派遣

- ・ J T Oの業務を補完するため、技術総務の任務について助言提言するため、施設用器具委員会から技術総務を派遣しています。
- ・ 派遣している大会：国体、日本選手権、U16・U18日本選手権、日本選手権混成、ゴールドングランプリ、インターハイの6競技会
- ・ 助言する任務は、投てき用具の検査方法、投てき用囲いの設置など安全運用、推奨する技術総務/公式計測員の任務作業内容を主管陸協担当者に指導伝達している。
- ・ 事前に「技術総務確認事項」送付して、競技場の用器具の確認、施設配置、ハードルの設置、角度線、距離線の設置、投てき用具の検査等について準備をしていただいている。

(2) 国際道路コース計測員の派遣

- ・ 世界記録、アジア記録の認定は、WA認証コースでなければできません。この場合、競技に先立ち、正式に計測され記録されたとおりのコースであることを確認しなければなりません。（競技規則 CR31. 21. 4）
- ・ 当初のコース計測を行った計測員（A級、B級）またはその計測員に指名された者が、競技中に先導車に乗り込み、競技者が同じコースを走っていることを確認しなければなりません。
- ・ 施設用器具委員から国際道路コース計測員の派遣をしています。
- ・ **WRKの競技会では国際道路コース計測員の任命が必須となりました。**陸連の主催、後援競技会、WRKの競技会では国際道路コース計測員の派遣をすることになります。主催、後援競技会以外のWRKの競技会で派遣を希望する大会では、陸連に派遣依頼を提出してください。
- ・ プログラムの審判編成には「国際道路コース計測員」としてください。

3. 競技会での注意事項

(1) 300mH設置の注意事項

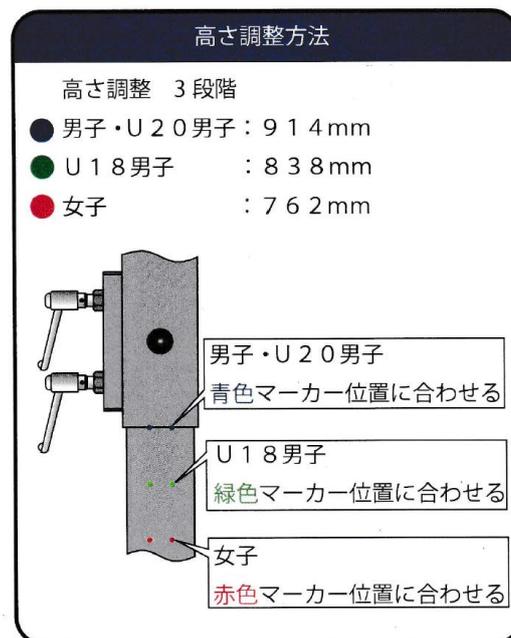
- ・ 競技会で実施されてきています。日本独自のU20、U18の種目となり、すべての競技場で必要ではないことから設置の義務付けはしていません。各陸協で設置を必要とする競技場に設置を働きかけてください。設置後、検定が必要となります。
- ・ 標識タイルでない費用負担の少ない表示方法としています。
- ・ マーキングはしていませんので、競技会時に設置位置をマーキングしてください。チョーク付きの水糸を利用すると簡単に早く設置ができます。
- ・ ハードルの高さは、男子U20、914 mm、U18、838 mm、女子762 mm。
男子U20、U18で高さが違うので注意してください。

【参考】150m、145mのスタート位置

- 150mスタート … 300mHのハードル4台目と同じ
- 145mスタート … 400mHのハードル7台目と同じ

(2) 障害物の対応(競技規則 TR23.5)

- ・ 障害物の高さにU18 男子 (838 mm(±3 mm)) の規格が 2020 ルールに新たに定められた。
- ・ 国内では競技会で行わないことから、〔国際〕対応になっているが導入されてもすべての競技場が対応するには 10 年近くかかることから、2020 年から U18 の高さにも対応した製品が納入されている。
- ・ 固定障害は水濠改修時など固定障害の支柱を更新するとき、移動障害は更新するときに対応している。義務付けではなく、更新する以外の対応はしていないので注意されたい。現地検定等の対応もしていません。
- ・ 納入した競技場では、高さの違いが判りづらく、競技会時に高さの修正に間違いがないよう注意をされたい。使用する審判員等に周知をしてください。



固定障害の高さの表示

(3) 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方

- ・ 競技規則により、国内の競技場では代用縁石を置くことから、代用縁石を縁石とみなして、トラックの計測は縁石の外側から 300mm の所で計測している。
- ・ 代用縁石を設置する際は、競技場保有の代用縁石の数が不足しているため、1本おきとしていたが、競技規則に従い全線に置く必要がある。
- ・ 競技場の水濠付近の縁石の設置と代用縁石の補充整備を進めている。
- ・ グループスタートラインから 10m 程度は縁石を置かずに、コーンをスタートライン、縁石のはじめ、中間に設置する。後方の選手はこのコーンの間を通過してよい。
- ・ 走高跳、やり投の競技と重複する時には、その部分をあけてコーンを設置する。



スタート付近のコーン設置



やり投助走路のコーン設置

(4) 棒高跳ボックスの設置

- ・ 2004年の競技規則の改正で、競技者がけがをしないようにボックスの上部の隅を丸めたものになった。
- ・ 改正された当時は角を現地で丸めたものも可としたが、年数も経ち、検定において対応した検定品のボックスとするように競技場の整備をしている。
- ・ 競技会では規格にあったものを利用してください。



(5) 秤の調整

- ・ 重さは緯度によって影響があります。投てき物を測る秤は、必ず10Kの確認をしてください。持ち込検査で正しく判断できるようにしてください。少なくともシーズン初めには確認をしていただきたい。
- ・ 違っている時には取扱説明書により調整をしてください。



(6) ワールドランキングコンペティションでの投てき物の使用

- ・ WA認証品の使用が明記された。(TR32.1) 日本陸連の検定品にはWA認証品ではない物があります。投てき物のリストには、WA認証番号と規格を記入するようにしてください。最新の製品はWAのHPに掲載されている。

主催者が用意する投てき物一覧表

器具	種別	メーカー	品名等	WA認証番号	規格等	数量	合計
ヤリ	男子(800g)	NISHI NORDIC	スーパー80m	I-01-0236	White	1	8
			エアクワイター・スティールflex6.1(steel)	I-99-0011	Red/white, red cord	1	
			チャンピオン・オスチール	I-99-0012	Yellow	1	
			スーパー・エリートスティール90m	I-99-0020	White	1	
			オービットスティールflex6.6	I-99-0014	Blue/White	1	
		NEMETH	クラシック95m	I-09-0400	Violet/yellow/orange	1	
			クラシック90m	I-09-0100	Violet/yellow/green,violet cord	1	
クラシック85m	I-09-0429		Violet/yellow/magenta,violet cord	1			

(7) 兼用サークル表面の仕上げの追加

- ・ 2019WA施設マニュアルの改正において、ハンマー投の兼用サークル(ドーナツ板)は素材によっては雨天時に滑りやすいものがあり、競技者がけがをしないように、上部を白色以外で、滑らない仕上げとされた。
- ・ 国際大会では対応した物を使用する必要がある。
- ・ 国内でも、滑らない仕上げの製品が販売される。(195,000円+税) 検定品であるので、買い替え時には滑らないものを購入する。
- ・ 買い替えるのは高額のため、買い替えるまでの措置として競技場にある製品には、滑らないテープを貼ることで対応可能としている。
推奨品：すべり止めテープザラザラ、テープ代は概ね9,000円程度。

色は透明あるいは単色。

規格外の白のドーナツ板も違う色を貼ることで使用可。

現地で吹き付けをしたところもあるが、買い替えるまでの措置であり、安価のものでの対応とされたい。

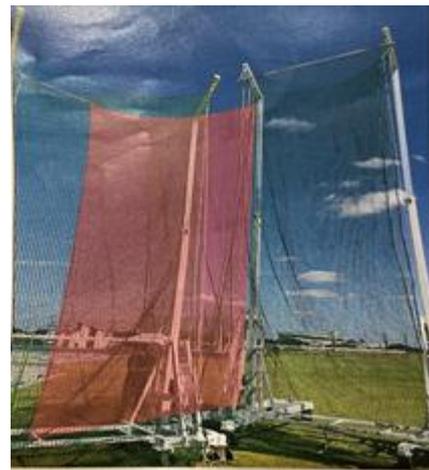
- ・ 競技会では規格にあったものを利用してください。

(8) 囲いの安全確保

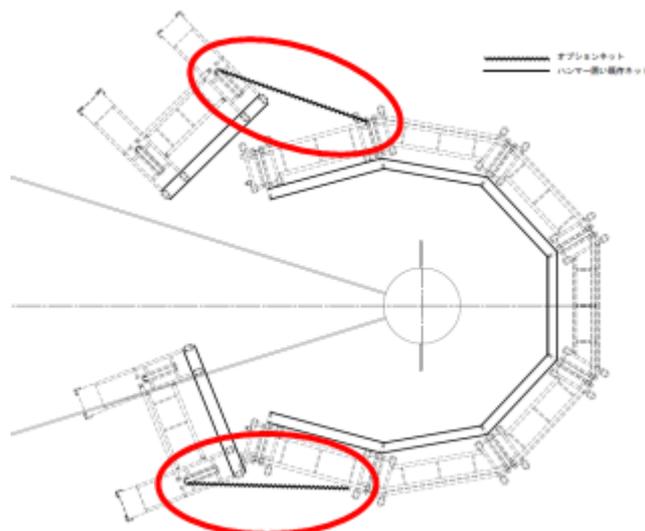
- ・ 昨年8月に実施されたインターハイで、男子ハンマー投げ競技中選手が投げたハンマーが囲いの隙間から外に飛び出し、選手控えテントにあたり落下した。これは、右投げ選手の投てきが終わり、左投げの選手のためにパネルを移動し、また元に戻す作業を繰り返している間に隙間が広がったため起きた。
- ・ WA規格の囲いは本体と前パネルが一体となっており隙間がないが、従来型はどうしても隙間が生じるため、台座部分をかみ合わせ、隙間を最小限にする措置がとられているが、今回のように移動が度重なると広がる可能性がある。
これを防止するために、補助ネットを張る方法が提案され国体練習会場や、他の大会でも実施されている。このような安全に対する対応が、今後も重要となってくる。



WA 規格の囲い



補助ネット設置例(ニシスポーツ提供)



(9) 長距離競走路、競歩路コース設定の注意

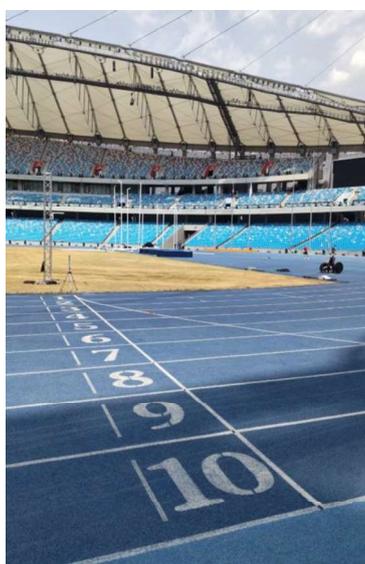
- ・ 競技会では計測したコースを設定してください。計測したコースと同じに設定されないと公認大会と認められません。
- ・ 計測時に作成された経路図、ポイント図を基に設定をしてください。コース所有者がこれらの図面を作成しています。
- ・ 計測されたコースと違うコースとなる時には、事前にコース変更の検定を受けなければなりません。
- ・ 途中計時の記録もコース設定の条件を満たしている箇所は、公認記録となりますが、必ずラインを入れてください。
- ・ 公認コースで非公認大会を開催した。民間の申し込みサイトに公認コースの記載があり、別の大会の参加記録を狙って出場したが記録が認められなかった。

海外競技会報告と スタート関連

全国会議用資料

競技運営委員会

Sea Games (東南アジア大会) 2023.5.6~5.14 報告書参照



海外の競技会事情 Budapest 2023

Competition Transfer of Knowledge by WA から抜粋

START LINE

Overview

The SIS was in use for **154 starts** during the 100, 110mH, 200m, 400m, 400mH, 4x400m & 4x400m Budapest. There were **27 start incidents**, which included any type of movement that may contribute to a false start, prior to, or during the report of the gun.

Of these 27 incidents there were:

- **8 races** that were not recalled
- **19 races** which were recalled

SIS使用スタート計**154**レース

内**27**件でスタートインシデント
(不正スタートの一因となる号砲前
や号砲時の様々な動きを含む)

この27回の内訳

撃ち戻しされなかったスタート**8**
撃ち戻したスタート**19**

海外の競技会事情 Budapest 2023

Competition Transfer of Knowledge by WA から抜粋

START LINE

Starts Not Recalled

After the set command and prior to the start, athlete(s) were observed moving (i.e. nervous leg movement, hips raised hi

In each instance, the athlete(s):

- did not disturb another athlete;
- did not continue into the comm
- did not activate the Seiko Start

Without specific activity resulting in a false start, these races were not aborted or recalled.

リコールされなかったスタート

Setの後や号砲前に競技者の動きがあった。
(頭の上下動、局所的な動き、腰の上下等)
それぞれの場合において

- **他の競技者を邪魔しなかった**
- **スタートの開始まで続かなかった**
- **SISを作動させなかった**

不正スタートや懲戒事項(TR16.5)につながる動きがなければ中断やリコールをしなかった。

局所的な動きについて TR16.5.3

「・・・ On your marks または Set の合図の後、

- ~2017年「音声**その他の方法**で他の競技者を妨害した時」
- 2018年「音声や**動作**、~~その他の方法~~で他の競技者を妨害した時」



- 2021年東京オリンピックでIS(ESP)から「**打ち戻すのはBig movementのみ**」



- **2023年WAにより修正。解釈が大幅に変更された。**

タッチ(局所的な動き)は打ち戻してYC by WA

TR16.5.3修正内容

- 「On your marks または Set の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害し、**その結果、その選手が不正スタートを生じさせた時**」にYC適用

WAの改訂理由

この規則は、世界中のスタート審判長（およびスターター）を務める審判によって異なる方法で解釈されている。

スタート審判長は、スターターがスタートを中断した後、またはSISが自動的に（オートリコールで）選手を呼び戻したときに、他の何も邪魔をしない（時には非常にわずかな）ことで選手に警告をしている。

WAに問い合わせた内容と回答

- ・局所的な動き（や微細な動き）があっても静止を確認し号砲することでよいのか？
 - ⇒ 世界選手権では同様の対応。WA側はその判断を支持する。
不正スタートや懲戒事項(TR16.5)につながる動きがなければ、レースを中断したり撃ち戻したりしない。
- ・不正スタートではないが、オートリコールが作動するような大きな動きは、それにつられた競技者がいなくてもYCとなるか？
 - ⇒ YCは他の競技者のスタートに真に影響を与えたときのみ。
SISを使用していなくても同様の対応。
- ・その場合グリーンカードでの対応でいいのか？
 - ⇒ 「Probably yes.」 恐らくその可能性もある。

JTO研修会(2024.1.28)での関連質問

- ・遅延行為は今まで通りYCでよいのか？
 - ⇒ TR16.5.2の適用でYCを提示することができる
- ・SISがない場合はどのようにジャッジしていくのか？
 - ⇒ 現場の審判で見たことを基に判断
- ・局所的な動きをした競技者からの影響を、レーンの遠近で判断は難しいのでは？
 - ⇒ 次の事例で紹介

事例 (1.8レーン空き) 3.4.6レーンに注目！

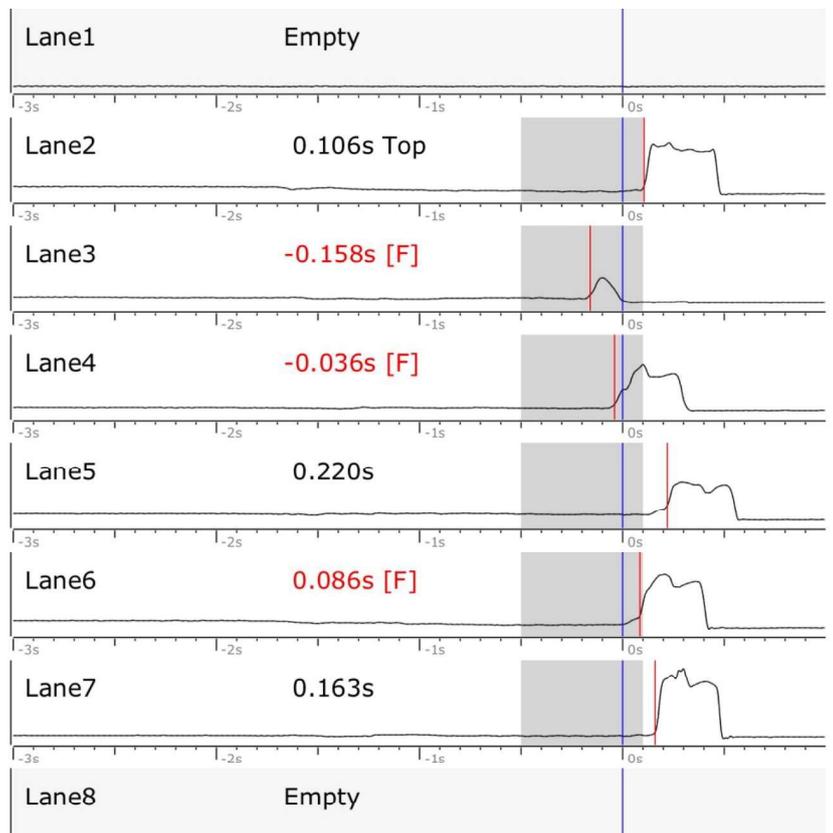


事例 RTと波形図

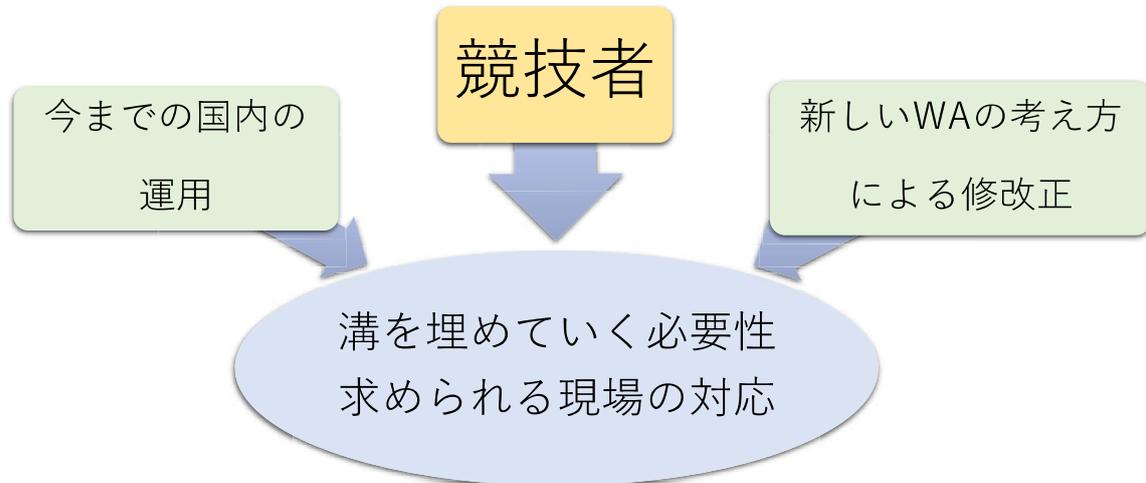
- ・ 4レーンの動きは3レーンの動きによるもの
 - ・ 6レーンの動きは4レーンの動きによるもの
- と考えられる。
現場でこのようにジャッジした場合には3レーンにYC、4.6レーンはお咎めなし。

- ・ また、(このケースとは別に) 6レーンは単独で不正スタートしたとジャッジするのであれば、3レーンにYCを与え、6レーンは不正スタートを与える。

不正スタートの原因は本人なのか、周りの影響によるものなのか。それを現場の審判員は判断することが重要である。



局所的な動きについて TR16.5.3



スターター研修会を実施 2024.2.3

スターター研修会での質問

- 局所的な動きや腰を上げた後に下げて止まるのは今までやり直しをしていたが？ ➡ **やり直さず静止を確認した時点で号砲**
- 他の競技者に悪影響が出そうなほど静止に時間がかかるときは？ ➡ 立たせてTR16.5.2遅延行為として注意またはYCもあり
- Setから号砲までの最適な時間は何秒？ ➡ 静止を確認した瞬間が撃つタイミング、全員が静止するのにかかる時間はレース毎に異なる（規則TR16.3グリーンノート参照）
- On your marks後の気合を入れる等の大声は？ ➡ 問題ない

TR16.5.3 修改正後の運用について

●撃ち戻されるスタートは

- ①不正スタート（または不正スタートの疑い）があったとき
- ②ある競技者が動き、他の競技者が不正スタートを生じさせたとき
- ③オートリコールが作動したとき
- ④外的要因があったとき（機材不具合/雑音/スタブロが滑った等）

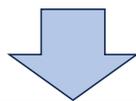
○撃ち戻さないケース

局所的な動きや腰・頭の上下動あっても、その後の号砲時には静止していた場合

TR16.5.3 修改正後の運用について

TR16.5.3でYCが出されるのは

今までは、局所的な動きや腰の上下動でYC



他の競技者を妨害し、その結果、その選手が他の競技者の不正スタートを生じさせた時だけYCとなる

その他のスタート関連条文の変更

2024年2月12日の全国会議でご指摘（もう少しわかりやすい表現にすべきではないかとの意見）があり、TR16.7の条文が一部変更になりますが、解釈に変更はありません。

詳しくは4月1日発行のルールブックでご確認ください。

32nd SEA GAMES 報告書

1. 大会名：32nd SEA GAMES
2. 開催地：プノンペン カンボジア MORODOK TECHO NATIONAL STADIUM
3. 派遣期間：2023年5月6日（土）～14日（日）（競技会開催 5/8～5/12）
4. 任務：International Starter（AAA）
5. 報告事項：

5/7 大会前日

11:00 スタジアム視察開始。スタートコーディネーターの Jaya(SGP)、国際写真判定員 Porn(THA)と初顔合わせ。招集所や TIC の予定場所にテーブルや椅子はなく電気もつかず、明日から本当に国際大会が開催されるのか不安を感じる状況であった。現地審判員の姿は見当たらず AAA ITO 自ら準備に奔走。気温は 39 度。



15:00～16:00 テクニカル・ミーティング。一日遅れでプノンペン入りした ITO 関根氏も合流し、一気に心強さが増した。

16:30 ITO ミーティング。TD Valson (IND)から、400m 以下のレース（リレー含む）を全て撃つようにと指示があった。

17:00 公式スタート練習の開始時刻になって、やっと業者が電子音機材（SIS と一体型）の搬入を開始。現地審判員も姿を見せ始めたが、電子音や SIS は初めてとのこと。結局、機材



がうまく作動せず号砲音が出たのは 1 時間後。競技者が諦めて帰って行った後だった。後日判明したことだが、機材担当は地元大学生中心で今回が初めてであり業者側からスマホで指示を受けながらの操作とのこと。こちらの指示は英語が通じる学生にクメール語やタイ語に訳してもらい、担当者に伝える。なんとか開催の目途がつき
21:00 ホテルへ戻り夕食。

5/8 DAY 1

・6:00 に審判員ポロシャツを受け取りホテル出発。



・スタートコーディネーターから、地元のスターター1名・リコーラー1名、残る7名は出発係の業務を担当するよう指示があった。日本から持参していたカード（緑/黄黒/赤黒）を渡し使用方法を説明。ここでも、英語が通じる唯一の審判員がクメール語に訳し、チーム全員へ伝えて情報を共有する形である。

・機材調整は難航。なんとか競技1時間前にゼロコントロールテストを実施できたが、100mへ移動後も SIS 接続含め悪戦苦闘が続く。奇跡的に準備が間に合い、最初の混成100mはオンタイム。しかし、出発係が競技者横に張り付いたままで Set がかけられず、やり直し。

・男子200m予選が3組から2組に変更され9レーンに競技者が入ることになったが、SIS用スタブプロが足りず（当初の予定では1～8のみ使用）準備完了まで15分を要した。立派なスタジアムだが、スタブプロ・レーン表示・スタート台・電子音兼 SIS 装置は1セットのみ。種目が変わる度に全ての器材を撤収、移動、設置するため、スタッフの負担とリスクが大きい。

・女子200m Final、不正スタートで1名 DQ。

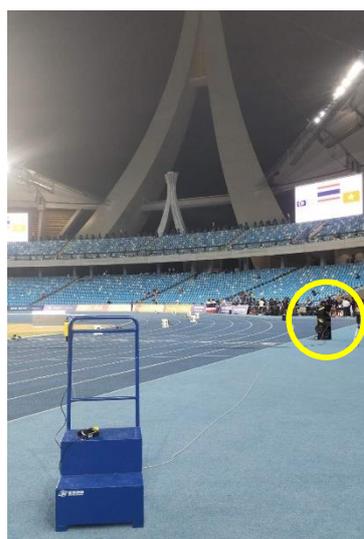
・突然の豪雨。男子1500m Final を控えたタイミングで業者



が電子音機器をゲート内へ撤収してしまい、スタート審判長共々啞然とする。雨でダメージを受けるからとの理由。TDからは競技続行を指示されるが、現場ではどうにも出来ない状況であった。

・その後、混成400m、4×400m Mixed R と続くがスタブプロスピーカー、サブのBOXスピーカー共に作動しなくなる。アウトレーンの競技者へ音声や号砲音が確実に届くよう SIS 装置（背面スピーカー）をフィニッシュライン先へ移動し何とか最後のレースまでスタートさせたが、一日を通して非常に困難な状況の連続であった。

・競技終了後 ITO ミーティング。機材の不具合はフィールドでも同様に、業者に対し TD から厳しい追及がなされて



いた。

5/9 DAY 2 ~ 5/12 DAY 5

・機材トラブルは頻繁に発生。SIS が突然作動しなくなる、機器本体のバッテリー表示低下など薄氷を踏む思いでスタート環境を整える状況が最後まで続いた。

・100mH 予選、号砲前に飛び出し不正スタートで1名 DQ。

・100mH Final 「Set」後の号砲直前に大音響で音楽。選手に気の毒な場面もあった。

・地元スターターは800m以上を担当。初めての電子音や国際



大会ということで緊張し、スタート業務がスムーズにいかない場面もあった。

派遣を終えて

アジア陸連から初めて委嘱を頂戴し、一人バンコクで乗り継ぎカンボジアへ入国。アジア各国から集う ITO の中に飛び込んでいくのは勇気が要ることであったが、彼らの温かい笑顔に迎えられた。英会話スキルがまだ十分でないことは承知の上で、輪の中へ積極的に入っていった。特に ITO 女性陣の活躍が印象的で、リーダーシップを発揮し協力し合って国際競技会を作り上げていく、そのエネルギーを目の当たりにした6日間であった。また一方で、改めて日本の審判技術と機材の確かさを感じずにはいられなかった。

今大会ではスタート機材がすこぶる不調であった為に、公平・公正なスタートを実施すべく「どの競技者も不利益を被ることが無いように」ということを常に考えながら業務に取り組んだ。更に 400m までの全てのレースを担当することになったので、緊張の途切れる間がなく心身ともにハードな日々であった。私自身のこれまでの経験や知識で少しでも貢献できたのであれば、こんなに嬉しいことはない。

今回の派遣に際し事務的なフォローをして下さった陸連事務局の浅田氏、そして現地でお世話になった関根 ITO に心から感謝申し上げます。



大会を終え、最高の笑顔のスタートチーム

令和5年5月18日

日本陸上競技連盟

専務理事 風間 明 殿

競技運営委員会委員長 鈴木 一弘 殿

競技運営委員会

副委員長 関根 春幸

32nd Sea Games in Cambodia(報告)

1. 大会名：32nd Sea Games in Cambodia
2. 場所：カンボジア(プノンペン)
3. 期間：2023年5月7日(日)～5月14日(日) (大会：5月8日～12日)
4. 任務：ITO(スタート審判長)
5. 報告事項：

5/7 到着後、15:00～ テクニカルミーティングに参加

いつも通り、諸注意と各競技の次ラウンドの進出条件や走高跳・棒高跳のバーのあげ方などが協議された。

その後、スタート練習をする予定だったが、レーンマーカーやスターティングブロックましてやピストルの準備もされていないような状況、さらに現場の審判員もあまり経験がなく、競技場のどこに何があるのかもわからない状況だった。スタート練習は急遽キャンセルとなり、翌日からの開催のため、準備とスタートチームの研修がスタートコーディネーター中心に実施された。懸念事項として SIS システムが1セットしかなく、スタート位置が変わるたびに移動するのができるのかどうか心配された。

5/8～競技開始



TD から時刻通りに競技を開始するよう厳しい指示は出るものの、スタートチームの連携はとれず、ましてや離れているアナウンサーとの連携が取れないため、

競技開始は若干遅れ気味、それでも何とか競技を行っていたが、SIS やスピーカーが不調のため、さらに競技進行が遅れた。それに加え突然の雷雨に見舞われた。TD からは競技続行の指示がでるものの、SIS の業者から機器が雨で不調になるという



ことで屋根のある部分に避難し、競技続行が困難になった。競技役員はずぶぬれだが、機器はぬれずに避難しているという状況で日本では考えられない事態に陥った。雨が一段落したところで競技再開となったが、SIS 機器は不調でスピーカーの調整を行いな



がら競技を実施した。

競技場はとても立派で素晴らしかった。競技役員に話を聞くと、あまり審判員の経験がないばかりではなく、陸上競技の審判に派遣されるのが初めてとか国際競技会は初めてという審判員がほとんどで、スターターは国際スターターに任命され

ていた本橋さんがほとんどやることとなった。地元のスターターは 800m 以上の長い距離のレースに限られていたが、それでもスピーカーのスイッチの入れ忘れや騒音のトラブル、リコールピストルの暴発などトラブルが相次いだ。

スタート審判長として、ゼロコントロールテストの実施、スタート機器の準備・点検、スタートエリアの準備、報道との調整を事前に行い、レースに備えた。選手のウォームアップ終了後、スターターの視野が確保できているかどうか確認し、公正・公平なスタートできているかどうか確認、不正スタートで DQ があれば、スターターと確認しながら、記録情報=国際写真判定員に連絡という手順を取り、連携を確保した。

結果発表後、不正スタートがあれば、プリントアウトしたリザルトに正確に DQ とその条文番号が記載されていることも合わせて確認した。

幸いにしてこの大会では不正スタートの事例は 2 件、号砲前に飛び出した明らかな不正スタートだった。

初日から機器の不調、天候不順、未経験の地元審判員と大会が順調にはいかない要素が重なったが、日を追うごとにチームワークで大会の盛り上げに貢献した。

いかに準備と経験、スタッフの協力がなければ大会が成立しないことを思い知る大会となりました。

貴重な経験を積むことができました。ありがとうございました。

カンボジアは中途半端な暑さではありませんでした。このこともしっかり記憶に残りました。



派遣報告書

大会名：第5回アジア U18 陸上競技選手権大会

場所：ウズベキスタン・タシュケント

派遣期間：4月26日～5月2日（大会4月27日～4月30日）

任務：ITO（トラック審判長）

報告事項：

第1日目 女子5000mWから競技会が始まった。5名のIRWJが歩型判定を担当、ITOがペナルティゾーンの管理、反則掲示板の管理などにあたった。競歩の時にはITOも総出で任務にあたり、競技運営を支えた。自分の任務は周回記録の管理でフィニッシュ付近で地元の審判員と協力しながら周回の管理をしながら、最後の1週の鐘をたたくことまたどの選手が周回遅れかフィニッシュなのかを明確にジェスチャーで写真判定員とコミュニケーションをとった。

選手の欠場届を受けて、番組編成しているので空きレーンがない状態で競技が始まる。しかし、女子100m予選3組4レーンで欠場が発生した。この時、何の連絡もないまま5～8レーンの選手を4～7レーンに詰めて実施しようとして混乱した。結果的にはレーンを詰めて競技を行ったが、あまりにも直前のTDからの指示だったので、現場は混乱した。急な変更と言葉の壁（英語はほとんど理解できていない）で混乱は大きくなった。次の男子400mでも同じようなことがあったが、その時は空きレーンのままで行い混乱は生じなかった。

男子10種競技の5種目目400mでSISやレーン標識の準備がされておらず、急いで準備をしてもらったが、結果的に5分遅れのスタートとなった。係員が今日はもう使用しないと判断して片づけてしまったのが原因のようです。

第2日目 女子100m2組で6レーンの選手が20m付近でコースを外れた。トラック審判長として理由を確認し、DNSあるいはDQの判断をすべきだった。故障が原因でコースを外れたと勝手に判断したが、国際大会では必ず審判長として判断をするために理由を本人に確認することが重要となる。

男子110mH決勝で、6レーンの選手が第8ハードルを蹴って倒した。監察員からリード足でハードルを倒すことは違反ではないかと確認されたが、跳ぼうとする衣連の動作の中で起きた事象で、故意にハードルを倒したとは考えられないので問題はないと回答した。女子100mH決勝の時、Aゾーンで女子走高跳が同時に実施されていた。走高跳に参加中の選手がフィニッシュラインのところまで来て、同国の選手の応援を始めたので、やめるよう注意した。どこの国の大会でも同じようなことが起きていると感じた。

第3日目

抗議が2件。いずれもレーン侵害に関する抗議だった。レーン侵害については、地元の監

察員の報告及び曲走路にいる ITO からの報告、携帯電話で撮影したビデオ映像で判断をした。いずれも内側のラインを3歩以上踏んでおり、失格としたが、2件は上訴に上がった。しかしいずれも却下された。

地元の審判員から相談が1件あったのは、外側のレーンにはみ出して走った競技者はどうするか？という質問が寄せられた。妨害行為がなければ、実質的な距離を短くしているわけではないので失格とはしないが、報告はしてほしいとお願いした。

2000mSC が実施された。ウズベキスタンの大障害は高さが91.4cm と76.2cm の2種類しか選択できない旧規格のもだったため、本来は83.8cm の高さで競技をするところ、91.4cm の高さで実施することを急遽トラック審判長として決定し、レースを実施した。

第4日目



この日はメドレーリレーが行われた。ウズベキスタンでは、400-300-200-100 で実施することが多く、5000m のスタートからオープンでスタートするとのこと。ただしこの大会は国際大会なので、100-200-300-400 で行うこととした。日本のようにレーンの内側や外側にタイルが埋め込まれているわけではないので、写真にあるように技術総務の指導の下、TD も帯同して、計測が行われ、スタート位置、テイクオーバーゾーンの位置

を決め、競技を実施した。

800m 女子決勝ではイランの選手が背中にアスリートビブスをつけないでスタート位置に誘導されてきたとの情報、すぐにチーム関係者を呼んでアスリートビブスを探させたが、見つからず、審判長判断で背中のアスリートビブスをつけることなくレースに参加することを認めざるを得なかった。第1、第2コールルームがありながらそこで指摘されなかったことも問題であると ITO で情報を共有した。

全体を通して

トラック審判長としてたくさんの経験をさせてもらった。国際ルールと国内ルールでは多少異なる部分があるのでそのあたりを注意して任務にあたること、また抗議等に備えて審判長として決定したことに対してその証拠となる材料をしっかりと抑えておくことなどもとても参考になった。



2023年3月13日

アジア室内陸上競技選手権大会派遣報告

日本陸上競技連盟

専務理事 風間 明 殿

競技運営委員会委員長 鈴木 一弘 殿

日本陸上競技連盟 競技運営委員会

関根 春幸

アジア室内陸上競技選手権大会に ITO として派遣されましたので、以下報告いたします。

1. 大会名：10th Asian Indoor Athletics Championships
2. 開催地：Kazakhstan ASTANA
3. 開催期間：2023年2月10日（金）～12日（日）
4. 任務：スタート審判長
5. 報告事項

テクニカルミーティング(2/9)



11:00～ 新型コロナウイルスの流行により2019年からずっと開催されなかったアジア選手権の開催となった。どのアジアの大会でも同じことがいえるが、高さの競技（走高跳・棒高跳）の最初の高さについては各国からいろいろな注文が出された。しかし選手権ということもあり、ある程度の高さから始めないと競技時間がのびると懸念が示され、収まった。

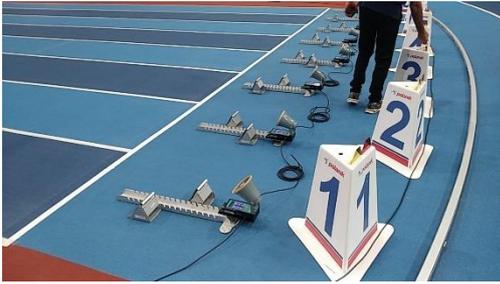
12:30～ 競技場を視察し、レーン侵害のルールの確認、競技が重複した時の WARMUP や競技自体の進行について協議した。長距離レースに関しては人数を見ながら、グループスタートするかどうか？800m についてはどのレーンに2人入れるかなど協議された。

結果的に1500m は一列でスタート、3000m はグループスタート、800m については最初外側のレーンに2名配置したが、バンクの関係で危ないとの判断があり、次のレースから内側のレーンに2名配置をして実施した。

大会 (2/10～12)

スタート審判長として、選手が入場する前に WARMUP が十分に行えるよう、スタートエリア付近の報道カメラ





マンなどの配置にも気を配りながらの運営となった。競技場のレイアウトを見ていただければよく分かるが、狭いスペースの中で複数の競技が行われるため、陸上競技を熟知していないカメラマンにとっては自分が撮影している競技しか見えておらず、そのあたりの説明に当初は苦労した。不正スタートは数件あったが、スタートチームの

協力で大きな問題には発展せずに、大会を終了することができた。

全体を通して、日本の大会と比べると FOP には、マーシャル、報道係、表彰係はいませんでした。報道カメラマンなどの対応は、各競技エリアの審判長や主任に任せられ、フィールド競技でコーチのコミュニケーションやトイレへの同行などは審判員の役割、表彰の仕切りは LOC の仕事としてきちんと整理がされていました。競技場がコンパクトな室内であると同時に競技役員編成もコンパクトで70名程度の編成だったようです。



LOC との役割分担もしっかりできており、やることがたくさんある大会でしたが、はっきりしている分だけやりやすい大会でした。一つだけ欠点を上げるとすると、計測機器からのデータはきちんと配信されていましたが、それを処理するカザフスタンのコンピュータシ



ステムが脆弱だったことです。例えば、短距離種目でリアクションタイムが表示されないとか、記録発表もされない。長距離種目ではラップタイムも出てこないことなどがありました。TIC でもそれらの情報を把握しきれずにチーム関係者に配信できずにいました。テクノロジーの問題なのでやがては解決する問題だと認識しています。

初めての室内競技でしたが、コンパクトな運営や狭い空間を生かした競技進行など見るべきところは多かったと感じています。

最後に、全国競技責任者会議が開催される中、快く送りだしていただき感謝申し上げます。この体験が日本の競技会の中で生かされるよう努力したいと思います。

令和5年10月31日

日本陸上競技連盟

専務理事 田崎 博道 殿

競技運営委員会委員長 鈴木 一弘 殿

日本陸上競技連盟 競技運営委員会

副委員長 関根 春幸

第1回アジア投てき選手権大会派遣報告

1. 期日 2023年10月24日(火)～10月25日(水)

2. 場所 韓国・木浦市 (Mokpo International Football Center)

3. 報告事項

・成田空港発仁川空港 仁川空港→木浦 (KRT で移動約2時間半) 韓国・仁川空港までの便は羽田便が少ないため、少し不便です。行きは成田空港発9時帰りは羽田空港着23時という便でした。

・投てき種目4種目(砲丸・円盤・ハンマー・やり)の男女合計8種目のアジア選手権大会、従来 Mokpo 国際投てき競技会として20年近く歴史のある大会をアジア選手権として格上げした。

・ウズベキスタンの選手がビザの取得が遅れたため、入国できなかった。24日の15時ころには競技場に到着できるという情報だったので、急遽24日の競技日程を若干遅らせることとなった。実際に16:45に開始された女子ハンマー投には2名の選手が参加予定だった。幸いに8名の参加だったので、全員が6投を認められ、ウズベキスタンの選手は4投目まで無効試技扱い、最後の2投だけはできたという状況だった。



・競技場は韓国の国体に合わせて、作り変えていて新装オープンしたばかりだった。韓国の国体で10月初旬が1回目、この競技会が2回目となる競技場だった。9レーンで約2万人収容のスタンドも整備された。サブトラックは6レーン、メインの競技場に隣接して作られていた。サブトラックから招集所に入るとト

イレがなく、1階上に上がらないと使用できない状況は改善したほうが良いと思われる。

・競技の進行自体はウズベキスタンの問題以外ではなく、順調に進行した。

・ハンマー投の左右パネルの出す位置はあらかじめポイントが打たれていて便利だった。

ただし、ハンマー投は男女とも右投げの選手しかいなかった
ので、パネルの開け閉めは苦勞しなかった。

・投てき物の持ち込みはそれほど多くはなかった。ただ
し、1つのラックには30個程度の投てき物が収まるよう
になっており、今回のルール修改正にすでに対応できる大
きなラックが準備されていた。

・競技運営も20年以上の歴史のある投てき競技会のため、
慣れていた。光波計測のチェック等も事前事後でしっかり
行われ、ITOとしてのチェックできた。計測の場面でも記



録員と情報
交換しなが
らチェック
を重ねて順
調に競技会が終了した。



以上、報告です。

2023年10月13日

日本陸上競技連盟

専務理事 田崎 博道 殿

競技運営委員会委員長 鈴木 一弘 殿

日本陸上競技連盟

競技運営委員会副委員長 関根 春幸

第19回アジア大会派遣報告

- 1 派遣競技会 第19回アジア大会
- 2 派遣期間 2023年9月26日(火)～10月6日(金)
- 3 派遣場所 中国・杭州市
- 4 役職 ITO(スタート審判長)・ジュリー
- 5 報告

・選手村、役員村

選手村と役員村がそれぞれゾーン分けして、お互いに行き来はできないようになっていた。陸上競技場からはバスで5分から10分で行けるところで、アジア大会専用のレーンがあり、移動はスムーズにできた。宿舎も高層ビルの中で3人が一部屋に滞在したが、寝室がそれぞれ個室になっていて過ごしやすかった。



食事も毎食、食堂でバイキングスタイルでいただいた。とてもおいしい料理でした。



・競技場

直線10レーン、周回9レーンの競技場で収容人数7万人の大きな競技場でした。サブトラックも隣接しており、サブトラックと競技場の間に招集所が雨天練習所の中の設けられていました。招集所は、サブトラックの出口がGathering Pointになり、その後招集所のそれぞれの部屋に分かれて説明・点検を受けるスタイルで6部屋ありましたが、どの部屋も8人程度しか入れず、長距離種目やフィールド種目では苦労していた様子です。できれば、2部屋くらいは大きめの部屋を準備するともっとスムーズに招集





できたのではないかと招集所審判長とも話しました。

・競技運営

競技場内は 40 台のビデオカメラが設置されており、トラック競技のみならず、フィールド競技に関して

もビデオ監視されており、ITO が 2 名ビデオ審判長として配置された。競技終了時にはそれぞれの審判長とビデオ審判長が連絡を取り合い、最終結果を発表していた。

スタートでは、特に問題はなかった。スタートはすべて競技日程に従い、予定通りに粛々と進められた。

不正スタートも数件あったが、問題となったのは 100mH 決勝。2 レーン(中国)3 レーン(インド)の選手のリアクションタイムを見てスターターが不正スタート判断、失格を出発係が提示した。インドの選手から抗議「隣の中国の選手がスタートしたからスタートしたので、不正スタートではない」中国の選手も「自分も不正スタートしていない」と主張、リアクションタイムなどの SIS 情報を提示したが、納得しなかった。



これ以上競技の進行を遅らせることは他の競技者にも影響が出ることを考え「UNDER PROTEST」の状態でも 2 名の選手を走らせることをスタート審判長として決断。2 名の選手にも「レース後様々な資料を見て結論を出す」「レース後失格が宣言されることもある」ことを伝え、レースを実施した。実際にこの後ビデオや SIS 情報を再確認し、中国の選手のみを不正スタート (TR16.8) で失格と裁定した。

スタートは競技時程通り、局所的な動きや腰を上げるのが遅いなどの動作はあったが冷静に全員の静止を確認して号砲を鳴らしていた。

た。

・抗議

(1 件目)

男子 800m 決勝でフィニッシュ付近でインドの選手がバランスを崩しオマーンの選手を置く結果となった。そのことが幸いし、オマーンの選手はヘッドスライディングのような状態でフィニッシュに飛び込み、3 位となった。このことについて 4 位になったカタールから抗議「他の選手から助力を受けて 3 位になった。これは無効でカタールの選手が 3 位ではないか？」

ジュリーの裁定

バランスを崩しオマーンの選手を押したインドの選手・・・失格



オマーンの選手はアドバンテージを受けたが、それは意図的ではなく偶然の産物なので3位オマーン4位カタールの結果を支持する。

(2件目)

女子200m決勝

バーレーンの選手が不正スタートで失格

このことに対し、スリランカと中国が「わざと不正スタートして、当日そのあとに行われた4×400mRMIXEDに力を残し、温存したのではないか？」

スタート審判長として「不正スタート」と判定した

ジュリーの裁定

力を温存してわざと不正スタートをした証拠はないし、ビデオやSIS情報からも読み取れない。本人にしかわからない。200m女子準決勝で総合順位は2位になっていることからこの種目でもメダルが取れたことを考慮すると力の温存はなかったのではないかと推測される。

・感想

長い7日間でした。ただ、いろいろな事例と向き合うことができたのは勉強になりました。派遣の機会をいただいたこと、関係の皆様へ感謝申し上げます。

1. 大会についての概要

- 開催日【6/1（木）～4（日）】国際大会の開催期日の関係で、昨年より1週間早い日程となった。
本年もU20との同時に開催となり、4日間開催となった。また、本年も最終日にオープン競技として小学生・マスターズ・パラリレー・デフの種目を実施した。
- 自己記録
男子36、女子30、U20では男子41、女子37の自己記録がでた。
- 大会記録
男子800m、男子1500m、男子110mH、女子三段跳の4種目で6つ樹立された。
- 日本記録
男子110mHと女子三段跳の2種目で日本記録が樹立された。
- ブダペスト世界陸上内定
今大会で新たに男子3名が内定。
- 観客数
 - ・1日目（3443人）2日目（1666人）3日目（4040人）4日目（7814人） 合計（16,963人）
 - ※新規入場者のみ（参加チームAD入場・関係者除く）の数、昨年は11,812人
 - ・6/1（木）近隣3小学校561名を会場に招待
- 視聴率

6/1（木）	BS1	18:00～19:50	0.8%	（BSは×7すると地上波の感覚値）
6/2（金）	総合	19:30～20:42	7.7%	
6/3（土）	総合	16:30～18:43	4.8%	
6/4（日）	総合	16:30～18:43	6.3%	

2. 競技運営等にかんして

- ・JTOの指導の下、2日目の悪天候での競技日程の変更以外は、大きなトラブルなく実施できた。
- ・2日目（6/2（金））悪天候により、跳躍種目はすべて3日目に、投てき種目はU20の男子円盤投と女子やり投の2種目を3日目に順延した。
審判員及び補助員を急遽増員し、実施することができた。（役員係及び審判員の連携により実現）
- ・3日目、練習会場のヤンマーフィールド長居でU20の投てき種目の競技を実施した為、投てき審判員・練習場係・選手には負担をかけた。
- ・女子100mH決勝において、ライブリザルトの際に4位の選手を1位と表示した（判定中のものが瞬時に電光に表示されるシステムであった）。誤りに気付いた電光係が、すぐに画面を切り替え、15秒後に正しい結果を表示した。世界陸上の代表を決めるレースであった為、メディアにも取り上げられる事象となった。ライブリザルトの表示は選手や観客の為に推奨されているため、本大会においてもこの方針で運用していた。関係部署（総務・進行・アナウンス・電光等）との連携、対応方法の検討を重ねる。
- ・トラック進行に関して、シニア種目の予選等において4組以上の場合は、招集を2組ずつ分けていたが、3組から分けた方が良いと思われる。（1レース7～10分間隔で実施されるので、3組目は現地ですぐに20分近く待機することになる為。）
- ・U20との同時開催については、競技日程の問題やU20の開催時期の問題、4日間開催による審判員の負担の問題等の意見を多数聞く。3年を終えた段階で、課題を整理していただき。U20の選手にとって一番よい大会を考えていただきたい。

3. 抗議（質問）等にかんして

- ・質問（ビデオ確認）は2件あったが、抗議はなかった。

令和6年2月12日(月)

第107回日本陸上競技選手権大会・混成競技 報告

(一財)秋田陸上競技協会

1 はじめに

前年度の第106回大会では、日本陸上競技連盟や長野陸上競技協会を始めとした多くの方々のお力添えのおかげで、大きなトラブルもなく競技を運営することができました。改めて感謝申し上げます。

ところで、前回大会で浮き彫りになった課題は数多くありました。「大型スクリーンの未設置」、「ADカードでの規制方法」、「EDMの動作確認」、「審判員の不足」、「補助員への指示」など、1年間という限られた時間の中では十分な準備ができないものもありましたが、秋田陸上競技協会は最善の努力を重ねて第107回大会までの1年間準備を進めて参りました。

2 大会概要

期日：2023年6月10日(土)～11日(日)

会場：秋田県営陸上競技場

3 問題となった事案とその対応及び解決方法

【事案①】選手が控え室に置いてある荷物から新たに取り出した衣類に、商標規定に抵触するものが複数あった。

【対応等】競技者係を中心に全審判員でその都度確認しマスキングの対応をした。全ての衣類をチェックすることは簡単ではないが、控え室に商標規定に関する注意の張り紙を掲示するなどして、選手に意識してもらった。

【事案②】特に跳躍審判員の不足が顕著だった。競技の準備作業に追われ、打ち合わせや審判員の掌握が十分にできない状況が続いた。また、種目別表彰の誘導を怠ってしまった。

【対応等】急遽、投擲審判員が跳躍種目の光波測定、記録情報員が跳躍種目の記録入力といった審判業務を行った。種目の垣根を越えた審判編成をして備えるべきだった。

【事案③】前回大会と同様、会場に大型スクリーンがなく、スタンド中央付近の大型時計も故障したままの状態。そのため、選手が時間を確認するための時計が会場になかった。

【対応等】秋田県高体連陸上競技専門部が駅伝競走で使用している電波時計を複数個借りて、大会2日目は選手控え室等に設置した。

【事案④】盗撮行為が疑われる事案が3件ほど発生した。

【対応等】事前の対策として「撮影禁止エリアの指定」、「100mスタート位置後方へのパーティションの設置」、「アナウンスでの呼びかけ」、「警備員の巡回」を行っていた。今回、盗撮が疑われた観客の中の1名には事務室まで同行してもらい、総務員が確認しながら撮影した画像を削除してもらった。

<p>【事案⑤】 U20七種の走幅跳の競技中、ある選手のコーチがJT0に対して「日本選手権のような大会で高校生（競技スタッフ）がタイマーの操作を行ってよいのか。試技時間切れの際はどのように対応するのか。」と見解を求めた。</p> <p>【対応等】 JT0 から「高校生をタイマーのランプがよく見える位置に座らせる」、「主審にタイマーと踏切をよく観察してもらおう」、「その様子を審判長がよく監察する」という具体的な対応策を回答して頂き、現場ですぐに実行した。</p>
<p>【事案⑥】 監察員が使用する撮影用タブレットの機能面に問題があった。タブレットの容量が20GBしかなく、その都度PCへデータを移していた。</p> <p>【対応等】 SDカードを準備して1日の競技分は保存したままでも大丈夫な準備をすべきだった。また、ズームで撮影すると試技の様子や痕跡が鮮明な映像として残るようなタブレットでなければいけないことも担当者間で確認した。</p>
<p>【事案⑦】 日本選手権十種、最終種目の1500mが1時間ほど遅れてのスタートとなった。</p> <p>【対応等】 原因の1つとして、U20十種の棒高跳を2ピットで終えた後に、日本選手権十種の棒高跳を実施した競技日程が考えられる。棒高跳は、それぞれ1ピットで運営したほうがスムーズに流れたと思われる。</p>
<p>【事案⑧】 日本選手権十種の1500mで観客がグラウンドに降りて9レーンより外側から応援できる形で競技を行ったのだが、ある選手のコーチが6～7レーンに入って応援していた。</p> <p>【対応等】 一体感を得られるような工夫をしたときほど、監察員の数を十分に確保するなどして競技者に不利益が生じないような運営をすべきだった。</p>

※参考資料

「第107回日本陸上競技選手権大会・混成競技 JT0 報告書」 JT0 赤峰 俊彦、中村 紗奈江
「主任審判会議資料」

4 その他

<p>【アジア陸連50周年記念イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念イベントとして、バトンリレーが大会2日目の午後に行われた。 <p>【中村明彦選手（スズキ）の引退セレモニー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本選手権十種の1500m終了後、観客がトラックにいる状態でセレモニーが行われた。 <p>【EPMの関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じて秋田県に関係する音楽の使用や、競技者の年代を意識した選曲等を心掛けた。

5 おわりに

施設設備の改善や審判員の確保といった課題を大きく改善できないまま第107回大会を迎える形となりましたが、その分、秋田陸上競技協会員一同、誠実な運営と正確な審判業務の遂行を心掛けて大会に臨みました。

関係の皆様からのご指導、ご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

文責：（一財）秋田陸上競技協会
競技委員長 櫻田 文人

令和5年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会
秩父宮賜杯第76回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 報告

一般財団法人北海道陸上競技協会
審判委員会委員長 玉井 康夫

1. 期 日 令和5年8月2日（水）～6日（日）
2. 会 場 札幌市厚別公園競技場
3. はじめに

36年ぶりの北海道開催となったインターハイは、競技場も36年前と同様の老朽化した施設に、暑さ対策となる体育館やエアコン装備の部屋もなく、さらにテントスペースや駐車場も数が限られており、選手や監督、高体連、日本陸連の方々には相当なご不便をおかけしたことと思います。また、競技役員・審判も36年前のインターハイに関わった経験者が少なく、各視察会場、プレ大会、本大会に至るまで日本陸連役員並びにJTOの方々には何度もご指導いただき、幾つかのトラブルはあったものの、大過なく無事大会を終了することができました。心より感謝申し上げます。

4. 発生した問題点とその対処

(1) **事例1**…男子3000mSC・1組目。スタート後の第1障害で、先頭の選手が障害直前で足が合わず体で激突。障害が倒れ、すでに跳び動作に入っていた選手達は転倒した。後続の選手達は一度立ち止まり、その後倒れたままの障害を越えてレースに戻った。トラック審判長がレースを中止するように大きな声をかけたが、その声が選手達に届いたのはスタートから300m程進んだ最初の水壕付近だった。トラック審判長は、①「選手全員が障害を越えていないので記録が公認されないこと」、②「転倒により怪我をしていると思われる複数の選手もレースを継続していたこと」から選手の安全面を考慮してレース中止の判断をとった。大会本部と協議の上、4組目終了後に再レースを実施することとした。

◎抗議・上訴

顧問：「巻き添えになり怪我をして医務室に運ばれた。再レースが行われたが出られる状態ではなく再レースを辞退した。選手本人にレース辞退の責任はないので救済してほしい。」【抗議】

審判長：「同選手は再レース出場を迷っており、ギリギリまで判断を待ったが、結果的に自分の意思で出場を取りやめたので、救済には該当しない。」【審判長判定】

顧問：上訴申立書提出「3000mSC1組、第1障害でのハードルが倒れたために怪我をした。他の選手が倒したハードルにより負傷し、再レースに出場できる状況ではなかった。救済をお願いして決勝に出場させてほしい。」【上訴】

※ Jury（5名）を別室に案内し、抗議担当総務員より上訴内容と審判長判断の根拠を説明。ビデオ監察の映像を確認してもらい、5名での話し合いに入ってもらった。

Jury：「Juryの裁定が出ました。裁定 審判長の裁定を支持する。」【Jury裁定】

(2) **事例2**…女子7種競技・砲丸投（3種目目）。3種目目終了後、審判員の指示により次の種目の招集を考慮して、混成選手控室に5名ずつの選手が戻された。

顧問：「早めに戻された選手と最後に戻された選手とでは差が出るのではないか？」【質問】

審判長：「砲丸投は45分遅れてスタートした。次の種目の準備を速やかに行えるように、砲丸投終了の選手は5人ずつ戻した。2種目目の走高跳の際にも高さごとに帰しているの、同様の対応と考えている。」【返答】

顧問：「砲丸が終わってもリレー決勝の関係ですぐに戻れなかった。同じチームで早くアップできる者と、できない者がいる。アップできない者は怪我をしてしまう。」【再質問】

審判長：「ルール通り30分の間をあけているので、予定通り行くことになる。」【返答】

顧問：「競技開始時間が迫り、選手の状態も見たいので戻るが、せめて200mのスタート前に体を動かせる時間を作ってほしい。」【要望】

審判長：「要望として承る」【返答】

- (3) **事例3**…男子4×400mR 予選4組目。第4コーナー付近で3走の選手が後方から抜いてきた選手と接触し、飛ばされるようにフィールド内に倒れこみ、そこでうずくまったままレースを中止した。

顧問：「後方から抜いていく選手に肩をぶつけられ転倒した。救済してほしい。」【抗議】

担当総務：「審判長はレースの流れの中で起きた不可抗力事案なので救済の対象にはならないと判断した。」【審判長判断伝達】

顧問：「私も何度も審判長の経験があるが、このケースは救済に当たるはずだ。」【抗議】

地区監督：「こんなに飛ばされているのだから、激しい接触があったに違いない。」【抗議】

その後、納得できない顧問は、審判長から直接話を聞きたいと申し出。審判長がそれを受け、顧問に直接会って判断の根拠を説明。その後持ち込みビデオを審判長が確認し、次にビデオ監察の映像を顧問や地区監督に確認してもらった。レースの流れでの不可抗力の接触と判断した旨をあらためて説明。また、審判長はその選手の元へ行き、状態を確認したがレース続行できる精神状態ではなかったことも説明し納得して引き取ってもらう。

- (4) **事例4**…女子1500m 予選4組目。「On your marks」後、突風によりBゾーン（水壕付近）に設置してあったハンマー投用のLED表示盤が倒れ1レーンを塞いだ。

⇒ レースはスタートし、気づいた投擲審判員がすぐに駆け寄り数名で表示盤を起こしてフィールド内に移動し、レースに支障はなし。その間およそ10秒。

- (5) **事例5**…混成競技・走高跳。ラウンドの中で試技を行う選手が3名（パスしている選手を失念）になり、フィールドタイマーを1分30秒に変更し競技が行われようとした。

⇒ JTOが気づいて審判長・主任に連絡。すぐに1分に戻して競技が行われた。試技時間のルール確認をあらためて主任を中心に行った。

- (6) **事例6**…短距離種目。「On your marks」の後にフットプレートに足が接触していない事案が多数あり、その都度スタートのやり直しが行われた。（ピクつきでのやり直しと合わせてYCが提示されるケースが2件あった）

⇒ 大会後半は事前に出発係よりフットプレートへの接触到に注意するようにアナウンスした。

- (7) **事例7**…女子棒高跳。Aピットの踏切位置がBピットのマットの陰になりコーチ席から見えないので改善してほしいとの監督からの声が現場であった。

⇒ 練習時は両ピット審判員が踏切位置を選手に直接伝える措置をとった。試技はルール通り実施した。（厚別公園競技場のレイアウト上、他競技との兼ね合いにより棒高跳2ピット実施の際は避けられない状況であった。）

- (8) **事例8**…男子3000mSC2組目。ラスト500mのホームストレートを走る選手が意識朦朧となり、ふらつき倒れそうになっていた。

⇒ 主催者判断としてJTOがその選手のレースを中止させた。

* 審判長及びメディカルは1組目の障害転倒案件の処理とその怪我人への対応中だった。

- (9) **事例9**…男子円盤投。Bゾーンで実施していた円盤投の選手が、コーチングボックスへの移動中に水壕に落ちる事案が2件発生（雨天で視界が悪く、さらに傘をさして移動していたため見えなかった様子）

⇒ 水壕の周囲をコーンとバーで区画した。

6. 終わりに

北海道らしからぬ酷暑の中、日本高校新記録1を含む8つの大会新記録が誕生し、成功裏に大会を終えることができました。インターハイに向けて道内の審判員が競技運営・審判業務を改善し、これまでできなかったことを新たに取り入れ、各部署で主任を中心としたチームワークと部署間の連携を構築できたことは、大きな経験と財産になりました。今後の全国規模大会にさらに活かせるように、インターハイの経験を引き継いでいきたいと思います。

2024年1月25日

(一財)愛媛陸上競技協会理事 織田 英毅

(2023全中大会総務部長)

1. 大会名

第50回全日本中学校陸上競技選手権大会

2. 主な内容

(1) 大会前の準備について

- 県中体連陸上競技専門部長が4月の人事異動に伴い、現場を離れるという緊急事態が発生したが、県中体連陸上競技専門部が一丸となって取り組む体制を整えることができた。
- 日本中体連、日本陸上競技連盟と連絡を取り合いながら準備を進めることができた。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、これまでの対策からかなり緩和した大会運営を計画した。一般的な感染対策を実施した上で、極力コロナ前の状態に戻した大会運営を心掛けた。
- 大会の審判については、愛媛陸協の審判部に依頼し、1年前から調査を開始して円滑な審判運営を目指した。U18・16大会も継続して実施していることから、全国大会の審判・競技運営については大きな心配はなかった。
- 協力役員については、数を絞って依頼をかけた。本県は陸上以外に4つの競技を実施し、松山市で陸上競技を含めて4つの大会運営をするという極めて困難な状況であったが、小体連の先生方の協力も得て、何とか人員を確保することができた。
- 施設・会場については、バレーボール競技との日程重複があつて大変であったが、関係機関や業者との連絡・連携によって大きな問題はなかった。
- 諸物価値上がりの折、今年から参加料を増額していただいたことは、大会運営にとっては大変ありがたかった。今後も、経費削減など、できるだけ簡素化した大会運営をしていく必要があると感じた。
- 申込方法については、日本陸連のエントリーシステムと、従来の方法との併用とした。その結果として、大きなトラブルはなく、資格審査はかなり簡略化されたように思われる。

(2) 大会期間中について（問題点とその解決方法等、今後の課題）

【日程等について】

- 大会期間が例年よりも若干遅かったことや、バレーボール競技との重なりがあり、様々な問題があつたが、関係機関のご理解・ご協力によって何とか無事に終えることができた。
- スポーツ庁の開会式参列があり、細かな日程が直前まで分からないことが一部の役員には負担をかけてしまった。

【審判・競技運営について】

- 審判については、愛媛陸協にお世話になった。大きなトラブルもなく、全国大会に慣れていることで安心感があった。
- 男子3000m予選のナイターレースの実施や、給水については熱中症対策として効果的であった。
- 砲丸投については、公平性の観点から1ピットでの一発決勝であったため、時間がかかりかかってしまった。投てき審判員からは、予選ラウンドを設けても良いのではという意見もあった。
- 今大会は、A決勝・B決勝から、「決勝」「トライアルレース(TR)」という表現に変更した。ただ、参加者や運営サイドのからは「予選→準決勝→決勝」の方が良いという意見もあった。組数が多くなると、風によっての有利・不利がどうしても生じる。今後、全中は縮小の方向にあると聞けが、いろいろな意見をもとに検討していく必要があると思われる。
- 仕方ないことであるが、申込参加者数によって、タイムテーブルが大きく変わる場合がある。今回は、男子800mが多かった。
- 本県の会場は、「各県テント-練習会場-招集場-陸上競技場」の動線が非常にコンパクトで移動距離が短いことは、選手にとっては良かったと思う。練習会場等での大きなトラブルはなかったが、表示（掲示物）をもう少し分かりやすくすれば良かったと反省している。
- スタンド内の移動について様々な規制を設けたが、一部参加者の勝手な行為があったのは残念である。

【気象・コンディション・医療体制当について】

- 今大会は暑さというより、「雷雨」特に雷に悩まされた。前日練習時から、不順な天候状態が続き、様々な対応を考えた。日本中体連・日本陸連・愛媛陸協等のご指導のおかげで、無事に大会を終えることができた。
- 養護教諭7人と医師という救護体制は好評であった。担当役員と養護教諭、医師との連携が密にとれており、安心して運営できた。熱中症による救急車を1回呼んだが、大事には至らなかった。

3. 終わりに

本県にとって、41年ぶりの全日中を終えて、様々な方々への感謝の気持ちを表したいと思う。現在、中学生というジュニア期の子供たちは、少子化、部活動の地域移行、教職員の働き方改革等、様々な課題に直面している。今後の全国大会運営についても、様々な意見があると承知している。しかし、陸上競技が大好きな子供たちの夢を具現化するためにも、現場の意見（今後は中学校だけでなく、クラブの意見も）と日本中体連、日本陸連のご指導の下、努力していくことが大切である。

大会にご尽力くださった皆様、本当にありがとうございました。

1. 開催期日：2023年10月13日(金)～17日(火)
2. 会場：白波スタジアム(県立鴨池陸上競技場)
3. 実施種目：男子28種目 女子27種目 男女混合1種目 計56種目
4. 新記録：U20日本新記録2 日本中学新記録1 大会新記録28 大会タイ記録4

※詳細は<https://www.jaaf.or.jp/files/competition/document/1779-7.pdf>



5. 抗議事例等

- ・成年男子100m予選において、1レーンと2レーンの選手が不正スタートで同時に失格となる。
2レーンの選手から「1レーンの選手につられて反応したが、スタートは切っていない、ブロックに加圧されたのみ。」との抗議がなされるが、リアクションタイム、波形、ビデオの確認等から審判長は失格の回答。その後上訴となるが、ジュリーの判断も抗議棄却となった。
- ・成年女子800m予選において、選手が転倒した。
転倒した選手より、「2周目に入った際、前方の選手が突然前に出てきて転倒することになった。」との抗議がなされる。審判長よりビデオ監察の結果、レースの流れの中で、前の選手に接触して転倒したと判定して救済はしない、としたが、該当県より上訴。
「前の選手が急に横に出たのではない」とあるが、本県のビデオでは急に横に出たと判断できる。本県の選手は、転倒や接触を回避することは不可能であった。前の選手の行為が故意でなくとも、確実に不利益を被った。」とのこと。結果ジュリーが救済の判断。1レーンに2名入れて決勝を実施。(白波スタジアムは8レーン仕様)
- ・成年男子110mH予選において、7レーンの選手より、8レーンの選手が転倒して、そのハードルが7レーンに進入してきて不利益をうけた、と抗議あり。ビデオ等参考にして、不利益が認められたため、再レース(該当選手のみ)を計画(救済による決勝進出は行わず)。選手から再レース辞退の連絡があったため当初の結果を採用した(抗議取り下げ)。
- ・男女混合1600mR予選において、2走から3走においてコーナートップ通りに並ばなかったチームAがあったためAを失格とした。「割り込まれたため不利益を受けた」と抗議してきたチームBについては、タイムロスは無かったとの判断をして救済等を行わない、とした(審判長)。その後、失格となったAより、整列は競技役員の指示によるもの、選手には責任がない、と抗議が入る。対して審判員のミスは考えられない、出発係も正しい順序を指示している。状況をJT0も現場で確認している。ビデオでも確認できるため、失格は撤回しない(審判長)とした。これに対して「的確な指示をされず、本人は迷い前走者が近づき、空いているスペースがなく戸惑った。明確な誘導なく、審判が順番通り並んでいることを確認しなかった。誘導指示も遅い、明らかに運営ミス。」とAより上訴が入る。ジュリーの判断は「上訴を認める」となったため、結果を訂正。決勝進出(決勝番組)も訂正。Aは決勝進出。再度Bより抗議。「Aが正しく整列していたら、Bはもっと良い記録だったはず、よって救済すべき。」これを審判長は棄却。上訴されるが、ジュリーも棄却。またAが失格が訂正されることにより決勝進出になったことを受け、当初決勝進出として発表されたCが訂正により予選敗退となった。これに対してCが抗議してきたが、結果

が変わらないことを伝えて抗議を棄却した。また決勝番組が数回変わったことによりレーンがその都度変更になったことを受け、チームDが「レーンを最初の発表時にすべき」と抗議。番組編成はその都度ルールに沿って一部ランダム編成を行っていることから、最新のものを採用する（審判長）と抗議を棄却。

・女子共通400mR決勝において、2走から3走においてオーバークッションとして失格となったチームから、「オーバーはしていない」と抗議が入る。ビデオ観察よりオーバーが確認できる。目視していた観察もオーバーを確認している、とのことから抗議を棄却（審判長）。「ビデオの角度及び審判の角度からは、バトンの位置・手を離れたタイミングは正確に確認できないのではないか。むしろ、後ろから見た角度ではゾーン内で手を放している。」と該当県より上訴が入る。ジュリーの判断は「審判長の裁定を支持」ということで上訴を棄却。

6. 反省等雑感

公式練習日に鹿児島でも久しぶりの桜島による大量の降灰が見られた。慣れない他県の方々は驚き、対応にも追われたと思う。競技が始まってからは降灰が収まり無事運営できた。白波スタジアムには珍しく風のコンディションも良く、天候にも恵まれたこともあり、好記録が多数見られた。

大会を迎えるにあたっては、2020年開催がコロナ禍で延期となり、2023年開催が決まったが、当初から競技場の改修・投てき練習場の確保等に苦慮していた。準備期間も含めて10年余りの間に、役員の変更や、開催を前にご勇退される役員の方々もあり、特別な思いでこの大会を迎えた。

五日間、各部署の主任を中心に、多くの役員・補助員が献身的に業務を遂行してくれた。各都道府県の関係者からも、「気持ちよく競技ができた」「素晴らしい運営だった」など感謝のお言葉をいただいた。

良かった点として、各都道府県からの要望にスムーズに対応できた（コーチ席の位置変更・多種目同時届を提出した選手への対応・TICの対応など）。また補助員の動き（準備や清掃など）や、音響、サブトラックにおけるハードルの設置方法など、各都道府県から評判がよかった。そして、大会中、日本陸連・鹿児島陸協・各都道府県監督(庶務等)とLINEグループによる連絡の共有を行った。これが比較的好評で、連絡事項の正確な伝達へと繋がった。またこれまで紙で行っていた記録配布について、希望の都道府県のみ行うとしたが、希望してきたのは1県だけであった。

一方で運営の中で細かいミスや連携不足等があったり、盗撮への対応に追われたり、スタンドの応援席が少ないため、通路での立ち見が多くなった時間帯があったことへの対応などが今後の課題として残った。

また準備段階での課題として、資格審査・番組編成が非常に大変であった。陸連登録システムや陸マガ記録システムがシステム移行や担当者変更により、データの紐付けや更新がうまくいっておらず、データの確認や記録の確認が非常に困難であった。より公平で正確な番組編成を行うためにも、今後システムを整備して欲しい。また申込締切を遅れる都道府県もあり、編成が遅延する原因になった。



JOCジュニアオリンピックカップ
第17回U18・第54回U16陸上競技大会 報告書

一般財団法人愛媛陸上競技協会
専務理事 中山 桂

- 1 期 日 2023年10月20日(金)～22日(日)
- 2 場 所 愛媛県総合運動公園 陸上競技場
- 3 実施種目 【U-18】<男子>15種目(100m,300m,800m,3000m,110H,300H,3000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投)
<女子>15種目(100m,300m,800m,1500m,100H、300H,3000W、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投)
【U-16】<男子>ターゲットナンバー種目 5種目(100m,走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投)
都道府県代表種目 6種目(150m,1000m,110H、三段跳、ジャベリックスロー、円盤投)
<女子>ターゲットナンバー種目 4種目(100m、走高跳、走幅跳、砲丸投)
都道府県代表種目 7種目(150m,1000m,100H、棒高跳、三段跳、ジャベリックスロー、円盤投)
【オープン種目】<小学生:男・女> 100m

4 大会概要

令和5年5月からコロナが5類扱いになり、声を出しての応援や集団での応援ができるようになり、ようやく本来の大会の状態を取り戻した。

過去2年間、1年目は追い風を受けトラック中心に、2年目は新種目を中心に大会新記録が数多く出たが、今年度はフィールド種目において多くの大会新記録が記録された。3年間の大会において多くの大会新記録、日本記録が記録されたことは、運営者として喜ばしいことであった。

毎回前年度の反省点を改善し、日本陸連の指導の下スムーズな運営ができたことに感謝しています。

5 競技運営上配慮したこと

(1) 大会のスリム化

NISHIの機器を使用することで、特に投てきの補助員の人数を抑えることができた。また、更衣場所を工夫することで荷物運搬にかかわる補助員の少人数化が図られたばかりでなく、トラック種目の選手をフィニッシュ後フィニッシュ地点で更衣し、退場させることで盗撮防止につながったと思われる。

(2) 競技開始の遅延を防ぐ

跳躍競技の第1種目の現地への移動をトラックを通り最短距離で移動するようにしたことで練習開始の遅延は防げたと思われる。また、バック・サイドスタンド内通路を移動経路としたことで、雨天対策、部外者との接触を遮断することができた。

6 前大会での問題点と改善案

- (1) 150mにおいて番組編成について145mと150mの記録でエントリーできることから発生する番組編成上の不公平感を決勝進出方法を0着+8としたことで解消できた。
- (2) 第1日目にBゾーンで棒高跳を実施することで、トラックの周回種目や、水壕付近からスタートする150m、300Hのハードル設置などが支障なく実施でき、第2日目の走高跳の競技運営にあまり影響がなかったことは非常に良かったと思われる。
- (3) 競歩種目において、アスリートビブスと腰ナンバーを統一したことで審判等の混乱を防ぎ、スムーズな競技運営ができた。
- (4) アスリートビブスを競技ランキングや県ナンバー、県名を用いたことは、選手のモチベーションを上げ、観客にもわかりやすく、順位に興味関心を持たせることにつながりよかったのではないか。
- (5) 1000mを2日に分けて、予選・決勝を実施したことは、パフォーマンスの向上に繋がったのではないか。

7 これからの課題

- (1) フィールド種目の試技数を[2+3]にして欲しい。
世界で戦うための試金石となる大会の位置付けでもある本大会において予選ラウンドの2回で結果を出す訓練は必要である。また、なにより審判員の健康維持のために検討すべき点だと思われる。特に、投てきの審判員は、審判編成が多く取れる県は別として、どの競技場も1ピットでの競技運営であるため、昼食も取れず朝から夜遅くまで審判業務に従事しなければならないことが想定できるからである。
- (2) 棒高跳・走高跳の競技時間の延長である。
選手の移動経路や、競技開始時刻を変更することで、開始時刻については改善できるが、競技時間の短縮については、競技開始の高さやバーの上げ幅を変えないと不可能だと思われる。記録なしを作らない方針は理解できるが通常の運営では競技時間の短縮は困難だと思われる。
- (3) U-16女子の三段跳において踏み切り板の位置を『8mも実施する可能性がある』を削除し、男子：11m・女子：9mの1本にすべきだと思う。高さの種目で記録なしが出ることを容認していることから、これまで3年間の実施していることを考えても8mは必要ないと考える。
- (4) U-18男子3000mの参加人数が6名であったこと、U-16女子1000mにおいても駅伝出場を理由に棄権した選手も複数いたことから、長距離種目については検討の余地があると思われる。

8 終わりに

この3年間の競技運営につきましては、日本陸連をはじめ、NISHIの方々、中体連、高体連等の各種団体の協力のおかげで無事終了できましたこと、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

2025年世界陸上競技 選手権大会

準備状況



MAIN COLOUR
OF THE
WORLD ATHLETICS
CHAMPIONSHIPS
TOKYO 25

Edo Purple

NEWS

26 OCT 2023

**"Edo Purple" as the main colour
of the WCH Tokyo 25!**

大会会期

2025年9月13日(土)～9月21日(日)

9日間

15日(月)敬老の日により平日4日間

今大会における問題点（再掲）

- 審判員・運営役員の委嘱
→休暇・職免の取りやすさ
- 補助員（大学生・高校生）の依頼
→大学生はギリギリ夏休み中
→高校生は学期中のため不可
- 国内競技会の日程調整

問題点・課題への対応（再掲）

- TOKYO2020NTOの活用
WAレフェリーブロンズレベルの導入
- 運営役員の依頼（東京陸協・近県陸協）
- 東京マラソンボランティアの依頼
→大学生の補助員依頼が困難な場合
- 協力団体への競技日程調整の依頼

現在の準備状況 1

（東京世界陸上財団とのミーティングから）

- 9日間の競技日程を検討中
- マラソンコース検討
- 競歩のコース検討
→都内で調整中

現在の準備状況 2

(東京世界陸上財団とのミーティングから)

- 選手村（都内で調整中）
- ウォームアップ会場
 - ①東京体育館グラウンド
 - ②都立代々木公園陸上競技場
 - ③東大駒場グラウンド（投てき練習場兼）
- 練習会場：大井海浜公園陸上競技場

安全・安心 infomation

～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

- 1) 迷惑撮影の実態と対策
- 2) リレー／駅伝のユニフォームのルール（選択制ユニフォーム）
- 3) ロードレースにおける助力の認識
- 4) 運営車両の安全安心



1. 迷惑撮影の実態と対策

加盟団体・協力団体へ3年ぶりに迷惑撮影に関するアンケートを実施（42団体回答 1/30時点）

迷惑撮影対策実施率
100%



- 一方で、**約70%**が迷惑撮影に関する不審者の対応を経験。（直近2年）
- 警察案件に発展したことがあると回答した団体は、**約40%**に上る。（直近2年）
- コロナ禍前後での不審者（迷惑撮影）の **増減ナシ**。

実施している対策

- アナウンスによる注意喚起 (39)
- 競技役員・スタッフによる巡回 (38)
- 場内への啓発サイン・看板設置 (34)
- 大型映像での注意喚起 (31)
- プログラム広告 (29)
- カメラ持ち込み申請 (19)

その他

- ・入場者の制限
- ・警察・犯罪専門スタッフによる巡回
- ・カメラ撮影エリアの設定
- ・QRコードによる通報フォーム設置
- ・大型バナーの設置

大会規模や開催地の状況などにより、工夫をして対策を実施。コロナ前と比較し、警察や専門家との連携した活動も増えていました。

不審者が多い世代（対象）

- 高校生 (22)
- 一般 (11)
- 大学生 (3)
- 小学生 (1)

不審者が多い種目（対象）

- トラック種目 スタート地点 (19)
- 走幅跳・三段跳 (10)
- 走高跳 (7)

その他

- ・女子セパレート着用種目
- ・フィニッシュ地点

特に女子高校生のトラック種目や跳躍種目は注意が必要

不審者が多い競技以外の場所

- 表彰式 (5)
- フィニッシュ後 (4)
- トイレ (3)

その他

- ・競技前の着脱時
- ・選手紹介のタイミング
- ・競技中いつでも
- ・スタンド
- ・補助競技場・サブトラ
- ・選手陣地（テント）

競技以外で事例の多い3項目については、対策が必要（次頁）



1. 迷惑撮影の実態と対策

加盟団体・協力団体へ3年ぶりに迷惑撮影に関するアンケートを実施（42団体回答 1/30時点）

引き続きのお願い事項

- ▶ **会場整備・啓発活動の徹底**
 - ・会場内への注意喚起ポスターの掲示
 - ・大型ビジョンおよび会場アナウンスでの呼びかけ
 - ・大会プログラムへの注意喚起広告の掲載
 - ・スタッフ／審判による会場巡回（特に、女子短距離種目、跳躍種目）
 - ・トイレへの啓発ポスター・チラシ掲示
- ▶ **競技運営面の工夫**
 - ・表彰式での所属ウェアやTシャツ着用の推進
 - ・レース後の速やかな誘導と、安全な導線の確保（荷物運搬が無い場合、レース後にユニフォーム姿のまま歩いても安全な導線の確保）
- ▶ **地域管轄警察署との連携**
 - ・開催期間中の定期的な会場巡回
 - ・警察署名の入った盗撮禁止看板の制作



陸連主催大会での取り組み例

- ▶ 1階層通路下での撮影禁止（スマホ・タブレットのみ可）
 - ・GGP／日本選手権での取り組み例
 - ・完全撮影NGとしないことでファンと共存する形をとっている
 - ・選手至近距離での撮影をなくすことで、心理的負担を軽減
 - ▶ 100mスタート後方の撮影禁止エリア設定
 - ▶ 通報フォーム（QRコード）設置
 - ▶ アスリート委員会との取り組み（リボン活動）
- 
- 
- ▶ 主催者／指導者へのアンケート実施とフィードバックによる対策の周知・強化
 - ▶ 安全安心に関する特設サイトの公開（2024年春OPEN予定）

アンケートにご協力いただきました団体の皆さま、ありがとうございました。
アンケート結果は3月下旬を目途に各団体の皆さまへお戻しさせていただきます。

2. リレー／駅伝のユニフォームのルール (選択制ユニフォーム)

【背景】

- 近年、迷惑撮影（盗撮）の問題が拡大しており、選手自身が自らの身を守る意識を持っている。
- 自身の身を守る観点から、「ユニフォームの形式（セパレート・ブルマ・スパッツなど）を選択したい」と考えている選手が一定数いることが、アンケート回答等から判明した。
→「リレー種目に出場の際には、学校・チーム単位で形式を揃える必要がある」と思い、仕方なく望んでいないユニフォームを着用しているケースがあった。

【競技規則】

- ◆ルールブック - TR.5 服装、競技用靴、アスリートビブス
5.1 全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する
- ◆ハンドブック - 競技者係 実施要領 ③留意点 (5) 服装
全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者はランナーの誤認をなくすために、同一のユニフォームを着用する。（短パン・スパッツの違い等は許容範囲）

国体 女子リレー種目における ユニフォーム着用割合の変化（2019年→2022年）

○4選手ともブルマタイプ	94%	→	64%
○4選手ともスパッツタイプ	6%	→	18% UP!
○選手により選択	0%	→	18% UP!

※陸連調査のため誤差あり



△選手により、異なるタイプのユニフォームを選択している例

- ▶ **同じチームであることが分れば、ユニフォームの形式は問いません。**
（ブルマの選手、スパッツの選手、セパレートの選手、ランニングシャツの選手が混在していても、**デザインや配色が同一であれば、ルール上は問題ありません**）※駅伝も同様

陸連
NEWS



3. 助力について（ロードレース）

【背景】

特に駅伝競走において、レース中の負傷（疲労骨折や捻挫など）や疾病（低体温・低血糖など）により、通常歩行が困難な状況の中で、競技を継続し危険な場面が生まれている。

【競技規則（助力に関するルール）の再確認】

- ・転倒や意識混濁、疾病等により明らかに通常歩行や競技続行が困難となり、立ち止まりや横臥等の行動を行う競技者に対して、**審判員や公式の医療スタッフが声掛けを行うことは、助力とは見なさない。**
- ・本人がなお競技続行の意思を持っていても、競技者の生命・身体保護の観点から**審判長もしくは医師の判断で競技を中止させることができる。**
- ・審判員や公式の医療スタッフが**一時的に介護するために競技者の身体の一部に触れることは、助力とは見なさない。**
- ・審判長の権限を技術総務、競走審判員、監察員等に委任しておく必要がある。



- ▶ 競技規則を再確認のうえ、**競技注意事項や申し合わせ事項での周知**、および**監督会議等でのご説明**をお願いいたします。
- ▶ **医療体制・緊急時の連絡系統の確認**および**審判会議等での周知徹底**に、ご協力をお願いいたします。
- ▶ 医師を含む医務員を複数名任命し、**緊急医療体制（AED配置を含む）を整備**の上、競技会の開催をお願いいたします。

陸連
NEWS



4. 運営車両の安全対策（ロードレース）

【背景】

陸連主催大会「福岡国際マラソン2023」のレースにおいて、コース折り返し地点で選手が折り返した際、大会運営車両が選手と接触し、選手が転倒、右ひじの骨が折れる怪我をするという事故が発生。

その他の大会においても、中継バイクやカメラ車、運営車両が選手に近すぎるという声が、選手や関係者からあがっており、ロードレース大会での安全対策を改めて確認する必要がある。



- ▶ 安全運転を徹底するため、大会運営車両関係の会議などを実施する場合は、**「安全対策」に関する説明を行い大会運営車両のドライバーに対して安全な運転を行うよう研修を徹底**する。
- ▶ 大会運営車両を発進・運転・停止する際は、同乗している競技役員や運営スタッフと確認のうえ、前後左右の選手や沿道観客に注意を払う。**（ドライバー一人で判断をしないこと）**
また、大会運営車両が待機する場所では、**競技役員や運営スタッフを配置し、安全確認と誘導合図を行う**
- ▶ 随行車両が出場選手の妨げにならないよう、**審判長車などから車列への指示・連携がとれる通信手段を準備**するとともに、万が一の事故等が発生した場合、**速やかに対応できる体制を整備**し、競技役員や運営スタッフに内容を周知徹底する。

＜パラ競技者の一般競技会参加に於ける主な留意点＞

2020 パラリンピックを契機に、パラ競技者が一般競技会に参加する機会が増えてきております。一般競技会に参加するには陸連に登録していることが条件となりますが、パラ競技者が競技会に申し込む時点で「パラ競技者であること」、および「ご自身のクラスにおける留意事項等（例：T11/12で2レーンが必要等）」を主催者に伝えていただく必要があります。一方で、受け入れていただく主催者の皆様方には、以下のような点にご留意いただき運営いただけるようお願いいたします。

なお、不明点などがありましたら、日本パラ陸上競技連盟（JPA）競技運営委員会までお問い合わせください。【問合せアドレス：technical@para-ath.org】

〔 競技役員のパラ陸上競技での特記事項 〕

パラ陸上競技では、通常の陸上競技規則に加え一部、追加での理解が必要となります。一般競技会への参加が想定されるクラス（主に車いす、座位投てき等以外）を対象として、以下、競技役員部署ごとの特記事項をまとめました。

同時に、日本陸上競技連盟競技規則「CR18.8（グリーン含む）」「CR25.3」「TR6.3.4」「TR6.4.8（〔国内〕、グリーン含む）」もご参照下さい。特にスタートリストやリザルトに競技クラスを明記し、リザルトも別に作成いただけますようお願いいたします（含む400m以下の距離の種目でスタブロが必須のクラス（T11-13/T20））。

1. 競技者係

（T11/12 - 視覚障がい）

- 1) T11のアイパッチ、アイマスク装着の確認。アイマスクは不透明なもので、装着時に隙間があってはけません。なお、T12は装着の義務はありません。
- 2) T11ではガイドランナーは必須ですが、T12は任意です。
- 3) ガイドランナーがいる場合、テザー（＝ガイドロープ）の仕様、長さ、伸縮しないことの確認
- 4) ガイドランナー専用ビブスの着用
- 5) 隣り合う2レーンが割り当てられているか（T12は、ガイドランナーがいなくても2レーン分割り当てられます）

2. 出発係

（スターティング・ブロック）

T11～13（視覚障がい）、T20（知的障害）のみ必須、その他クラスでの使用は任意となります。任意の場合は、スタートラインに触れない・超えない限り、スタンディング、膝をトラックに着いていない、片手だけをついている、片方のスターティング・ブロックだけを使用している等、どのようなかたちの姿勢でも可となります。また、任意の場合SISはオフにしなければなりません（誤作動などを防ぐため）。

（T11/12）

- 1) T11のアイパッチ、アイマスクの確認（T12は装着の義務なし）
- 2) テザー（＝ガイドロープ）の仕様、長さ、伸縮しないことの確認
- 3) ガイドランナー用ビブス着用の確認
- 4) 隣り合う2レーンが割り当てられているか（T12は、ガイドランナーがいなくても2レーンを割り当てます）。

2レーン分を使用しますので、200m/400m/レーン使用の800mではスタートラインを延長する必要があります（技術総務と連携）。

パラ競技会では、レーンは1, 3, 5, 7の奇数を基準とし、スタートラインの延長は奇数レーンのラインを右隣の偶数レーン（1+2レーンを1レーン、3+4レーンを3レーンと扱う、以下同様）に延ばし、また、レーン表示板は1, 3, 5, 7の奇数を使用します。

ただ、一般競技会で対応が困難な場合、最低限スタートラインの延長（2レーン分の確保）はお願いいたし

ます。スターティング・ブロックは、2レーンの幅の間ならどこにおいても構いません。

3. スターター

スターティング・ブロック任意のクラス（T11～13、T20以外）ではSISは使用してはなりません（誤作動などを防ぐため）。またOn Your Marksで、スタートラインに触れない・超えない限り、スタンディング、膝をトラックに着いていない、片手だけをついている、片方のスターティング・ブロックだけを使用している等、どのような姿勢でも可となります。

（T11/12 - 視覚障がい）

ガイドランナーもスターティング・ブロック使用は必須です。また、ガイドランナーは選手と一体ですので、ガイドランナーも不正スタートの対象となります。

4. 監察員

（義肢）

トラック競技に於いて、上肢義肢の装着は任意、下肢義肢の装着は必須となります。義肢を装着して競技する場合は、常に装着して競技しフィニッシュしなければなりません。途中で脱落含め違反の場合は失格となります。

（T11/12 - 視覚障がい）

- 1) T11/12でアイマスクを常に着用しているか
- 2) ガイドランナーと競技者が常に正しくテザー（＝ガイドロープ）でつながっているか
- 3) ガイドランナーが競技者を押したり、引っ張ったりしていないか
- 4) フィニッシュ時にガイドランナーが先着または同着の場合は失格（審判長に報告）
- 5) レーンを使用する競技では、ガイドランナーの有無に関係なく隣り合う2レーン分が割り当てられ、2レーンの幅のどの部分を走っても構いません
- 6) ガイドランナーは選手と一体ですので、ガイドランナーのレーン侵害も違反の対象となります

5. 写真判定員

T11/T12でガイドランナーが先着または同着の場合は失格となります。先着または同着を確認した場合、失格の判断を審判長に報告します。

6. マーシャル

ガイドランナー、アシスタントのコーチ行為は禁止されています。

7. 跳躍審判員

（義肢）

- 1) フィールド競技に於いては上肢・下肢義肢とも装着は任意ですが、義肢を装着する場合はすべての試技で装着して競技しなければなりません。違反した場合は失格となります。
- 2) 助走中に義足が脱落した場合、義足なしでは試技できませんが、制限時間内に義足を装着すれば試技を行うことができます。
- 3) 跳躍中に義足が落下した場合：
 - ① 走高跳：義足がバーを越えなかった場合は無効試技となります。
 - ② 走幅跳：着地エリア内に落下しその痕跡が踏切板に最も近い場合はその痕跡を起点として計測し、着地エリア外に落下した場合は無効試技となります。

8. 投てき審判員

（F11/12 - 視覚障がい）

- 1) T11でアイパッチ及びアイマスクを着用しているか
- 2) アシスタントは以下のことができます：

- ① 助走路およびサークル内で、競技者が投げる方向、位置を決める手伝い
 - ② 投てき時、声や音で投てき方向を示す
- 3) アシスタントは以下のことはできません：
- ① コーチ行為（アシスタントと競技者は別の場所で待機することが望ましい）
 - ② 投てき後、アシスタントは競技者をサークル・助走路外に誘導できますが、正しく試技を終えた後でなければなりません（サークルや助走路に入って手をひいてはいけません）。

9. 技術総務

- 1) T11～13（視覚障がい）でレーンを使用する競技では2レーン分を使用しますので、200m/400m/レーンスタートの800mではスタートラインを延長する必要があります。
- 2) T11/T12、上肢機能障がいのクラスで給水が必要なレースでは、右側で取れない場合に対応して左側の縁石内側への設置もお願いいたします。

[記録誕生時の対応]

パラ陸上では、世界記録やアジア記録はWorld Para Athletics(WPA)公認競技会、あるいはエンドース競技会での記録達成でなければ公認されません。一方日本記録は、JAAF 日本記録の諸条件に加え他のパラ陸上競技規則に適合してれば一般競技会での達成でも認められます（そのため、アジア（世界）記録より日本記録のほうがよい現象が発生することがあります）。

記録が誕生した場合、競技者から申請書類への署名や必要書類の提出（ゼロコン、写真判定の画像など）をお願いすることがありますので、ご対応いただきたくお願いいたします。

<参考>

[実施種目と競技クラス]

パラ陸上競技会では、障がいの違いや程度によりクラス分けがなされ、可能な限り同じ条件で競うことができるよう競技クラスごとに種目が設定されています。

【クラス分けの表示方法】

クラス分けは右記のような形で表示されます。

T53C

↓
①

↓
②

↓
③

↓
④

① 競技の種類：Tは走競技と跳躍競技を意味し、Fは投てき競技のクラスを意味する。

② 障がいの種類：選手の主たる障がいの種類や競技形式を示す。

- 10番台：視覚に障がいがあり、立位で競技する。
- 20番台：知的に障がいがあり、立位で競技する。
- 30番台：まひや筋強直、運動障がいなどのある脳原性のまひがある立位競技者、及び車いすや投てき台を使用する競技者。
- 40番台：低身長、脚長差、切断（義足未使用）、筋力低下などの障がいがあり、立位で競技する。
- 50番台：脚長差、切断、関節可動域制限などの障がいがあり、車いすや投てき台を使用する競技者。
- 60番台：切断等の理由により義足を装着して競技する。

③ 障がいの程度：障がいの程度に応じて0～9の番号が割り当てられている。基本的に番号が小さいほど障がいの程度は重くなる。

④ クラス・ステータス：クラス分けの状況を示す（選手個人のことなので、プログラムなどでは未掲載）

- N (New)： 過去にクラス分けを受けたことがなく、競技前に受けなければならない者
- R (Review)： 再度クラス分けを受ける必要のある者
- C (Confirmed)： クラスが確定した者

*詳細は日本パラ陸上競技連盟公式サイト内の「IPC Athleticsクラス分けマニュアル」をご参照ください。